

四 日中紛争をめぐる米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況  
五 中国およびその他各地における排日状況

## 六 国民政府との交渉

付録 満州事変 第二巻 日付順索引

(以上第二冊)

## 事項一 上海事変の勃発と停戦協定の成立

(編注) 本項については、事項四にも関連文書が収載されている。

1 昭和7年1月4日 在上海村井(倉松)総領事より  
犬養(毅)外務大臣宛

### 上海民衆反日救國連合会主催の市民大会の状況について

機密第十三号

昭和七年一月四日

在上海

総領事 村井倉松(印)

外務大臣 犬養毅殿

上海民衆反日救國連合会主催ノ市民大会ニ  
關スル件

十二月十三日当地南市公共体育场ニ於テ開催セラレタル反

日市民大会ノ概況ハ不取敢及電報置キタル通ナルカ該大会

ヲ主催セル上海民衆反日救國連合会ナルモノハ其ノ成立宣  
言書(訳文別添甲号)ニ依レハ十二月六日共同租界四川路

青年会ニ於ケル当地五十四個ノ民衆団体代表大会ニ依テ設立サレタルモノニテ上海民衆ヲ領導シ日本帝国主義ト決戦シ政府ノ投降政策ニ反対シテ中国民衆ノ真正ナル解放ヲ標榜シ且從来ノ民衆ヲ欺瞞シ帝國主義及国民党ヲ援助セル上海抗日救国会ヲ断然排撃スルモノニテ上海唯一ノ反日団体ナリト称シ居レリ。  
右連合会カ共産系ノモノナルヤ否ヤハ今直チニ断シ難キ処ナルカ其ノ主催セル市民大会ニ共産党カ策動セルコトハ極メテ明カナル處ニシテ即チ該大会ニ於テ散布サレタル中国人反帝同盟等共産系ノ伝單標語等ハ別添ノ如ク何レモ十二月十三日付(大会当日)ノ印刷物多ク又前記連合会ノ宣言趣旨及大会ノ決議モ亦中共中央ノ伝單(訳文別添乙号)標語等ト同趣旨ヲ多分ニ加味シ居レリ。情報ニ依レハ該大会ノ決議中『ソヴィエト』政府擁護等ノ項目アリタル由

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ナルモ右ハ聊カ信ヲ措キ難キモノナルカ共産党ハ反日運動及更ニ今次ノ学生運動ノ激化ヲ看テ好機逸スヘカラスト為シ党員ヲシテ私カニ之ニ参加セシメテ民衆ノ領導権獲得ニ努メツツアルヤニ認メラルノミナラス時局ニ際シ国民党政権ニ対スル民衆ノ不満ニ對シテハ凡ユル手段ヲ尽シテ之カ激化ニ努メツツアリ該大会ノ決議等ニ於テハ露骨ナル共産党的色彩ヲ特ニ露ハササル處ニ共産党ノ狡猾ナル策略アリトモ想像セラル。

而シテ大会ノ状況ニ関シテハ前掲拙電ト重複スル処アルモ其ノ補足旁々左ニ

大会参加者ハ青年労働者、学生等約一千五六百外ニ聳集セル觀衆約二千ト称セラル。午後一時半開会、劈頭ヨリ約十名ノ弁士交々演壇ニ起チテ孰レモ日本帝国主義排撃、国民政府当局罵倒其ノ軟弱外交攻撃及國際連盟排斥等激越ナル演説ヲ繰返シタルカ此ノ中鮮人共産主義者曹奉岩事朴鉄丸モ大要左記ノ如キ演説ヲ為シタリ。而シテ之等ノ演説終ルヤ左記ノ如キ決議ヲ為シテ大会ハ午後三時半終了セリ。大會終了後直チニ示威遊行ニ移リタルカ其ノ出発前会場内ニ於テ散布シタル伝單標語等ハ別添ノ如ク共産党系各団体ノ

ナルモ右ハ聊カ信ヲ措キ難キモノナルカ共産党ハ反日運動及更ニ今次ノ学生運動ノ激化ヲ看テ好機逸スヘカラスト為シ党員ヲシテ私カニ之ニ参加セシメテ民衆ノ領導権獲得ニ努メツツアルヤニ認メラルノミナラス時局ニ際シ国民党政権ニ対スル民衆ノ不満ニ對シテハ凡ユル手段ヲ尽シテ之カ激化ニ努メツツアリ該大会ノ決議等ニ於テハ露骨ナル共産党的色彩ヲ特ニ露ハササル處ニ共産党ノ狡猾ナル策略アリトモ想像セラル。

而シテ大会ノ状況ニ関シテハ前掲拙電ト重複スル処アルモ其ノ補足旁々左ニ

大会参加者ハ青年労働者、学生等約一千五六百外ニ聳集セル觀衆約二千ト称セラル。午後一時半開会、劈頭ヨリ約十名ノ弁士交々演壇ニ起チテ孰レモ日本帝国主義排撃、国民政府当局罵倒其ノ軟弱外交攻撃及國際連盟排斥等激越ナル演説ヲ繰返シタルカ此ノ中鮮人共産主義者曹奉岩事朴鉄丸モ大要左記ノ如キ演説ヲ為シタリ。而シテ之等ノ演説終ルヤ左記ノ如キ決議ヲ為シテ大会ハ午後三時半終了セリ。大會終了後直チニ示威遊行ニ移リタルカ其ノ出発前会場内ニ於テ散布シタル伝單標語等ハ別添ノ如ク共産党系各団体ノ

署名アルモノ及各種抗日救国会等民衆團体ノモノ等約五十種類ニ及ベリ。其ノ中上海韓人反帝同盟ノ署名アル「親愛ナル中國民衆ニ敬告ス」ト題スル伝單（別添丙号）及中国革命互済会、上海工農兵青年反日連合会等ノ伝單ハ別添丁、戊号ノ通り訳出セリ。

示威遊行ニ移リタル群衆ハ打倒国民党打倒帝国主義ヲ叫ヒツツ途中市党部ヲ襲撃シテ表門及ヒ窓「ガラス」（十二月九日学生団ノ暴行ニ依リ破壊サレタルヲ入レ換ヘタルモノ）ヲ破壊シ更ニ電車「バス」等十数台ノ窓「ガラス」ヲ破壊スルノ暴行ヲ為シ午後五時過キ頃西門ニ至リテ漸ク解散シタルカ中国官憲ハ前日來ノ學生運動ニ氣ヲ呑マレタルモノカ右示威遊行ニ對シテモ民衆ノ愛國運動トンテ積極的取締ノ舉ニ出テ斯殆ント傍観的態度ヲ採リタルモノノ如シ。尚該大会ニ際シ中国共産党ニ於テハ同大会ノ情勢ニ依リ市党部、公安局ヲ襲ヒテ武器ヲ奪ヒタル上更ニ當館ヲ襲撃セント計画シ居レリトノ情報アリタルヲ以テ當館警察署ニ於テハ總員ヲ召集シ我カ陸戰隊トモ連絡シテ警戒ニ努メ又工部局警察ニ於テモ當館付近ニ警官ヲ増派シテ警戒ヲ嚴ニシタル処其ノ事ナク経過セリ。

朴ハ韓國代表者ナリト前置キシテ「中國ハ常ニ軍閥ノ混戰絶ヘス為メニ無辜ノ勞苦群衆ハ常ニ苦シメラレツツアルニ加ヘ日本帝国主義ハ中國国民党ヲ籠絡シ今次ノ滿州事變ニ關シテハ帝国主義強盜ノ國際連盟ヲシテ遂ニ中国ヲ不利ニ導キタリ。中國カ國連ヲ依頼シタルハ抑々間違ヒナルカ要スルニ貴國群衆ハ覺醒シテ世界ノ無產階級及被压迫民衆ト握手シテ日本帝国主義ト決死の最後ノ戦ヲ為ササルヘカラス、中國在留ノ日本帝国主義ヲ驅逐スルニ非ラサレハ中國カ第二ノ韓國化スルコトハ目前ニ迫レリ。庶クハ中韓民衆提携シテ對日抗争セムコトヲ、云云」因ニ該大会ニ參加セル鮮人ハ共産主義者朴鉄丸ノ外張泰俊、辺鎮豐外數名及ヒ民族派朴昌世外約十名ナリ。

右御参考送報告ス

本信写送付先（別添伝單省略）

在華公使	北平	哈爾賓	奉天	天津
ヲ組織シテ罷市、罷工、罷課、罷税スルコト、北平大学生ノ入京ヲ擁護ス及ヒ公安局長陳希曾、市党部員陶百川ノ处罚等ヲ決議セリ。	濟南	青島	漢口	福州
朴鉄丸ノ演説要旨	廣東	南京		
	香港			

五、其他、政府ノ学生並ニ民衆圧迫ニ反対、民衆ノ大示威ヲ組織シテ罷市、罷工、罷課、罷税スルコト、北平大学生ノ入京ヲ擁護ス及ヒ公安局長陳希曾、市党部員陶百川ノ处罚等ヲ決議セリ。

朴鉄丸ノ演説要旨

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

2 昭和7年1月11日 在上海村井總領事より

犬養外務大臣宛（電報）

排日示威運動の租界内進入について

上海 1月11日後発  
本省 1月11日後着

第二三号

当地学生抗日会ハ支那軍ノ錦州撤退ニ関シ政府ノ無能ヲ憤慨シ其ノ反省ヲ促ス為市商会ニ全市商人ノ「ストライキ」

及市民大会召集方ヲ本月四日ヨリ七日ニ至ル間毎日強要シ

テ止マサリシカ市商会ニ於テハ学生側ノ態度強硬ナルニ鑑

ミ事態ノ悪化ヲ惧レ十日臨時執監委員緊急大会ヲ開催シ協議ノ結果大体学生団ノ要求ヲ容レ十七日市民大会ヲ開催ス

ルコトニ決定シ且同日決行スヘキ全市商人ノ「ゼネラル、

ストライキ」ニ付テハ更ニ同業組合ニ於テ協議スルコトトナレル趣ナリ尚共産系分子ヲ多分ニ包容スルモノト認メラ

ル上海民衆反日救國連合会ヲ中心ニ学生抗日会ヲ加ヘタル上海各界南京一二一七惨案後援会ハ十日義ニ請願運動ノ為南京ニテ遭難セル当地学生ノ追悼会ヲ支那街公共体育场ニ於テ挙行シ参会セル約二千ノ学生及職工等ハ遭難学生ノ

於テ決議シ本月十五日ヨリ実施スル旨発表セル処同工場職工カ先端ヲキリ右廢止反対ノ罷業ヲ開始シタルコトハ支電第九五号ヲ以テ報告セシ処ナルカ昨十二日ヨリ更ニ日華紡喜和ハ工場第六、七両工場及上海製造絹糸紡第二工場カ同様ノ理由ニヨリ怠業ヲ開始シ午後四時頃ニ至リ遂ニ工場ヲ閉鎖スルニ至レリ、此罷業氣運ハ邦人紡績全部ニ波及ノ兆アリテ喜和工場第五工場ハ十二日夜勤ヨリ罷業ニ参加シ絹糸紡第一工場モ恐らく本日中ニ参加スルモノト見ラレツシアリ、今日迄ノ罷業工場既ニ六工場（絹糸第一ヲ加ヘ）其罷業人員約六千ニ及フ大罷業トナリ年間闘争ノ時期ニ入りテ益拡大ノ恐レアリ、尚右手当廢止ニ依リ職工側ハ相当額ノ減俸トナリ会社側ハ経費節減上絶対ニ決議ヲ翻ヘササル決意ヲ有スルヲ以テ双方ノ利害關係ノ对立ハ相当深刻ナルモノアリ、早急ノ解決ハ困難ノ模様ナリ而シテ本罷業ノ裏面ニ汪精衛一派ノ上海总工会カ作用シアルコトハ支電第七七号ヲ以テ報告セル通リナリ

北平、天津、濟南、哈市、濟

棺桶ヲ担ヒテ会場ヲ出テ支那街ヲ遊行シ仏租界及共同租界ノ境界線ヲ突破シテ租界内ニ侵入シ日本ノ満州侵略及政府ノ無能ヲ攻撃セル多数ノ過激伝單ヲ散布シソツ遂行ヲ統ケ猶ホ日本領事館前ニテ示威運動ヲ行ハントセルカ共同租界工部局武装巡警隊ノ阻止ニ会ヒ漸ク離散シ指導者一名逮捕セラレタリ

北平、奉天、南京、天津、青島、漢口、廣東へ転電シ公使

ヘ転報セリ

3 昭和7年1月13日 在上海田代（鏡一郎）公使館付武官より  
真崎（甚三郎）參謀次長宛（電報）

在上海日本紡績各工場の罷業状況について

上海 1月13日後7時25分発  
本省 1月13日後8時35分着

支第一〇五号（其一、二）秘

上海ノ邦人各紡績力深刻ナル排日貨運動ノ影響ヲ受ケ操業短縮ノ已ムナキニ至リ其結果経費節減ノ目的ヲ以テ職工ノ皆勤手當（一週間皆勤者ニ対シテハ二日分ヲ支給ス、夏季繁忙期ニ制定シタルモノ）ヲ全廈スルコトヲ紡績同業界ニ

4 昭和7年1月16日 在上海村井總領事より  
芳沢（謙吉）外務大臣宛（電報）

上海抗日救国会の現況について

上海 1月16日後発  
本省 1月16日後着

第三六号（暗）

上海ノ抗日救国会ハ既報ノ如ク市商会トノ軋轔ニ依リ既ニ設立當時ノ首脳者ヲ概々失ヒ目下同会ハ検査員等ノ給料ニモ事欠クニ至リ（商民ニ対スル罰金賦課額ハ廿万弗ニ上ルモ実際ノ徵收額ハ五万弗ニ過キサルニ抗日会幹部ハ個人關係等ニ依リ之ヲ不問ニ付シ居リ又義ニ脱退セル幹部ハ運動資金ヲ持チ去レリ等ト同会残存ノ不平分子ニ於テ内情ヲ洩シ居ル由）一部検査員ハ解雇手当問題ニ付悶着ヲ起シ又ハ抗日会本部ヨリ抑留貨物ノ返還ヲ命シ来ルモ今後ハ聽從セス等ト決議シタル由ニテ大イニ足並ヲ乱シ来レルヤニ看取セラレ居タル処殘留職員ハ十四日又市商会ハ十五日夫々会合協議ノ結果十七日開催ノ各界代表ノ連席大会（往電第二（文書）三号参照）ヲ機会ニ

(1)近時稍々停頓ノ嫌アル抗日救國工作ヲ如何ニスヘキヤ  
(2)抗日会各科主任ノ補欠並ニ改組問題（民衆ノ手ニ抗日会

5

4

ヲ接收セントスル計画アリ)

(三)「ゼネラル、ストライキ」実行ノ可否（各同業工会等ハ

大体反対ノ意向ナルカ如シ）

四全国抗日団体ノ統一計画

等ニ付討議スルコトニ決シタル模様ナリ尚十七日ノ大会ハ  
南市公共体育場広場ニテ開催シ後示威游行ヲ為サントスル  
計画ニシテ民衆反日救国連合会及中国革命互濟会等左傾團  
体カ大会ヲ主導セントシツアリテ台灣人、朝鮮人団体代  
表ヲモ参加セシムル由ナリ

守屋書記官ニ転報セリ

廣東ヨリ香港ヘ転電アリ度シ

北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、福州、廣東

ニ転電セリ

5 昭和7年1月17日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

### 抗日市民大会の状況と市政府の共産党取締方針について

上海 1月17日後発  
本省 1月17日後着

リタルカ市商会側ハ參加セサルコトヲ声明シ各種同業工会モ「ゼネラル、ストライキ」反対ヲ表明セル為会衆ハ主トシテ職工風体ノモノニテ予期ノ如ク左傾團体民衆反日救国連合会一派ノ牛耳ル所トナリ「民衆ハ自動的ニ武装シテ起チ日本ニ対シ宣戰セヨ」「人民自ラ日貨検査隊ヲ組織シテ經濟絶交ヲ勵行セヨ」等我方ニ対スル主張ト共ニ売国政府反対、国民党打倒、公債濫發及公債償還停止反対等現政府ニ対スル反動的言動多分ニ表ハレ会場ニテ散布セラレタル伝單並其付近ニ貼ラレタル「ボスター」ニハ排日的ノモノ少ナク却テ共産的文句ノモノ多ク右伝單散布取締ノ為公安局ニ検束セラルモノ生スルヤ会衆ハ支那街ヲ遊行シテ午後三時頃市政府ニ到リ請願スル所アリタルモ官衙党部機関襲撃等ノ噂モアリタル際トテ軍警側ノ警戒厳重ナリシ為別段ノ事故ヲ發生セス散会セリ此日仮租界共同租界トモ特別警戒ニ当レリ尚市政府及淞滬警備司令部連名ニテ「愛國運動三時頃市政府ニ到リ請願スル所アリタルモ官衙党部機関襲撃等ノ噂モアリタル際トテ軍警側ノ警戒厳重ナリシ為別

動ト称シテ共産党並反動分子カ越軌ノ行動ニ出ツルモノ往往アルニ付此等ヲ嚴重取締ルヘキ」旨十六日布告セラレ又公安局及社會局連名ニテ水道電氣交通等公共事業ニ關係アル職工ハ市民大会ニ参与スルコトヲ得サル旨ノ布告モ發布セラレタル等中國當局ハ民衆運動取締ニ付相当苦心シ居ルモノノ如シ

支ヘ転報セリ

北平、天津、奉天、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東  
ニ転電セリ

6 昭和7年1月(21日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

### 吳鐵城上海市长に対する排日運動取締要求について

別電 一月二十二日着在上海村井總領事より芳沢外務大臣宛第五七号

吳上海市長に対する要求条項

貴電第八号ニ関シ

十八日ノ事件ノ概況ヲ敍シ本件発生原因ハ畢竟當地方民衆

第三九号（暗）

往電第<sup>四文書</sup>三六号ニ関シ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ニ至レリ抗日団体ノ解散ハ此際形勢ヲ緩和スルニ絶対必要ナリト力説シ置ケルカ吳市長ハ何レ近ク南京ニ赴クニ付方要求ニ付テモ政府當路ト相談ノ上追テ何分ノ回答ヲ為スヘシト應酬セルニ付本官ハ當地方我居留民人心異常ニ昂奮ヲ來シ居際ナルニモ顧ミ速ニ我方要求ヲ容レ之レ以上事態ヲ紛糾セシメサルコト両國ノ為緊要ナルコトヲ説明シ置キタリ尚本官ヨリ抗日会解散要求ノ次第ハ廿一日ノ朝刊ニ発表シ尚在留官民有力者ヨリ成ル時局委員会ニ披露シタルモ期限付ナラサルモノハ從来ノ所謂嚴重抗議ト何等異ル所無ク之ニテハ到底居留民ヲ押ヘ得サルヘシトスル意見ナリ

守屋書記官ニ転報セリ

廣東ヨリ香港ニ転電アリタシ

北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東ヘ転電セリ

(別電)

第五七号

一、市長ハ總領事ニ對シ陳謝ノ意ヲ表スルコト

二、加害者ノ搜查逮捕処罰ヲ遲滞ナク切実ニ實行スルコト

本件調査表何等御参考迄ニ別紙ノ通送付ス

本信写送付先 守屋書記官 北平 南京  
(別紙)

上海各界抗日救國委員会各機關所在地

本 部	共同租界内北河南路天后宮(市商會内)
閘北検査所	閘北中興路青雲路角
南市検査所	南市西門内商業公会
滬西検査所	滬西曹家渡(翔港曹家渡間バス終点付近)
浦東検査所	浦東花園石橋
(浦東保管科)	浦東其昌棧、公大棧其他)
吳淞検査所	吳淞

注 一、本部以外ハ孰レモ租界外ナリ

二、本部ハ共同租界章程ニヨリ租界ノ治外法権地域タル俗稱天后宮ナル廟宇ヲ含ム一廓ノ市商會建物ノ一部ニ在リ

三、各検査所ニハ孰レモ保管科ヲ付設ス

四、上海商界抗日救國委員会(經濟絶交委員会ノ改称セルモノ)ノ本部モ亦前記市商會内ニ在リ

9 昭和7年1月25日 芳沢外務大臣より  
局長宛(電報) 在上海村井總領事より  
連盟事務

について

三、被害者五名ニ対シ治療費及慰藉料ヲ提供スルコト(金額ハ追テ協議決定ノコト)

四、排日毎日ニ亘ル不法越軌言動ハ總テ之ヲ取締リ特ニ上海各界抗日救國委員会ヲ始メトシ各種抗日団体ヲ即時解散セシムルコト

守屋書記官ニ転報セリ

廣東ヨリ香港ニ転電アリタシ

北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東ニ転電ス

(編注) 一月十八日勃発のいわゆる日蓮宗徒襲撃事件については、六五文書付記参照のこと。

7 昭和7年1月23日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛

上海各界抗日救國会の各機關所在地について  
公信第一二五号

昭和七年一月二十三日 在上海總領事 村井倉松

外務大臣 芳沢謙吉殿

上海各界抗日救國会機關所在地報告ノ件

## 第一〇号 暗、至急

米ニ転電セリ

上海事件ノ經緯ハ累次電報ノ通り支那側ノ執拗惡辣ナル排

日運動ノ為メサナキタニ昂奮セル在留邦人ノ感情力不敬記

事件（本件カ本邦人ノ感情ヲ最モ強ク刺戟スルハ周知ノ

事実ナリ）ノ為メ憤懣ノ極ニ達セル折柄日蓮宗僧侶等襲撃

事件ノ発生ニ依リ一時ニ爆発シ三友實業社襲撃事件等ノ誘

發ヲ見タルモノニシテ其ノ責ハ排日運動ノ取締ヲ励行セサ

ルノミナラス直接間接之ヲ指導獎勵セル支那政府ニ存スル

次第ナリ我方ニ於テハ右排日運動ニシテ此上繼續セラルル

ニ於テハ如何ナル重大ナル事態ヲ發生スルヤモ測リ難キニ

付目下抗日会ノ解散等ヲ要求シ居ルコト既電ノ通リナリ若

シ夫レ前記三友實業社襲撃等本邦人ノ不法行為ニ至リテハ

純然タル刑法上ノ問題ニテ（我領事官憲ニ於テ右処分方措

置シ居ルハ御承知ノ通リナリ）帝国政府トシテ支那側ニ対

シ何等責任ヲ負フヘキ筋合ニ非ルコト勿論ナリ就テハ本件

ニ閑スル理事會側ノ誤解ヲ避ケル為メ累次ノ電報御利用相

成リ前記ノ趣旨ヲ以テ予メ連盟側ニ御通報置相成度尚ホ上

海來電第八三号甘介侯ノ談話ノ如キハ本末顛倒ノ議論ニテ

問題トナラスト思考ス

10 昭和7年1月(26)日 在歐(土ヲ除ク)大使ニ転電アレ

芳沢外務大臣宛(電報)

工部局の民国日報社および抗日会本部閉鎖決

定について

第九五号(暗)

往電第八二号ニ閑シ

其ノ後福島及「フェッセンデン」ノ斡旋モアリ工部局カ調

停ニ乗出スコトナリタルカ工部局ニテハ本廿五日外人參

事會員ノミノ會議ヲ開キ議長ヨリ事件ノ成行ヲ説明シ工部

局ニテ本件ヲ取上ケ民國日報社ヲ閉鎖スルコトヲ計リタル

處右ハ陸戰隊對同社ノ問題ニハ關係セシメス寧ロ工部局ノ

「イニシアチーブ」ヲ以テ同社ノミナラス往電第七三号天

后宮(Temple of Rewards or Heaven)内抗日会本部ヲ租

界ノ治安妨害ノ理由ニ依リ閉鎖スルニ如カストノ議出テ滿

場一致之ヲ可決シ支那人會員ニハ右決議ヲ單ニ通告スルニ

止メ直ニ実行ニ着手スルコトニナレル趣ナリ

守屋書記官ニ転報シ北平、奉天、南京ニ転電シ往電第八二

号ト共ニ連盟、天津、青島、濟南、漢口、福州、廣東ニ転電セリ

連盟ヨリ在欧米各大使ニ転電セラレタン

11 昭和7年1月26日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中国側の抗日団体解散の意向について

上海 1月26日後發

本省 1月27日前着

第一〇五号(暗)

抗日会解散問題ニ閑シ当地中國在野要人連ハ官憲側ト共ニ

連日会合シ対策協議中ノ模様ナル處廿五日夜吳市長初メ虞

治卿、張公權等主要人物会合ノ席上張公權ハ抗日会解散命

令ヲ發スルコトノ政府トシテ不可能ナルハ南京政府ノ現状

ニ顧ミ諒察セラルルモ左リトテ日本側ノ要求ヲ拒絶スルニ

於テハ大事ニ至ルヘキニ付抗日会ハ我等ニ於テ此際自發的

ニ解散スルコト、之ニ對シ爾今党部方面ニテ干涉セサル様

官憲側ノ諒解ヲ希望シ官憲ハ抗日運動嚴重取締命令ヲ出シ

且ツ商民側ニテハ手ノ着ケラレサル学生工人等ワイワイ連中ノ取締誘導ヲ官憲側ニテ充分責任ヲ以テ當ル事トセハ可

ナラント提議シタルニ各方面トモ之ニ賛成シ(官憲ニ対スル当地財界ノ立場ハ往電第九二号銀行團ノ借款応諾以来甚タシク難クナレリト)此方針ニテ進ム事トナリ廿六日午後再ヒ会合シ解散宣言其他表面ヲ繕フ方法ニ付協議スル事トナリタル旨張公權ヨリ廿六日朝橋三郎ニ内話アリ尚張ハ自分トシテハ先ツ上海ノ問題ヲ円満解決シタル後兩国民ノ感情融和ヲ計リ満州問題ノ解決ニ歩フ進メ度キ所存ナルカ日本側ノ腹モ判ラス何ノ程度ナレハ日本側カ満足スル次第ナルヘキヤト我方ノ態度ヲ探ル様子ニテ以上ノ次第ヲ總領事ニモ伝ヘラレ度シト橘ニ語リタル趣ナリ

右ト略同様ノ話ハ兩三日来張竹平、徐新六、殷汝耕等ヨリモ本官ニ直接申出アリ往電第七六号ノ次第モアリ支那側ハ頻ニ我方ノ腹ヲ探ラントシツツアル一方相当中方決心ノ固キニ恐ラ為シ來レルモノノ如ク觀察セラル又抗日会ノ横暴ニハ支那商人自身モ困惑シ居ル際ナル為抗日会手入ハ彼等トテモ内心喜フ次第ニ非サルカトモ察セラル

支ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、福州、廣東、米、連盟ヘ転電セリ

12 昭和7年1月26日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

### 在上海日本紡績工場の一斉閉鎖について

上海 1月26日後発  
本省 1月27日前着

第一〇八号(暗)

往電第八六号(文書)ニ関シ

紡績同業会ハ司令官共協議ノ上二十九日正午一斉ニ閉鎖ス

ルコトニ一応決定シタル趣ナリ

冒頭往電ノ通り転電セリ

13 昭和7年1月26日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

### 日本海軍の上海における実力行使と居留民の避難引揚方について

上海 1月26日後発  
本省 1月27日前着

第一一二号(暗)

本官発蘇州杭州蕪湖宛電報  
合第一号

大臣宛往電第一〇〇号ニ関シ

大臣宛往電第六三号ニ関シ

(一)二十六日当地我海軍側ニ達セル電報ニ依レハ塩沢司令官ハ上海ノ事態益々悪化シ来レルニ鑑ミ帝国海軍ハ二十八日以後自衛手段ヲ執ルヘキ旨宣言シ先大臣発貴官宛電報第一二号後段司令官裏請ノ第二項及第三項ヲ実行スヘキ決心ナ

第四号

第七〇号(暗、至急、極秘扱)  
本官発上海宛電報

う居留民の安全保護方について

南京 1月26日後発  
本省 1月26日後着

14 昭和7年1月26日 在南京上村(伸一)領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

### 日本海軍の上海における実力行使と右に伴な

事宜ニ依リテハ遂ニ実力行使ノ已ムヲ得サルニ至ルヘキニ付貴地居留民ノ避難引揚等ハ状勢ニ応シナルヘク早目ニ实行セラルコト然ルヘシ御如才ナキコトト存スルモ為念漢口ヨリ上流各館ニ転電アリタシ大臣、漢口、南京、九江ヘ転電シ支へ転報セリ

ル旨東京ニ電報シ更ニ当地駐在海軍武官ニ対シテハ帝国海軍ハ何日カ(日付ハ追テ電報スヘシトノコト)ヨリ必要ナル自衛手段ニ出ツヘキ旨ノ支那側ニ対スル通告文案ヲ電報シ来リ日付決定ト同時ニ右ヲ陳紹寛ニ手交スヘキ旨訓令シ来レル趣ニテ当地海軍側ハ二十八日若ハ二十九日ニハ必ス上海ニ於テ実力行使ノ挙ニ出ツヘキヲ信シ居レリ依テ本官ハ大臣発貴官宛第一一号及第一二号ノ趣旨ヲ話シ上海総領事ト海軍トハ密接ナル連絡ヲ執リ居リ而モ外務大臣ヨリハ実力行使ノ時期ハ予メ請訓スヘキ旨ノ訓令モアルコトナレハ司令官ニ於テ右總領事ノ本省ニ対スル請訓ヲ待タス兵力行使ニ出ツル筈ナキ旨説明シ自重ヲ求メ置キタルニ就テハ右特ニ御含ノ上海軍側ト連絡方御配慮相成度シ

(二)当地碇泊ノ先任艦長ヨリ司令官宛電報ヲ以テ上海ニ於テ

兵力使用ノ場合ハ當地ニ於テ如何ナル事件突発セサルトモ限ラサルニ付予メ領事館員及在留民ヲ軍艦ニ収容シ置キ度キ旨ノ意見ヲ稟申シタル処司令官ヨリ軍艦ニ収容スルハ避ケラレ度キ旨回訓アリタル趣ニテ艦長ノ解釈ニ依レハ右訓

令ノ趣旨ハ非常ノ際ニ於ケル軍艦ノ戦闘力阻害ヲ恐レタル為ナル可ク此ノ上ハ予メ日清汽船ヲ一隻当地ニ回航セシメ

15 昭和7年1月27日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

### 上海方面に軍艦増派について

別電 同日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛

軍艦増派に關する海軍當局談話

### 第一三号（暗）

上海方面ノ事態ニ鑑ミ万一一備フル為メ二十六日巡洋艦一、駆逐艦十二ヨリ成ル水雷戦隊及約六百名ノ陸戦隊ヲ増派セルカ右ニ関シ二十八日別電第一四号ノ通海軍当局談トシテ發表ノ答右増派ニヨリ上海ニ於ケル現在海軍力ハ軍艦七、駆逐艦十六及陸戦隊約千八百トナル訳ナルカ右計数ハ連盟首脳部等ヨリ質問アリタル場合ハ内密ノ含トシテ説明セラレ差支ナキモ外部ニ公表スルコトハ差控ヘラレ度尚在上海各国海軍力ニ関シテハ客年在支公使發大臣宛第一〇六五号ニテ御承知アリタシ

米ニ転電セリ

在欧各大使（土ヲ除ク）ニ転報アリタシ

### （別電）

#### 第一四号

支那各地ニ於ケル排日運動ハ多年釀成セラレタル排外思想ニ其ノ根底ヲ有シ決シテ一朝一夕ノコトニアラサルモ満州事変ノ勃発ニ依リ益々激甚ヲ加フ排日ハ遂ニ侮日ニ変シ或ハ言語ニ絶スル非人道的行為ニ依リ暴戾ナル挙措ニ出テ或ハ対日經濟絶交ヲ敢行シテ所謂武力ヲ用キサル挑撃行為ヲ

続行シツツアルハ世人ノ周ネク知レル所ナリ右ノ如キ実情ナルニモ不拘帝国海軍ハ政府ノ方針ヲ体シ常ニ穩便自重ノ態度ヲ以テ我居留民ノ生命財産ノ保護並ニ帝國權益ノ擁護ニ最善ノ努力ヲ傾注シ以テ今日ニ及ヘリ  
然ルニ今次ノ上海事件ノ如キニ至リテハ極メテ合理且妥ナル我要求ニ對シ民國側ノ態度極メテ驕傲不遜言ヲ左右ニ托シテ毫モ誠意ノ認ムヘキモノナク而ノミナラス陽ハニ各種ノ手段ヲ講シテ邦人圧迫ノ暴舉ニ出テツツアリ殊ニ最近ノ情報ニ依レハ彼等ハ其ノ正規兵ヲ以テ急遽我ニ敵対スルノ準備ヲ促進シツツアルノ実情ナリ  
帝国海軍ハ如上ノ情勢ニ鑑ミ此ノ種不法行為ノ制止ヲ期シ曩ニ軍艦大井駆逐艦四隻及特務艦能登呂ヲ増派シ更ニ本月二十六日我水雷戦隊及陸戦隊ヲ増派スルニ至リタル次第ナリ

帝国海軍トンテハ民國側ノ不法行為根絶ニ依リ事態ノ平和的解決ヲ望ム次第ナルモ万一千民國側ニシテ猶毫モ反省スル所ナク依然其ノ不法行為ヲ停止セサルニ於テハ我自衛上適当ト認ムル行動ニ出テ帝国臣民ノ保護並ニ我既得權益ノ擁護上万遺憾ナカラシコトヲ期スルモノナリ

米ニ転電セリ  
本電通り転報アリ度

16 昭和7年1月28日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日本人僧侶遭難事件に関するわが要求に対し  
上海市長の回答について

上海 1月28日前發  
本省 1月28日前着

#### 第一一三号（暗、大至急）

往電第一〇五号ニ関シ

俞秘書長殷汝耕同伴二十七日午後本官ヲ非公式ニ來訪ノ上  
市長ノ我方ニ対スル回答案文ヲ提出シタリ右回答案ノ大意  
ハ僧侶等遭難事件ノ發生ハ誠ニ遺憾ナル事件ニ付市長ハ深  
ク歎仄ノ意ヲ表ス加害者ハ當然國法ニ依リ处罚スヘク目下  
処置中ナリ又被害者ニ対スル治療費及慰藉料ハ酌量ノ上交  
付スヘシトテ我方第三項迄全部ヲ容レ第四項ハ抗日救国会  
ハ越軌不法アリ之カ取締方商民ヨリ頗出アリタルニ付既ニ  
主管官府ニ命シ解散セシムルコトトナシタルカ之ニ類似ノ  
団体ニシテ若シ不法行為アラハ之ヲ嚴重取締ルヘシトノ趣

旨ナル處抗日会ノ解散ハ我方ノ要求ニ依ルニアラサルカ如  
キ書振ナルニ付此ノ点先ツ不同意ナリト指摘シタルニ「商  
民ヨリノ願出アリタルニ付」ノ句ヲ削ルモ可ナリトノコト  
ナリシカ我方第四項ハ單ニ特定ノ抗日救国会ノ解散ト類似  
団体カ越軌行動アル際ノ取締ノミヲ以テ満足スル次第ニア  
ラス基本団体ノ解散ハ勿論其ノ他各種ノ抗日ナル名称ヲ冠  
スル団体ノ存在ヲ公認シ居ルコト夫レ自体カ不都合ナルニ  
付各種団体ヲモ一律解散スル旨命令スルコト必要ナリト告  
ケタルニ俞等ハ救國抗日会ノミニテモ市政府側ハ民衆ノ激  
烈ナル反対ヲ買フコトヲ予期シ居リ且ツ非常ナル苦心ヲナ  
シタル結果ナルカ各種団体ニ対シ抗日ノ名称ヲ即時取消サ  
シムルコトハ市長限リニテハ不可能ナリ人民集会言論ノ自由ヲ認メ居ル今日何等越軌行為ナキ団体ニ対シ単ニ称呼ノ  
点ノミヲ以テ解散セシムルコトハ徒ニ民衆ヲ激昂セシムル  
ノミニテ実効ナキ所以ヲ屢々説明シ殷汝耕ノ如キハ南京政  
府モ折角対日策ニ付新タル方策ニ出テントシツツアル際  
ニモ顧ミ此際上海事件ヲ円満ニ解決ゼンコトヲ希望スル旨  
ヲ述ヘ枉ケテ前記訂正後ノ回答ヲ以テ満足セラレタシト述  
ヘタルモ之ヲ容レス一切ノ抗日会解散命令發出ヲ要求セル

ニ俞ハ市長ニ相談ノ上改メテ何分ノ儀申越スヘシトテ辞去シタリ

公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、杭州、蘇州、蕪湖、九江、漢口、福州、廈門、汕頭、廣東、連盟、在米大使ヘ転電セリ

連盟及米ヨリ然ルヘク転電アリタシ  
廣東ヨリ香港へ転報アリタシ

連盟、在米大使ヘ転電セリ

公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、杭州、蘇州、蕪湖、九江、漢口、福州、廈門、汕頭、廣東、連盟、在米大使ヘ転電セリ

連盟及米ヨリ然ルヘク転電アリタシ

廣東ヨリ香港へ転報アリタシ

件名	日付	発信者	内容
18 昭和7年1月28日	在上海村井総領事より	芳沢外務大臣宛(電報)	抗日救国会解散に関する吳市長の談話について
19 昭和7年1月28日	在上海村井総領事より	芳沢外務大臣宛(電報)	上海 1月28日後発 本省 1月28日後着
20 昭和7年1月28日	在上海村井総領事より	芳沢外務大臣宛(電報)	上海 1月28日後発 本省 1月28日後着

連盟、在米大使ヘ転電セリ

連盟及米ヨリ然ルヘク転電アリタシ

廣東ヨリ香港へ転報アリタシ

## 抗日会の日本商品差押状況について

上海 1月28日後発  
本省 1月28日後着

<sup>(1)</sup> 本官発連盟宛電報  
第一号

最近ニ於ケル抗日会ノ暴状左ノ如シ

一、二十六日邦商清水家具店ハ洋服簾司類六個（価格一六〇弗）ヲ支那人注文先ニ運搬中抗日会検査員ニ差押ヘラレ開北（Chapai）抗日会支部ニ持去ラレタル旨届出アリ目下公安局ト返還方交渉中

二、支那商ノ日貨抑留ハ其後毎日数件アルモノノ如ク二十六日ニハ南停車場ニ於テ綿布十五行李（価格六百弗）開北ニ於テ染料（価格四百弗）ヲ抑留シ且所有者ヲ逮捕シタル由ナリ

三、共同租界工部局ノ十二月分警察報告ニ依レハ同月中抗日会員ノ為ニ壳国商トシテ逮捕サレタル支那人ハ十七名ニ及ヘルガ其中二名ハ同租界内ニテ捕ヘラレタルモノナリ監禁ハ短キハ數時間ヨリ永キハ數日間ニ及ヘルガ六名ハ比較

的早ク釈放セラレ中一名ハ逮捕後日本人ナルコト判明（客年大臣宛往電第八九三号参照）シ八名ハ店舗ノ保証ヲ以テ又一名ハ五百弗ノ罰金ヲ納付シテ自由ノ身トナリ二名ハ大晦日ヲ抗日会監禁処ニ於テ過シタリ尚十月及十一月中ニ捕ヘラレタルモノニシテ十二月中ニ釈放サレタルモノ七名アリ又日貨ノ抑留ハ一時ニ比シ減少セルモ尚同月中ニハ価格約一万三千弗ノモノ差押ヘラレタルモ中共同租界内ニ發生セルハ二、三件ナリトアリ因ニ同租界内ノ例ノ抗日会本部ハ最近我方及租界当局ノ態度強硬トナルヤ抗日会職員等寄リ付カサリシ趣ノ處二十八日午前一時過ギ公安局ノ武装セサル巡警ノ一隊來リ同租界内外ノ排日「ボスター」類ヲ剝カシ閉鎖シ去リタル旨工部局ヨリ通報アリタリ

四、抗日会ハ二十七日各種ノ會議ヲ開催シ我方要求条件等ニ付協議シタル由ナルカ其ノ概況左ノ如シ  
イ、職員会議ニ於テハ抗日会ノ閉鎖説アルモ未タ適確ナラサルニ付職員ハ謠言ヲ輕信セス抗日ノ精神ヲ以テ今後共平常通り執務スルコトヲ申合セタリ  
ロ、常務委員会ニ於テハ抗日会自体ノ存廢問題ハ事重大ナルニ付執行委員会ニ提議討論セシムルコトトセリ

ハ、執行委員会議ニ於テハ滿州事件未解決ノ中ハ抗日会ヲ存置スヘシトカ此ノ際ヨソ一層抗日工作ヲ励行スヘシトノ意見アリ結局市政府ノ正式指令ヲ待チ或ハ抗日ノ名称ヲ変更スルモ可ナリ等ト申合セタルヤノ趣ナリ  
大臣、米、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、福州、廣東ニ転電シ支ニ転報セリ

21 昭和7年1月28日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日中軍事衝突の勃発に備え上海各地区居留民

の避難方について

上海 1月28日後発  
本省 1月28日後着

第一二九号

陸戦隊時局委員会等トモ協議ノ上昨夜開北（淞滬鐵道線路ノ西北側及江湾路）居住邦人ニ対シ今二十八日中ニ六三花園又ハ租界内ニ避難方又同線路ヨリ北四川路ニ亘ル地域内ノモノニ対シテハ同沿線ニ於テ万一日支衝突發生ノ場合ニハ家内ニ引込ミ窓等ニハ応急ノ防弾設備ヲ為ス様勧告シ又東亞同文書院及其付近ニ在ル愛光社（牛乳屋）ニ対シ租界

内ニ避難方ヲ勧告シタルカ何レモ今朝來避難ヲ開始シ居レリ尚開北方面ニテハ支那側防備ノ増設及邦人避難開始ニ依リ急ニ怯へ出シ支那住民中ニ動搖ヲ生シ北停車場ヲ中心トシテ付近混雜シ居レリ（午後五時）  
公使ヘ転報ス  
北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、漢口、蘇州、杭州、福州、廣東、香港ヘ転電セリ

22 昭和7年1月28日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日本人僧侶殺傷事件に関する上海市長の回答

容認について

第一三二号（暗、至急）  
往電第一一三号ニ関シ

諒秘書長廿八日午後三時吳市長ヨリ本官宛回答公文ヲ齎シタル處右ハ大体満足ノモノト認メ今後ノ実行振リヲ見ルコトトシ一応之ヲ容レタリ公文要旨發表シ置キタリ委細後報北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、福州、廈門、汕頭、漢口、廣東、蘇州、杭州、九江、蕪湖、連雲、米ニ転電シ支ヘ転報セリ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

23 昭和7年1月(29)日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

上海市政の抗日会閉鎖に関する報道について

第一三二号(?) (暗)  
(<sup>一八文書</sup>)

往電第一一九号ニ関シ

二十八日ノ当地時事新報ハ市政府ハ廿七日午後十一時公安局及社会局ニ対シ抗日会ニ対シ断然タル処置ヲ執ルヘキ旨

密令シタル結果兩局ニ於テハ翌二十八日午前二時半ヨリ上

海抗日救国会、浦東、吳淞、楊樹浦、曹家渡等六ヶ所ノ同

会ヲ一律ニ查封シタルカ就中天后宮内ノ抗日救国会ノ弁法

ヲ取消シ抗日会ノ倉庫五ヶ所ヲ封鎖シ(脱?)保管ニ任セ

シメ今後ハ何人ト雖モ在庫品ヲ持出サシメサルコトトシ抗

日会ノ看板ヲ下シ公安局ニ持チ去リ抗日会内ノ物件モ全テ

封印セルカ尚日本人住宅工場商店等ニ対シ嚴重保護スヘキ

旨各所轄警察ニ口頭ヲ以テ命令スル外一切ノ集会又ハ游行

ヲ禁止シ以テ誠実ナル取締ヲ実行スルコトトナリタル旨報

セリ

右ハ勿論宣伝ヲ含ミ居ルヘク之カ實際ノ措置振ニ付テハ當

館警察署員公安局員ト同道ノ上成ルヘク實地視察セシムル  
等

連盟、米、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、蘇州、杭州、福州、廈門、廣東へ転電シ支へ転報セリ

廣東ヨリ香港へ転電アリタシ

24 昭和7年1月29日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に伴なう同文書院教職員および家族

等共同租界への引揚について

上海 1月29日後発 本省 1月29日後着

第一四〇号

同文書院教職員及其ノ家族約百二十名学生三百五十名全部

廿八日午後共同租界内、内外綿工場社宅ニ引揚ケタルカ目

下書院方面ハ平靜ナリ

公使ヘ轉報シ北平、奉天、天津、青島、南京、漢口へ転電

セリ

25 昭和7年1月29日 政府声明

上海事件に関する日本政府声明

上海事件ニ関シ帝国政府ハ一月二十九日左ノ通声明セリ  
一、帝国政府ハ国民政府ニ対シ客年十月九日付覚書ヲ以テ  
支那各地ニ於テ暴威ヲ逞フスル排日運動ハ組織上及實際  
上国民政府ト其ノ職能ヲ分ツコト困難ナル国民党党部ノ  
直接間接ノ指導下ニ国策遂行ノ手段トシテ行ハルル武力  
ニ依ラサル敵対行為ナルコトヲ指摘シ党部及其ノ指導ス  
ル各種排日団体ノ策動ヲ控制スヘキハ勿論其ノ他排日運  
動ヲ取締リ並ニ本邦人ノ生命財産及利益ヲ保護スルニ必  
要且有効ナル措置ヲ執ラムコトヲ要求シ尚其ノ以後ニ於  
テモ幾度トナク支那中央及地方官憲ニ対シ右要求ノ趣旨  
ヲ繰返シ其ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ来レリ

三、就中上海ニ於テハ抗日会本部其ノ他各種ノ排日団体ノ  
跳梁最甚シク殊ニ最近民国日報ノ不敬記事事件及日蓮宗  
僧侶ニ対スル殺傷事件等ノ發生以来事態益々悪化セルニ  
依リ在上海帝国總領事ハ同地方支那官憲ニ対シ排日運動  
ノ取締其ノ他ニ関スル要求ヲ提出シタル処右ハ極メテ公  
正妥当ナルモノナリシニ拘ラス支那側ニテハ荏苒回答ヲ  
遷延スル一方上海ノ周囲ニ軍隊ヲ集中シテ我方ヲ威嚇ス  
ルカ如キ態度ヲ示シ為ニ居留邦人ヲシテ極度ノ危険ヲ  
抱カシメタリ

四、尤モ支那側ニテハ二十八日午後三時ニ至リ結局我方ノ  
要求ヲ容認スルニ至レル処我方ニ於テハ支那側從來ノ遣  
口ニ顧ミ之カ実行ヲ監視スルト共ニ不逞分子ノ策動ニ対  
スル警戒ヲ怠ラサリシカ一方共同租界工部局ニ於テモ同  
租界付近ノ支那軍隊等ニシテ不穩ノ行動ニ出ツルモノア  
リタルニ顧ミ同日午後四時戒厳令ヲ布告セリ其ノ結果列  
國駐屯軍ハ協同防備計画ニ基キ各々配置ニ就クコトトナ  
リ我陸戦隊モ亦其ノ担任区域タル北四川路両側ニ対シ  
十九日午前零時ヨリ配備ヲ開始セルニ支那正規軍隊ヨリ  
突如トシテ発砲挑戦セルニ依リ我軍之ニ応戦スルノ已ム  
スルニ至レリ

ナキニ至レルカ目下我方ハ支那当局ニ対シ同國軍隊ノ本

邦人居留区域付近撤退方ヲ引続キ要求中ナリ

五、今次上海方面ニ於ケル我海軍ノ行動ハ既往ニ於テ主要列国カ同地方ニテ屢々執リ來レル実力行動ト均シク全ク

居留邦人ノ生命財産其ノ他我方權益ノ擁護ヲ目的トスル

外他意ナキト共ニ今回ノ派兵ハ從来我方カ英米仏等ノ上

海駐屯軍ニ比シ少數ノ陸戦隊ヲ同地ニ駐メ居リタルヲ事

態ニ応シ增加セルニ過キサル處我方ニ於テハ固ヨリ列国

協調ノ方針ヲ持シ現ニ出先帝國官憲ハ關係各國領事官、

共同租界工部局、各國駐屯軍ト密接ナル連絡ヲ保チ居レ

ル次第ニシテ我方ニ於テ上海地方ニ対シ何等政治的野心

ヲ有セサルハ勿論同地方ニ於ケル列國ノ権利利益ヲ侵害

スルカ如キ意図ナキコトハ多言ヲ要セサル所ナリ

貴電第一三八号ニ関シ

今次事件ニ關シ我方トンテハ居留民ノ生命財産其他我方権益ノ擁護ヲ目的トスル外他意無ク之カ為メ事態ヲ拡大セシムルヲ欲セサルハ勿論支那側ト開戦セムトスルカ如キ意図ハ固ヨリ無キ次第ナルニ不拘貴電ノ通支那側正規軍カ漸次

租界付近ニ集中シテ我方ニ反撃スルノ態度ヲ執ルニ於テハ

我方トシテモ勢ヒ之ニ対抗セサル可ラス其結果事態ハ益々重大化シ勢ノ赴ク所遂ニハ各國夫々複雜ナル利害關係ヲ有

スル租界内ニ擾乱ヲ波及セシムルノ虞大ナルニ鑑ミ貴官一箇ノ思付トシテ貴地領事團ニ対シ以上我方ノ憂慮スル所ヲ告ケ右ノ如キ重大ナル結果ノ發生ヲ防止スル為ニハ此際領事團ヨリ支那側當局ニ対シ正規軍カ速カニ日本陸戦隊ニ反抗スルカ如キ行動ヲ止メ租界付近ニ構築セル攻撃及防禦工事ヲ撤退シ且其ノ移動ヲ停止スル様嚴重警告ヲ發スルコト機宜ニ適スルモノト思考スル旨ヲ開談シ成ルヘク右ニ議ヲ纏メ実行セシムル様誘導セラレ度

26 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より  
在上海村井總領事宛（電報）  
中国軍の自重を領事団より警告方誘導について

第二二一号（暗）  
上海事件  
本省 1月30日発

27 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國松平（恒雄）大使他宛（電報）  
日中両軍間に戦闘行為中止の約定成立について

合第二七三号（暗、大至急）

二十九日午後八時三十分在上海海軍司令官発海軍省着電左

ノ通

英米総領事ノ斡旋モアリ支那側ノ申出ニ依リ日支両軍トモ

現在ノ位置ニ止マリ二十九日午後八時戦闘行為中止ノコトニ約定成立セリ  
寿府ヨリ英ヲ除ク在欧各大公使ニ転電アリタシ  
(編注) 本電報は、米国にも発電された。

28 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國松平大使他宛（電報）  
装甲列車による中国側の攻撃に関する情報について

合第二七四号（大至急）

別電  
装甲列車による中国側の攻撃に関する情報に  
ついて

29 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
上海事変の真相に関する海軍側情報について

別電 同日芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛第二四号  
右海軍側情報

第三号（暗、大至急）

上海事件ノ真相ニ付貴地軍縮會議海軍側全權ヨリ問合モアリ海軍省ヨリ出先ニ照会ノ結果別電第二四号ノ通リナリ

別電ト共ニ在英大使、在米大使、加奈陀、紐育、シカゴ、

桑港ニ転電セリ  
別電ト共ニ英ヲ除ク在欧各大公使ニ転電アリタシ

## 第二四号 大至急

### 一、事件前ノ状況

支那側ノ累年頻々タル排日侮日不法行為ニ対シ殊ニ自重的態度ヲ以テ彼ノ反省ヲ促シ来レルニ上海在留民ハ今次ノ執拗無法ナル抗日運動ニ対シ憤激其ノ極ニ達シ居レル状況ナリシ折柄一月十八日日蓮宗僧侶慘殺事件ニ依リ遂ニ勘忍袋ノ緒ヲ切レリ事件ニ対スル我方要求ニ対シ吳市長ハ抗日会解散ハ即時承認シ難シテ回答方遷延シ來

レル一方抗日会ハ却テ益々不逞ノ言動ヲナシ淞滬鐵道其ノ他各要所ニ内々堅固ナル防禦陣地ヲ築キ戰闘準備ヲ整ヘ居タル等不安ノ空氣ハ市中ニ漂ヒ在上海各国人共仮令支那側カ屈服スルトモ支那軍隊ノ統制固ク到底此ノ儘無事ニハ収マラスト觀測スルモノ大多数ノ状況ナリキ

二十八日午後三時吳市長ハ漸ク要求全部ヲ容ルニ至レルカ總領事ヨリ吳市長ニ対シ付帶事件トシテ不慮ノ衝突等ヲ避クル為日本軍付近ノ支那軍隊ノ撤退ヲ要求シ一遣

（第一遣外艦隊）ニ於テハ承認条項ノ実行及一般形勢ノ推移ヲ靜観中ナリシ所市政方面ニ民衆多数集合シテ不

穏ノ形勢アリ且謠言蜚語流行シ閘北一帯ノ保安隊ハ逃亡

三、雜件  
イ、事件ノ発端ハ敵正規軍ノ予メ準備セル攻撃ニ対スルシテハ之ヲ遺漏ナク伝達スルコトヲ促スノ手段ヲ執リ午後九時三十分在泊各艦ノ陸戰隊ヲ揚陸シ上海特別陸戰隊ニ協力ヲ命シタリ

### 二、事件発生時ノ状況

在留邦人ノ生命財産保護ノ為陸戰隊ハ工部局カ戒嚴ヲ布告シタル際實施スヘキ列國駐屯軍協同防備計画ニ基キ日本側担任区域タル北四川路ノ東西両側ニ對シ二十九日午前零時敵若ン攻撃ニ出テサルトキハ我ハ進テ攻撃行動ヲ執ルヘカラサル命令ノ下ニ配備ヲ開始セルトコロ東側地區ハ無事ナリシモ西側地区ニ於テハ虬江路及（陸戰隊兵出動其他）閘北支那街ニ通スル街路ニ頽ヲ出スヤ否ヤ支那側ハ突如射擊ヲ開始セルヲ以テ我軍自衛上之ニ応戦シ茲ニ交戦状態ニ入レリ

### 我陸戰隊ノ自衛行為ナリ

ロ、閘北保安隊カ二十八日夕刻ヨリ全部逃亡セシハ彼等カ事件発生ヲ予知シ居タルモノト認メラル

ハ、我陸戰隊ハ治安維持ノ為必要トスル工部局ノ戒嚴ニ依リ各國軍ト協定ノ警備地ニ配備セントシタルモノニシテ即チ該區域ハ在留邦人多数ヲ含ム北四川路方面ノ確保ニ対シ絶対必要トスル範囲タルコトハ夙ニ各國軍ニ於テモ認メタル所ナリ

ニ、一遣司令官ハ声明書ヲ發スルト同時ニ支那側市長、公安局長等ニモ嚴達シ事件発生予防ニ手段ヲ尽シタルノ外總領事ヨリハ前日支那側ニ対シ警告要求スルトコロアリシハ前記ノ通ナルニモ拘ラス此ノ衝突ヲ見タルハ支那軍隊カ予メ衝突ヲ準備シ居リシカ故ナリ

ホ、飛行機ノ爆撃ハ敵兵ノ集団地ヲ目標トシ停車場ノ如キ公共ノ建物ハ之ヲ除外シ居リタル所敵ノ装甲列車停車場付近ニ占位シ盛ニ我ヲ射撃セル為已ムヲ得ス之ヲ攻撃スルニ至リシモノナリ

31 昭和7年1月31日 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛（電報）  
上海自然科學研究所の警備について

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

○上 海  
○南 京  
○鎮 江  
○蘇 州  
○杭 州

目 次

昭和七年一月三十一日

上海事件 亜細亜局第二課

(各地居留民ノ保護引揚並治安状況)

びに治安状況について

テモ少カラス懸念シ居ル模様ナリ  
四、政府ハ首都警備長ニ再ヒ吳思予ヲ任命シ又市長馬超俊  
上海ニ赴キタル儘帰京セサルニ付憲兵司令ノ谷正倫ヲ市長  
代理ニ兼任セリ  
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ヘ  
転電セリ

34 昭和七年1月31日 外務省亜細亜局第二課作成

上海事変に伴なう各地居留民の保護引揚なら

昭和七年一月三十一日

一、開北方面ノ引揚（同文書院ノ引揚）

日支関係逼迫スルヤ村井總領事ハ一月二十七日陸戰隊時

局委員会等トモ協議ノ上同夜開北（淞滬鐵道線路ノ西北側及江湾路）居住邦人ニ対シ翌二十八日中ニ六三花園又ハ租界内ニ避難方又同線路ヨリ北四川路ニ亘ル地域内ノモノニ対シテハ同沿線ニ於テ万一日支衝突發生ノ場合ニハ家内ニ引込ミ窓等ニハ應急ノ防弾設備ヲ為ス様勧告シ又東亜同文書院及其ノ付近ニ在ル愛光社（牛乳屋）ニ對シ租界内ニ避難方ヲ勧告シタルカ其ノ結果二十八日朝來同方面ノ邦人ハ統々避難ヲ開始スルニ至レリ因ニ同文書院教職員及其ノ家族約百二十名学生三百五十名全部二十八日午後共同租界内、内外綿花工場社宅ニ引揚ケタリ（開北方面ニ於テ支那側防備ノ増設及邦人避難開始ニヨリ急ニ怯ヘ支那住民中ニ動搖ヲ生シ北停車場ヲ中心トシテ付近混雜ヲ極メタリ）

支那街ニ近キ仏租界ニ在ル自然科学研究所ノ警備ニ付仏國總領事ニ申入レタル次第ハ往電第一一七号ノ通ナル處中尾ヨリノ報告ニ依レハ三十日仏陸軍警備司令及警察署長等來所シ警備ニ付打合ヲ為シ陸兵手薄ノ故ヲ以テ將校以下十二人職員等四十九名在住セル趣ナリ尚昨三十日ニモ租界警察當局ニ対シ公使官邸ヲ始メ同租界在住邦人ノ保護方重ネテ申入シメ置キタリ

北平、南京ヘ転電シ支へ転報セリ

32 昭和七年1月(31)日 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変勃発に伴ない警察官増員方申請について

第一七八号

時局ノ為當館務ハ頗ル多忙ヲ極メ館員何レモ不眠不休ノ活動ヲ統ケ居ル處警察ハ特ニ手不足ヲ感シ居リ而モ之ノ状態ハ當分繼續スルモノト思考セラルニ付此際至急出来得

ル丈ヶ多数ノ警察官ヲ當館警察ニ増員方御手配相仰キ度シ其後ノ當地状況左ノ通り  
一、上海発閣下宛電報第一五一号ニ閔シ各方面ニ付内偵セル處目下当地ニ在ル飛行機ハ七、八台ニテ其内戦闘力ヲ有スルハ三台ニ過キサル由尚十九路軍ハ中央ノ命令ニ服セサル趣ニテ其行動注目セラレ居レリ

二、當館ノ下関引揚ニ伴ヒ市中ニハ日本ノ飛行機襲來說流

布セラレ通行者頓ニ減少シ人心動搖シツツアリ  
三、在泊軍艦三隻ノ外ニ本三十一日朝駆逐艦四隻入港セル處米國總領事ハ電話ヲ以テ日本ハ直ニ南京ヲ砲撃スル積ナリヤト問合セ来レルニ付本官ハ支那側ヨリ攻撃セサル以上決シテ我方ヨリ「イニシアティブ」ヲ執ルコトナキ旨重ねテ説明シ午後更ニ会見ノ上詳細説明ノ筈ナルカ外人間ニ於

33 昭和七年1月31日 在南京上村領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に伴なう南京の諸状況について

名ノ駐兵ヲ同所内ニ駐屯スルコトトナレルカ同所ニハ日本

人職員等四十九名在住セル趣ナリ尚昨三十日ニモ租界警察

當局ニ対シ公使官邸ヲ始メ同租界在住邦人ノ保護方重ネテ申入シメ置キタリ

第九四号（暗）  
其後ノ當地状況左ノ通り

南京 1月31日前發 本省 2月1日後着

ル丈ヶ多数ノ警察官ヲ當館警察ニ増員方御手配相仰キ度シ

（在南京上村領事より 芳沢外務大臣宛（電報））

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

### 二、吳淞日華紡績工場邦人職員ノ引揚

日華紡績会社吳淞工場（貨豊紗廠）（吳淞砲台ノ付近ニ在リ）ハ時局ノ為メ二十六日午前六時無事閉鎖シ（支那人男女三百五十名女工九百五十名ニ対シテハ二月八日迄旧正月休ミヲ早メテ休業スル旨ヲ告ケタリ）邦人二十四名ハ同日午後一時半自動車ニテ陸路無事上海ヘ引揚ヲ了セリ因ニ後ハ独仏人各一名及支那人職員ヲシテ番ヲ為サシムルコトトナレリ

### ○南京

#### 一、治安状況

南京政府ニ於テハ同地ニ於テ事端ノ發生スルヲ極度ニ憂慮シ当局者ハ何レモ邦人ノ保護秩序ノ維持ニ付テハ万遺漏ナキヲ期シ居ル旨言明シ居ル處事件發生以来市中ノ警戒異常ニ嚴重トナリ城門等ニ於テハ領事館ノ自動車（外交団用赤字番号符ヲ付ス）ト雖一々停車セシムル等極度ノ注意ヲ払ヒ又城門ニハ土囊ヲ運ヒ各所ニ塹壕ヲ掘ル等盛ニ防禦工事ヲ施ス尚人心ノ動搖ヲ防ク為メ支那人ノ避難及家財等ノ搬出ヲ禁ス

### 二、上村領事ノ申入ト支那側当局ノ治安維持言明

上村領事ハ二十三日外交部亞州司長ト會見シ治安維持及民衆運動取締方申入レタル處亞州司長ハ之ヲ諒承セルヲ以テ上村領事ハ二十四日更ニ憲兵司令ト會見シ同様ノ申入ヲ為セル処憲兵司令モ責任ヲ以テ民衆運動ノ取締及治安ノ維持ニ努力スヘキ旨答ヘ更ニ二十八日再ヒ電話ニテ此ノ上トモ邦人ノ保護及治安ノ維持ニ全力ヲ尽ス旨申越セリ

### 三、雲揚丸ノ回航

然レトモ帝国領事館ニ於テハ万ノ場合館員及居留民等収容ノ為メ汽船一隻ノ回航ヲ求メタルニヨリ之ヲ許可シ二十八日正午上海ヨリ日清汽船雲揚丸ヲ回航セシメタリシカ同船ハ二十九日朝南京ヘ到着セリ

#### 四、海軍ノ支那側ニ対スル通告

然ルニ上海ニ於ケル日支ノ形勢刻々悪化セル為メ二十九日一遣司令官ハ同地駐在海軍武官ヲシテ必要ナル自衛手段ニ出ツヘキ旨ノ通告文ヲ陳紹寛宛交付セシムニ至リ

#### 五、在留民ノ引揚

事態右ノ如クニ立至レル為メ在留民ハ全部二十八日夜ヨ

### リ二十九日朝迄ニ下閔ニ避難セリ

#### 六、帝国領事館ノ引揚

尚帝国領事館モ二十九日朝一時下閔ニ避難シ雲揚丸ニ乗船滯留スルコトス但引揚後モ領事館ニハ交替ニテ警察官又ハ館員一名位ヲ残シ館及邦人留守宅ノ監視ニ当ランム（因ニ公文書ハ二十八日大部分日清汽船ニ依リ上海ヘ送付済）

### 七、天竜及対島警備

### ○鎮江

万ノ場合ヲ顧慮シ二十八日日清汽船ニテ婦女子四名上海ニ引揚ケシメ残ノ男子十一名ハ海軍側ノ保護ヲ受ケシム勢多警備

#### 一、治安状況

事件以來種々ノ謠言盛ナル為メ二十三日夜臨時戒厳令ヲ布ケルカ対日空氣異状ナシ

二、婦女子ノ引揚

然レトモ万ノ場合ヲ顧慮シ二十七日館署員家族及在留民八十名（イ）館署員家族及雇人成年女子十名子供十三名（ロ）在留

### ○蘇州

一般ニ平静ナルモ市中ニハ謠言盛ニシテ第八十八師ハ一部動員セラレ出發ス

#### 一、治安状況

居留民三名警察付添二十八日午後一時上海着ノ予定ニテ引揚ケタリト認メラル

### ○蕪湖

二十八日海軍側ト打合ノ結果居留民ヲ一時日清「ハルク」ニ避難セシム

西田領事代理ハ在留邦人ニ対シ引揚準備ヲ命セルカ事故空

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

発ヲ恐レ二十八日夜婦女子ヲ日清「ハルク」ニ収容シ軍艦熱海ヨリ兵員ヲ派遣シテ警備セシムルト共ニ御真影、官邸御紋章、電信コード其他ノ重要書類ハ軍艦ニ移シ貴重器具類ハ倉庫ニ収容セリ

○漢口

一、治安維持

市民ハ我軍ノ錦州占領以来意外ニ引続キ冷静ノ態度ヲ持シ来レルモ上海ノ情勢逼迫ト共ニ次第ニ不安ヲ加ヘ自然種々ノ謠言盛トナレルモ概シテ平靜ノ態度ヲ持シツツアリ右ハ共匪軍武漢付近ニ跳梁シ同地政權モ安定ヲ欠キ此ノ際特ニ人心ノ動搖ヲ恐ル中国側警備局ニ於テ努メテ

党部方面ノ活動ヲ抑制シ適當ニ排日記事ヲ取締リ居ルカ為メト認メラレ現ニ何成濬ハ二十七日武漢反日救国会ニ

對シ上海ノ事態ニ顧ミ暫ク其ノ活動ヲ停止スヘキ旨命令シ一方警備司令部ニテハ省(ママ)兩党部ニ對シ反動分子ノ策動防圧ノ為メ反日行動ノ嚴重取締方ヲ通告セルハ事実ナルカ如シ

二、坂根總領事ノ支那側ニ對スル居留民保護方申入及居留民ニ對スル説示

帝国總領事館ニ於テハ居留民ニ説示シ輕拳ヲ慎マシムル様指導スルト共ニ中國側警備責任者タル何成濬及夏斗寅ニ対シ友誼的警告ヲ發シ何等不祥事件ノ發生ヲ未然ニ防止セシムル様申入レタルニ對シ二十五日武漢警備司令夏斗寅ハ秘書ヲ派シ充分諒承セル旨答ヘシメタリ

宇治、樺、桃、柳、檜、滯泊

35 昭和7年2月1日 在上海重光(葵)公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

在留日本人保護のため陸軍派遣方稟請につて

第五六号  
本使帰任後直ニ現下ノ実状ヲ仔細ニ観察セル処(一般情勢ハ上海発閣下宛電報第一五八号ニ依リ御承知ノ通)予想外ニ急迫セル事態ト認メラル即チ我方現在ノ兵力ヲ以テシテハ在留民ノ安全確保ニ不足ニシテ(其結果自警團ノ如キ醜態ヲ現出シタリ)他方租界全般ノ治安甚タシク脅カサレ在留外国人側ノ不安ハ固ヨリ其生活ノ脅威ヲモ誘致シ外人ノ

我方ニ對スル感触漸次悪化シ事態頗ル重大ナルニ付在留民保護ノ完全ヲ期スル目的ヲ以テ陸軍ヲ派遣セラルコト然ルヘシ考慮ヲ尽シタル上右具申ス至急御決行ヲ相仰ク尚支那側ニ於テ予メ右陸軍派兵ノ報道ヲ感知スルニ於テハ右到着前我方ノ手薄ニ乘シ暴行ヲ加ヘ来ルヤモ計ラレス斯カル際我方ノ蒙ルコトアルヘキ人命財産ノ損害ハ測り知ルヘカラサルモノアルニ付テハ本件派兵ニ付テハ軍ノ機密トシテ派遣兵カ当地ニ上陸シ得ル時機ニ至ル迄絶対ニ内外新聞等ニ發表セラレス且此点ニ付テハ特ニ充分ノ御取計アル様各方面ニ御手配相煩ハシタシ

本官ノ趣旨ハ當地陸海軍武官ノ意見ヲモ徵シ海軍司令官モ本電趣旨ニ異議ナキ次第ナリ

36 昭和7年2月1日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
居留民の内地引揚のため配船手配郵船会社に  
下命方申請について

37 昭和7年2月1日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
情勢悪化のため領事館員家族の一時内地引揚  
方申請について

当地不安ニテ内地ニ引揚グルモノノ為當地郵船ニ於テハ七日迄ニ約三千人ヲ輸送シ得ル様配船手配中ナルガ万一一ノ場合ニ備フル為更ニ五千人収容ノ準備ヲ致シ置キ度キニ付本省ヨリ郵船本社ニ對シ右配船至急取計ヒ方御下命相煩シ度シ

上海 2月1日後発  
本省 2月2日前着

第一九〇号(暗)

当地ノ情勢ハ屢次ノ拙電ニ依リ御承知ノ通危險極マリナク在留邦人ハ日夜不安ノ念ニ駆ラレ統々内地ニ引揚ケツツアリ館員家族ハ事件勃発ト共ニ全部當館構内及付近各旅館ニ避難セシメ万一二備へ居ル處當館付近ト雖屢次往電所報ノ如ク便衣隊ノ跳梁砲彈ノ落下等アリ不安絶エサルノミナラ

第一八八号(暗、至急)

上海 2月1日後着  
本省 2月1日後着

31

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

- ス各館員ハ多忙ナル勤務ノ為夜分モ帰宅不可能ナルモノ多  
ク帰宅可能ナルモノモ毎夜深更ナラテハ帰宅スルヲ得ス而  
モ市内連絡機関ノ杜絶ハ一層家族ノ不安ヲ増シツタル状  
態ニアリ且下ノ情勢ニ於テハスル不安状態ハ当分継続セラ  
レ何時旧態ニ復帰スルヲ得ルヤ殆ト見込無ク館員中ニモ寧  
ロ此ノ際手足纏ヒトナル家族ヲ一時帰朝セシメムコトヲ希  
望スルモノ多ク依テ本官ニ於テモ任意館員家族ヲ内地ニ近  
揚ケシメ度キ所存ナルカ緊急ノ際一々御許可ヲ裏請スル違  
ナキニ付右予メ御承認相仰キ度ク右重光公使トモ協議済ミ  
公使ヘ転報セリ
- 38 昭和7年2月(1日) 上海時局委員代表より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
居留民保護のため救援方申請について
- 上海時局委員代表  
本省 2月1日前着  
上海時局委員代表  
米里 紋吉  
福島喜三次
- 一、停戦交渉中ナルニ拘ラス支那ハ引続キ租界ヲ砲撃シ砲  
ハ既ニ疲労ノ極ニ達シ居レリ現在ノ兵力ヲ以テシテハ居留  
民現地保護スラ不可能ノ状態ナリ
- 六、我々ハ唯今夜半日本人俱楽部二階ノ一室ニアルカ付近  
ノ各所ニ銃声聞ヘ東部方面ヨリハ急ヲ訴ヘテ来援ヲ求メ虬  
江ノ邦人根拠地モ保チ難キ観アリ只今我々ノ室ニ小銃弾ノ  
射撃ヲ受ケ窓硝子破壊サレタリ此状態ヲ統クルニ於テハ極  
悪ノ場合ヲ想像スレハ上海邦人虐殺セラルヤモ測リ難シ  
我々ハ此上云フヘキ言葉ヲ知ラス上海同胞三万ノ為ニ祖国  
ニ向テ救援ヲ求メ之ヲ得ル能ハスンハ上海ヲ引揚クルカ座  
シテ死ヲ待ツノミ切ニ御考慮ヲ求ム
- 39 昭和7年2月(1日) 上海居留民代表より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
居留民保護のため陸軍の急派方申請について
- 上海 本省 2月1日後着  
上海居留民代表  
林 勇吉  
(至急同文四通ノ内)
- 彈各所ニ落下セリ且支那ハ対日宣戦及洛陽遷都ヲ宣伝シ敵  
懲心ヲ浚リ戦備ヲ整ヘツツアリ
- 二、便衣隊依然トシテ各所ニ出没シ邦人ノ被害頻々陸戦隊  
モ応接ニ暇ナキ有様ニシテ其間ノ秩序紊乱ニ乘シ慨カハシ  
クモ日本ノ名譽ヲ恥シムル行為ヲ敢テスル邦人少カラス此  
問題ハ既ニ外人ノ知ルトコロニシテ到底隠蔽スル能ハス畢  
竟兵力不足ノ為ナリト信ス
- 三、閘北、虬江方面ヨリ所謂英租界ニ殺到スル避難民無数  
ニシテ混雜名状スヘカラス仏租界ハ彼等ノ闖入ヲ防ク為英  
租界トノ境界ニ鉄条網ヲ張リ交通ヲ遮断セリ英租界方面ニ  
於テハ秩序ノ維持自然ニ困難トナリ食料ノ欠乏ヲ來シ居ル  
カ為避難民カ暴動化スルニ非スヤト懸念セラル
- 四、当地外国人ノ輿論ハ日本ノ最初ノ行動ヲ否認セスト雖  
事件突発後遲滞ナク時局ヲ鎮定スルタケノ兵力ナク其結果  
前述ノ如キ租界ノ秩序紊乱ヲ招キタルハ日本ノ責任ナリト  
云ヒ全租界ノ秩序ヲ確保スルノ覚悟ト準備ナクハ宜ク日本  
軍ハ租界ヨリ撤退スヘシト主張シ居レリ
- 五、陸戦隊ハ現在各處ニ事件起リ東奔西走疲労困憊ニ至ル  
コト遠カラサルヘク義勇的ニ前線及後方勤務ニ服セル邦人  
軍ハ租界ヨリ撤退スヘシト主張シ居レリ
- 40 昭和7年2月(1日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
上海事変に対する連盟規約第十五条適用について
- 第二九号(大至急秘)  
佐藤理事ヨリ  
支那側カ突如トシテ第十五条ニ依リ事件ヲ理事会ニ付託シ  
理事会カ之ヲ受理シ事務総長ハ不取敢同条第一項ニ基ク措  
置トシテ在上海各國總領事ヨリ成ル委員会ヲシテ現地ノ状  
況ヲ報告セシムルコトトナリタル次第ハ屢次ノ往電ニテ御  
承知ナル処本使トシテハ貴電第八号御来示ノ次第モアリ理  
事会カ本条ニ基キ事件ヲ取上クルコトヲ極力防止スルニ努  
メタルモ第十五条ノ性質上遂ニ阻止スルコトヲ得サリシ次  
第ハ本使ノ頗ル遺憾トスル所ナリ然レトモ今回ノ上海事件  
カ世界的ニ衝動ヲ与ヘタルハ否ムヘカラス支那側ハ此ノ情

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

勢ヲ利用シテ第十五条ニ依ル付託ヲ決行シタルモノト観測セラレ事效ニ至リテハ大国ノ態度ヲ以テ堂々支那ノ挑戦ニ応スルノ外ナシト思考セラルルノミナラス本官ノ見ル処ヲ以テスレハ第十五条ノ手続ト雖我方カ戦争ニ訴ヘサル限り実際上ノ結果ニ於テ第十二条ノ手続ト大差ナカルヘク其結果カ我方ニ有利トナルヤ不利トナルヤハ結局我方今後ノ努力ノ如何ニ依ルモノナルヤニ思考セラル依テ政府ニ於テモ此際寧ロ進ンテ第十五条ノ下ニ於テ我方ニ有利ナル解決ヲ遂ケントセラルルニ於テハ我方ニ於テ此上第十五条ノ手続ヲ回避スルノ態度ヲ示サス陳述書ノ提出等ニ付全力ヲ注クコト然ルヘキヤニ認メラルル処之等ノ点ニ関スル政府ノ御意向大至急御回示相仰キタン  
在欧米各大使、支ヘ転電セリ

41 昭和7年2月(1日) 在米国出淵(勝次)大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

米国軍隊および軍艦の上海派遣について  
第七三号  
三十一日「ホワイト、ハウス」ヨリ同日大統領ハ國務長官、海軍長官、海軍軍令部長、陸軍長官、參謀総長ヲ集メスヘキ旨並ニ共同租界ヲ攻撃ノ根拠地トシテ使用セサルヘキ旨ノ保障ヲ与ヘタリ  
英國政府ハ「リンドレイ」大使ニ与ヘタル訓令ヲ米国政府ニモ通告シ米国政府モ同様ノ申入レヲ為サン事ヲ懲諭シリ  
新聞報ニ依レハ米国政府モ同様ノ措置ヲ執リタルモノト了解セラル 米及寿連ニ転電セリ

43 昭和7年2月1日 芳沢外務大臣より  
在ジニネーヴル連盟事務局長、在英國沢田臨時代理大使他宛(電報)

上海における日本軍の活動抑制につき英國大使より申出について

三十日在本邦英國大使來訪昨日ノ會議(往電合第二七二

会議ノ結果馬尼刺ニ在ル歩兵第三一連隊(一千名)及海兵(「マリーン」)四百名ニ對シ二月一日馬尼刺発運送船ニ依リ上海ニ向フヘキ旨發令セル処右ハ在上海米国市民保護ノ任務ニ就カシムル為メナリト發表セリ

尚別ニ「アドミラル」「ティラア」ノ坐乗スル一万噸級巡洋艦「ヒューストン」ハ亞細亞艦隊所屬驅逐艦六隻ヲ率ヒ三十一日既ニ馬尼刺発上海ニ向ヘルカ其任務ハ同シク在上海米国人保護ノ為ナル旨政府筋ヨリ發表アリタリ

42 昭和7年2月(1日) 在英國沢田(廉三)臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に関する英国外務省「ミニニケ」について

第四四号  
当国外務省ハ三十日夜左記「コンミニケ」ヲ發表シタリ  
在東京英國大使ハ一月三十日日本外務大臣ニ對シ上海ニ於ケル日本最近ノ行動ニ依リ英國人ノ生命及利益危険ニ曝ラサレ居ル事ニ對シ注意ヲ促スヘキ旨並ニ共同租界ヲ攻撃ノ根拠地ト為ス事ニ對シ抗議スヘキ旨訓令ニ接シタル事ヲ通

号)ヲ報告セル電報ト行違ニ本国政府ヨリ「同政府ハ上海ノ事態ニ付多大ノ危惧ヲ抱キ居レリ日本海軍ノ行動ハ英國臣民ノ生命財産ニ対シ危険ヲ釀シソアリ又上海ニハ英國ハ甚大ナル利益ヲ有シ居ル次第ニテ英國政府ハ日本軍カ共同租界ヲ「ベース」トシテ支那軍ニ対抗シツツアルニ同意シ得ス就テハ日本政府ニ對シ日本軍ノ抑制方申入ルヘシトノ趣旨訓電ニ接シタリト述ヘタリ依ツテ本大臣ハ日本海軍ハ英國臣民ノ生命財産ニ危険ヲ与フル如キ考ヘ全クナキハ勿論現ニ何等与ヘ居ラス又日本軍ハ共同租界ヲ「ベース」トシテ支那軍ト对抗ス云々ト謂フモ右ハ二十七日各國警備指揮官會議ノ協定セル共同防備計画ニ基キ二十八日ノ工部局戒厳令発布後各国軍ト共ニ各々受持区域ノ警備ヲナリト述ヘ置キタリ、尚ホ英國大使ハ在南京同國領事ノ電報ニ依ルニ日本司令官ハ吳市長カ日本側要求条件ヲ受諾シタルニ拘ラス支那軍隊ノ撤退ヲ求メタル由ナルカ右ハ必要ナカリシニ非スマト述ヘタルニ付吳市長カ要求条件ヲ容レタルハ事實ナルモ右要求条件ノ受諾後ト雖モ統制ナキ支那

## 事項 1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

軍力本邦人居住区域付近ニ在ルハ危険ナルニ付我方ヨリ其ノ撤退ヲ求メタルモノナルヘク現ニ工部局モ支那側ノ形勢不穏ノ為前述ノ如ク戒厳令ヲ発シタル位ナリト答へ次イテ同大使ハ上海ノ日英両国海軍司令官ノ間ニハ連絡ナキ模様ナリト述ヘタルニ付両者ノ間ニハ密接ナル連絡アルモノト思考ス現ニ前述ノ如ク共同警備計画ヲ協定シ居ルニ非スマト応酬シ置キタリ

北平、奉天、廣東ニ転電セリ

寿府ヨリ英、土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタン

英ヨリ米ニ転電アリタン

上海ヨリ在支公使、南京ニ転報アリタン

合第二九七号（暗、至急）

日会解散ノ為メ日本司令官ニ於テ強力ヲ用ヒントスル為メ工部局ニ於テ危険ノ發生ヲ慮リ戒厳令ヲ布キタルモノニテ上海市長ノ要求ヲ容レタル以前ニ同令ノ布告トナリタルモノナリト述ヘタルニ付本大臣ハ右ハ事実ニ反ス即チ市長カ我方ノ要求ヲ容レタルハ二十八日午後三時十五分ニシテ工部局ノ戒嚴令ヲ布キタルハ同日午後四時ナリト指摘シタル処英國大使ハ答弁ニ躊躇シタル上前記攻勢的及守勢的行動云々並 section of other nationals ノ項ニ付帰館ノ上暗号ヲ取調ヘ何分ノ儀更ニ申越スヘキ旨ヲ述ヘタリ

（同大使帰館後取調ノ結果トシテ同大使ノ陳述ニ間違ナキ旨申越シタリ惟フニ此ノ点ハ英國側ニ何等カノ錯誤アルヤニ思考セラル）本大臣ハ英大使ニ対シ更ニ前電ノ通現ニ我陸戦隊ハ非常ナル危険ニ瀕セルノミナラス共同租界モ重大ナル危局ニ面スル次第ニ付英國側ニ於テ至急支那軍増援ノキ能ハス若シ支那軍ニシテ退却ヲ承諾セサル場合ニハ困難ナル破目ニ陥ルノ虞アリト述ヘタルニ付本大臣ハ目下ノ問

44 昭和7年2月1日 芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛合第二九八号 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國澤田臨時代理大使他宛（電報）  
上海事変に関する内外新聞記者に対する談話内容について

別電 同日芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛合第二九八号 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國澤田臨時代理大使他宛（電報）  
上海事変に関する内外新聞記者に対する談話内容について

英米仏三国大使との上海事変勃発状況に関する会談について

三十一日上海防備ニ関係アル英仏米三国大使ヲ別々ニ招致シ本大臣ヨリ大要別電合第二九八号内外新聞記者ニ対スル談話ト同趣旨ノ談話ヲ為シタリ

右ニ対シ英國大使ハ本日本國政府ヨリノ來電ニ依レハ上海ニ於ケル英國海軍先任將校ヨリ昨日ノ警備會議ニ於テ時局ノ非常ニ重大ナルコトヲ認メタリ日本司令官ニ対シテハ他人ノ受持区域ヲ利用シテ攻勢的及守勢的行動ヲ取り租界ノ中立性ヲ侵犯スルコトニ対シ抗議シタルニ拘ラス日本陸戦隊ハ尚之ヲ繼續スルニ付更ニ抗議ヲ為サムトスト電報アリタリ仍テ右始末ハ日本外相ノ与ヘタル保証ニ違反スル次第ニ付其ノ注意ヲ喚起セラレタシトノ趣旨ナリト述ヘタル

日本陸戦隊ハ自己ノ受持区域ノ警備ニ從事スルノミニテ他國ノ区域ニ侵入シ居ルモノニ非ス第二ニ攻勢及守勢ノ行動云々トアルモ日本陸戦隊ハ支那軍ノ攻撃ニ対シ防衛ニ從事シ居ルノミニシテ我方ヨリ攻勢ニ出ツル筈ナシト述ヘタル

英國大使ハ更ニ本大臣ノ説明ニ依レハ上海市市長カ要求ヲ容レタル後工部局ニ於テ戒嚴令ヲ布告シ其ノ結果各國軍隊夫々部署ニ就キタリトノコトナルモ英國側情報ニ依レハ抗

題ハ交渉ノ結果ニ付キ憂慮ヲ抱クヘキ時期ニアラスシテ一刻モ早ク現下ノ危局ヲ緩和スルコトニ努力スルコト必要ナリト述ヘタル処同大使ハ戰鬪ヲ防止シ得ルヤハ確言スルコト能ハスト述ヘテ引取リタリ

米国大使ハ本大臣ノ説明ニ次キ米国政府ヨリ左ノ如キ訓令ニ接シタリ即チ先ソ以テ英國大使ト協議ノ上日本外務大臣ニ「支那市長ハ二十八日日本ノ要求ヲ承諾シ日本總領事ハ現ニ領事団ニ対シ支那側回答ハ満足ナリト告ケ且ツ各所ニ於テ日本官憲ハ不必要ナル軍事行動ヲ取ラサルヘキ旨保障ヲ与ヘタルニ拘ラス日本陸戦隊ハ二十八日夜半上海ノ商業地ニ於テ支那軍ニ対スル攻撃ヲ開始シタリ之カ為上海全市ノ平和ハ攪乱セラレ商業絶セリ共同租界ノ安全ハ脅カサレタリ米国政府ハ斯クノ如キ發展ニ対シ茫然タラサルヲ得ス就テハ日本政府ニ対シ此ノ上生命ノ損失財産ノ破壊ヲ齎ス如キ行動ヲ中止スル様」警告方並ニ「既ニ危険ナル時局ニ対シ此ノ上困難ヲ加ヘ各国人ノ危惧ヲ増スカ如キ行動ヲ中止スル様」勸告方取計フヘシトノ事ナリト述ヘタリ仍テ本大臣ハ同大使ニ対シ若シ米国國務長官ノ受領セラレタル事実ニ闇スル報道ニシテ正確ナル場合ニハ右ノ如キ結論モ

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

亦正確ナルニ相違ナキモ何分事實ニ誤アルニ付其ノ結論モ亦誤リ居レリ本大臣ノ既ニ説明セル通り我陸戦隊ハ防備配置ニ就カムトシタル処支那側（便衣隊ヲ含ム）ヨリ発砲シタル為之ニ応戦シタルモノニシテ全ク自衛ノ行動ニ過キス從テ米国政府ハ論理ヲ誤レルコトトナル次第ナリト述ヘタル処同大使ハ根拠タル事實ニ於テ日米間ニ相違アリトセハ其結論ニ於テモ相違ヲ來ス訳ナリト述ヘタルニ付本大臣ハ兔ニ角事實ヲ調査セラレ度旨ヲ要求シタル処同大使ハ右様取計方承諾セルニ付本大臣ハ更ニ現下ノ危局ヲ緩和スル為メ米国政府ニ於テ在上海同國官憲ニ対シ至急必要ノ訓令ヲ發セムコトヲ求メタル処同大使ハ兔ニ角直ニ本国政府ニ電報スヘキ旨答ヘタリ尚ホ本大臣ハ同大使ニ対シ本日我在米大使ヨリ接手シタル電報（在米大使來電第六六号）ニ依レハ國務長官ハ同大使ニ対シ日本側遣口如何ニモ行過キタル様認メラレ狭キ往来ニ於テ日本水兵カ盛ニ発砲シ空中ヨリ爆弾ヲ投ケ無辜ノ老若男女ニ多大ノ損害ヲ与ヘタリト述ヘラレタル趣ナルモ何分昂奮狀態ノ際ニ付或ハ多少ノ行過キナキヲ保シ難キモ（尤モ我方ニ斯ノ如キ行過アリタル報告ニ接セス）國務長官ノ述ヘラルルカ如キ事實ハ無之元來上

### 合第二九八号 至急

本三十一日午後上海ノ防備ニ関係アル英米仏三国大使ノ來訪ヲ求メ上海ニ於ケル重大ナル危局ニ闕シ説明スル所アリタリ右ハ上海ニ於ケル我官憲ノ行動ニ付多少誤解セル向モアリト認メラレタル為此ノ誤解ヲ正シ併セテ目下ノ危局ニ付關係國ノ注意ヲ喚起シ其ノ好意的考慮ヲ求メムカ為ナリ第一、上海ニ於ケル我總領事及陸戦隊司令官ハ終始列國トノ協調ニ努メ来リタル次第ナリ即チ二十一日我方ヨリ上海市長ニ提出セル要求中抗日運動ノ禁絶ノ一項ヲ含ム処工部局ハ二十五日ノ外人參事會員会議ノ結果自ラ「イニシアチブ」ヲ取リ民國日報社ノ閉鎖及抗日会本部ノ閉鎖ヲ満場一致決議シ二十六日前者ヲ実行シ後者ハ日本側ニテ手入ヲ為ス場合之ヲ援助スルコトセル趣ナリ一方日本官憲側ニ於テモ抗日会ノ手入等ノ為必要ト認メラルル措置ヲ工部局ニ内報セル外我海軍ト工部局警察トノ間ニ右措置ノ細目ニ付打合セ更ニ二十七日總領事及館員ヨリ英米仏各國總領事ニ對シテモ我方ノ立場及措置振ヲ説明セリ同日各國軍事指揮官ハ會議ヲ開キタル上租界ノ防備ニ関スル協定ヲ遂ケタリ

亦現ニ昨日真茹ノ電台破壊セラレタル旨ノ新聞電報ヲ見タル節本大臣ハ直ニ海軍大臣ノ注意ヲ喚起シタル処同大臣ヨリ直ニ無線電信ニテ上海ニ確メタル結果全然無根トノ返電ニ接シタル始末ニテ上海ヨリノ情報ハ割引ノ必要アリト述ヘタル処同大使ハ之ヲ首肯シ居リタリ次ニ仏國大使ニ前記別電ノ通り陳述セル処同大使ハ仏国政府ハ仏國租界ヲ有スレトモ共同租界ニモ多大ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ日本カ軍事行動ヲ執ル場合ニハ慎重ニセラレムコトヲ望ムト述ヘタルニ付本大臣ハ勿論慎重ニ行動シ居ル次第ハ前記別電説明ノ通リナリ兎ニ角目下ノ危局緩和ニ付テハ仏國政府ニ於テ至急在上海仏國官憲ニ対シ英米官憲ト協調シテ適當措置ニ出ツル様訓令アリ度ト依頼セル処同大使ハ之ヲ快諾セリ

本電宛先 連盟、英、米、仏、支

別電ト共ニ仏ヨリ在欧各大使（土ヲ除ク）ニ転電アリ度

別電ト共ニ支ヨリ上海、南京ニ転報アリ度

別電ト共ニ北平、奉天、廣東ニ転電セリ

（別電）

第一、吳市長カ我方ノ要求ヲ容レタルニ拘ラス我陸戦隊ニ於テ何カ故ニ砲火ヲ交ヘタリヤトノ非難アルモ此ノ両者ハ全然別種ノ事件ニシテ即チ二十八日午後三時十五分吳市長ハ我方ノ要求全部ヲ容レタルニ付我司令官モ總領事モ共ニ之ヲ満足トシ承認条件ノ実行振ヲ靜觀シタル処市政府方面ニ多數ノ民衆集合シテ不穏ノ形勢アリ且流言蜚語盛ニ行ハレ閘北一帯ノ保安隊ハ逃亡シテ不安甚シク之カ為工部局ハ同日午後四時戒厳令ヲ布キ我陸戦隊モ前日協定ノ防備計畫ニ基キ日本側担任区域ノ警備ニ就カムトシタル時支那側ヨリ突如射撃ヲ開始セルヲ以テ我軍ハ自衛上応戦シタルモノニシテ即チ市長ノ要求承諾トハ何等ノ關係ナキ次第ナリ我方ニ於テハ租界ヲ根拠トシテ支那軍ヲ攻撃シタルモノニアラスシテ防備計畫ニ基ク担任区域ノ警備ニ就カムトシタル際支那側ヨリ挑戦シタル為之ニ応戦シタルマテナリ二十八日夜以来ノ日本陸戦隊ト支那軍及便衣隊トノ激戦ハ英米總領事ノ斡旋ニ依リ二十九日午後八時ヨリ停戦ノコトトナレルニ拘ラス支那軍ハ三十日朝ヨリ再ヒ装甲列車等ヲ利用シ砲撃ヲ開始シ其ノ結果共同租界内ノ日本人居住区域ニモ盛ニ砲弾ノ落下ヲ見

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

- タリ一方蔣介石ハ二十九日第十九路軍及警衛第三師ヲ上海付近ニ集中シ三十一日完了ノ予定ナル由又飛行機四十分河南方面ヨリ南京ニ輸送シ蘇州ニ前進セシムル外必要ニ応シ河南方面ヨリ更ニ兵力ヲ補充ストノコトニテ是等ノ兵力集中終ラハ攻勢ニ転スヘシトノ情報アリ支那側ノ此ノ態度ハ連盟ニ問題ヲ提起セル態度ト一致セサルモノニテ我方トシテハ支那軍カ速ニ攻撃ヲ停止シ我方ヲ脅威スルカ如キ地域ヨリ撤退スルコトヲ欲スルモノニテ此ノ際関係国政府ヨリ至急在上海自國官憲ニ対シ支那軍ノ攻撃停止及撤退ニ付必要ナル訓令ヲ發スルコトヲ切望スル旨三国大使ニ申出置キタリ
- 45 昭和7年2月1日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國沢田臨時代理大使他宛(電報)
- 英米仏三国大使との談話補遺について  
合第三〇〇号 暗、至急  
(四四文書)  
往電合第二九七号ニ関シ  
三国大使ニ対シテハ往電合第一九八号(新聞記者ニ対スル談話)末尾「欲スルモノニシテ」ト「此際関係国政府ヨ
- ハ一時後退スルト共ニ支那側ニ警告ヲ發シ卅一日英國總領事官邸ニ於テ日支當局者会合シテ更ニ停戦ニ関シ協議スルコトトナレルカ卅一日払暁來支那軍ハ又々我方ヲ攻撃シ野砲弾我陸戦隊本部ニ落下セリ又英國義勇軍モ支那軍ト交戦セリ尚吳淞砲台トノ間ニハ未タ何等ノ事故發生シ居ラス又目下ノ所ハ南京ニ波及ノ虞ナカルヘキ見込ナリ
- 二、支那側ハ二十八日以前ヨリ軍隊ヲ上海地方ニ集中シ其ノ數三万ト算定セラレタルカ其後モ南京其他ヨリ統々増援シツツアリ
- 三、便衣隊ノ活躍甚シク二十九日我領事館及公使官邸ニ対シ長銃乃至拳銃ヲ打チ込ミタル外吳淞路「マーケット」日本俱楽部等約四十箇所ニ便衣隊襲来セリ我警備軍ノ便衣隊ニヨル負傷者二十九日中ノミニテ四十六名ニ達ス
- 四、支那側市商会、銀行公会、総工会、取引所ハ二十九日ヨリ三十一日迄全市ニ亘リテ「ゼネラルストライキ」ヲ行ヒ共同租界仮租界及支那街一齊ニ閉店シ商業杜絶シ電車動カス混乱ト恐怖ノ中ニアリ
- 支那情報トシテ転電アリタシ

- リ」トノ間ニ「若シ支那側ニテ到底右攻撃停止及撤退ヲ肯定サル場合ニハ日本トシテハ陸兵ヲモ派遣シテ支那側ノ攻撃ニ備エ以テ帝国臣民及共同租界ノ安全ノ為メ飽迄努力セサルヘカラサル次第ナルカ」ト告ケ置キタル次第ナリ
- 北平、奉天、廣東ニ転電セリ  
仏ヨリ英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ  
支ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ
- (編注) 本電報は、米、仏、中国にも発電された。
- 46 昭和7年2月1日 芳沢外務大臣より  
在英英國沢田臨時代理大使、在米國出淵大使他宛(電報)
- 上海地方における状況通報について  
合第三〇五号(暗)  
支那情報  
一月二十九日帝国政府声明以後上海地方ニ於ケル状況左ノ如シ  
一、二十九日日支両軍ハ停戦スルコトニ決定セルモ三十日午前六時半支那軍ハ我方ヨリ何等挑発ナキニ拘ラス砲弾ヲ開始シ共同租界内邦人居住区域ニモ砲弾命中セリ我軍
- 第五七号  
(三五文書)  
往電第五五六号ノ御誼議回電ヲ請フ  
上海への陸兵派遣に關し回答督促について  
47 昭和7年2月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
上海 2月2日前発  
本省 2月2日前着
- 上海帰任以後の状況について  
48 昭和7年2月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
第六一号  
本使着任以後ノ当方面状況左ノ通り尚總領事電報参照アリ  
タシ  
一、我陸戦隊ハ其占拠地域ヲ死守シ居リ兵力既ニ最大限度ニ達シ之以上増員ノ余地ナキ為支那兵ノ上海付近ニ在ル

モノニ対シテハ強力ナル爆撃機ヲ用フルノ計画ナリ海軍力ハ第三戦隊ノ来援等ニ依リ充実セルモ陸上ニ於テハ飛行機ノ外別ニ用フヘキ所ナク爆弾投下ハ一般人心ヲ極度ニ恐怖混乱セシメ外国人側ノ急速ナル非難ヲ招キツアリ

一、二十九日事件当初海軍側ハ手薄ノ為在郷軍人団及一時青年団又ハ自警團ヲ閩北占拠地内ノ治安維持ニ用ヒタル行懸モアリ彼等ノ行動ハ便衣隊ニ対スル恐怖及憎悪ト共ニ恰モ大地震當時ノ自警團ノ朝鮮人ニ対スル態度ト同様ナルモノアリ支那人ニシテ便衣隊ノ嫌疑ヲ以テ処刑（殺戮）セラレタルモノ既ニ数百ニ達セルモノノ如ク中ニハ外国人モ混入シ居リ将来ノ面倒ナル事態ヲ予想セシムル為ニ支那人外国人ハ恐怖状態ニアリ

三、支那軍隊（第十九路軍）ハ恰モ戰勝者ノ如キ宣伝ヲ為シ満州軍ノ無抵抗主義ニ憤慨セル廣東精神モ加ハリ戰意強ク一擧ニ無勢ナル陸戦隊ヲ擊滅スヘント称シ居リ漸ク停戦交渉及支那側有力者ノ斡旋ニ依リ極端ナル行動ヲ起ササルモノノ如シ右ノ状況ニテ一旦重大ナル衝突再発センカ我居留民ハ尼港事件再発スヘント為シ極端ナル恐怖

心ニ襲ハレ海軍側ヲ非難スルモノ等出テ冷静ヲ失フモノ多シ

外国人ハ日支衝突ノ結果延ヒテ租界ノ安否若ハ奪回セラレント迄ヲモ懸念シ日本側ニ対スル非難ハ益々昂マリ

ツツアリ支那人始メ一般ハ全然「パニック」ニ襲ハレ交

通ノ許サレタル昼間ハ東部租界内外居住者ハ家財ヲ持チテ旧英租界及仏租界ニ殺到シ上海未曾有ノ混亂状況ナリ

連盟、米、北平、奉天、漢口、天津、青島、濟南、蘇州、杭州、福州、廣東、南京、香港へ転電シ上海へ転報セリ

49 昭和7年2月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海の事態悪化にかんがみ至急陸軍派遣方に  
ついて

50 昭和7年2月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

第六二号  
貴電第三三号御来示ノ趣旨承認セリ右ニ閼シ當方面ノ状況ハ村井總領事電報ニ依リテ充分ニ御承知セラレ居ル事トハ信スルモ繰返シ左ノ通申進ス

一、貴電御来示ノ条件ニハ海軍司令官ニ異議無カリシモ中途ニシテ絶対反対ノ意ヲ表シ現在ノ守備区域ヲ後退スルコトハ海軍側ニテ峻拒シ居リ從テ總領事ハ今後支那軍隊ノ後退ノミヲ要求スルノ立場トナリ交渉ノ決裂ハ目前ニ迫リ居レリ貴電ノ如キ条件ニ当地海軍司令官ニテ異議無シトスルモ支那軍ノ後退ハ被弾着弾距離外ニ（例ヘバ十哩、十五哩）トセサルヘカラス現下ノ事態ニ於テ到底交渉ノ纏マル見込無シ又仮ニ一旦交渉纏マリタリトスルモ二十八日ノ場合ノ如ク直ニ再ヒ破裂ヲ見ル可シ右ハ現実ノ事態トシテ之ニ応スルノ方法ヲ取ラサレハ現ニ殆ト極端迄來リ居ル上海方面ノ事態ノ変化ハ寒心ニ堪エス

二、海軍側ハ大艦隊ヲ擁シ居ルモ飛行機ノ外ハ使用シ能ハス陸戦隊ハ艦隊本部ト意見往々異ナリ又青年將校等ノ血氣ニ逸ルモノアリ（二日午後無為ヲ憤慨シテ割腹セルモ）ノ出ツルモノアルヤモ計ラレス更ニ在留民ノ行動ヲ見ルニ極端論ノミ依然強ク無責任ナル言動ハ全部ヲ支配シ居ルト云フモ不可無シ右ハ二十八日支那側ト妥協成立セルニモ拘ハラス夜半ノ軍事行動ト化シタル主ナル原因ナリ

第六三号

二十八日支那側カ我總領事ノ要求条項全部ヲ承諾セルニ拘ラス我居留民ノ主ナルモノ（時局委員会）ハ之ニ対シ絶対反対シ千載一遇ノ機会ヲ失スト論スルモノアリ同委員会ノ籠城（日本人「クラブ」）ニ集リ居タル在郷軍人等ハ或ハ泣クモノアリ喧騒ヲ極メタル由ニテ總領事ニ対シテハ勿論

43 42

海軍側ヲモ批難スルモノアリ然ルニ其内海軍側ハ飽ク迄予

定ノ行動ヲ断行スヘシトノ消息伝ハリ俱楽部内ノ喧騒ハ変シテ万歳ノ声トナリタリ（以上ハ在留有力者ノ談）

海軍司令官カ二十八日午後支那側ノ回答ヲ得タル際總領事等ハ此上ハ斷然日本人側ヲ抑ニル方法アルノミトテ大ナル

意氣込ナリシモ右居留民等ノ態度等ニ鑑ミ方針ヲ換ヘタルカ其夜ニ至リ領事館ヲ通シ支那側（市政府）ニ対シ警備線ニ進出ヲ予告シ（右予告ハ十一時頃先方ニ到着）殆ト同時ニ進出ヲ開始シ直ニ衝突ヲ見タリ右海軍側ノ態度ノ変化ハ充分ニ判明セサルモ要スルニ日本全体ノ空氣ニ支配セラレ強硬論ヲ唱ヘ極端ニ昂奮シ來リタル居留民及部下ヲ抑ヘルノ方法ナカリシモノト認メラル

右ノ風潮ハ恐ラク今後モ最モ大ナル困難トナルヘシ

51 昭和7年2月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

事態打開のため中國側要人との意見交換について

上海 2月2日後発  
本省 2月2日後着

52 昭和7年2月2日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日本海軍行動開始以来の上海における恐怖状態について

上海 2月2日後発  
本省 2月2日後着

第六六号

上海全般ニ亘リテ二十九日日本海軍ノ行動以来極端ナル不安恐怖ニ襲ハレ居ルハ貴電合第三三四号英國政府ノ訓令ノ通ニシテ右不安ヲ除去スル為英米ハ増兵ヲ敢行シツツアリ実力少キ我陸戦隊カ何時圧迫セラルヤモ計ラレサル「ヘルプレス」ナル現状ノ下ニ便衣隊ノ背後活動等ニ依ル極端ナル暗黒状態ニ其日ヲ過スハ全然日本ノ責任ナリトノ意見一般外国人ニ急速ニ深マリツツアリ支那兵ノ撤退ハ事実容易ニ行ハレス且我ニ実力無キ限り撤退アルモ其ハ無意義ナルヘク此際ハ我方行動ノ結果ニ依リ（理屈ハ支那対日行為カ素ナルモ）右当地ニ於ケル列国人ノ租界ハ無論生命財産ノ現実ノ不安ヲ除去スル事ヲ何ヨリモ急務ト思考ス

第六四号

本使帰任後支那側ヨリ殷汝耕等連絡ヲ求メ来リタルカ更ニ黃郛、張群、張公權ヨリ内密会見シ度キ希望ヲ通シ来レルニ依リ一日午後会見、時局救済ニ付意見ヲ交換セリ

本使ハ差当リ支那側ヲ着弾距離外ニ後退セシムル外ニ名案無キヲ説キタルカ黃郛等ハ支那軍隊ノ意氣込甚タ強ク説得ノ困難ヲ感スル点ヲ説明シタリ他方當面ノ軍隊タル第十九路軍ハ廣東派ノ軍隊ニシテ今日トナリテハ寧ロ蔣介石ノ軍隊トハ言ヒ難ク又其ノ外陳友仁等廣東派ハ對外強硬ノ態度ヨリ上海ニ於テ青幫紅幫等ノ手ニ依リ便衣隊ヲ以テ我軍隊ノ後方攬乱ヲ試ミツツアリトノ情報モアリ（彼等ハ日本海軍ノ飛行機爆弾投下已マサレハ虹口方面ヲ灰ニスト称シ居ル由尚陳友仁等ハ對外宣伝ヲ指導シ居ル様子ナリ）果シテ黃郛等ノ努力ガ如何ナル程度ノ効果アリヤ頗ル疑問ナルモ

本使ハ一種ノ遷延策トシテ急迫セル事態ヲ一時ニテモ喰止ムル意味合ヲ以テ彼等ニ対シ事態ノ重大ナルヲ説キ支那軍隊ノ撤退ノ必要ナルヲ強調シ置キタリ

連盟、米、北平、奉天、廣東、南京、漢口、青島、濟南、香港、天津、福州ニ転電シ上海へ転報セリ

53 昭和7年2月2日 ※在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍艦南京砲撃に対し中國側より抗議申越しについて

上海 2月2日後発  
本省 2月3日前着

第六八号

南京発本使宛電報第一〇〇号

外交部ヨリ二日付貴官宛覚書ヲ以テ日本軍艦ハ一日午後十時頃突然大砲八発ヲ放チ獅子山、下関停車場、北極閣、清涼山、幕府山等ニ命中シ同時ニ機銃小銃ヲ放チ正午後中止セルカ支那側ハ衝突ヲ避ケル為反撃セサリン旨ヲ述ヘ抗議ヲ申越セリ

54 昭和7年2月2日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

居留民引揚用船舶至急手配方申請について

上海 2月2日後発  
本省 2月2日後着

第一九六号（暗、大至急）  
往電第一七八八号、第一九五号ニ関シ

当方準備ハ最近当地入港ノ予定船舶ヲモ計算ニ入れ置キタルモノナルカ之等船舶ハ時局ノ為当地ニ寄港セサル事トナルモノモアルヘク旁往電第一八八号以来五千名ノ外ニ更ニ

五千名ヲ収容シ得ル船舶ノ配船方大至急御手配相煩ハシ度シ

支ヘ転報セリ

ルモノモアルヘク旁往電第一八八号以来五千名ノ外ニ更ニ  
(三六文書)

五千名ヲ収容シ得ル船舶ノ配船方大至急御手配相煩ハシ度シ

支ヘ転報セリ

### 米國務長官に上海における事態收拾斡旋方申

し入れについて

第七七号（暗、大至急）

停戦問題ニ関スル米国政府ノ態度ハ往電第七六号本官国務長官会談ニテ略明瞭ト存スル處貴電合第三三〇号御訓令ノ次第アリ一日夕刻再ヒ長官ヲ訪問シ御訓令ノ次第ヲ篤ト申

入レタル處之ニ対シ長官ヨリ本件ハ何分米国一国ノミニテ取計ヒ難キ事柄ナルニ鑑ミ今朝來関係各國ト協議ヲ遂ケタ

ルカ何レモ何等カノ方法ニ依リ停戦ノ運ヒニ至ルコト必要ナルヲ痛感シ居レリ多分明二日中ニハ東京ニ於テ閣下ニ御返事ヲナシ得ルコトトナルヘシト答ヘタリ

55 昭和7年2月(2)日 在米国出淵大使より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海への軍艦および陸兵派遣に関する米国務

長官の談話について

第七五号

一日国務長官ハ新聞記者ニ対シ昨日「ホワイト、ハウス」

ヨリ公表セル艦隊及陸兵ノ上海派遣ハ専ラ上海及長江沿岸ニ於ケル米国人ノ生命財産保護ノ目的ニ出テタルモノニシテ何等他意ナシト声明セリ尚其ノ際同長官ハ上海ノ事態ハ依然「クリティカル」ナリト述ヘタル趣ナリ

英ヘ転電シ英ヨリ仏及寿府連盟ヘ転電セシム

56 昭和7年2月(2)日 在米国出淵大使より 芳沢外務大臣宛（電報）

連盟上海現状調査委員会に対する米国の協力

について

第七九号

一日国務長官ハ米国政府ハ連盟ノ上海現状調査委員会ニ直接参加セサルモ充分之ト協力スヘシト發表セリ

57 昭和7年2月(2)日 在米国出淵大使より 芳沢外務大臣宛（電報）

連盟上海現状調査委員会に対する米国の協力

について

一日国務長官ハ米国政府ハ連盟ノ上海現状調査委員会ニ直接参加セサルモ充分之ト協力スヘシト發表セリ

二月一日外務省極東局長ヲ往訪シ過日「サイモン」外相ヨリ我方ニ於テ執ラントセシ实行手段ニ付御尋アリ右ハ支那側ニ於テ我僧侶殺傷事件ニ対スル要求ヲ容レタル場合ノ措置ナリシモ支那側該要求ヲ容レタル処(ママ)右手段ニ訴フル必要ナキニ至リタル趣政府ヨリ回答アリタリトテ冒頭貴電(一)ノ通り述へ之ヲ外相ニ伝ヘンコトヲ依頼シ次テ其後右要求問題トハ別個ニ新ナル事態発生ノ為我陸戦隊ノ出動ヲ見タ香港及「バタヴィア」ヨリ軍艦各一隻ヲ上海ニ増派スル事ニ決定セリ、卅日在上海関係国代表者会談ニ於テ日支両軍間ニ中立地帯ヲ設ケ之ヲ第三国軍ニ依リ守備セシムヘシトノ提案アリ英國政府ハ日支両国ニ対シ右計画応諾方懸念中ナル」旨ノ「コンミニケ」ヲ発表セリ

卅一日首相以下関係省各大臣ハ上海事件ニ関シ緊急協議ヲ遂ケタル後同夜「政府ハ香港ヨリ歩兵大隊及歩兵中隊ヲ又香港及「バタヴィア」ヨリ軍艦各一隻ヲ上海ニ増派スル事ニ決定セリ、卅日在上海関係国代表者会談ニ於テ日支両軍間ニ中立地帯ヲ設ケ之ヲ第三国軍ニ依リ守備セシムヘシトノ提案アリ英國政府ハ日支両国ニ対シ右計画応諾方懸念中ナル」旨ノ「コンミニケ」ヲ発表セリ

米及連盟ニ転電セリ

59 昭和7年2月(2)日 在英國澤田臨時代理大使より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海の事態收拾に関し英外務当局と意見交換について

<sup>(1)</sup>第五〇号（暗）  
貴電第一九号ニ関シ

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ス此上日支軍衝突ヲ避クル手段ヲ講スルコト何ヨリモ急務ナリ之カ為ニハ租界付近ノ支那軍隊ヲ撤退セシメ後方ヨリ輸送中ナリト報セラル軍隊飛行機ノ前進ヲ阻止シ以テ我在留民ニ対シ脅威及挑発ノ原因ヲ除クコト必要ナリ昨日芳沢大臣カ「リンドレイ」大使ニ希望セラレタル処モ此点斡旋方ニ付英國政府ヨリ上海出先官憲ニ対シ必要ノ訓令ヲ發セラレンコトニアリト述ヘタルニ同局長ハ英國總領事ハ勿論其為シ得ル限ヲ尽シ居レリ支那軍隊ノ撤退ヲ求ムルニ対シテモ日本側モ現在ノ警備区域ヨリ租界内ニ撤退シテ多少讓歩セラルコトアラハ問題ヲ容易ナラシムヘント思考スト答ヘタルニ付本官ハ右御話ニ依レハ日本軍ノ強硬ナル態度カ難闇ナルカ如キ印象ヲ与ヘラル處自分ノ遺憾トスルハ今次ノ上海事件ノ発端ニ於テ「タイムズ」特派員カ日本海軍ハ其陸軍カ滿州ニ於テ行ヒタル処ヲ南方ニ於テ行ハントスルト報道シタルコトニシテ其後上海ノ状況特ニ我軍ノ行動ハ何レノ新聞ニモ右ノ観察点ヨリ報セラル傾アリ或ハ事実ヲ誇張シ又ハ事実無根ノ報道モアリテ例へハ吳淞砲台ハ二十九日未明我海軍占領シ其武装ヲ解除シタリトテ當国一般ニハ斯ク信シラレ居ルカ如キモ自分ハ今日迄何等ノ

- キ趣ヲ以テ貴地支店ニ照会中ナル由ニ付貴官ヨリモ必要ニ応シ貴地支店長ニ適當指示ヲ与ヘラレタシ  
支ニ転報アリタシ
- 61 昭和7年2月2日 芳沢外務大臣より  
米国出淵大使宛（電報）  
各国上海駐屯軍間における租界共同防備計画について  
合第三二七号（暗）
- 今次上海事件ニ際シ我カ陸戦隊カ受持区域ノ警備ニ就キタル事情ニ関スル上海総領事來電第一八三号要領左ノ通り工部局当局ノ希望ニ依リ昨夏ヨリ各駐屯軍指揮官間ニ於テ租界共同防備計画ニ付協議ヲ遂ケタル結果大体満足ナル草案ヲ得タルニ付各指揮官ヨリ本国政府ニ夫々請訓中ナリシ処偶々今回上海ノ状況不安トナレルニ付不取敢一月二十七日各指揮官及工部局代表者会合ノ上必要ノ際ニハ工部局ニ於テ戒嚴ヲ発令スルト共ニ右草案ニ依ル共同防備配置ニ就クコトヲ約定セルモノニテ右ハ工部局代表者モ同意セルモノナル趣ナリ

度カ難闇ナルカ如キ印象ヲ与ヘラル處自分ノ遺憾トスルハ今次ノ上海事件ノ発端ニ於テ「タイムズ」特派員カ日本海軍ハ其陸軍カ滿州ニ於テ行ヒタル処ヲ南方ニ於テ行ハントスルト報道シタルコトニシテ其後上海ノ状況特ニ我軍ノ行動ハ何レノ新聞ニモ右ノ観察点ヨリ報セラル傾アリ或ハ事実ヲ誇張シ又ハ事実無根ノ報道モアリテ例へハ吳淞砲台ハ二十九日未明我海軍占領シ其武装ヲ解除シタリトテ當国一般ニハ斯ク信シラレ居ルカ如キモ自分ハ今日迄何等ノ

ス此上日支軍衝突ヲ避クル手段ヲ講スルコト何ヨリモ急務ナリ之カ為ニハ租界付近ノ支那軍隊ヲ撤退セシメ後方ヨリ輸送中ナリト報セラル軍隊飛行機ノ前進ヲ阻止シ以テ我在留民ニ対シ脅威及挑発ノ原因ヲ除クコト必要ナリ昨日芳沢大臣カ「リンドレイ」大使ニ希望セラレタル処モ此点斡旋方ニ付英國政府ヨリ上海出先官憲ニ対シ必要ノ訓令ヲ發セラレンコトニアリト述ヘタルニ同局長ハ英國總領事ハ勿論其為シ得ル限ヲ尽シ居レリ支那軍隊ノ撤退ヲ求ムルニ対シテモ日本側モ現在ノ警備区域ヨリ租界内ニ撤退シテ多少讓歩セラルコトアラハ問題ヲ容易ナラシムヘント思考スト答ヘタルニ付本官ハ右御話ニ依レハ日本軍ノ強硬ナル態度カ難闇ナルカ如キ印象ヲ与ヘラル處自分ノ遺憾トスルハ今次ノ上海事件ノ発端ニ於テ「タイムズ」特派員カ日本海軍ハ其陸軍カ滿州ニ於テ行ヒタル処ヲ南方ニ於テ行ハントスルト報道シタルコトニシテ其後上海ノ状況特ニ我軍ノ行動ハ何レノ新聞ニモ右ノ観察点ヨリ報セラル傾アリ或ハ事実ヲ誇張シ又ハ事実無根ノ報道モアリテ例へハ吳淞砲台ハ二十九日未明我海軍占領シ其武装ヲ解除シタリトテ當国一般ニハ斯ク信シラレ居ルカ如キモ自分ハ今日迄何等ノ

- 60 昭和7年2月2日 芳沢外務大臣より  
在上海村井總領事宛（電報）  
居留民引揚のため日本郵船ヘ配船方手配について  
本省 2月2日後7時40分発  
第三〇号（暗）

上海在留民引揚用船配船方ノ件  
貴電第（三六文書）一八八号ニ関シ

不敢郵船本社ニ対シ貴地支店ト連絡ヲトリ至急配船手配方申聞ケ置キタルカ同社ニテハ上海航路船ノ長崎止リ折返シ運航及加賀丸ノ貴地回航等ニヨリ七日迄ニハ優ニ八千名ヲ輸送シ得ヘキモ尚必要ニ応シ目下馬尼刺停泊ノ大洋丸（收容數約五千、貴地着迄ノ所要日数約三日）ヲ差向クヘ

公報ニ接シ居ラス将又真茹無電台破壊ノ如キモ全然無根ニテ勿論英國政府トシテハ總テ正確ナル報道ニ接シ居ラルヘク從テ我軍ノ態度強硬ナリトスルモ多年支那ノ暴戾ナル反日態度ニ対シ特ニ現地ニアルモノノ憤激ハ其頂点ニ達シタル点正解アランコト切望スト述ヘ置キタリ  
米及松平大使ニ転電セリ

タリ

之ニ対シ本大臣ハ此ノ警告ハ非常ニ重大ナリ試ニ問ハシ米  
国政府電訓ニハ居留地保護ノ場合ノ外絶対ニ之ヲ使用スヘ  
カラストノ趣旨ヲ述ヘアル處同政府ハ日本居留民カ塵ニサ  
ルルモ防衛ノ為ニ居留地ヲ使用スヘカラストノ意向ナリヤ  
ト述ヘタルニ同大使ハ然ラハ居留地ノ外居留民ヲ入ルルモ  
可ナリト答ヘタリ

次ニ本大臣ハ日本ノ陸戦隊ハ他ノ分担区域ヲ使用スルコト  
ナシト承知シ居ルモ米国政府ノ電訓ニ他ノ分担区域ヲ使用  
セリトノ文句アルヲ以テ此ノ点ニツキテハ念ノ為海軍側ニ  
問合スコトスヘシ但シスル事實ナシト認メ居レリ（其ノ  
際同大使ハ日本軍ハ受持区域外即チ支那ノ土地ニ於ケル作  
戦要地ヲ占領シツツアリ且右占領ノ為居留地ヲ根拠トシツ  
ツアルト云ヘルニ付本大臣ハ日本ハ居留地ノ受持区域ヲ守  
ランカ為居留地外ニ多少進出シ支那軍ニ対抗シ居ルヘキ処  
因ヨリ右ハ居留地保護ノ為ニシテ之ヲ以テ居留地ヲ根拠ト  
シテ支那ト交戦シツツアリト云フハ日本ノ真意ヲ誤解セル  
モノナリト述ヘ置キタリ）元来米国政府ハ日本ノ陸戦隊ノ  
行動ニ対シ非常ナル批評ヲ加ヘナカラ支那軍隊ノ行動ニツ

キテハ何等批評セラレサル様ナル處日本陸戦隊ノ行動ハ支  
那人ノ挑戦ニ起因スルモノニシテ非難セラルヘキモノハ寧  
ロ支那側ナリト述ヘタルニ同大使ハ日本軍ノ行動ニ付テハ  
米国新聞等ニ於テ多大ノ疑惑ヲ抱キ居ルモノアリト云ヘル  
ニ付本大臣ハ強ク之ニ反駁ヲ加ヘタル後此処ニ一言セサル  
ヘカラサルハ最近上海ヨリ来ル報道ノ内ニハ無稽ノモノ尠  
サルコトナリ米国政府ニ於テモ信用スヘキ報道ト信用スヘ  
カラサル報道ト区別セラレントコトヲ希望スト述ヘタルニ  
米国大使ハ昨日上海ニ於ケル防備會議ノ際折角英國先任將  
校ヨリ実際のノ提案アリ日本以外ハ總テ之ニ賛成セルニ拘  
ラス日本司令官ノミ反対シタル為協定ニ至ラサリシ趣ナル  
カ日本司令官ノ態度ノ如クンハ戦争トナルノ虞アリト述ヘ  
タルニ付本大臣ヨリ戦争ハ政府ノ定ムルモノナリ而シテ日  
本ハ戦争トナラサル様地方的ニ解決シツツアリト告ケタル  
ニ然ラハ結構ナリト答ヘタリ

尚同大使ノ去ルニ臨ミ本大臣ハ如何ナル場合ニ於テモ日本  
軍隊ハ軍事的行動ヲ取ルヘカラスト云フ議論ニハ同意出来  
サル旨米国政府ニ電報アリタシト述ヘタルニ同大使ハ之ヲ  
了承セリ

本電宛先 寿府、米、英、支  
寿府ヨリ英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度  
支ヨリ上海、南京ニ転報アリ度  
奉天、北平、廣東ニ転電セリ

懇談セラレ結果回電アリタシ  
仏ヨリ参考トシテ伊、土ヲ除ク在欧各大使及寿府連盟ニ転  
電アリタシ  
支、北平ニ転電シ支ヲシテ上海ニ転報セシム  
(編注) 本電報は、仏國、イタリア國にも発電された。

63 昭和7年2月2日

芳沢外務大臣より  
在英國澤田臨時代理大使、在米國出  
淵大使他宛(電報)

上海の事態收拾斡旋方列国に要請について

合第三二〇号、暗、大至急

(四四文書)

往電合第二九七号ニ関シ

(四四文書)

当地ニ於テ貴任國代表者ニ対シ上海ノ事態ヲ述へ速ニ停戦  
及ヒ支那軍退却ニ至ル様尽力方依頼シ置キタル次第ハ往電  
合第二九八号ノ通ナルカ現下上海ノ形勢ハ如何ニモ重大ニ  
シテ若シ支那側カ停戦ヲ肯ンセサル場合ニハ勢ヒ我方トシ  
テハ居留民保護及共同租界防備ノ為陸兵ヲ出スノ余儀ナキ  
ニ至ルヘキ状況ナルニ付貴官ニ於テモ貴任國当局ニ対シ一  
月二十九日付(五文書)  
昭和七年2月2日午後五時五十分

動第一号

動員令

近衛師団ニ於テ無線電信小隊二、第三師団ニ於テ野戦重砲  
兵大隊一、野戦高射砲隊二、飛行中隊一、第九師団ニ於テ  
師団一、同留守部隊ノ応急動員及近衛師団ニ於テ飛行大隊  
一、第十二師団ニ於テ戦車中隊一、戦車隊(留守隊)一ノ  
動員ヲ命セラル動員第一日ハ二月三日ナリ

昭和七年2月2日午後五時五十分

陸軍大臣 荒木貞夫

外務大臣 芳沢謙吉殿

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

リ事件最近ノ経過及我方ノ立場ヲ然ルヘク説明ノ上貴任國  
政府ヨリ至急在上海同國官憲ニ対シ必要ノ訓令ヲ發スル様

## 上海における混乱状態急遽解決の必要について

て

付記 上海事件（外務省調書）

上海 2月3日前発  
本省 2月3日後着

## 第六九号

一、上海ニ於テハ孫科陳友仁（陳ハ上海外交部長ト謂ハル）等ノ広東派ノ宣伝激シク外国语ニ於テハ恰モ日本海軍カ上海付近ノ広大ナル支那領土ヲ占領シ居ルカ如ク信シ居ル模様ナルモ事実ハ勢力僅少（約四千）ナル海軍陸戦隊カ平時ノ駐屯ニ依リ租界道路（租界外拡張区域）ヲ守ル為其ノ両側数百米ヲ隔テテ防禦線ヲ構築シ右カ強大ナル支那軍ヨリ絶エス脅威セラレ夜ニ入りテ（休戦ヲ顧ミス）小銃及野砲等ノ射撃ヲ受ケ（我方ヨリ応射シ居リ）居ル状況ナリ目下ノ問題ハ右守備区域カ此ノ儘保持出来ルヤ否ヤノ問題ニシテ支那側ノ新ナル攻撃アル場合（広東軍ハ戰勝ヲ報シ大イニ氣勢ヲ挙ケ居レリ）ハ右守備區域ノミナラス租界其ノモノノ安否気遣ハレ一般ノ「パニ

三、歐米ニ於テハ支那ノ宣伝モアリ恰モ日本カ上海占領ヲ企テ居ルカ如ク考ヘ居ルモノアルヘキモ当地ニ於テハ外国人一般間ニハ日本ノ「ヘルプレス」ノ状況ニ対シ甚シク不満輕侮ノ感情時局ト共ニ昂マリ現時ノ如キ上海混亂状態ヲ惹起シタル日本ハ之レカ処理ニ対シ無能力ナルニ依リ自ラ協力シテ（英米仏伊）一種ノ事態ヲ日支ニ強制スルノ外ナシトノ説多キニ至レリ

四、今日ノ事態ニ於テハ日本ノ獨力ニ依リ混亂状態ヲ回復スルコトカ總テノ先決問題ニシテ我方ニ於テ其ノ能力及意思ナク外国语ノ斡旋等ニ放任スルニ於テハ支那人ニ対スルノ外ナシトノ説多キニ至レリ

## 第一節 日蓮宗徒ニ対スル暴行事件

## 一、事件ノ発端

## 二、在上海帝国總領事ノ措置

三、市政府ノ陳謝ト犯人ノ検挙

四、解決条件ニ関スル村井總領事ノ請訓（抗日会解散要求方ニ関スル件）

## 五、本省ノ回訓

第二節 居留民ノ感情激発ト帝国政府ノ方針（第一回軍艦増派）

## 六、青年同志会ノ復讐暴行事件（三友社事件）

## 七、居留民大会ノ開催ト散会後ノ暴行事件（北四川路事件）

## 八、抗日会解散方要求ノ提出ト吳市長ノ応酬

## 九、第一遣外艦隊司令官ノ声明

## 十、上海事件解決ニ関スル帝國政府ノ方針ト軍艦ノ派遣

## 十一、三友社事件ニ対スル上海市長ノ抗議

## 十三、支那官民ノ態度

## 十四、我居留民ノ態度緩和、總領事ノ声明及紛糾同業者ノロツク

## （付記）

## 上海事件（外務省調書）

（編注）上海事変勃発前後の外務省記録は相当部分が焼失し編纂上不備の点が多いので、参考のため当時作成された調書を付記する。

上海事件

日 次

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

- 十六、北四川路事件ニ対スル支那側ノ抗議
- 十七、民国日報社ノ捏造記事ト陸戦隊ノ抗議
- 十八、公使官邸ニ対スル放火及我總領事館ニ対スル投弾
- 第三節 解決交渉
- 十九、支那側ノ回答猶予申出ト村井總領事ノ応酬並会見顛末ノ発表
- 二十、工部局ノ民国日報社閉鎖並ニ抗日会本部閉鎖決定
- 二十一、村井總領事ノ期限付回答督促
- 二十二、海軍ノ声明ト第二回軍艦増派
- 二十三、支那側ノ条件承諾
- 第四節 日支衝突ノ経緯
- 二十四、支那側ノ軍隊集中
- 二十五、工部局ノ戒厳施行ト列国共同警備計画
- 二十六、帝国海軍ノ配備ト日支衝突
- 二十七、總領事ノ措置、支那側ノ抗議文提出
- 二十八、村井總領事、帝国海軍及帝国政府ノ声明
- 第五節 停戦ニ関スル交渉
- 二十九、吳市長ノ依頼ニ基ク英米兩總領事ノ停戦斡旋
- 三十、支那側ノ再度ノ違約、英支衝突
- 三十一、停戦協議
- 二、在上海帝国總領事ノ措置
- 在上海村井總領事ハ翌一月十九日前市政府ニ渝秘書長ヲ往訪シ（市長吳鉄城ハ孫科ト共ニ杭州ニ赴キ不在）事態ノ重大性ヲ告ヶ本件ノ解決条件ニ就テ追テ何分ノ儀申入ルヘキモ不取敢加害者ノ檢挙取調ニ全力ヲ尽サレ事態ヲ拡大セシメサル事ノ必要ナル事ヲ説示シタルニ渝秘書長ハ事件ニ関スル詳細ナル報告未接到ナル為発端ノ曲否何レニアルヤ不明瞭ナルモ中國領域ニテ中國人カ日本人ニ傷害ヲ与ヘタル事ニ付テハ市政府トシテ責ヲ負フヘキ筋合ナルニ付誠意ヲ以テ責ニ任スル積リニテ加害者ノ搜查逮捕及日本人ノ保護方ニ付テハ御要求ヲ待ツ迄モ無ク既ニ必要ナル命令發出済ナリト述ヘタルニ渝秘書長ハ之ヲ即座ニ心諾シタリ明スル事必要ナリト述ヘタルニ渝秘書長ハ之ヲ即座ニ心諾シタリ迅速解決ヲ計ル為市政府側ニ於テ本官ニ対シ陳謝ノ意ヲ速ニ表明
- 三、市政府ノ陳謝及犯人ノ検挙

- 三十二、領事團誘導方訓令
- 三十三、敵対行動停止方南京政府へ申入レノ件
- 三十四、支那側ノ第三次違反及停戦条件ニ関スル帝国政府ノ回訓
- 三十五、形勢ノ逼迫ト租界内引揚ニ関スル請訓及帝国政府ノ回訓
- 三十六、停戦交渉ノ成行
- 三十七、南京及吳淞ニ於ケル我海軍ノ行動
- 第七節 上海ニ於ケル英米總領事ノ抗議各國軍増派ノ状況
- 三十八、我軍ノ警備ニ関スル各国ノ抗議
- 三十九、各国軍ノ増派ノ状況
- 第一節 日蓮僧侶ニ対スル暴行事件
- 一、事件ノ発端
- 昭和七年一月十八日午後上海日蓮宗妙法寺ノ僧侶天崎啓昇（二十一歳）水上秀雄（三十二歳）及其ノ信徒藤芳平（四十三歳）黒岩浅次郎（三十八歳）藤村国吉（三十八歳）ノ五名ハ寒行ノ為团扇太鼓ヲ打鳴ラシソツ市中ヲ練リ歩キ共同租界東部ノ街外レニ在ル東華紡績工場付近ヨリ寺ヘノ近道ノ為支那ノ道路ニ差シ掛ルヤ午後四時頃其付近ニ在ル支那人經營三友（タオル）工場ノ職工五十名許リヨリ何等理由無キニ急ニ打掛け引捕ヘラレテ棒切、石塊様ノモノニテ殴打セラレ黒岩藤村ノ両名ハ軽
- 四、日蓮事件解決ニ関スル村井總領事ノ稟請
- 村井總領事ハ毎日運動取締方ニ関シ予而強硬手段ノ必要ヲ痛感スル處アリ客年十月六日付電報ヲ以テ其ノ旨稟申ノ次第アリタルカ民国日報ノ不敬事件（別記不敬事件ニ関スル調書参照）ニ次キ本件邦人被害事件ノ勃発スルニ及ヒ之カ根本原因ハ結局抗日会カ所有非法手段ニ依リ支那民衆ノ對日感情激発ニ努メ來レル結果ナリトシ從ツテ本件解決ニ付テハ当局者ノ陳謝、加害者ノ処罰及被害者ニ対スル慰問金ノ外之カ原因タル抗日会ノ解散ヲ期限付ニテ要求シ若シ期限内ニ実行ヲ見サル時ハ我方ニ於テ必要ト認ムル自衛行為ニ出ツルノ要アル旨稟申シ越セリ（二十日付電報）
- 五、本省ノ回訓
- 右村井總領事ノ電稟ニ対シ本省ニ於テハ同二十日付ヲ以テ(1)市

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

政府ニ対シ当局ノ陳謝、加害者ノ処罰、被害者ニ対スル慰藉並期限ヲ付スルコトハ各方面ニ対スル関係上深重ノ考慮ヲ要スルノミナラス其ノ聽力レサル場合ニ執ルヘキ手段ニ閑シテモ慎重考究セサル可ラサル所ナルヲ以テ期限ノ点ハ明示セサルコト及(ロ)此ノ際我居留民側ニテ暴行ヲ為スハ折角有利ナル我立場ヲ覆シ交渉ヲ不利ニ導キ却ツテ支那側ノ術中ニ陥リ対外的反響モ頗ル憂慮セラル次第ナルニツキ嚴ニ輕舉ヲ戒ムヘキ旨嚴重諭示方訓令セリ

### 第二節 居留民ノ感情激発ト軍艦ノ第一回増派並上海事件 解決ニ関スル帝国政府ノ方針

上海ニ於ケル排日運動ハ滿州事件發生以来特ニ執拗ニ行ハレタル所民國日報社ノ桜田門外不敬事件ニ閑スル不敬記事事件ニ次グニ前記僧侶ニ対スル暴行事件發生スルニ及ビ之迄隱忍ニ隱忍ヲ重ネタル居留民ノ感情一時ニ激発シ其結果下記三友社襲撃事件及北四川路暴行事件ノ發生ヲ見我政府ノ強硬方針ヲ知ルニ及ビ漸ク鎮靜セリ其ノ次第左ノ如シ

#### 六、青年同志会ノ復讐暴行事件（三友社事件）

即チ本件ニツキ憤慨セル青年同志会員三十名ハ復讐ノ為メ一月二十日前三時三友タオル公司ニ放火シ同公司ハ工場ノ一部ヲ

燒キ鎮火セリ而シテ其ノ際宿舎内ニ在リタル工人等ハ社内ニ怖ケ込み逃出シモセサリシ為支那人トノ衝突ハ無カリシカ同志ノ者放火後喊声ヲ挙ケ租界内ニ引揚ケ東華紡付近ノ華德路上ニ差懸リタル際巡邏ノ工部局支那人巡捕二名ニ誰何サレタルモ直ニ之ヲ圧倒シテ警笛ヲ吹キソシ逃タル両巡捕ヲ追フテ派出所ニ到リ同所ヲ襲ヒ巡捕三名（全部）ヲ負傷セシメ電話機等ヲ破壊シ引返シテ臨青路ニ入ルヤ警笛ヲ聞キ付ケ馳セ付ケ來レル巡捕二名ニ出会シ茲ニ乱闘ヲ演出シ巡捕一名ヲ即死セシメ他ノ一名ニ瀕死ノ重傷ヲ負ハシメ（日本刀ニテ斬リタリト言フ）邦人側亦一名（柳瀬松十郎）工部局巡捕ニ射殺セラレ二名（北辻卓二及森正信）ノ重輕傷者ヲ出セリ

#### 七、居留民大会ノ開催ト散会後ノ暴行事件（北四川路事件）

一方居留民ハ二十日日本人俱樂部ニ於テ居留民大会ヲ開キ「不敬事件ニ次クニ邦人傷害事件ヲ以テシニヤ抗日暴状其極ニ達ス帝國政府ハ最後ノ腹ヲ決メ直ニ陸海軍ヲ派遣シ自衛權ヲ發動シテ抗日運動ノ絶滅ヲ期スヘン」トノ決議ヲ為シタルカ閉会間際ニ至リ實行委員賴ムニ足ラサルニ付吾人ハ之ヨリ總領事館ニ至リ總領事ヨリ右決議寒行方ニ閑スル確答ヲ求ムヘントノ緊急動議ヲ為シタルモノアリ閉会後会衆三四百隊伍ヲ組ミテ總領事館ニ押寄セ来リ實行委員ヨリ提出セル前記決議ニ対スル總領事ノ

即答ヲ求メタルヲ以テ總領事ハ右趣旨ニハ贊成ナルニ付出来ル

事ハ実行スヘキ旨答ヘタル處会衆ノ大多数ハ満足ノ意ヲ表シ万歳三唱後陸戰隊本部ニ向ヘリ

依ツテ租界工部局及總領事館警察官ヲ一行（約二三百名）ノ先頭其他ニ配セシメ進行中ニ鞭子路付近ニ差掛ルヤ支那人二階ヨリ一行ニ対シ銅幣ヲ投ケタル者アリシヤニテ激昂セル數名ノ邦人ハ警官並警戒中ノ陸戰隊兵士ノ制止ヲモ聽カス同商店ニ闖入シ階上階下ノ窓硝子其ノ他ヲ破壊スル等手ノ付ケラレサルモノアリ更ニ北四川路筋ノ支那人商店數軒ノ「ショーウインドー」並電車及「バス」ニモ投石損傷セシメ又工部局外人巡查トモ衝突シテ同巡查及支那人巡捕二名ヲ殴打重傷セシメ（入院シタル由）陸戰隊本部ニ於テ鮫島指揮官ニ會見陳情ヲ遂ケタルカ其ノ後トモ大分ノ者ハ退散セス更ニ日本人俱樂部ニ引返シ協議スル所アリ七時頃漸ク退散セリ

#### 八、抗議文ノ提出ト吳市長ノ応酬

一月二十一日前村井總領事ハ吳市長ヲ往訪シ左記四項ノ要求ヲ記載セル公文ヲ提出セリ

一、市長ハ總領事ニ対シ陳謝ノ意ヲ表スルコト

二、加害者ノ搜查逮捕处罚ヲ遲滞ナク切実ニ実行スルコト

三、被害者五名ニ対シ治療費及慰藉料ヲ提供スルコト（金額

右ト同時ニ塩沢第一遣外艦隊司令官ハ二十一日付ヲ以テ「本職ハ上海市長ニ帝國總領事ノ提出セル抗日會員日本僧侶暴行事件ノ要求ヲ容レ速ニ満足ナル回答並其履行ヲ要望スルト共ニ在留官民有力者ヨリ成ル時局委員会ニ之ヲ披露セリ



## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ヲ負ハサル可ラサルコト当然ナルヲ以テ上海市長申出ノ各項ハ

容認ノ限ニ在ラストノ趣旨ニテ応酬スヘキ旨訓令セリ（尚村井

総領事ニ於テハ之ヨリ曩呉市長ト会見ノ際（第八項参照）本件

ノ發生ヲ遺憾トスルト共ニ日本人ニ罪アラハ犯人ハ法ニ依リ處

分スヘキ旨挨拶セル趣ナリシニ依リ右回答中ニハ特ニ之等挨拶

ヲ引用セサル様併セテ訓令セリ）

### 十三、支那官民ノ態度

三友社襲撃事件ニ對スル上海市長抗議ノ次第ハ前述ノ通リナル

處一方支那側官民ノ態度ヲ見ルニ

（一）上海市各界抗日救国会ハ二十二日緊急執行委員会ヲ開催シ（イ）

抗日会ノ宣言トシテ上海各界ノ市民ハ國家存亡ノ危機ニ直面

シ一大決心ヲ以テ正当防衛ヲ計ルト共ニ一面經濟絶交ノ徹底

ヲ期シ彼ノ死命ヲ制セントス云々ノ發表ヲナシ（ロ）国民政府ニ

対シ直ニ對日絶交ヲ宣布アリタキ旨電請シ（ハ）市長吳鉄城ニ對

シ日本側要求ヲ峻拒スヘキ旨申入レ（乙）各界ニ對シ正当ノ自衛

手段ヲ執ルヘキ旨警告シ（ホ）代表ヲ派シ三友實業社工人及同地

市民ヲ慰問スルコト等ヲ可決シ

（二）抗日会ノ反対宣言ニ引続キ市党部ハ抗日運動ハ日本ノ不法侵

害ニ對スル全国民衆ノ一致セル消極抵抗策ニシテ中国唯一ノ

活路ナルニ付何人ノ干涉モ許サス如何ナル状勢ニ於テモ決死

（三）日本側要求ヲ峻拒スヘキ旨申入レ（乙）各界ニ對シ正当ノ自衛

手段ヲ執ルヘキ旨警告シ（ホ）代表ヲ派シ三友實業社工人及同地

市民ヲ慰問スルコト等ヲ可決シ

（四）抗日会ノ反対宣言ニ引続キ市党部ハ抗日運動ハ日本ノ不法侵

害ニ對スル全国民衆ノ一致セル消極抵抗策ニシテ中国唯一ノ

活路ナルニ付何人ノ干涉モ許サス如何ナル状勢ニ於テモ決死

（五）日本側要求ヲ峻拒スヘキ旨申入レ（乙）各界ニ對シ正当ノ自衛

手段ヲ執ルヘキ旨警告シ（ホ）代表ヲ派シ三友實業社工人及同地

市民ヲ慰問スルコト等ヲ可決シ

（六）抗日会ノ反対宣言ニ引続キ市党部ハ抗日運動ハ日本ノ不法侵

害ニ對スル全国民衆ノ一致セル消極抵抗策ニシテ中国唯一ノ

活路ナルニ付何人ノ干涉モ許サス如何ナル状勢ニ於テモ決死

（七）日本側要求ヲ峻拒スヘキ旨申入レ（乙）各界ニ對シ正当ノ自衛

手段ヲ執ルヘキ旨警告シ（ホ）代表ヲ派シ三友實業社工人及同地

市民ヲ慰問スルコト等ヲ可決シ

（八）抗日会ノ反対宣言ニ引続キ市党部ハ抗日運動ハ日本ノ不法侵

害ニ對スル全国民衆ノ一致セル消極抵抗策ニシテ中国唯一ノ

活路ナルニ付何人ノ干涉モ許サス如何ナル状勢ニ於テモ決死

（九）日本側要求ヲ峻拒スヘキ旨申入レ（乙）各界ニ對シ正当ノ自衛

手段ヲ執ルヘキ旨警告シ（ホ）代表ヲ派シ三友實業社工人及同地

市民ヲ慰問スルコト等ヲ可決シ

（十）抗日会ノ反対宣言ニ引続キ市党部ハ抗日運動ハ日本ノ不法侵

害ニ對スル全国民衆ノ一致セル消極抵抗策ニシテ中国唯一ノ

活路ナルニ付何人ノ干涉モ許サス如何ナル状勢ニ於テモ決死

トニ決議セラレ二十三日午後二時實施サレタルカ無事終了セリ  
在留邦人態度ノ緩和前述ノ通リナルカ紡績同業会ハ事態ニ依リ  
「ロックアウト」ヲ敢行スルコトニ決シ二十四日吳市長ニ對シ  
工場閉鎖ハ今ヤ万已ムヲ得サルニ至レルカ之ニ依リ生スル責任  
ハ支那官憲ノ負フヘキモノナリト警告シ且即刻排日排貨ノ諸團  
体ヲ解散セシメ經濟常道ノ復旧方ヲ要望スル處アリタリ右ハ主  
トシテ我方抗議ヲ側面ヨリ支持スル趣旨ニ出テタルモノノ由

### 十五、工部局ノ態度

#### （イ）加害邦人ニ対スル処置

之ヨリ曩邦人暴行事件ノ發生ヲ見ルヤ村井總領事ハ不取敢市

參事會議長マクノレーデンヲ往訪シ事態ヲ説明シ鄭重遺憾ノ意

ヲ表シタルカ其際村井總領事ハ加害者側ニ之等支那人巡捕ニ

対シ加害ノ意思アリタル次第ニ非サルコトハ断言シテ憚ラサ

キ旨申入レタルニ「マ」ハ事態ヲ良ク諒解シ我方ノ誠意ヲ諒

ル所ナルカ殉職警察官ニ對シ何等慰藉ノ方法モアラハ出来得

ル限りノコトハ致スヘキニ付御考ノ上「サジエスト」アリタ

キ旨申入レタルニ「マ」ハ事態ヲ良ク諒解シ我方ノ誠意ヲ諒

トシ同日夕刻ノ市參事會席上ニ於テ本事件報告ノ際日本總領

事ヨリ鄭重ナル挨拶アリタルコトヲ披露シタルニ外人市參事

（即死者）北辻卓二及森正信（負傷者）ノ三名ヲ加害者トシ

奮闘目的貫徹迄誓テ停止セサル旨宣言ヲ發表シ

（三）工業連合会ハ日本人ノ暴戾凶残究リナシ政府ハ速ニ本次事件ニ  
関シ處罰賠償陳謝及将来ノ保障ヲ要求セラレタク本会ハ所屬  
工人全体ヲ率ヒ誓テ政府ノ後楯トナルヘシト宣言シ

四川四路商人連合会ハ緊急會議ノ結果

（イ）租界及支那街當局ニ防衛力充実方稟申ス

（ロ）市政府ハ被害商店ノ損害賠償処罰及謝罪方日本側ニ要求ス  
ヘク右目的達成セサレハ市政府ニ對シ一切ノ税金納付ヲ停  
止スヘシ

（ハ）各商店ハ自衛団ヲ組織シ警笛及棍棒等ノ武器ヲ備ヘ又一挺  
宛拳銃購入許可方工部局ニ稟請ス

（二）日本陸戰隊ノ撤退方要求ス

等ノ決議ヲナシ代表ヲ派シテ市政府及工部局ニ夫々要求スル  
處アリタリ

十四、我居留民ノ態度緩和、總領事ノ声明及紡績同業者ノロック  
アウト警告

支那官民ノ態度前記ノ通リナル處我居留民側ニ於テハ其後一遣  
司令官ヨリ前掲声明書ノ発表アリ（第九項参照）加フルニ電通連  
合ニ依リ外務省ノ期限付通牒發出方針決定軍艦ノ増派並佐世保  
ニ於ケル巡洋艦驅逐隊十八隻ノ待機等報道セラレタルト總領事

## 事項 1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

テ告発シ敢テ他ヲ追及セス本件工部局警官トノ衝突事件ハ何レモ單ナル警察事項トシテ处置セルモノト認メラル

### (甲) 我方ノ執ルコトアルヘキ措置ニ対スル態度

一方我方ニ於テ執ルコトアルヘキ強力措置ニ関シテハ工部局側ニ於テハ右措置カ租界内ニ行ハルルコトアルヘキヲ憂慮シ「マクノーデン」及「フェッセンデン」(事務総長)ヨリ總領事及司令官ニ対シ質問アリタルヲ以テ若シ何等措置ヲ執ル必

要アラハ予メ租界側ト相談スヘキ旨回答シタルニ安堵セルモノノ如シ(因ニ抗日会本部ノ手入ニ付テハ右ハ租界内ニ在ル

モ土地章程ニ依リ租界警察ノ權力行ハレサル次第ナル処租界ノ中心地ニ於テ排外運動公然行ハレ商人監禁等不法行為ノ行

ハレ居ルハ租界警察ノ威嚴保持上苦痛トスル所ナルヲ以テ工部局トシテハ從来及今回ノ排日運動ニ際シ領事団ノ「サップート」アラハ之カ手入ヲ為シタキ意向ヲ有セシカ領事団側殊ニ英國側カ自重論ヲ執レル為其ノ儘トナリタル關係モアリ日本側カ實力ヲ以テ之カ手入ヲ行フコトヲ歓迎ノ意向ヲ洩ラシ居ル趣ナリ(括弧内發表差控)

### 十六、北四川路事件ニ対スル支那側ノ抗議

其ノ間市政府ヨリ二十三日付公文ヲ以テ北四川路事件ノ概要ヲ叙シ當時中國民衆ノ憤激甚シカリシモ公安局警察力ニ依リ極力

諫阻シ事ナキヲ得タル次第ナルカ日本居留民ノ此種不法行為取締方ニ関シテハ予テヨリ要求シ居ル所ニモ拘ハラス日本人カ今回又故意ニ事ヲ起サントセルハ民心激昂シ居ル際如何ナル誤解ヲ発生スルニ至ルヘキヤモ知レス若シスカルコトアランカ其責任ノ帰属ハ自ラ明カナルヘシ依テ茲ニ抗議ヲ提議スルニ付貴官ニ於テ事件関係人ヲ速ニ取調ノ上処罰シ又今後厳重取締アリタ各商店ノ損害ハ判明次第賠償ヲ要求スヘキ旨申越シタリ

右ハ事件発生ノ場所カ「エキステンション」ナルト被害者カ支那商ナル關係ヨリ申出テ來レルモノト認メラルル處之ニ對シテハ總領事ニ於テ事件発生カ支那商民ノ侮日行為ニ基ク所以ヲ指摘シ責ハ却テ支那側ニ在ルコトヲ挙ケ然ルヘク回答セリ

### 十七、民国日報社ノ捏造記事ト陸戦隊側ノ抗議

二十一日ノ当地民国日報ハ青年同志会員ノ三友實業社襲撃事件ニ関シ大見出ニテ「右襲撃ハ陸戦隊援護ノ下ニ行ハレタリ」トノ捏造記事ヲ掲載セルカ陸戦隊側ニ於テハ右ハ同隊ヲ侮辱スルノミナラス帝国軍人ノ威信ニ係ハル問題ナリト重要視シ轟ノ不敬事件モアリ二十二日午前十時工部局ニ通報ノ上將校ヲ直接民國日報社ニ派シ

一、主筆ヲ陸戦隊ニ出頭陳謝スルコト  
二、二十三日ノ紙上ニ陳謝文ヲ掲載スルコト

### 十八、公使官邸ニ対スル放火及総領事館ニ対スル投弾

二十四日午後七時公使官邸食堂ノ庭ニ面セル鎧戸二個所ニ石油ヲ注ギタル支那蒲團ヲ寄せ掛け放火ヲ企テタル者アリタルカ當総領事館配置ノ警察官逸早ク発見消止メタリ現場付近ニ国民自動抗日救国決死隊員郭沫武及同張南生ト記名シ同隊ノ印ヲ捺シタル布切ヲ付セル上衣ニ着及拳銃一挺アリ裏門ニ日本人ヲ膺懲スル為直接行動ニ出ツル趣旨ヲ認メ同隊名ヲ付シ捺印セルニ尺平方大ノ支那文貼紙アリタリ又犯人ハ裏門近ク隣家ノ埠ヲ乗越ヘ入りタル形跡アリタルカ本件ハ地方的問題トシテ取扱ヒ詫拠等調ヒタル上総領事ヨリ適宜抗議方取計フ予定ナリキ

### 十九、支那側ノ回答猶予申出ト村井総領事ノ応酬

第三節 解決交渉

#### 謝ノ点ハ応シ難キ旨述ヘタルカ其後民国日報ハ訂正記事ヲ掲載セルモ陳

リ閉鎖サルルニ至レル次第ハ第二十項記載ノ如シ

子ノ裏ニハ公使邸ノ放火ノ現場付近ニ遺棄シアリタルト同様ノ党員章縫針ニテ止メアリ又爆弾ノ表皮ハ亜鉛板ナリシカ如ク自製ノ不完全ナルモノト認メラレタリ

#### 二十、支那側ノ回答猶予申出ト村井総領事ノ応酬

二十四日朝市政府諭秘書村井總領事ヲ來訪シ支那側回答ヲ金曜日迄延期スルコト(右申出ハ恐らく新聞紙等ニ依リ我方カ期限付)要求ヲ為スヘシトノ報道伝ヘラレタル為ナルヘシ並我方ノ解散ヲ要求スル抗日団体ノ範囲ニツキ我方ノ内意ヲ伺ヒタルヲ

以テ村井總領事ヨリ可然應酬スル処アリシカ翌二十五日午後村井總領事ハ吳市長ヲ往訪シ我方提出要求ニ対スル回答ヲ督促シ

タル處市長ハ我方条件全部ニ対シ円満ナル回答ヲ為スタメ折角

尽力中ナルカ第四項ハ關係スル処尠カラス市長トシテ就任以来

日浅キ際ナルニモ顧ミ円満ナル回答ヲスル為ニ藉スニ少シク時

日ヲ以テセラレソコトヲ希望シ来ル土曜日(三十日)迄待タレ

度シト申出テタルニ付總領事ハ不法ナル抗日運動ノ發生ハ今日ニ始マリタルニ非ス我方ハ既ニ數ヶ月休ヘ来レル末ノ事ニテ形

勢逼迫ノ際土曜日迄待ソト云フカ如キ事ハ到底約束スルコト能ハサルモ市長ニ於テ折角苦心シ居ラル点ハ諒察スルニ付事情

ノ許ス限り御希望ニ副フ様努力シ此ノ上待ツ能ハスト云フ事件上ニハ鳥打帽子一個ト爆弾ノ破片四散シ居リ他ニ被害ナク右脚

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

生シタル際ハ予メ御注意スヘキニ付一日モ速ニ円満ナル回答ヲ  
要求スル旨ヲ述ヘ尚抗日運動ハ過去五ヶ月ニ亘リ行ハ居ルニ  
鑑ミ我方ハ既ニ何時ニテモ自衛手段ヲ執リ差支無キ次第ナレハ  
将来モ何時其措置ニ出ツルヤモ計ラレサルニ付右嚴重警告スト  
述ヘ

尚説明ノ為第四項排日運動取締ノ具体的内容ノ主ナル例トシテ

左記文書ヲ手交セリ

(一)各種抗日団体ニ対シ解散命令ヲ發シ之ヲ中外新聞ニ相当期間

廣告スルコト

(二)市商会ヲ始メトシ各種同業公会ノ對日經濟絶交決議ヲ取消サ

シメ之ヲ中外新聞紙上ニ相当期間廣告スルコト

(三)封存日貨及押収日貨ヲ即時解放シ各所有者ニ返還セシムルコ

ト

四)抗日運動ノ違反者トシテ拘禁中ノモノヲ即時解放セシムルコ

ト

(五)市商会ヨリ当地各外国人商業會議所其他ニ対シ客年十月二十

日付ヲ以テ通知セル通告書ヲ取消サンシムルコト

(六)新聞紙、雑誌其他印刷物ノ抗日煽動記事ヲ嚴重取締ルコト

尚村井總領事ハ右會見ノ顛末ヲ左ノ通り發表セリ

『二十五日午後村井總領事吳市長ヲ往訪シ日蓮宗僧侶遭難事件

### 二十一、村井總領事ノ期限付通告

ナリ

吳市長トノ會見及工部局ノ調停乗出ノ状況前述ノ通ニシテ時局  
ノ推移明瞭ナラサル為メ村井總領事ハ差シ向キノ腹案トシテ二  
十七日中ニ市長ニ対シ二十八日午後十二時ヲ限り最後ノ回答督  
促ヲナシ若シ夫レ迄ニ回答ニ接セサルカ若クハ拒絕ニ会フ時ハ  
事後直チニ海軍側ノ行動（不取敢支那ノ抗日諸団体事務所ヲ強  
力閉鎖ス）ヲ開始スルコト致度旨並右督促ハ口頭ニ依ル單ナ  
ル督促ノ形式ニテモ差支ナカルヘシト思考スルモ若シ最後通牒  
ノ形ヲ可トスルニ於テハ折返シ電示アリ度ク又二十八日迄ニ支  
那側ヨリ回答來リタル時ハ其ノ内容ニ依リ改メテ請訓スヘキ旨  
二十六日電報シ越セリ

### 二十二、海軍ノ声明ト軍艦ノ増派

上海ニ於ケル吳市長トノ交渉前述ノ通リナルト一方上海四團ノ

情況日增ニ紛糾悪化シ租界外ハ戒厳ヲ布キ支那兵邦人居住地ニ

近キ各所ニ戰闘施設ヲ為シ対抗準備ヲ行フニ至リ危險刻々迫

レル為メ海軍ニ於テハ二十六日更ニ水雷戰隊ヲ增派セルカ（二

十七日着）右ニ閏シ二十七日當局談ノ形式ヲ以テ左ノ通り声明

セリ

右ニ対シ本省ニテハ諸般ノ情勢上「タイムリミット」ヲ付スル  
コト無ク單ニ口頭ヲ以テ両日中ニ満足ナル回答ヲ為スヘキ旨敵  
重督促スルコトヲ切望スルモ現場ノ状勢上「タイムリミット」  
ヲ付スルコト是非必要ナルニ於テハ右様取計フモ已ムヲ得サル

ヘキ旨二十七日回訓セリ然ルニ同日愈秘書殷汝耕同伴非公式ニ

總領事ヲ來訪シ回答案ヲ内示セル処同案ハ我方要求第三項迄ハ

全部之ヲ入レタルモ第四項抗日会解散要求ニ対シテハ「抗日救

国会ハ越軌不法アリ之カ取締方商民ヨリ願出アリタルニ付既ニ

我方申入ニ対スル支那側回答ヲ督促シタルニ対シ吳市長ハ或ル  
期間ノ猶予ヲ求メタルカ總領事ハ之ヲ拒絶シ適當ナル時期迄ニ  
満足ナル回答ヲ得ラレサル時ハ我方ニ於テ必要ト認ムル自衛手  
段ニ出ツルノ已ムヲ得サル可キ旨警告シ出来ルタケ早ク我方申  
入ヲ受諾セントヲ要望セリ』

### 二十三、工部局ノ民國日報社閉鎖及抗日会本部閉鎖決定

二十五日吳市長ト村井總領事トノ會見ハ前項記載ノ通り未タ吳

市長ノ回答ニ接スルニ至ラサリン所之ヨリ龔民國日報社ノ所謂

我陸戰隊三友社襲撃援護ナル捏造記事事件（第十七項参照）ニ

付キ陸戰隊當局ニ於テ直接同社ト交渉ヲ開始セル旨ノ通告ニ接

セル工部局ニ於テハ福島（日本側市參事會員）及フェッセン

デンノ斡旋モアリ之カ調停ニ乘出スコトトナリ二十五日外人參

事會員ノミニ會議ヲ開キ議長ヨリ事件ノ成行ヲ説明シ工部局ニ

テ本件ヲ取上ケ民國日報社ヲ閉鎖スルコトヲ諦リタル處右ハ陸

戰隊對同社ノ問題ニハ關係セシメス寧ロ工部局ノイニシアチ

ブヲ以テ同社ノミニラス天后宮内抗日會本部ヲ租界ノ治安妨害

ノ理由ニ依リ閉鎖スルニ如カストノ議出テ滿場一致之ヲ可決シ

支那人會員ニハ右決議ヲ單ニ通告スルニ止メ直ニ实行ニ著手ス

ルコトトナリ二十六日午後二時民國日報ヲ閉鎖セリ尚天后宮ハ

我方ニ於テ何等手入等ヲ為ス場合之ヲ援助スルコトナレル趣

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

（一）六年九月九竜ニ於ケル邦人虐殺  
（二）同十月内外綿紡績会社襲撃 宜昌海軍集会所放火  
（三）同十一月北平ニ於ケル我海軍武官邸爆弾投下  
（四）同十二月廣東ニ於ケル邦人虐殺  
（五）七年一月福州ニ於ケル帝国軍艦艦長ニ対スル暴行  
（六）同一月上海ニ於ケル邦人僧侶ニ対スル暴行並ニ民国日報不敬事件及ヒ同興紡績会社襲撃  
（七）昨年中ニ於ケル我軍艦及ヒ商船ニ対スル不法射擊七十回

### 二十三、支那側ノ解決条件全部承諾

然ルニ二十八日午後三時僉秘書長給領事館來訪第四項抗日会以外ノ排日諸団体ノ解散ヲ承認セル同日付總領事宛吳市長公文ヲ齋シタルニ付村井總領事ハ之ヲ以テ我方ノ要求全部ヲ容レタルモノト認メテ受領セリ而シテ其ノ際村井總領事ハ本件公文カ一片ノ空文ニ終ラランコトヲ望ムト前提シ

（一）市長カ誠意ヲ以テ排日運動取締ヲ實際ニ履行セラルルコトヲ期待シ居ル次第ナルハ今暫ク其ノ実否ヲ監視シ實行不充分ト認ムルトキハ更ニ要求スルコトアルヘク又場合ニ依リテハ無警告ニ自衛手段ヲ執ルコトアルヘキ旨ヲ予メ声明シ置クヘン  
（二）市政府カ今回我方要求ヲ容レタルニ対シ反対スル者多数アル

### （付 記）

滿州事變發生以來支那本部ニ於イテ生起セル對邦人暴行ノ主要ナルモノ左ノ如シ

（一）充分誠意ヲ以テ事ニ當ルコト勿論ニシテ各界抗日会ハ新聞紙アル際ナレハ中華民衆其ノ他カ此ノ機會ヲ利用シ我居留民ノ生命財産ニ対スル被害万一千發生スルカ如キコトアルニ於テハ我方ハ自衛手段ニ訴ヘ要所ニ派兵スルコトアルヘシ

（二）支那側カ我方ニ対スル敵対行動ト解セラルル虞アル行動ヲ慎ミ支那要所ニ準備セル土囊、鉄条網等ヲ即時撤去シ又軍ノ移動等ヲ停止セシメラレ度シト告ケタルニ

翁秘書長ハ

（右ノ翁秘書ノ聲明セル抗日会措置ニ閑シテハ二十八日ノ上海時事新報等ニモ記載サレ其ノ報スル所ニ依レハ市政府ハ二十七日午後十一時公安局及社會局ニ對シ抗日会ニ対シ断然タル処置ヲ執ルヘキ旨密令シタル結果兩局ニ於テハ翌二十八日午前二時半ヨリ上海抗日救国会、浦東、吳淞、楊樹浦、曹家渡等六ヶ所ノ同会ヲ一律ニ查封シ就中天后宮内ノ抗日救国会ノ弁法ヲ取消シ抗日会ノ看板ヲ下シ公安局ニ持チ去リ抗日会内ノ物件モ全テ封印セル趣ナルモ之實際ノ措置振ニ付テハ帝國總領事館側ニテ實地観察ノ運ヒニ至ラスシテ日支衝突事件

（一）御懸念ノ如キ虞アルハ事實ニシテ市政府焼打等ノ噂モアル際ナレハ支那側トシテ今後ノ民衆運動彈圧ニ苦心シ居リ有能ナル憲兵ヲ呼寄セタル次第ナルカ支那街ノ日本人生命財産保護方ニ付テハ充分手配シ居リ責任ヲ以テ之ニ當ルコト勿論ナル

### 二十四、支那側ノ軍隊集中

#### 第四節 日支衝突ノ経緯

支那側カ我解決条件ヲ容諾セル次第ハ前述ノ通ナル処之ヨリ曩  
支那側ニ於テハ南京蘇州方面ヨリ上海方面ニ軍隊ヲ集中シ其數  
約三万ニ達シ市ノ四隅吳淞及鉄道沿線一帯ニ配備シ外事起ラハ  
公安局保安隊軍警隊約六千及支那海軍モ戰闘參加ノ用意アリト  
伝ヘラレ閻北及南市ニ通スル各要路ニハ土嚢ヲ築キ鉄条網ヲ張  
リ塹壕ヲ掘リテ着々防備ノ充実ニ努力スルト共ニ市内一帯ニ敵  
重ナル敵戦ヲ施行シ夜間ノ通行ヲ禁シ鉄道砲台虹橋飛行場真茹  
無線台江南機器局付近ニ敵重警戒ヲ加ヘ為メニ支那民衆ハ極度  
ノ不安ニ駆ラレ租界内及安全地帶ニ避難スルモノ統出シ公安局  
ハ二十六日布告ヲ出シ民衆ノ動搖ヲ抑止スルニ努メタリ

卷之三

一九一九年正月二十六日夜工部局幹部英米軍隊司令官義勇隊長等會見シ警備方法ヲ協議シタル結果  
危急ノ場合支那兵ノ侵入及混亂セル支那民衆ノ殺到ヲ防ク為メ  
租界周囲ノ重要地点ニ鉄条網等ヲ架設スル準備ヲナスニ至リシ  
カ村井總領事ハ第二十一項所載期限付回答督促ヲ為スヤ早速其  
ノ旨英米仏各總領事ニ通報スルト共ニ仏及共同租界工部局側ニ  
モ通知シ必要アラハ戒厳其他準備手配方依頼シ又海軍側ニテハ  
工部局警察側ニ対シ我方ノ執ルヘキ措置中租界内關係事項ハ抗  
日会本部手入排日伝單撤退<sup>(マダ)</sup>及排日宣伝施設ノ廢止並ニ封存日貨

ノ間ニ満足ナル草案ヲ得自下各指揮官ヨリ本国政府ニ請詔中  
ノモノヲ略其儘採用セルモノナル處客年八月一遣司令官ヨリナリ  
海軍省ニ請訓セル共同防備協定草案ノ内容左記ノ通りナリ

(1) 改正要点

(一)統一指揮ヲ認メサルコト

(二)統一指揮ヲ形成スルカ如キ権能ヲ委員会ニ付与セサルコト  
(三)受持区域及其ノ他ニ於テ何時タリトモ我独自ノ立場ニ於テ  
兵力ヲ行使シ得ルコト

二十六、帝国海軍ノ配備ト日支衝突

(日) 各国指揮官ハ他國軍ノ分担区域内ニアル自国民ノ生命、財産ニ対シ特ニ直接保護ノ必要アリト認メタル場合ニハ當該分担指揮官ト協議ノ上適宜部隊ヲ派遣スルコトヲ得  
**(英)** 貴官ハ受持区域ノ基礎ニハ御賛成ナリタルモノナリ而シテ

貴官若ハ他ノ区域指揮官カ自己受持区域以外ノ他ノ区域内ニアル自国民ノ生命、財産カ適當ナル保護ヲ受ケ居ラスト思考シタル際ハ勿論自己ニテ處理スル権利ヲ有ス然レ共

「我海軍ハ工部局ノ発セル戒厳令ニ依リ警備担任区域内ノ直接治安ニ任スルコトナレリ担任区域内ニ於テ時勢ニ妨害アリト認メル集会ヲ停止スル外戒厳施行上必要ト認ムル職權ヲ施行ス布告

69

小官ハ其ル実際にノ場合ハ貴官が己ノ告陰ニ派遣セラレ  
ストモソノ事件ニ関係スル区域ノ指揮官ト協議シテ満足ナ  
ル処置ヲ取り得ルモノト考フ勿論此ノ問題ハ必要カ生シタ  
ル場合取ルヘキ手段ニシテ然ラサル限りハ各受持区域分担  
ノ基礎ニ之ヲ置クモノトス

因ニ右請訓ニ対シ海軍省ニテハ其後滿州事変勃発等ニ依リ未  
タ回訓ノ運ヒニ至ラサル中本件上海事件勃発ヲ見ルニ至レル  
次第ナリ（注、終）

二十六、帝国海軍ノ配備ト日支衝突

之ヨリ曩前述ノ通り閻北鉄道沿線付近及線路以外ノ邦人租界内  
引揚クル者統出シ殺到ヲ極メ其ノ間学生約五千市庁ニ押掛け呉  
市長ノ我要求無条件承諾ヲ難詰シ形勢不穏ノ兆アリタル歎々刻  
ヨリ閻北保安隊全部逃亡シ居留邦人ノ生命財産ニ危険ヲ感スル

予メ承知シ度ク又我方実行ノ期日ハ改メテ通知スル旨通告セル  
カ二十八日ニ至リ我方ノ期限付通告開北方面ニ於ケル支那民ノ  
引揚等ニヨリ人心益動搖シ北四川及狄思威路方面（日本人、支  
那人六千名居住）ハ混雜ヲ極メタルニ加ヘ便衣隊出現ニモスル  
確タル情報アリ更ニ上海吳淞鐵道付近ニハ支那兵進出土靈鐵條  
網等ヲ設ケ挑発的態度ニ出テタルヲ以テ人心悔々タルモノアリ  
刻々危険ノ度ヲ加ヘタルヲ以テ共同租界當局ハ二十八日正午市  
參事會ノ決議ニ依リ同日午後四時ヨリ戒厳令ヲ施行スルコトト  
ナリ義勇團及義勇巡查ヲ召集シ警備ニ就カシムルト共ニ前日各  
駐屯軍指揮官及工部局代表者会合シ決定セル左記警備受持区域  
ニ基キ同時刻ヨリ各國軍隊ハ協定ノ配備ニ就ケリ  
(イ)日本ハ北江西路以東蘇州河北ヨリ楊樹浦迄  
(ロ)義勇團ハ旧英租界（バンドヨリ競馬場ニ至ル間ノ）  
(ハ)米国ハ馬霍路ヨリ膠州路迄  
(カ)英國ハ膠州路ヨリ「ゼスフィールド」迄  
(キ)仏國ハ仏國租界全部

(イ)伊國ハ「ゼスフィールドパーク」ヨリ「フェリーロード」迄  
注、因ニ右共同防備計画ハ昨夏來工部當局ノ希望ニ基キ各駐  
屯軍指揮官間ニ於テ租界共同防備計画ヲ協定中大体各指揮官  
ノ基礎ニ之ヲ置クモノトス

因ニ右請訓ニ対シ海軍省ニテハ其後滿州事變勃發等ニ依リ未  
タ回訓ノ運ヒニ至ラサル中本件上海事件勃發ヲ見ルニ至レル  
次第ナリ（注、終）

十六、帝国海軍ノ配備ト日支衝突

之ヨリ曩前述ノ通り閻北鐵道沿線付近及線路以外ノ邦人租界内  
引揚クル者統出シ殺到ヲ極メ其ノ間學生約五千市序ニ押掛ケ吳  
市長ノ我要求無条件承諾ヲ難詰シ形勢不穏ノ兆アリタル処夕刻  
ヨリ閻北保安隊全部逃亡シ留邦人ノ生命財產ニ危險ヲ感スル  
ニ至レルヲ以テ塩沢司令官ハ午後八時左記布告及声明ヲ發スル  
ト共ニ之ヲ支那側市長、公安局長等ニモ通告ノ上午後九時半在  
泊各艦ヨリ陸戰隊ヲ上陸シ上海特別陸戰隊ト協力ヲ命シタリ  
布告

ルコトヲ布告ス』

声明

「以下上海へ租界内外ヲ問ハス人心動搖シ形勢不穏ニシテ刻々悪化シ工部局ハ戒厳令ヲ布キ各國軍モ亦警戒ヲ敵ニシツツアリ帝國海軍ハ多數邦人ノ居住スル開北一帯ノ治安維持ニ関シ不安ト認ムルヲ以テ兵力ヲ配備シ之カ保安ニ任セントス

本職ハ開北方面ニ配備セル支那軍隊ノ敵対施設ヲ速ニ撤退センコトヲ支那側ニ要望ス」

然ルニ前記列國駐屯軍協同防備計画ニ基キ日本側担任区域タル北四川路ノ東西兩側ニ対シ二十九日午前零時敵若シ攻撃ニ出テサルトキハ我ハ進ンテ攻撃行動ヲ執ルヘカラサル命令ノ下ニ陸戰隊出動配備ヲ開始セル處北四川路東側地区ハ無事ナリシモ西側地区ニ於テハ虬江路其他閘北支那街ニ通スル街ニ顔ヲ出スヤ否ヤ予メ準備セル支那正規軍ハ突如射擊ヲ開始セルヲ以テ我軍ハ自衛上之ニ応戦シ茲ニ交戦状態ニ入レリ

我陸戰隊ハ午前一時三十分迄ニ虬江路西部ヲ除キ概不協定ノ警備地ニ到達シ午前二時四十五分虬江路鐵路交叉点ヲ占領セルカ支那軍隊ハ其ノ北約百五十米ノ四叉路付近ニ於テ頑強ニ抵抗シ又占領地域及租界内ニ於テ便衣隊活躍シ其ノ為ニ被レル損害少カラス軍人ニ非サルモノニシテ不意ニ射擊サレタルモノモアリ

シカ能登呂飛行機ヲシテ吊光弾及爆弾ヲ以テ支那軍隊ヲ脅威セシメ、我陸戰隊亦兵力ヲ集中シ攻撃ノ結果午前五時四叉路ヲ占領シ茲ニ全警備受持区域ヲ掃蕩スルヲ得タリ右戰闘ニ於ケル彼我損害相当多ク我方戰死十一、重傷六十四、輕傷二十四ヲ出セリ

リ

「十七、總領事ノ措置、支那側ノ抗議又提出

之ヨリ曩日支兩軍衝突ノ報ニ接セル村井總領事ハ直ニ吳市長ニ對シ差当リノ措置シテ我方ハ鐵道線路ノ下ニ出ソル考無キニ付支那兵ヲ閘北ヨリ撤退シ攻撃ヲ止メシメラレ度旨諭秘書長ヲ通シ申入レタル處支那側ハ先ツ我方ニ於テ支那街ヨリ撤退シ原状恢復ヲ希望スル一方支那軍ハ北停車場ニ裝甲列車ヲ持來リ攻撃的態度ニ出テタルカ二十九日午前四時市長吳鉄城ハ總領事宛二十八日付公文ヲ以テ左ノ通申越セリ

「本市ニ於ケル最近ノ日中交渉ニ關シテハ本市長ニ於テ和平解決ヲ求ムル為貴方提出ノ四項ヲ受諾シ其旨回答シタル處當時貴官ハ満足ノ意ヲ表示セラレタリ然ルニ因ラスモ本夜十一時二十分公安局ハ貴方ヨリ一遣司令官ノ本市長及公安局長宛抗告各一通ヲ接到セルカ同夜十二時公安局カ閘北ヨリ得タル報告ニ依レハ日本陸戰隊ハ同處ニ於テ自由軍事行動ヲ開始シ支那街ニ向ツテ進行セル趣ナリ

査スルニ貴方ハ我方ノ回答ヲ既ニ満足ノモノト認メランタルニ貴國海軍カ突然此種軍事行動ニ出ツルハ殊ニ奇異ノ感ニ堪エス所有和平及本市ノ安寧ヲ破壊シタル一切ノ責任ハ貴方ニ於テ負フベク本市長ハ茲ニ嚴重ナル抗議ヲ提出スルニ付貴國海軍側ヲシテ速ニ軍事行動ヲ停止シ以テ事態ノ拡大ヲ免レシメラン何分ノ回答アリタシ」

尚市長吳鉄城ハ右ト同趣旨ノ書翰ヲ在上海各國領事ニ送リ公平ナル態度ヲ執ラレ度キ旨申入レタリ

「十八、村井總領事、帝國海軍及帝國政府ノ声明

今回ノ衝突事件ト日蓮宗徒殺傷事件ニ依リ惹起セラレタル交渉事件ハ其ノ性質全然別個ノモノニシテ直接ニハ無關係ナルコム上述ノ通リナルニ拘ラス前記吳市長ノ公文ニモアル通り恰モ一體ナルカ如キ誤解アリ支那側カ我方ノ解決条件ヲ全部容シタルニ拘ラス何故ニ日支衝突スルニ至ルヤノ事情ハ中外ニ明瞭ナラシムルヲ以テ村井總領事ハ二十九日海軍側トモ打合セノ上別紙甲号ノ通り發表セルカ帝國海軍及帝國政府ニ於テセ夫々ノ印及丙号ノ通り声明セリ

別紙甲号

It is true that the mayor of Greater Shanghai conceded late on January twenty-eighth to all demands contained in

my note of January twentieth and we are anxiously watching for the development in view of various rumours and questionable ability of the local Chinese authorities to control the situation particularly the undisciplined soldiers and dissatisfied elements. By four o'clock the Shanghai Municipal Council declared a state of emergency. Meanwhile the excited refugees most of whom were Chinese poured into the settlement from all directions. The rumour of surreptitious entry of the "plainclothed corps" gained wide circulation. To make the situation from bad to worse all the Chinese constables fled from the Chapei district where about 7000 Japanese reside. The excitement of the populace grew to feverpoint. As an emergency measure of protecting the Japanese lives and property in Chapei a Japanese landing force was despatched in accordance with a previous arrangement with authorities of the Municipality and British, American and other forces and in conformity with former precedents of similar cases (the territory in question is a strip of land in Chapei on the east side of the Shanghai-Woosung Railway which by the above named

agreement was assigned to the Japanese). No sooner had the Japanese landing force appeared on the emergency duty near its head-quarters that the Chinese soldiers in plain clothes attacked them with hand grenades in the neighborhood of the Shanghai-Woosung Railway. This attack served as a signal for the Chinese regulars to open fire on the Japanese force whereupon the latter was forced to return fire. At about the same time these disguised outlaws commenced shooting at the Japanese at random in the area mentioned about. They have already claimed a number of Japanese lives in the same area. I made it a special point to ask Mr. Yui Secretary-General of the Municipality of Greater Shanghai to withdraw the Chinese troops from the section in question. When I received the mayor's reply yesterday to which he gave his ready assent and assured me that it would be done. Had the mayor been able to bring the Military to coordinate speedily with him we might have averted the unfortunate incident. I am demanding again for an immediate withdrawal in view of what took place and is now taking place. If the Chinese

troops from the section in question. When I received the mayor's reply yesterday to which he gave his ready assent and assured me that it would be done. Had the mayor been able to bring the Military to coordinate speedily with him we might have averted the unfortunate incident. I am demanding again for an immediate withdrawal in view of what took place and is now taking place. If the Chinese

authorities are unable to stop the assault and complete the withdrawal from that section I see no other alternative but to enforce it by force. I should like to make it clear that this clash is to be distinguished from the question contained in my note of January twentieth which was solved for the time being. At any rate I would also like point out that the wild story about the Japanese attack on the Woosung fort is groundless. This Chapei incident is entirely a matter of self-defense in emergency in an effort to protect that Japanese life and property and indeed those of their nationals including Chinese themselves. I am hoping for a speedy cooperation of the Chinese side to avoid any further conflict or sacrifices and to that end to withdraw its troops.

## 電紙Nip

## 海軍当局談

上海事件ニ対シ予ツ要求中ナリシ我条件、昨11月18日午後11時半リ民國側ニ依リ承認セラタリシモ、遣司令官ハ之ニ対ニ追撃ヲ持シテ實行ヲ監視シ且反動分子ノ策動ニ対シ警戒ヲ厳ナラシメタリ。一方上海工部局ハ午後4時戒厳令ヲ布告シ列國駐屯

軍ハ協同防備計画ニ就クコトナリタルヲ以テ我陸戰隊ハ日本担任區域タル北四川路両側ニ對シ、十九日午前零時ヨリ陸戰隊配備ヲ開始セル所民國正規ノ軍隊カ進出シテ武力挑戦ヲナシタル結果遂ニ我ハ之ニ應戦スルノ曰ナキニ至レリ  
我國ハ予テヨリ極力事件ノ拡大ヲ防止スル為事前ニ各種手段ヲ尽シテ民國軍隊ノ和平撤退ヲ勧告セシニ拘ラス其ノ効ナク事茲ニ至レルヲ以テ我一遣司令官ハ外交機関ヲ通シ民國軍隊カ速ニ本邦人居留區域付近ヨリ撤退センコトヲ要求中ナリ  
民國當局カ我要求条件ヲ承認セルニ係ラス其ノ威令行ハレス彼ノ正規兵カ民國當局ノ意志ニ反シカカル事態ヲ惹起スルニ至レルハ甚遺憾ムスル所ナリ

## 別紙丙号

## 帝国政府ノ声明

一、帝国政府ハ国民政府ニ対シ客年十月九日付覚書ヲ以テ支那各地ニ於テ暴威ヲ逞フスル排日運動ハ組織上及實際上国民政府ト其ノ職能ヲ分シコト困難ナル国民党党部ノ直接間接ノ指導下ニ国策遂行ノ手段トシテ行ハルル武力ニ依ラサル敵対行為ナルコトヲ指摘シ党部及其ノ指導スル各種排日団体ノ策動ヲ控制スベキハ勿論其他排日運動ヲ取締リ並ニ本邦人ノ生命財産及利益ヲ保護スルニ必要且有効ナル措置ヲ執ラムコトヲ

要求シ、尚ホ其以後ニ於テモ幾度トナク支那中央及地方官憲ニ對シ右要求ノ趣旨ヲ繰返シ其ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ来レリ  
「然ルニ国民政府ニ於テハ叙上帝国政府ノ要求ニ応スルノ誠意ナク甚シキニ至リテハ支那官民ノ帝國及帝國臣民ニ対スル不法行為ヲ以テ愛國心ノ発露ナリトシ寧ロ之ヲ獎励スルカ如キ態度ニ出テタル為メ排日運動ハ愈々深刻執拗ヲ加ヘ、殊ニ近時廣東、青島、福州等ニ於テ帝國臣民殺害事件、帝國官吏侮辱事件等ヲ惹起シタルノミナラス、支那諸新聞紙ノ我皇室侮辱事件等ヲサヘ發生スルニ至レリ  
ハ対スル不敬記事事件ヲサヘ發生スルニ至レリ

二、就中上海ニ於テハ抗日会本部其他各種ノ排日団体ノ跳梁最モ甚シク、殊ニ最近民國日報ノ不敬記事事件及日蓮宗僧侶ニ対スル殺傷事件等ノ發生以来事態益々悪化セルニ依リ在上海帝國總領事ハ同地方支那官憲ニ対シ排日運動ノ取締其他ニ関スル要求ヲ提出シタル處、右ハ極メテ公正妥当ナルモノナリシニ拘ラス支那側ニテハ荏苒回答ヲ遷延スル一方、上海ノ周囲ニ軍隊ヲ集中シテ我方ヲ威嚇スルカ如キ態度ヲ示シ為メニ居留邦人ヲシテ極度ノ危虞ヲ抱カシメタリ

四、尤モ支那側ニテハ二十八日午後三時ニ至リ結局我方ノ要求ヲ容認スルニ至レル處、我方ニ於テハ支那側從來ノ遣口ニ顧

ミ之カ実行ヲ監視スルト共ニ不逞分子ノ策動ニ対スル警戒ヲ

意ラサリシカ一方共同租界工部局ニ於テモ同租界付近ノ支那軍隊等ニシテ不穩ノ行動ニ出ツルモノアリタルニ顧ミ同日午後四時戒厳令ヲ布告セリ、其ノ結果列国駐屯軍ハ協同防備計画ニ基キ各々配置ニ就クコトナリ、我陸戦隊モ亦其担任区域タル北四川路両側ニ対シ二十九日午前零時ヨリ配備ヲ開始セルニ支那正規軍隊ヨリ突如トシテ発砲挑戦セルニ依リ我軍之ニ応戦スルノ已ムナキニ至レルカ、且下我方ハ支那当局ニ對シ同國軍隊ノ本邦人居留区域付近撤退方ヲ引続キ要求中ナリ

五、今次上海方面ニ於ケル我海軍ノ行動ハ既往ニ於テ主要列國カ同地方ニテ屢々執リ來レル実力行動ト均シク全ク居留邦人ノ生命財産其他我方權益ノ擁護ヲ目的トスル外他意無キト共ニ今回ノ派兵ハ從来我方カ英米仏等ノ上海駐屯軍ニ比シ少數ノ陸戦隊ヲ同地ニ駐メ居リタルヲ事態ニ応シ増加セルニ過キサル処、我方ニ於テハ固ヨリ列国協調ノ方針ヲ持シ、現ニ出先帝國官憲ハ關係各國領事官、共同租界工部局、各國駐屯軍ト密接ナル連絡ヲ保チ居レル次ニシテ、我方ニ於テ上海地方ニ對シ何等政治的野心ヲ有セサルハ勿論同地方ニ於ケル列國ノ権利利益ヲ侵害スルカ如キ意図ナキコトハ多言ヲ要セサ

ル所ナリ

## 第五節 停戦ニ関スル交渉

二十九、吳市長ノ依頼ニ基ク英米両総領事停戦斡旋

吳市長ノ依頼ニ依リ村井総領事ヲ來訪シ租界ノ治安ニ関シ重大ナル影響アルニモ鑑ミ別ニ日本軍ノ行動ニ干渉スル趣旨ニアラサルモ何トカシテ停戦ノ途ナキヤトテ同総領事ノ斡旋ヲ求メタルニ付同総領事ハ兩総領事ヲ帶同シテ塙沢司令官ヲ往訪シ種々懇談ノ末司令官ハ我方トシテハ日支軍双方トモ現在ノ状態即チ我軍ハ上海吳淞鉄道以東支那軍ハ同鉄道以西ニ駐屯シタル儘停戦ニ異議ナキ旨ヲ告ケ兩総領事ハ右ニ付支那側ノ意向ヲ糺スコトトナリタルカ右ノ結果午後六時殷汝耕吳市長ノ依頼ニ依リ來訪シ同夜八時ヨリ停戦スルコトニ決定セリ

## 三十、支那側ノ再度ノ違約、英支ノ衝突

斯クテ二十九日午後八時以後兩軍ハ交戦停止ノ状態ニテ三十日朝ニ至リタル処支那軍ハ野砲兵ヲ北停車場付近ニ集結シ我方ヨリ何等挑発行動ナキニ拘ラス午前六時二十分頃ヨリ我軍ニ対シ攻撃ヲ開始セルニ付我軍ハ事態悪化ヲ防ク為メ一時後退セルモ危険極リ無キニ依シテ總領事ハ右事実ヲ英米総領事及吳市長ニ通告シ支那軍ニシテ右砲撃ヲ即時中止セサルニ於テハ我方ヨリ

(陸戦隊第三大隊本部タル北部小学校付近) 西方ヨリ我軍ニ向ケテ発砲シ又六三花園ヨリ陸戦隊本部ヲ攻撃シ我軍歩哨二名戦死セリ依ツテ我軍亦已ムヲ得ス反撃ヲ加ヘタル有様ナリキ

## 三十一、停戦協議

一方停戦ニ関スル協議ハ三十一日午前十時英國総領事館ニ於テ行ハレ支那側ヨリハ十九路軍毛師長及市長吳鉄城找方ヨリハ塙沢司令官及村井総領事出席セリ

協議ノ結果日本側ハ衝突以前ノ地域即チ大体租界延長道路迄退ク代リニ支那側モ現在ノ地帯ヨリ撤退(撤退距離未定) 中間区域ハ中立國軍隊ニ依リ警備スルコトニ略話纏リ午後三時ヨリ中立國司令官ヲ加ヘ更ニ協議セル處列国先任指揮官タル英國陸軍少将「フレミング」ヨリ中間区域ヲ第三國軍ヲ以テ警備スルハ極メテ困難ナルヲ以テ寧ロ日本軍カ現在ノ警備区域ヨリ租界内ニ撤退シ第三國軍カ日本軍撤退区域全部ノ警備ニ当ル案ノ方実際のナルヤニ認メラルル旨ヲ述へ支那側之ニ賛成シタルカ日本側ハ敢テ第三國軍ノ力ヲ信セスト云フニ非サルモ右案ハ平常時ナラハ兎モ角現在ノ不安狀態ニテハ同区域在住邦人ノ撤退ヲ命スルニ等シク到底同意シ得スト述ヘタル處同少将ハ出来得レハ

日本側ニ於テ右案ニ付政府ニ請訓セラレタキ旨述ヘタルニ付我方ハ政府ノ同意ヲ得難シ免ゼ角一応請訓シテ見ルコト差支ナシ

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ト答へ種々協議ノ結果若シ日本政府ニ於テ右ニ同意ナラハヨキ  
モ反対ナル場合ハ支那側ニテモ中央ニ請訓スルコトニ決定シ右  
結果判明スル迄双方ニ於テ差当リ停戦スルコトニ申合セタリ  
尚支那側ハ停戦ノ条件トシテ爆撃ノ中止大砲ノ撤去日本ヨリ援  
軍ヲ呼ハサルコト等ヲ要求セルモ我方ニ於テ之ヲ拒絶シ要スル  
ニ日本側トシテハ支那側ヨリ攻撃セサル限り絶対ニ進ンテ攻撃  
ニ出テサルモ支那側ニシテ攻撃スレハ之ヲ反撃スヘキ旨ヲ告ケ  
置キタリ斯クテ再度停戦ニ闇スル協議ノ成立セル处右ニ拘ラス  
支那側ニ於テ更ニ停戦違約行為ニ出テタル次第及本項英國案ニ  
対スル帝国政府回訓ニ闇シテハ夫々第三十三項及第三十四項ニ  
記述スヘキ處之ニ先チ右停戦交渉ト併行シテ行ハレタル領事團  
開催方ニ闇スル交渉ニツキ一言セントス

三十二、在上海領事團ヲシテ支那側ニ対シ敵対行動停止方申入ル  
ル様誘導方ニ闇スル訓令

之ヨリ曩日支衝スルヤ村井總領事ハ逸早ク政府ニ対シ現在兵力  
力ノミニテハ居留民ノ現地保護不可能ナルヤニ観測セラルル旨  
電報シ越セリ右電稟ニ対シ政府ハ二十九日夜同總領事ニ対シ我  
方トシテハ居留民ノ生命財産其他我方權益ノ擁護ヲ目的トスル  
外他意無ク之カ為メ事態ヲ拡大セシムルヲ欲セサルハ勿論支那  
側ト開戦セムトスルカ如キ意図固ヨリ無キ次第ナルニ不拘支那

三十三、敵対行動停止方南京政府ヘ申入レノ件

帝国政府ニ於テハ右ト同時ニ在南京上村領事ヲシテ至急南京政  
府ニ対シ正規軍カ我方ニ敵対行動ヲ執ルカ如キコト無カラシム  
ル様嚴重訓令方申入ルヘキ旨訓電セルヲ以テ上村領事ハ一月三  
十一日外交部次長徐謨ト會見シ我方ノ態度ヲ説明シタル上訓令  
ニ依ル趣ヲ以テ支那側正規軍カ我方ニ敵対行動ヲ執ル事無キ様  
申出タル処徐ハ日本側カ勝手ニ支那領土ニ侵入シ戰闘行為ニ出  
テタルヲ以テ支那側ニ於テ自衛的行為ニ出テタルニ過キストテ  
公正ナル態度ヲ充分説明シタル処結局徐ハ上村領事申出ノ次第  
ハ政府ニ報告ノ上何分ノ回答ヲ為ス可キ旨答ヘタリ

尚同日上村領事ハ宋子文ト會見シタルニヨリ同人ニモ右ノ次第  
ヲ話シタルニ宋ハ上海事件ノ経過ヲ詳細ニ亘リ質問シ相當我方  
ノ態度ヲ了解シタル模様ナルカ国民政府ヨリ第十九路軍ニ停戦  
命令ヲ出スコトハ支那ノ民心頗ル硬化シ居ル此ノ際可ナリ困難  
ナル旨述ヘタルヲ以テ上村領事ハ十九路軍ハ最早ヤ南京ノ命令  
ヲ奉セストノ風説アリ果シテ然ラハ上海事態ハ誠ニ憂慮ニ堪ヘ  
スト述ヘタルニ宋ハ極メテ自信アル態度ニテ右ノ如キ風説ハ兩

側正規軍カ漸次租界付近ニ集中シテ我方ニ反撃スルノ態度ヲ執  
ルニ於テハ我方トシテモ勢ヒニ対抗セサル可カラス其ノ結果  
ハ益々重大化シ勢ノ赴ク所遂ニハ各国夫々複雑ナル利害關係ヲ  
有スル租界内ニ擾乱ヲ波及セシムルノ廣大ナルニ鑑ミ同總領事  
一個ノ思付トシテ領事團ニ対シ以上我方ノ憂慮スル所ヲ告ケ右  
ノ如キ重大ナル結果ノ発生ヲ防止スル為ニハ此ノ際領事團ヨリ  
支那側當局ニ対シ正規軍カ速カニ日本陸戰隊ニ反抗スルカ如キ  
行動ヲ已メ租界付近ニ構築セル攻撃及防禦工事ヲ撤退シ且其ノ  
移動ヲ停止スル様嚴重警告ヲ發スルコト機宜ニ適スルモノト思  
考スル旨ヲ開談シ成ル可ク右ニ議ヲ纏メ実行セシムル様誘導ス  
ヘキ旨訓令スル處アリタルカ右訓令ニ基キ村井總領事ハ一月三  
十日米國總領事ニ対シ同總領事一個ノ意見トシテ支那側ハ前夜  
以来南京真茹方面ヨリ増援部隊ヲ派遣シ居リ次第ニ対抗ノ勢顯  
著ナルモノアリ我方ニ於テモ之ニ対抗スル為メ反撃ヲ加フルコ  
トヲ必要トスルニ至ルヤモ知レス斯クテハ事態由々敷ク租界ニ  
擾乱ヲ波及スル虞アルヲ以テ領事團トシテ右支那側ノ租界付近  
ニ構築セル攻撃的防禦工事ヲ撤退シ軍ノ移動ヲ停止センコトヲ  
警告スルコト機宜ニ適スト認メラル旨申入レタル處同總領事  
ハ早速先ソ英仏伊國領事ノ意見ヲ聽キ出来得ル丈ヶ貴意ニ副ヒ  
度旨述ヘタルカ右領事團會議ニ対スル村井總領事ノ提案ハ折柄

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

之ヨリ龜僧侶事件紛糾スルヤ政府ニ於テハ折柄帰朝中ナリシ重光公使ヲ至急帰任セシムルコトシ同公使ハ二十七日夜東京發電) 海軍側ノ爆撃計画モ中止セラレ前線モ一応靜謐ニ帰セル趣ニモアリ此ノ機ヲ逸セス関係各国出先官憲ノ協力ヲ藉リテ事態ノ悪化防止ニ努ムルコト機宜ニ適スルモノト認メラル。處停戦協定セ此ノ際ナラバ成立シ得ヘシト認ムルニ付一遣司令官及村井總領事トモ充分協議ノ上右成立方ニ関シ關係國總領事ノ誘導ニ努メラレ度ク尤モ右協定ハ第一項記載英國指揮官ノ提案ニテハ実情上問題トナラサルヘキヲ以テ第三國軍側ニテ或ハ多少困難ナル事情アルヘキモ大局ノ見地ヨリ是非同日午前ノ話合ノ程度即チ日本側ハ衝突前地域即チ大体租界延長道路迄退ク代りニ支那軍モ現在ノ地点ヨリ撤退シ中間区域ハ中立國軍隊ニ依リ警備スル案ニテ至急取纏ムル様訓電セリ

### 第六節 形勢ノ逼迫ト我軍ノ反撃、停戦交渉ノ成行

三十五、形勢ノ逼迫ト租界内引揚ニ闕スル請訓及帝国政府ノ回訓二月一日午前中カ比較靜謐ナリソハ前記ノ通ナル処午後ニ至リ形勢逆転シ支那側ハ午後一時ヨリ五時迄四時間ニ亘リ北停車場付近ヨリ執拗ニ射撃シ又午後二時半ヨリ横浜路付近ニ在ル支那軍總領事ニ付右区域ノ防備ヲ嚴ニスルト共ニ支那側ニ於テ休戦ノ約ヲ守ラス飽ク迄攻撃的態度ニ出ツルニ於テハ断然支那軍ニ対シ爆撃ヲ加ヘ事情ヲ中外ニ明ニスルノ外無シ就テハ右ノ趣旨ニテ司令官トモ打合ノ上善歟スヘキ旨回訓セリ

海軍側ハ二月二日午前五時、「支那軍ハ停戦約定成立後モ連夜我警備区域内ヲ攻撃シテ止マス特ニ三十日夜十一時頃現シ得サルヘシト答ヘタリ

三十六、停戦交渉ノ成行

英、米、仏三国總領事及共同租界工部局ニ通報セルカ支那軍ハ二日前十時頃ヨリ再ヒ我軍ヲ射撃セルヲ以テ我方ハ直ニ之ニ応射シ又我飛行機六台ハ偵察飛行ヲ為セル所支那軍ハ之ニ発砲セルヲ以テ我軍亦砲撃スルノ止ムナキニ至レリ

三十七、南京及吳淞ニ於ケル我海軍ノ行動

之ヨリ龜南京ニ於テハ上海事件發生以来支那側ハ盛ニ防禦工事ヲ施行中ナリシカ二月一日夜獅子山砲台ヨリ突然砲撃ヲ開始セルニヨリ警備艦ハ直ニ応射沈黙セシメタル事件發生セリ又吳淞ニ於テモ三日朝佐世保ニ向ケ出航シタル第二十六驅逐隊ノ輸、柿、栗ノ三隻貢船通過中午前十一時ヨリ砲台ヨリ発砲セルニ付之ニ応射シ第三戰隊及航空機ヨリ攻撃ヲ加ヘ午後一時五十分沈黙セシメ同二時十分之ヲ占領セリ

### 第七節 上海ニ於ケル英米總領事ノ抗議、各國軍増派ノ状況

三十八、我軍ノ警備ニ闕スル各國ノ抗議

共同租界防備委員会委員タル英米伊守備隊長英國海軍先任士官工部局市參事會長義勇隊長及警視總監連名ヲ以テ伊國代理公使米國總領事及英國總領事宛日本海軍ノ受持区域外駐屯及前記区

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

域内ノ積極的巡視並ニ支那人ニ対スル不必要ナル野蛮行為ニ閔シ抗議アリタル趣ヲ以テ二日付英総領事ヨリ右抗議書写ヲ總領事宛送付越スト共ニ右ニ付日本海軍司令官ノ注意ヲ喚起セラレ前記行動ノ停止方要求スペキ旨申出ヅルト共ニ抗議書写ハ駐支英國公使駐日英國大使及英米海軍司令官ニ通知サルル筈ナル旨申越セリ

同抗議書ハ共同防備協定中ニハ其受持区域内ノ秩序維持ノ為警察官ヲ援助スヘク且独立行動ヲ執ル必要アル際モ防備委員長ト相談スヘキ旨規定アル事ヲ指摘セル上日本軍ノ行動中抗議スヘキハ受持区域外ノ日本紡績工場ニ於ケル日本軍駐屯及積極巡視ナリトテ左記事実ヲ指摘シ斯カル行為ハ日支人間ノ感情阻隔ノミナラス一般外人ニ対スル支那人ノ反感ヲ挑発スヘク英米軍及義勇隊側ノ日本軍ニ対スル感情ハ「アキュート」ニシテ若シスル行行為ニシテ継続セラルレハ極度ノ「プロボケーション」ヲ長ク忍耐シ得サル下級兵士ノ抑制不可能ナリ戒厳以來英米軍受持区域内ニハ日本人ノ生命財産ニ対スル危険無キヲ以テ同部分ニ於ケル日本軍ノ積極的巡視ハ全然不要ナリ日本司令官ニ対シ敵重抗議セルモ何等結果無カリシ旨記載セリ

尚米國總領事館ヨリ同様ノ趣旨申出アリタリ

左記

直チニ之ヲ実行スヘキ旨声明セルヲ以テ右ノ次第ヲ不取敢、英、米、伊三国總領事ニ伝達シ置キタルカ之ニ対シ先任指揮官タル英國指揮官ヨリ日本紡績工場内ニアル日本人ハ責任ヲ以テ保護スヘク又該工場内ノ日本人ニシテ外出ノ必要アル場合ハ通知アレハ護衛スペキ旨通知アリタリ

因ニ受持区域外ノ我軍ハ四日引揚ヲ行フコトトナレルカ一月三日現在我陸戰隊ノ警備部署左ノ通リナリ

第一大隊、陸戰隊本部内

第二大隊、女学校

第三大隊、北部小学校

第四大隊、日本人俱楽部

同派出隊、日本電信局及月酒家「ガーデン」

常磐陸戰隊、中部小学校

大井陸戰隊、東部公大紡績

右ノ内第四大隊及電信局派出隊、常磐及大井陸戰隊ハ共同租界内ニラ他ハ「エキステンション」ニ在リ

三十九、各国軍ノ増派

時局ニ依ル各国軍増派状況大体左ノ通り

(一)米国亞細亞艦隊旗艦「ヒューストン」ハ陸戰隊三百名登載駆逐艦三隻ヲ率ヒ三日午後三時到着又運送艦「ショーモント」

66 昭和7年2月(3) 在上海重光公使より  
到着ノ筈右ニ依リ陸兵総数ハ三千二百名海軍陸戰隊計三千名在泊艦艇総数十七隻トナル由

貴電第二六号及往電第五四号ニ閔シ  
一、三日午前福島ノ報告ニ依レハ當地米國總領事ハ本国政府ヨリ左ノ三項ニ付市參事會ヨリ領事團ニ対シ抗議ヲ提出セシムヘキ旨ノ訓令ニ接シタル趣ナリ

議提出について

上海  
本省 2月3日後着

第七七号

(一)日本軍ノ行動ハ上海ノ中立ヲ侵害ス

(二)日本軍ハ不法ニ租界ヲ作戦根拠地ニ使用シツツアリ

(一)「ペナン」路北米國受持区域内ノ日本紡績工場(内外縫)ニ五十ノ機関銃ヲ有スル五百名ノ日本軍駐屯ス右ハ防備協定ノ違反ニシテ日本軍カ共同租界内ニ於テ行動シ得ル事ヲ利用シ「オフェンシブリー」ニ武力ヲ用ヒントスル計画ノ証拠ナリ(二)一月三十日英國受持区域「ロビンソン」路「ペナン」路交叉点ニ近接スル日本軍「ボスト」付近ニ於テ日本兵ハ二名ノ支那人苦力ヲ突殺セリ(工部局巡查ノ報告添付)

(三)米國軍「ボスト」ニ近接スル「ゴルドン」路ノ橋付近ニ日本軍ハ二個ノ機関銃ヲ備ヘ防塞ヲ築ケリ日本將校ハ米國軍「ボスト」ハ日本機関銃ノ弾道内ニアリトテ米國兵ノ立退ヲ求メタリ

四毎日米國軍本部ヲ通過スル日本軍自動車巡察隊ハ銃及機関銃ヲ米國軍ニ向ク

(五)二月一日夕「フレナンピース」付近ニ於テ十六歳ノ武器ヲ持タル支那軍小兒ハ日本兵ノ為銃殺サレタリ(義勇隊將校ノ報告書アリ)

右各国ノ抗議ニ対シ村井總領事ハ二月三日一遣司令官ヲ往訪シ英、米、伊三国總領事ヨリ我軍ノ受持区域外ニ於ケル日本軍ノ行動ニ閔シ抗議ノ次第ヲ述ヘタル處一遣司令官ハ右ハ從來ヨリ駐屯シ来レルモノナルカ列國側カ其ノ撤退ヲ希望スルニ於テハ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

参考会ハ右米国総領事ノ要求ニ付慎重審議ノ結果（一）及（二）ハ法理上成立セスト認メ米国政府ノ希望ニ応セサルコトニ決定セル趣ナリ

連盟、米ヨリ然ルヘク転電アリタシ

連盟、米、北平、奉天、廣東へ転電シ上海、南京へ転報セリ

連盟、米、北平、奉天、廣東へ転電シ上海、南京へ転報セリ

連盟、米、北平、奉天、廣東へ転電シ上海、南京へ転報セリ

67 昭和7年2月(3日) 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛(電報)

海軍當局に陸戦隊の自重を訓令方希望につて

上海 本省 2月3日後着  
本省 2月4日前着

第七九号

我陸軍ノ出兵ハ慎重ニ行フノ要アルハ勿論ニテ当地ニ於テハ參謀長ニ決定シ居ル田代武官トノ間ニ充分打合ヲ為シ出来得レハ威力ノミノ表示ニテ事解決ニ至ランコトヲ希望シ居ル次第ナリ

海軍側從来ノ努力ハ大ニ多トスル処ナルモ血氣ニ逸ルモノハ陸軍到着前ニ突撃スヘント為シ或ハ四日早朝ヲ期シ進撃

貴電合第三五七号及合第三五九号ニ関シ

右提案ハ第一項及第四項（特ニ第三及第四）ト雖当地ノ現状ヲ以テシテ到底実現性ニ乏シク（若シ斯ル協定成立セハ出先軍部及居留民ノ極端ナル反対ヲ受ケ再ヒ二十八日夜ノ如キ事態ヲ繰返ス醜態ヲ見ストモ限ラス）今回ノ上海事件ハ矢張リ一応日本獨力ヲ以テ解決シ「プレステイジ」ヲ回復シテ後初メテ真ニ各国トノ協調ニ入り得ヘシ情報ニ依ルニ支那側ハ右提案ニ既ニ賛意ヲ表シタル様子ニテ斯ル支那

本省 2月3日後着  
本省 2月4日前着

68 昭和7年2月3日 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦に関する英米仏三国の同文提案への対処方について

上海 本省 2月3日後着  
本省 2月4日前着

第八四号

ノ希望ヲ鶴呑ニシタル列國ノ斡旋ニ深入リスル時ハ益々我方ニ不利ナル事態ノ展開ヲ見ルヘキニ付体好ク拒絶シ陸軍派遣ノ結果上海ノ常態ヲ回復シタル後徐ロニ事態ノ發展ヲ待ツコトセラレ然ルヘシト思考ス

尚本件ノ考慮ニ際シテハ支那ハ現在政府ハ事實上無キ狀態ニアルヲ参照スルノ要アリ

差控フル指令ヲ發セラルル様御配慮アリタシ（現在ノ守備区域ヲ守ル丈ヶナラハ爆撃ハ不必要ト認メラル）

在上海村井總領事より

70 昭和7年2月3日 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛(電報)

海軍陸戦隊の受持区域外駐屯などに關し租界防備委員会より抗議について

別電 英國總領事送付の抗議書写

69 昭和7年2月3日 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛(電報)

海軍當局に上海における爆撃差控え方要請依頼について

第六六号

上海 2月3日後発  
本省 2月4日前着

總領事宛貴電第二九号末段ハ海軍側ニ対シ飛行機爆撃ニ付テハ了解ヲ与ヘラレ居ルカ如ク「飽迄攻撃的態度ニ出ツルニ於テハ」ノ条件ノ如キハ解釈次第ニテハ如何様トモナリ

当方ニ於テハ出来得ル丈ヶ厳格ニ解シ自重スル様海軍側ト交渉シ居ルモ爆撃ハ本三日午後決行セラレ居レリ往電第六一号等ノ事情モアリ世界ノ輿論ニ鑑ミ海軍本部ヨリ爆撃ヲ旨申出ツルト共ニ抗議書写ハ駐支英國公使駐日英國大使及英米海軍司令官ニ通知サルル筈ナル旨申越セリ

ストカ飛行機爆撃ヲ行フヘシト陸戦隊側ニ於テ高言シ居リ本使ハ司令官ニ對シテハ大局上ヨリ充分自重ノ必要ヲ力説シ置キタリ東京海軍本部ヨリ何等カノ形式ニ依リ陸戦隊自重ヲ嚴ニ訓令セラレンコトヲ希望ス

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

同抗議書ハ共同防備協定中ニハ其受持区域内ノ秩序維持ノ為警察官ヲ援助スヘク且独立行動ヲ執ル必要アル際モ防備委員長ト相談スヘキ旨規定アル事ヲ指摘セル上日本軍ノ行動中抗議スヘキハ受持区域外ノ日本紡績工場ニ於ケル日本軍駐屯及積極巡視ナリトテ別電第二〇一一号ノ事実ヲ指摘シスル行為ハ日支人間ノ感情阻隔ノミナラス一般外人ニ対スル支那人ノ反感ヲ挑発スヘク英米軍及義勇隊側ノ日本軍ニ對スル感情ハacuteニシテ若シスル行為ニシテ繼續セラルレハ極度ノ「プロボケーション」ヲ長ク忍耐シ得サル下級兵士ノ抑制不可能ナリ戒厳以来英米軍受持区域内ニハ日本人ノ生命財産ニ対スル危険無キヲ以テ同部分ニ於ケル日本軍ノ積極的巡視ハ全然不要ナリ日本司令官ニ対シ嚴重抗議セルモ何等結果無カリン旨記載セリ米国總領事ヨリ同様ノ趣旨申出アリタリ右不取敢支へ暗送セリ

別電ト共ニ連盟、米、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、福州へ転電セリ  
廣東ヨリ香港へ転電アリタシ  
連盟ヨリ在欧各大使へ転電アリタシ

隊將校ノ報告書アリ)

71 昭和7年2月3日 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海における受持区域外の陸戦隊の引揚げ決 定について

第二〇七号 往電第二〇一号ニ閲シ

右各国ノ抗議ニ対シ村井總領事ハ二月三日一遣司令官ヲ往訪シ英、米、伊三国總領事ヨリ我軍ノ受持区域外ニ於ケル日本軍ノ行動ニ関シ抗議ノ次第ヲ述ヘタルニ一遣司令官ハ右ハ從來ヨリ駐屯シ来レルモノナルカ列國側カ其ノ撤退ヲ希望スルニ於テハ直ニ之ヲ実行スヘキ旨声明セルヲ以テ右ノ次第ヲ不取敢英、米、伊三国總領事ニ伝達シ置キタルカ之ニ対シ先任指揮官タル英國指揮官ヨリ日本紡績工場内ニアル日本人ハ責任ヲ以テ保護スヘク又該工場内ノ日本人ニシテ外出ノ必要アル場合ハ通知アレハ護衛スヘキ旨通知アリタリ

米ヨリ紐育、市俄古、桑港へ転電アリタシ

（別電）  
左記

(一)「ペナン」路北米国受持区域内ノ日本紡績工場（内外綿）ニ五十ノ機関銃ヲ有スル五百名ノ日本軍駐屯ス右ハ防備協定ノ違反ニシテ日本軍カ共同租界内ニ於テ行動シ得ル事ヲ利用シ「オフェンシブリー」ニ武力ヲ用ヒントスル計画ノ証拠ナリ

(二)一月三十日英國受持区域「ロビンソン」路「ペナン」路

交叉点ニ近接スル日本軍「ポスト」付近ニ於テ日本兵ハ二名ノ支那人苦力ヲ突殺セリ（工部局巡查ノ報告添付）

(三)米国軍「ポスト」ニ近接スル「ゴルドン」路ノ橋付近ニ日本軍ハ二個ノ機関銃ヲ備ヘ防塞ヲ築ケリ日本將校ハ米國軍「ポスト」ハ日本機関銃ノ弾道内ニアリトテ米国兵ノ立退ヲ求メタリ

毎日米国軍本部ヲ通過スル日本軍自動車巡察隊ハ銃及機関銃ヲ米国軍ニ向ク

(五)二月一日夕「プレナン・ピース」付近ニ於テ十六歳ノ武器ヲ持タサル支那軍小兒ハ日本兵ノ為銃殺サレタリ（義勇

月三日現在我陸戦隊ノ警備部署左ノ通リナリ

因ニ受持区域外ノ我軍ハ四日引揚ヲ行フコトトナレルガニ  
(編注) 以下不明、七二文書参照

72 昭和7年2月3日 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海陸戦隊現在の警備部署について

上海 2月3日(脱)  
本省 2月4日前着

第二〇九号

陸戦隊現在ノ警備部署左ノ通り

第一大隊、陸戦隊本部内

第二大隊、女学校

第三大隊、北部小学校

第四大隊、日本人俱楽部

同派出隊、日本電信局及月廻家「ガーデン」

常磐陸戦隊、中部小学校

大井陸戦隊、東部公大紡績

右ノ内第四大隊及電信局派出隊、常磐及大井陸戦隊ハ共同租界内ニテ他ハ「エキステンション」ニ在リ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

73 昭和7年2月(3日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変調査委員会書記長にアース任命につ

いて

第三六号(暗)

往電第三〇号ニ関シ

上海事件調査委員会ノ事務総長ニハ目下上海ニ滯在中ノ連盟事務局交通部長「アース」ト決定シタル処本調査委員ノ報告ハ本邦ニ取り甚タ重大ナル関係ヲ有スル次第ハ往電第三〇号具申ノ通ニテ之カ為ニハ在上海本邦當局ヲシテ各委員会ト充分連絡ヲ保チ我方措置ニ対シヨク諒解ヲ求メ置クコト緊要ナリ尚實際ノ調査及報告ノ作成等ニ付テハ事務総長等ト「アース」カ事實上中心トナルコト予想ニ難カラス依テ本邦側ニ於テハ「アース」ト一層緊密ナル連絡ヲ保チ情報資料ノ提供等ニ付充分遺漏ナキヲ期スルコト致シタシ且又「アース」ニ対シテハ本邦當局ノミナラス在留民新聞側等トノ關係ニ付テモ配慮ヲ要スル次第ト存セラル此点ニ付テハ既ニ御手配ノコトト察スルモ為念右稟申ス支ニ転電セリ

74 昭和7年2月(3日) 在米國出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦に関する日中両国あて通牒公表につ

いて

第八二号

二日午後六時(東京時間)米国政府日本政府ニ対シ左記要領ノ通牒ヲ発シタル旨國務省ヨリ公表セラレタリ

(一)日支両国ハ次ノ条件ニ依リ暴力及強力行為ヲ停止スルコトト

(二)日支両国ハ之上動員又ハ戰鬪準備行為ヲ為ササルコト(三)上海ニ於ケル日支両国戰鬪部隊ハ相互ニ接觸シ居ル一切ノ地点ヨリ後退スルコト

(四)日支両国戰鬪部隊ノ中間ニ中立地帯ヲ設置スルコトニ依リ共同租界ヲ保護スルコト中立地帯ハ中立国人ニ依リ警備セラルヘク之等ノ点ニ関スル協定ハ領事官憲ニ依リ取極メラルコト

(五)日支両国ハ如上ノ条件ヲ受諾ン速ニ交渉ニ依リ両国間一切ノ係争ヲ巴里協定及十一月九日付連盟決議ノ精神ニ基キ而モ該協定又ハ決議ニ対シ予メ要求又ハ留保ヲ付スルコト

ナク且中立國ノ「オブザーヴァー」若ハ「パーティシパンツ」ヲ加ヘ解決スルコト

尚米國政府ハ右通牒ヲ二日午后五時(南京時間)支那政府へ発シ又英、仏、伊三国政府モ亦日支両國ニ対シ米國政府同様ノ処置ニ出テタル趣ナリ

英ヘ転電シ英ヨリ仏、伊及寿府連盟ヘ転電セシム

75 昭和7年2月(3日) 在米國出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

停戦に関する三国同文提案に積極的対応方希

第八三号(暗、大至急)

往電第八二号ニ関シ

二日午後不取敢「キャッスル」ヲ往訪シ本使ノ見込ニテハ米國側提議(一)乃至四ハ大体ニ於テ同意シ得ル事項ト思料スルモ(五)ニ至リテハ到底帝国政府ニ於テ同意シ難シト思考セラルル処試ニ御尋スル次第ナルカ右ハ素ヨリ滿州事件ヲ含ムヘシト考ヘラルルカ如何ト切出シタルニ之ニ対シ「キヤ」ハ右提議ハ昨日「スチムソン」ト「サイモン」ノ間ニ

長距離電話ニテ相談ノ上作成シタルモノニシテ英米両国共

ニ日本カ滿州事件ヲ第三者ノ仲介ニ委ヌルコトヲ好マサルコトハ承知シ居ルモ左リトテ満州除外ヲ明記スルカ如キハ到底不可能事ニテ又之ヲ上海事件ニ局限スルニ於テハ福州青島方面ノ問題モアリ彼此支障アルヘシトノ考ニテ広範ナル用語ヲ使用シタル次第ナリ此ノ際日本側ニ於テ右(五)ヲ端的ニ拒绝セラルルカ如キコトアリテハ支那側説得上ニモ困却スル次第ニ付(一)乃至四ト(五)トノ間ニハ自ラ緩急ヲ異ニスルモノアルニ顧ミ日本政府ニ於テ遲滞無ク(一)乃至四ヲ受諾セラレ(五)ニ対シテハ暫ク回答ヲ留保スルカ如キコト最モ適當ナルヘキカト同人限リノ思付シテ語レリ

本使ノ卑見ヲ以テスレハ此ノ際(五)ノ点ニ付押問答ヲ為シ之カ為時日ヲ遷延セシムルコトモナラハ支那側ノ態度益々硬化シ從テ急迫ナル事態ヲ生スルカ如キコト無キヤフ保シ難ク其ノ場合爆弾投下等ノ方法ニ依リ高圧手段ニ出ツルコトノ不利ナルヤ申ス迄モ無ク又若シ内地ヨリ陸兵ヲ繰出スコトモナラハ列國ハ關係地錯綜シタル場所柄故如何ナル事態ヲ招来スルヤモ計リ難ク誠ニ寒心ノ至ニ堪エサルニ付此ノ際出来得ル限り速ニ(一)乃至四ニ対シ受諾ヲ与ヘ(五)ニ付テハ即答困難ナル事情ヲ率直ニ説明シテ暫ク回答ヲ留保ス

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ル方然ルヘキカト思考ス中立地帯設定ニ付テハ其ノ範囲並  
警備方法等ニ付現地ノ事情ニ徴シ細目ノ相談ヲ必要トスヘ  
キ處上海発閣下宛電報第一九二号稟申ノ通此ノ際在留民全  
部ヲ共同租界ニ収容スルコトモ一方法ナルヘシト考ヘラレ  
シ滿州ニ於ケル我立場ヲ保全スルコトニ最善ノ努力ヲ払フ  
コト緊要ナルヘシト存ス右取急キ電稟ス  
英ニ転電シ英ヨリ仏、白、伊及寿府ヘ転電セシム

76 昭和7年2月(3日) 在英國澤田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海における陸兵出動および中立地域設置問  
題に關し英外相と会談について

第五一号(大至急、極秘)

(<sup>1</sup>貴電合第三三〇号ニ関シ

二日正午外務大臣ニ面会シ御訓令ノ旨ヲ伝ヘタル處同大臣  
ハ去月三十日芳沢大臣「リンドレイ」大使会見ニ関スル  
同大使ヨリノ報告ニテハ日本政府ハ陸兵ハ動カササル保障  
ヲ与ヘラレタルモノノ如キ印象ヲ与フルニ只今承レハ陸兵

如何ハ支那側カ停戦ヲ肯セサルヤ否ヤニ係ル次第ニテ出動  
ノ場合ニモ其目的ハ全然居留民保護及共同租界防備ノ為ナ  
ルニ付右様諒解アリタキ旨ヲ繰返シ先官憲ヲシテ斡旋セ  
シメラル好意ハ之ヲ多トスト述ヘ又之等官憲ニ借スニ時  
ヲ以テセヨトノ議ハ尤ニ付此点ハ政府ニ伝フヘシト答ヘタ  
リ

次テ外務大臣ハ中立地帯設置問題ニ言及シ之モ英國出先官  
憲ニ於テ現地事態鎮静ノ為憂慮致シ居ル處ナリト語レルニ

付本官ハ同問題ニ付自分ハ何等述フヘキ訓令ニハ接シ居ラ  
サルモ自分ノ解スル処ニテハ日本政府トシテモ該地帯設定  
ニ対シテハ主義上強イテ異議ナキカ如ク唯設定ノ態様殊ニ

日本軍撤退ノ後ニ第三国軍ヲ入ルル点ニ難色アリ即チ右撤  
退地域内ノ日本人保護ノ責任ヲ放棄シ之ヲ第三国ニ委ヌル  
コトハ承諾シ得サル所ナリ但シ右態様ノ問題ニ付テハ現地  
ニ於テ特ニ商議ノ余地アルニアラスマヤト思考スルモ事態急  
迫ノ唯今斯ル商議ニ手間取り居ルヘキニアラス先ツ支那軍  
ヲ現在ノ地点ヨリ撤退セシメ以テ日支軍此ノ上ノ衝突ノ危  
険ヲ除去スルコト最大ノ急務ナリト認メ居ル次第ナリト答  
ヘ置キタリ辞去ニ際シ外務大臣ハ日本軍艦ノ南京砲撃ニ付

出動考慮方余儀ナキニ至ルモ計ラレサル趣ノ處陸兵出動ト  
ナラハ事態全ク新タトナリ而モ國際的ニ益々混雜ト紛糾ト  
ヲ招クニ至ルヤニ憂慮セラレ從テ自分ハ右報道ヲ非常ナル  
痛心ヲ以テ聞クモノナリ上海時局收拾ノ為出先英國官憲ヲ  
シテ斡旋セシムルニ付テハ今迄ト雖其ノ出来得ル限リヲ尽  
サシメ居リ現ニ「イングラム」ハ支那政府當局ニ對シ此ノ  
上支那側ヨリ敵對行為ヲ執ルヘカラサルコトニ付強キ「ブ  
レシュアーノ」ヲ加ヘツツアル旨南京ヨリノ電報一時間程前  
ニ接到セル許リナリ但芳沢大臣ノ懇談及貴官ノ來談ニ鑑ミ  
更ニ上海ト言ハス必要ナル出先官憲ヲシテ事態悪化セサラ  
ン為此ノ上トモ充分努力セシムヘキモ其代リ支那側ヲシテ  
脅威挑発ノ原因ヲ除去セシムルニ対シ日本側ニ於テモ更ニ  
充分隱忍セラルコト望マシク殊ニ陸兵出動ニ就テハ例ヘ  
ハ四十八時間限ニ「エンバーク」セシムルコトナシト云フ  
カ如キ保障ヲ与ヘラレ以テ本件申入ヲナサルル關係國出先  
官憲(同大臣ハ米仏ニモ同様申入ヲナスヤフ確カメ本官然  
ル旨ヲ答ヘタリ)ニ対シ其斡旋ノ為借スニ時ヲ以テセラル  
ルコト絶対ニ必要ナリト思考スルニ付右本国政府ニ伝ヘラ  
レンコトヲ切望スル旨述ヘラレタルニ付本官ハ我陸兵出動

情報アリヤフ尋ネラレタルニ付今朝接到シタル處ナリトテ  
貴電合第三三三号所報ノ通話シタルニ同大臣ハ自分ハ未タ  
公報ニハ接セサルモ当地一般ニハ日本側ヨリ無警告ニ砲撃  
シタル様伝ヘラレ居リ何時モノ通り報道一致セサルハ遺憾  
ナリト述ヘラレタリ

米、松平大使、在欧各大使ニ転電セリ

77 昭和7年2月(3日) 在仏國栗山(茂)臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海の事態收拾に関する仏外務當局との会談  
について

第七一号(暗、至急)

(<sup>1</sup>貴電合第三三〇号ニ関シ

本官二日朝亞細亞局長ヲ往訪シ御訓令ノ趣旨ニ從ヒ右上海  
仏國官憲ニ対シ必要ナル訓令ヲ発スル様申入レタル處同局  
長ハ我方申出ハ一月三十一日貴大臣ヨリ「マルテル」大使  
ニ御申出ノ趣旨ト合致スルモノナリトテ右御申出ニ関スル  
同大使ヨリノ電報ヲ読ミ聞カセタルカ右日本側ノ「デマル  
シュ」ト行違ヒニ昨一日夜仏國政府ハ東京及南京兩政府ニ  
対シ四国代表者ヨリ夫々次ノ趣旨ノ友好的「サジエスシヨ

事項 1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ン」ヲ為ス様訓令ヲ發セリ即チ両政府トモ(+)強力行為  
(actes de violence)ヲ停止スル事(+)新タナル「モビリゼイ  
ショーン」ヲ為ササル事(+)新タナル敵対行(為)ノ準備ヲ為  
ササル事(+)日支両軍ノ接触スル地点ヨリ両軍カ撤退シテ中  
立地帯ヲ作リ右中立地帯ノ警察力ヲ日支両国人ヲ含マサル  
第三國人ニ依リ組織スル事(同局長ハ右ニ関シテハ曩ニ日  
本司令官ヨリ二糸ノ地帯案ヲ提議セル事アル由ナリト付言  
セリ)右ノ詳細ハ領事団ニ於テ之ヲ(為)サシムル事(+)右  
各項実現ノ際ハ日支間ニ於テ不戦条約及十二月十日理事会  
決議ニ基キ他ノ問題ヲ提起スルコト無ク直接交渉ヲ開始シ  
之ニ第三國ノ「オブザーバー」ヲ立合ハシメ又ハ参加セン  
ムル事トスト云フニ在リト述ヘタリ依テ本官ハ中立地帯設  
定セラル場合右地帯内ノ日本居留民ノ生命財産ニ付テハ  
第三國警察力カ其安全ヲ期スルヲ得ト思考セラルヤト問  
ヘルニ対シ右ハ宣伝ナリト答ヘ尚右訓令ヲ發セラレタル結  
果本官本日ノ申入ニ付テ更ニ新タナル訓令ヲ發スル必要無  
シト思考セラルヤト尋ネタルニ対シ御申出ト行違ニ前述  
ノ訓令ヲ發シタル事故右訓令ノ結果ヲ見ル事ト致シ度ク兎  
ニ角御申出ノ次第ハ外務大臣ニモ伝フ可シト答ヘタリ

政府ニ請訓スヘキ旨ノ訓令ヲ發シ居レリト述ヘタリ)貴電  
第二六七号声明後後段ノ如ク我海軍ノ行動ハ既往ニ於テ主  
要列国カ同地方ニ於テ執り来リタル実力行動ト同一ナリト  
ノ御趣旨ナリトセハ右ハ上海総領事ノ同市市長ニ対スル要  
求問題トハ直接関係無キモ同一性質ノ行動ニシテ我居留民  
ノ生命財産其他我権益ノ擁護ヲ目的トスル單獨行動ナリト  
解セラル就テハ右様心得置キ然ルヘキヤ為念此点御回電ヲ  
請フ

土ヲ除ク在欧各大使、連盟ニ転電セリ

78 昭和7年2月(3日) 在イタリア國吉田(茂)大使より  
(六三文書)  
貴電合第三三〇号御訓令ニ接シ不取敢本日午後外務次官ニ  
面談御訓令ノ趣旨ヲ述ヘ伊国政府ヨリ必要ナル(脱?)ヲ  
至急在上海官憲ニ与フル様取計方申入レタリ外務大臣ハ目  
下寿府ニ出張中ニ付即答ハ難カシト考ヘ(脱?)方針決定  
次第帝国政府ニ成ルヘク速ニ回答致シ度旨申添ヘ置キタリ

当地方ノ感情トシテハ上海事件ノ非違カ何レニアルヤ日本  
ノ行為ハ自衛ニ出ツルヤ等ノ問題ハ余リ念頭ニ入ラス今ヤ  
全上海カ交戦状態ニアリテ我兵ハ爆弾ヲ投シテ無事ノ支那  
人ヲ殺戮シ在留外人ハ兵火ノ下ニ其ノ安全ノ懸念ニ堪ヘサ  
ル状態ニアリト為シ自然我行為ニ対シ深キ反感ヲ挑発シ輿  
論ノ論調ハ日々険惡ヲ加ヘツツアリ我ニ取り真ニ由々敷事  
態ト痛心ニ堪ヘサル折柄貴電合第二九七号停戦及支那軍隊  
ヲ退却ニ至ラシムル様關係政府ラシテ尽力セシメラレント  
スル提議ハ伊国政府ノ如キニ対シテハ帝国政府ノ依頼ヲ受  
ケタル事自身既ニ相当ノ好感ヲ与ヘタルヤニ見受ケラル將  
又本提議ハ帝国政府ニ戰闘ノ意思無ク偶々交戦ノ事實ハ全  
ク自衛ニ出ツルモノナル事ヲ立証シ旁々甚タ機宜ノ処置ト  
考ヘラルニ付テハ是非トモ此ノ方針ヲ固守セラレ事端ヲ  
先ツ列国政府ト支那側トノ關係ニ転回セシメ以テ一時輿論  
ノ沈静ヲ待ツ事肝要ナリト存セラル當地見聞ノ儘上申ス  
連盟、支那、米ヘ転電シ英、仏、独ヘ暗送ス

79 昭和7年2月3日 鈴木(信太郎)長崎県知事より  
(四四文書)  
上海引揚居留民の長崎到着について

本官ハ余談トシテ日本政府ヨリノ公電ニ依レハ日本陸戦隊  
ノ執ル行動ハ工部局カ戒厳令ヲ布キタル結果関係國軍憲  
ノ共同計画ニ基クモノニシテ其一部ナリト自分ハ思考シ居  
リ日本政府ニ於テモ同様ノ事ト考ヘ居ル処「ルーター」其  
ノ他上海ヨリノ新聞電報ニ依レハ右ハ日本側ノ单独行為ナ  
ルカ如ク報シ居リテ意外トスル処ナリト言ヘルニ同局長ハ  
自分ノ承知スル処ニテハ日本司令官ハ各国指揮官中ノ首席  
ナルモ何故カ指揮官會議ノ議長ヲ辞退シタル由ニテ当初日  
本司令官カ同會議ノ議長トシテ共同指揮權ヲ握リ居リシナ  
ラハ共同動作ヲハ統ケ得テ今日ノ如キ事態ニ至ラサリンモ  
ノト思ハル共同動作(action commune)ハ二十八日ヲ以テ  
終リタルモノナリト述ヘタリ惟フニ反日思想ノ強烈ナルニ  
鑑ミ日本軍ト一体ノ行動ヲ為ス時ハ自然支那側ノ排外運動  
ヲ惹起スル虞アルヲ以テ列国ハ之ヲ避ケタルモノト認メラ  
ルル処成ル程共同計画ニ基キ各國軍隊カ其受持区域ノ警備  
ニ着キタルモ其受持区域ノ閑スル限り各國軍隊ノ自由行動  
ニ出ツル事ニ指揮官ノ間ニ詰合アリタル次第ナリヤ此点明  
カナラス(仏亞細亞局長ハ仏國側ハ二十八日仏指揮官ニ対  
シ仮令支那側ヨリ発砲スルモ直ニ応砲スル事無ク一応本国

長崎 2月3日後発  
本省 2月3日後着

右同文(通牒)

二日長崎丸ニテ上海避難民八百四十八名上陸ニ付庁員ヲン

テ救護ニ当ラシメ度シ九日迄ニ一万三、四千人引揚ノ見込  
尚鉄道省ニテ料金五割引トセリ

合第三五七号（暗、至急極秘）  
往電合第三一一一號ニ関連シ

二日英米仏三大使打連レテ來訪別電趣旨ノ「アイデンティ  
ク、ノート」ヲ提出シタルニ依リ本大臣ヨリ右「ノート」

ノ提案中第一項乃至第四項ハ受諾ノ余地アルモ第五項ニ至  
リテヘ到底之ヲ受諾スルヲ得ス惟フニ同項ハ満州問題ヲモ

含ムト思考スル処果シテ然ルヤト尋ネタルニ其ノ通りナリ

ト答ヘシヲ以テ本大臣ヨリ今回ノ上海事件中我僧侶ニ対ス

ル暴行事件ハ二十八日吳市長ノ我方要求受諾ニ依リテ一応

解決シ我方トシテハ支那側ノ約束履行如何ヲ注視スルノ地位ニ在ル次第ナルカ一方同日支那軍隊等ノ不穏ノ状態ニ顧

ミ工部局ニ於テ戒厳令ヲ布キタル結果我力陸戦隊ニ於テ其ノ受持区域ノ部署ニ就カントシタル際支那軍ノ砲撃ニ遭ヒ

之ニ応戦シ其後形勢益々悪化シ付近ノ支那軍引続キ集中シ

居ル為メ今日ノ逼迫セル事態ヲ生シ居ルモノナリ將又満州

事変ハ十二月十日ノ理事会決議ニ依リ處理方針決定シ居リ

テ上海事件トハ全然別個ノ問題ナリ然ルニ今満州問題ヲ茲ニ包含セシメタル理由了解スルニ苦ムト告ケタルニ英國大

80 昭和7年2月3日 芳沢外務大臣より  
在上海村井総領事宛（電報）

領事館員家族一時内地引揚方承認について

本省 2月3日後10時50分発

第三九号（暗）

上海總領事館員家族帰朝承認ノ件

貴電第<sup>(三七文書)</sup>一九〇号館員家族帰朝ノ件承認ス

芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田臨時代理大使他宛（電報）  
在英國沢田臨時代理大使他宛合第三五九号

上海停戦に関する英・米・仏三国の回文通牒

レハシテ

別電 同日芳沢外務大臣より在ジユネーヴ沢田臨時代理大使他宛（電報）  
在英國沢田臨時代理大使他宛合第三五九号

上海停戦に関する英・米・仏三国の回文通牒

レハシテ

別電ト共ニ支ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ

（編成） 本電報および別電は、米國、仏國、中國ニモ發電シ  
れた。

（別電）

合第三五九号 暗

使ハ右ハ成ル程一応尤モナルモ満州事件以来支那政局ハ一  
般ニ動搖シ暴行或ハ「ボイコット」等盛トナリタル次第ナ  
レハ滿州問題ノ解決ヲ一併促進スルニ非スンハ事態ノ靜謐  
ヲ期スルコトヲ得サル次第ナリト答ヘタルヲ以テ本大臣ヨ  
リ滿州事件ノ処理ニ付テハ前述ノ通り方針既ニ定マリ居ル  
ノミナラス本事件ノ解決ニ付中立國「オブザーバー」ノ援  
助ヲ受諾シ得サルハ帝國政府既定ノ方針ナリト答ヘタル上  
若シ第五項ヲ受諾シ得サレハ他ノ四項ハ廢案ニ帰スル次第  
ナリヤト反問シタルニ英國大使ハ必シモ然ラス第一項乃  
至第四項ハ第五項ニ比シ緊急ノ必要アルニ付別ニ取扱シ得  
ルモノト思考スト答ヘタル處米仏大使ハ本件提案ハ同時ニ  
支那側ニ対シテモ為サレタルモノナルヲ以テ此ノ際直ニ分  
割シ得ベキヤ否ヤ答フルヲ得スト述ヘタリ依リテ本大臣  
ヨリ前述ノ如ク自分トシテハ第一項乃至第四項ハ受諾ノ余  
地アリト存スルニ付海軍大臣等トモ協議ノ上明日中ニハ回  
答ノ運ヒニ至ルキモ第五項ニ至リテハ到底受諾ノ限リニ  
非スト答ヘ置キタリ

別電レ共ニ北平、奉天、廣東ニ転電セリ  
別電ト共ニ仏ヨリ英土ヲ除ク在歐各大使ニ転電アリタシ

for further hostilities.

(3) The withdrawal of both Japanese and Chinese

combatants from all points of mutual contact in the Shanghai area.

(4) The protection of the International Settlement by the establishment of neutral zones to divide the combatants. These zones to be policed by neutrals; arrangements to be set up by the Consular authorities.

(5) Upon the acceptance of these conditions prompt advances to be made in the negotiations to settle all outstanding controversies between the two nations in the spirit of the Pact of Paris and the Resolution of the Council of the League of Nations of December 9th without prior demand or reservations and with the aid of neutral observers or participants.

合第II六九号

上海事件 吳淞砲台攻撃

1、只今海軍省「二月一日午前十一時三十分吳淞砲台ハ出港中ノ第一十六駆逐隊ヲ砲撃シ同隊ヲ反撃中ナルガ更ニ航空戦隊及第三戰隊ヲ以テ之ヲ攻撃ス」トノ入電アリ

11、吳淞砲台（黃浦江ノ揚子江合流点ニアリ）ガ恣ニ砲撃ヲ加フルニ於テハ我艦船ノ上海出入ハ全ク不可能トナリ

上海ニ於ケル我居留民及海軍ノ運命危殆ニ瀕スルニ付我方トシテハ同砲台ガ既ニ我方ニ対シ砲撃ヲ開始セル以上之ニ徹底的弾圧ヲ加フルノ要アル次第ナリ

11、就テハ右二ノ次第ヲ貴任國當局ニ参考トシテ通報スルト共ニ必要ニ依リ二ノ趣旨ニ依リ説明ヲ加ヘラレ度英米ヨリ参考トシテ支那情報ト同様転電アリタシ

本電宛先 英、米、仏、伊

支那情報通リ参考トシテ転電セリ

82 昭和7年2月3日

芳沢外務大臣より  
在英國澤田臨時代理大使、在米國由  
淵大使他宛（電報）

昭和7年2月3日

芳沢外務大臣より  
在英國澤田臨時代理大使、在米國由  
淵大使他宛（電報）

本省 2月3日後5時発

號砲始動攻撃開始

82

### 上海における中立地域設定交渉決裂のいき

合第三七五号（暗）

（支那情報）

其ノ後ノ上海方面ノ状況左ノ如シ

1、一月卅一日午前英國總領事館ニ於テ日支当事者会同シ日支兩軍間ニ中間区域ヲ設クルコトニ一応ノ話合付キ同日午後列國ノ警備指揮官ヲ加ヘタル會議ヲ開ケリ然ルニ其際英國指揮官ヨリ右中立区域設定ノ為メ日本軍ハ其受持區域ニ属スル北四川路方面ノ租界「ヒクステンシア」ヲ第三國軍ノ警備ニ明ケ渡シ全部租界「プロペー」内ニ撤退スヘキコトヲ提案シタルカ本邦人ノ主要住宅地ニシテ陸戰隊本部モ存在スル同方面ヲ今日ノ事態ニ於テ第三國軍ノ手ニ委スルハ我方ノ到底承認シ難キ所ナルニ付遂ニ話合纏ラス現状ノ儘停戦シテ解決ヲ他日ニ残スロレナレリ

11、然ルニ不誠意極マル支那側ハ卅一日午後十一時頃ヨリ又々砲撃ヲ開始シ砲弾ハ西本願寺本堂外数ヶ所ニ落下シタルノミナラス我旗艦付近ノ江上ニ迄達スルノ状況ナリ

シテ以テ我軍司令部ニ於テハ此ノ儘ニテ推移センカ我軍

支那情報トシテ転電アリタシ

（編注） 本電報は、ソ連、シンガポール、マニラにも発電された。

84 昭和7年2月3日

芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ澤田連盟事務局長宛（電報）

## 上海事変に限り第十五条の適用承認について

第一九号（暗、至急）

貴電第三五号及往電第二八号ニ関シ

「ドラモンド」ノ談ニ依レハ事務局側ニテハ予テ我方ノ懸

念セル如ク規約第十五条ヲ満州事変ニモ及ボサンツルモ

ノト観測セラルル處右ノ不合理ナルコトハ前記往電第二八

号ニテ申進メアルニ加ヘ満州問題ニ付第十五条ヲ適用スル

コトハ滿蒙ニ対スル帝国上下一致ノ信念ヨリシテ理論ヲ超

越シ絶対ニ承服シ得サル所ナリ從テ若シ連盟側ニ於テ我方

ノ反対ヲ押切リ圧迫的態度ニ出ツルニ於テハ帝国政府トシ

テモ茲ニ重大ナル決意ヲ為ササルヲ得ス之ニ反シ連盟側カ

上海事件ニ限リ第十五条ノ適用ヲ為サントスルニ於テハ我

方ハ法律上ノ問題ヲ留保シタル上連盟側ノ措置振ヲ成ル可

ク好意ヲ以テ静觀スル考ナリ

就テハ貴理事ハ叙上ノ御含ヲ以テ至急「ド」及英仏独伊等

各國理事ニ会見ノ上篤ト説明ヲ試ミラレ結果詳細回電アリ

度シ

米、英、仏、伊、独ニ転電アリタシ

支、奉天、廣東、北平ニ転電シ支ヨリ南京へ転報セシム

ル

四、伊国目下軍艦ノミナルカ近ク二千名ノ陸兵ヲ一万噸級  
ノ巡洋艦ト共ニ當方面ニ派遣スルコトニ決定セル趣伝ヘラ  
ル

連盟ヨリ然ルヘク転電アリタシ

連盟、米、北平、奉天へ転電シ公使ヘ転報セリ

上海事変調査委員会の活動開始について

第二一五号（暗）

連盟沢田局長発閣下宛電報第三六号ニ関シ

三日領事団書記「ロング」ノ館員ニ内報セル處ニ依レハ連

盟ヨリノ電命ニヨリ成立セル上海事件調査委員会ハ既ニ本

次事件ニ関スル長文ノ報告書作成ヲ了シ不日寿府宛電報ス

ル筈ナルカ右委員会ハ英仏伊（委員長）三国総領事ヲ委員

トシ「ハース」ヲ事務総長トナシ米総領事モ「オブザーバー

ー」トシテ出席セル由ナリ尚当方情報ハ領事団書記ヲ通シ

供給シ居レリ

連盟ニ転電シ支ニ転報セリ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

85 昭和7年2月4日

在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海への各国軍艦増派状況について

上海 2月4日前後着

本省 2月4日後着

第二二三号（暗）

当地時局ニ付各國軍増派状況大体左ノ通り

一、米国亞細亞艦隊旗艦「ヒューストン」ハ陸戦隊三百名

登載駆逐艦三隻ヲ率ヒ三日午後三時到着又運送艦「ショーモント」ハ歩兵三十一連隊一千余名及海兵四百名登載馬尼

刺ヨリ五日到着ノ筈右ニ依リ陸兵總數ハ三千二百名海軍陸

戦隊計三千名在泊艦艇總數十七隻トナル由

二、英國巡洋艦「サアホーク」「ペリック」及「ケント」

登載陸兵及海兵ハ三日既ニ一部到着四日引続キ到着ノ筈ニ

テ右到着ノ上ハ陸兵合計三千四百名海兵合計三千二百名ト

ナル由

三、仏国目下陸兵（安南兵ヲ含ム）約一千五百名ナルカ近

ク東京及天津ヨリ増派セラルヘク合計陸兵二千四百名海兵

合計一千名トナル筈ナリ

87 昭和7年2月4日

在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海の事態收拾に関するスチムソン国務長官

との会談について

第九一号（暗、大至急）

三日午後四時國務長官ニ面会ノ際日本側ニ於テハ上海方面

ノ事態拡大ヲ防止スル為最善ノ努力ヲナシ居ルニ拘ラス反

対ニ支那側ニ於テハ攻撃ヲ執リ屢々我防禦線ニ対シ發砲ヲ

試ミ又三日午前ニハ吳淞砲台ヨリ我駆逐隊ニ対シ發砲ヲ

シ我ニ於テ已ムヲ得ス之ニ對シ攻撃ヲ加ヘタル次第ヲ御訓

令ノ趣旨ニ依リ伝フルト共ニ米國側提案第五項ニ對スル長

官ノ真意ヲ探リタルニ右ハ大統領ニ於テ最モ熱心ニ希望シ

居ラルル項目ニシテ米國側ニ於テ固ヨリ重キヲ置ク所ナリ

ト述ヘタルニ付本使ヨリ少クモ満州問題ノ関スル限り右解

決上第三者ノ仲介ヲ欲セサルコトハ予テ屢々長官ニ御話シ

置キタル通ニテ満州事件ハ既ニ十二月ノ理事会決議ニヨリ

処理方針決定シ米國政府ニ於テモ之ニ賛同セラレタル次第

ナルヲ以テ此際第三者ノ介入ニ依リ日支間ニ話合ヲ進ムル

カ如キ事ハ絶対ニ不可能ナルヲ以テ米國政府ニ於テ飽迄此

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ノ点ヲ主張セラルルニ於テハ話合円満ナル進行ヲ見ルコト困難ナルヘシト述ヘタルニ長官ハ上海ニ於テ今日ノ如キ事件ノ發生ヲ見ルニ至リタルハ畢竟スルニ日支両国ノ間ニ何等話合ノ遂行セサル結果ナルニ鑑ミ大統領ニ於テ何トカ此際日支両国間ニ交渉開始ノ切掛ヲ作ラレタキ考ナリ米国側ニ於テ重キヲ置クハ上海ニ於ケル事態ノ一刻モ速ニ改善ヲ見ルニ至ランコトニアリ只今「ティラー」司令官ヨリ受取リタル電報ニ依レハ日本側ニ於テ他國ノ受持区域ニ侵入シ又自警団ノ如キハ隨分乱暴ナル行動ニ出テ居ル趣ニテ米国側トシテハ極力自制ノ方針ヲ執リ居ルモ万ニモ何等力ノ行違ヲ生スルカ如キコトアラハ由々敷事態ヲ惹キ起スニ至ルヘク日本側ニ於テ此際遲滞ナク陸戦隊及自警団ノ行動ヲ取締ラル為最善ノ処置ヲ希望スル旨極メテ熱心ナル態度ヲ以テ説キタリ依テ本使ヨリ本日上海発電報ニ依レハ受持区域ノ整理着々進行シ居ル模様ニテ何レ遠カラス満足ナル結果ヲ見ルニ至ルヘシタルニ次テ長官ハ自分ノ手許ニ達シタル報道ニ依レハ日本側ニ於テハ陸兵派遣ノ為頻ニ準備ヲ進メ居ラル模様ナルカ如何ト訊ネタルニ付本使ヨリ我国ニ於テ未タ出兵スルコトニ決定シタル事実ナク米至ルヘク日本側ニ於テ此際遲滞ナク陸戦隊及自警団ノ行動ヲ取締ラル為最善ノ処置ヲ希望スル旨極メテ熱心ナル態度ヲ以テ説キタリ依テ本使ヨリ本日上海発電報ニ依レハ受持区域ノ整理着々進行シ居ル模様ニテ何レ遠カラス満足ナル結果ヲ見ルニ至ルヘシタルニ次テ長官ハ自分ノ手許ニ達シタル報道ニ依レハ日本側ニ於テハ陸兵派遣ノ為頻ニ準備ヲ進メ居ラル模様ナルカ如何ト訊ネタルニ付本使ヨリ我国ニ於テ未タ出兵スルコトニ決定シタル事実ナク米

90 昭和7年2月4日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）  
参考迄

護及極東ニ於ケル伊国ノ權益擁護ヲ目的トスルニ過キサル旨並ニ右陸戦隊ハ二百名ナル旨ヲ掲記シ居レリ

89 昭和7年2月4日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）  
第四三号（暗）  
上海總領事宛往電第三二号ニ関シ

一、貴地發外国新聞電報カ殆ト我方以外ノ「ソース」ヨリ

出テ居ル為我方ニ極メテ不利ナル影響ヲ見ツツアル処現  
在ノ我寡少ナル兵力ニ顧ミ我方占拠区域カ何時迄モ危険

ナル状態ニ曝サレ居リ從テ外国通信員カ我方ニ連絡ヲト  
ルコト極メテ困難ナルヘキ事情ハ十分諒察シ居ルモ右事

態ノ改善方此上トモ極力御配慮煩ハシ度ク希望ニ堪エス  
二、尚当地「ルーター」ヲシテ貴地「ルーター」ニ貴地海

軍ノ発表等ヲ入手シ居ルヤ照会セシメタル処三十一日大  
北電信内ノ連合社員事務所閉鎖以來貴地ニ於テ日本側ヨ

リ「ニュース」ヲ得ルコト不可能トナリ總領事館へ連絡ヲ試ミタルモ使ヒノ者ハ日本側警戒嚴重ナルニ怯エ「ガ  
ーデンブリッヂ」ヲ渡リ得サル旨返電アリタル趣ナリタシ

国当局ヨリ発表シタル日本兵ハ上海ニ向ケ出発シツツアリトノ報道ノ如キハ全ク事実無根ナリト告ケ陸兵ヲ派遣スル位ナラハ停戦斡旋ヲ列国ニ依頼スル訳モナキ次第ニテ要スルニ日本ノ欲スル処ハ此際隱忍事態ノ拡大ヲ防止スルニアル次第ナルヲ以テ米国側ニ於テモ我真意ヲ諒トシ問題ノ範囲ヲ當面ノ事柄ニ局限シ第五項ノ如キ実行不可能ナルコトヲ固執セラルルカ如キコトナカラソコトヲ希望スル旨篤ト申聞ケタルニ長官ハ差向米国ノ欲スル処ハ共同租界ニ於ケル米国ノ権益及米国人ノ生命財産ニ対スル安全ニアル次第ナルヲ以テ何ハ免モ角時局紛糾防止ノ為日本側ニ於テ最善ノ努力ヲ払ハル様帝国政府ヘ伝達アランコトヲ求メタリ英ニ転電シ英ヨリ仏及寿府連盟ヘ転電セシム

88 昭和7年2月4日 在イタリア國吉田大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）  
イタリア軍艦の上海派遣について  
第二七号

二日伊国政府ハ巡洋艦「トレント」及駆逐艦「エスペロ」ニ陸戦隊ヲ搭乗セシメ上海へ出動方命令シタル旨公表セリ当地各紙ハ右軍艦派遣ノ目的ハニ伊国民ノ生命財産ノ保

90 昭和7年2月4日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國沢田臨時代理大使他宛合第三九  
英米仏三国同文通牒に対する日本政府の回答  
別電 同日芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國沢田臨時代理大使他宛合第三九  
日本政府の回答文  
合第三九二号（暗）  
往電合第三五七号ニ関シ  
四日英米仏三国大使ノ來省ヲ求メ往電合第三九一号ノ趣旨ノ回答ヲ手交セリ其ノ際ノ会談追電ス  
仏ヨリ英、土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ  
支ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ

合第11九一號  
「普通情報」

本大臣ヨリ在本邦英、米、仏各大使宛1月四日付書翰ハ以テ回答ハタル帝国政府ノ所見左ノ通り

(スル別紙英文ノ通ニ)

1) Japanese forces will cease hostile acts if it is assured that Chinese forces would immediately and completely stop their menacing and disturbing activities. If on contrary Chinese (including both regulars and plain clothes soldiers) persist in such activities Japanese Government must reserve full freedom of action for its military forces.

2) In view of unreliability of Chinese in past and of gravity of present situation Japanese Government finds it impossible to renounce mobilization or preparations for hostilities.

3) Japanese Government has no objection to their Consul and Commander entering into negotiations for

agreement concerning separation of respective forces and establishment if necessary of neutral zone in district of Chapel.

4) While it is to be presumed that all outstanding controversies between Japan and China include Manchurian question Japanese Government regards this latter as entirely separate question from Shanghai affair and moreover it is covered by resolution of December 10 last. Furthermore it is settled policy of Japanese Government not to accept assistance of neutral observers or participants in settlement of question concerning Manchuria. For these reasons condition in paragraph 5 of Powers' note is not acceptable to Japanese Government.

(日本文回答)

以書翰路上致候陳者貴国政府ハ諦令ニ基キ本月11日付貴翰トスル上海事件ニ關スル提議御通報ニ相成リ敬承致候該提議ニ対スル帝国政府ノ所見左ノ通りナムニ付右ニ御承知相成度

(一) 支那軍ノ挑戦並ニ騒擾的行為ヲ即時且ツ完全ニ停止セシムルヲ要ス右ニシテ確保セラルルニ於テハ帝国軍ニ於テヤ戰闘行為ヲ中止ス

若シ支那側(正規軍タルト便衣隊タルトヲ問ベバ)ニシテ挑戦若クハ騒擾的行動アル場合帝国軍ノ取ルキ行動

ニ就テハ完全ニ其自由ヲ留保ベ

(二) 支那側從來ノ不信ナル行動並現在ノ重大ナル形勢ニ鑑ミ我方トシテハ動員又ハ戰闘ノ準備ヲ為ササルコトハ不可能ナリ

(三) 日支双方交戦者ノ離隔及必要ニ応シ閩北付近中立地帯ノ設定ニ関シ領事及軍隊指揮官ヲシテ取極ノ交渉ニ当ルシムルニ異存ナシ

(四) 所謂兩國間ニ現存スル一切ノ紛争中ニハ満州事件ヲ含ムモハト解セラルル処同事件ハ上海事件トハ全然別個ノ問題ナルノミナラス満州事件ニ付テハ客年十一月十日ノ理事会決議モ存シ居リ且又同事件ノ解決ニ付第三國監視者又ハ参与者ノ援助ヲ受諾シ得サルハ帝国政府ノ既定方針ナルヲ以テ旁々本項ハ我方ノ同意シ得サル所ナリ

芳沢外務大臣より  
在ジヨネレーヴ沢田連盟事務局長、在  
英國沢田臨時代理大使他宛(電報)

91 昭和7年2月4日 上海停戦問題ニ關スル三國大使との会談ニ付  
シテ

合第11九七号(暗)  
(九〇文書)

英國政府ノ回答ヲ手交セルニ對シ米國大使ハ日本政府ハ三  
國ノ提議五点ニ對シ一点ヲモ承諾セサルモノト認ムト述べ  
タルニ付本大臣ハ第五点ニ付テハ絶対ニ同意シ難キハ一昨  
日詳細説明セル通ナルカ他ノ四点ニ付テハ用語ニ於テ三國  
政府ノ提議ト異ルモノアルモ趣旨ニ於テ一致スルモノアリ

現ニ第二点及第四点ニ付テハ主義上同意ヲ表シ居ル次第ナ  
リト説明シタル処米國大使ハ往電合第11九一号ノ第三点中  
閩北付近トアルモ三國ノ提議ニハ上海地方ニ於ケル日支兩  
國ノ凡テノ接觸地点トアリテ独リ閩北地方ノミニアラスト  
述タルニ付本大臣ハ日本陸戰隊ノ受持区域ハ閩北地方ニ  
隣接セル關係上閩北付近トシタル迄ナリト答タル處其ノ  
他ノ地点ニ付テハ中立地帯ヲ設定セサル意向ナリヤト尋ネ

タルニ付東京ニ於テハ現地ノ状況不案内ノ点モアルニ付斯ノ如キ事項ハ現地ノ交渉ニ譲リ度キ意向ナリト答ヘタル処米国大使ハ更ニ三国提議ノ第四点中中立地帯ニ於ケル警察ハ中立国ニ於テ担任スルコトトナリ居ル処此ノ点ニ対シテハ日本政府ニ於テ異存アル次第ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ之亦現地ノ交渉ニ譲リ度キ意向ナリト答ヘ置キタリ  
仏国大使ハ日本カ陸軍ヲ上海ニ派遣シタルヤノ情報ニ接シタル処右ハ事実ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ上海ニ於ケル事態非常ナル危機ニ迫リ居リ居留民ハ非常ニ昂奮シ我陸戦隊モ数倍ノ支那軍及便衣隊ニ対スル連日ノ奮闘ニテ疲労シ居ル等ノ事情ノ為メ応援トシテ陸軍ヲ派遣スルコトニ決定シタルカ尚準備中ニテ未タ上船シタルニ非スト答ヘタル處英國大使ハ兵数ヲ尋ネタルニ付約一万余ナリト答ヘタル處一万以上非常ニ多数ナリヤト尋ネタルニ付一万以上相当數ナリト答ヘタル處ニケ師團位ト思ハルト述ヘタルニ付二ヶ師團ニ非ス約一ヶ師團ナリト答ヘ置タリ  
英大使ハ更ニ日本政府ノ回答ヲ見ルニ吾々ニ取り満足トハ思ハレス我々ノ政府ハ失望スルコトナラムト述ヘ米仏両大使モ直ニ同感ノ意ヲ表シタリ之ニ対シ本大臣ヨリ更ニ上海支ヨリ上海及南京へ転報アリ度

(編注) 本電報は、米国、仏国、中国、北平、奉天、廣東にも発電された。

92 昭和7年2月5日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

アースより上海事変調査委員会の状況通報について

上海 2月5日前發  
本省 2月5日後着

第九七号

国際連盟「アース」五日前本使ヲ來訪シ漏ラス処ニ依レハ上海事件調査委員会(英仏伊独四各総領事及諾威総領事不在ノ為同領事館首席館員)ハ二日非公式顔合セ四日第一回正式會議ヲ為シ二十八日以来ノ出来事ニ付第一回ノ報告ヲ作成スルコトトナリタルカ米國総領事モ本国政府ヨリ協力ノ訓令ヲ受ケ居レル筈ナレハ其ノ協力ノ程度ヲ確カメタル上報告作成ニ協力ヲ求ムル筈ナル趣ナリ  
本使ハ之ニ対シ日本側ノ言分ハ希望セラルニ於テハ何時ニテモ之ヲ提出スヘシト述ヘ置キタルカ尚此ノ機会ニ於テ

タルニ付東京ニ於テハ現地ノ状況不案内ノ点モアルニ付斯ノ如キ事項ハ現地ノ交渉ニ譲リ度キ意向ナリト答ヘタル処米国大使ハ更ニ三国提議ノ第四点中中立地帯ニ於ケル警察ハ中立国ニ於テ担任スルコトトナリ居ル処此ノ点ニ対シテハ日本政府ニ於テ異存アル次第ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ之亦現地ノ交渉ニ譲リ度キ意向ナリト答ヘ置キタリ  
仏国大使ハ日本カ陸軍ヲ上海ニ派遣シタルヤノ情報ニ接シタル処右ハ事実ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ上海ニ於ケル事態非常ナル危機ニ迫リ居リ居留民ハ非常ニ昂奮シ我陸戦隊モ数倍ノ支那軍及便衣隊ニ対スル連日ノ奮闘ニテ疲労シ居ル等ノ事情ノ為メ応援トシテ陸軍ヲ派遣スルコトニ決定シタルカ尚準備中ニテ未タ上船シタルニ非スト答ヘタル處英國大使ハ兵数ヲ尋ネタルニ付約一万余ナリト答ヘタル處一万以上非常ニ多数ナリヤト尋ネタルニ付一万以上相当數ナリト答ヘタル處ニケ師團位ト思ハルト述ヘタルニ付二ヶ師團ニ非ス約一ヶ師團ナリト答ヘ置タリ  
英大使ハ更ニ日本政府ノ回答ヲ見ルニ吾々ニ取り満足トハ思ハレス我々ノ政府ハ失望スルコトナラムト述ヘ米仏両大使モ直ニ同感ノ意ヲ表シタリ之ニ対シ本大臣ヨリ更ニ上海支ヨリ上海及南京へ転報アリ度

英大使ハ更ニ日本政府ノ回答ヲ見ルニ吾々ニ取り満足トハ思ハレス我々ノ政府ハ失望スルコトナラムト述ヘ米仏両大使モ直ニ同感ノ意ヲ表シタリ之ニ対シ本大臣ヨリ更ニ上海支ヨリ上海及南京へ転報アリ度

シテ三大使ハ日本艦隊カ吳淞砲台ヲ占領シタリトノ報道ハ事実ナリヤト尋ネタルニ付昨三日我駆逐艦三隻佐世保ニ帰還ノ目的ヲ以テ「ウーソン」通過ノ際砲台ヨリ砲撃ヲ受ケタル為之ニ応射シ沈黙セシメタルモ未タ之ヲ占領シタリトノ公報ニ接セスト答ヘ置キタリ  
尚三大使去ルニ臨ミ本大臣ヨリ我方回答転達ノ上本國ヨリ更ニ何等意思表示アラハ喜ンテ聞クヘキ旨述ヘタルニ三大使ハ之ヲ諒承シ居タリ  
仏ヨリ英土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

ニ於ケル日本居留民及陸戦隊ノ現状ヲ説明シ重光公使ヨリ殆ント毎日ノ如ク陸軍出兵ヲ請求シ来レル程ニ帝國政府ノ決定ハ止ムヲ得サル措置ナル旨並我方出兵ノ目的ハ我方受持区域ノ防禦及日本居留民ノ保護ノ為ニ外ナラスシテ支那ト開戦スルカ為ニ非ス從テ支那側ヨリ挑発セラレサル以上戦闘行為ニ出ツルコトナント答ヘタル処英大使ハ便衣隊ノ行動ハ自分モ承知セルカ例ハ二二人ノ便衣隊カ挑発行動ニ出テタリトテ直ニ日本側ニ於テ戦闘行為ニ出ツルヤト尋ネタルニ付本大臣ハ如此事ハ程度ノ問題ナリト答ヘ置キタリ

続テ三大使ハ日本艦隊カ吳淞砲台ヲ占領シタリトノ報道ハ事実ナリヤト尋ネタルニ付昨三日我駆逐艦三隻佐世保ニ帰還ノ目的ヲ以テ「ウーソン」通過ノ際砲台ヨリ砲撃ヲ受ケタル為之ニ応射シ沈黙セシメタルモ未タ之ヲ占領シタリトノ公報ニ接セスト答ヘ置キタリ  
尚三大使去ルニ臨ミ本大臣ヨリ我方回答転達ノ上本國ヨリ更ニ何等意思表示アラハ喜ンテ聞クヘキ旨述ヘタルニ三大使ハ之ヲ諒承シ居タリ  
仏ヨリ英土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度

第一〇二号(暗、至急)  
(<sup>1</sup>文書)  
 在英沢田臨時代理大使発大臣宛電報第五一号ニ関シ  
 英国外務大臣ノ意見ニ付左ノ通現地ノ感想申上ク  
 一、日本ハ今日迄成ルヘク誤解ナキ様期スル為英國等カ陸兵ヲ派遣シ居リ又現ニ陸兵ヲ増派シ居ルニ拘ラス海軍水兵ヲ上陸セシメ居レリ(在上海総領事発大臣宛電報第二  
 一三号参照)水兵ノ陸上派遣ハ数千(目下最大限ノ四千  
 余)ヲ以テ限リトス右水兵カ防禦陣地ニ於テ數万(二万

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

乃至三万）ノ支那陸兵ニ包囲ノ形トナリ漸ク飛行機ノ活動等ニ依リテ其ノ地位ヲ保持シツツアル際而モ數億ノ資本ト二万数千ノ居留民（統々帰国シツツアリ）ヲ保護セサルヘカラサル際ニ於テ之カ救護ノ為ニ陸兵ヲ派遣スルニ當リ何故日本ニ限り之ヲ為セハ「事態全ク新トナリ而モ國際的ニ益々混雜ト紛糾トヲ招クニ至ル」虞アリヤ右ハ現地ノ事態ニ通曉セサル錯誤ト思ハル尚又兵力過少ノ為起リ居ル上海現時ノ異常状態ハ増兵ニ依リテ速ニ之ヲ救濟シ各国人ノ極度ノ不安ヲ除キテコソ初メテ英米各国人ニ対シ申訳モ立チ又協力モ順調ニ行クコトト思考セラル陸兵派遣カ非常ニ日本ノ國際信用ヲ損スル様ニ思フハ支那ノ宣伝ニ迷ハサレ居ルモノト思ハル

一、「イングラム」等カ南京又ハ上海ニ於テ斡旋スルハ多トスルモ彼等ノ斡旋ナルモノハ要スルニ日本ノ承諾スル能ハサル滿州問題ヲモ編ミタル支那案ノ取次ヲナスニ過キス而シテ日本ノ承諾シ得ル案ニ付テ各国ノ意見纏ルトスルモ右ハ無政府状態タル支那政府ヲシテ如何ニンテ承諾セシメ且ツ実行セシムルコトヲ得ルヤ凡ヘテノ禍根ハ支那ノ混乱セル政局ニアル次第ニテ妥当ナル案ハ責

ナルヤニ存セラル  
以上ハ現状ヲ承知セサル白耳義理事ノ意見ニ過キサルモ当地ノ空氣甚タシク我ニ不利ナルモノアルコト累次電報ノ如ク洵ニ寒心ニ堪ヘサルニ付敢テ卑見ヲ呈スル次第ナリ右松平大使ト協議済  
支へ転電セリ

95 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）  
我軍の現警備区域確保および上海に中立地帯  
設定方について

佐藤大使ヨリ  
上海ニ於ケル状況益々急迫ヲ告ケツツアル次第ハ閣下宛重光公使発電報第六九号等ニ依リ承知シ居ルモ内地ヨリ愈陸兵ヲ派遣同地ニ上陸スル様ノコトアリテハ事件ノ解決ニ対シ一層重大ヲ來ササルヲ（保セ）スト推察セラル目下ノ状況ニテハ同公使ノ電報ニモ見ユル如ク日本カ一層踏込ミテ治安回復ニ努力セサルカ為ニ内外人ノ憤激ヲ來シ居ルカ如クナルモ同時ニ若シ出兵セルトセハ之亦各方面ヨリ侵略者トシテ非難セラルヘシト認メラル右ノ如キ状況ノ下ニ於テハ此際上海ニ於ケル各國総領事及司令官會議ニ対シ日本ハルモ同會議ニ於テ上海方面ノ一部ノ治安維持ヲ我ニ依頼スル意向アルニ於テハ日本ハ断然必要数ノ陸兵ヲ派遣シ其ノ責ニ当ルヘシトノ趣旨ヲ以テ交渉ヲ開始シ彼等ノ依頼ニ基キ日本側ニ於テ行動セラルコトシテハ如何ナルヘキヤ勿論出兵ト否トハ帝国自身自主的見地ヨリ決定セラルルモノナルヘキモ上海ニ於ケル各國間機微ノ事情ニ顧ミ出兵御決行予備的交渉トシテ前記ノ如キ手段ヲ採ラルルコト得策

任ヲ取り得サル彼等ノ承認スル能ハサル処ニテ現ニ二十日ノ協定市長ト日本總領事トノ間に成立セルニ不拘市長ノ「コントロール」出来サル廣東派タル第十九路軍ハ便衣隊ト共ニ日本軍ト衝突シタリ他国ノ斡旋ハ感謝スルモ之ニ一切ヲ委任シテ刻々危険ニ曝サレ居ル我多数ノ在留民及權益ヲ放棄スルコト能ハサル現地ノ急迫セル状況ナリ若シ地位ヲ替ヘ英國其他カ日本ノ今日ノ地位ニアリトセハ事態ハ極メテ明瞭ナルヘシ以上ノ事実ハ当地英國人ハヨク諒解シ居ルニ付何レハ本国ニ反響スヘク要スルニ日本ハ何等領土的野心ナキヲ明カニシ上海ノ日本人生命財産ノ救濟延イテ上海租界ノ安全ヲ計ルノ目的以外ニ他意ナキコトヲ高調シ其ナスヘキ所ヲ行ハサルヘカラサル様思考ス

連盟ヨリ在欧各大公使米ヨリ主要公館ヘ夫々転電アリ度シ連盟、米、英、北平、奉天、廣東ニ転電セリ

94 昭和7年2月5日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）  
上海への陸軍派遣の意義について

ナルヤニ存セラル  
以上ハ現状ヲ承知セサル白耳義理事ノ意見ニ過キサルモ当地ノ空氣甚タシク我ニ不利ナルモノアルコト累次電報ノ如ク洵ニ寒心ニ堪ヘサルニ付敢テ卑見ヲ呈スル次第ナリ右松平大使ト協議済  
支へ転電セリ

95 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）  
我軍の現警備区域確保および上海に中立地帯  
設定方について

第四六号 極秘  
往電合第三九一号ニ関シ

本件回答ニ関連シ外務及陸海軍協議ノ結果外務海軍兩大臣ヨリ夫々出先官憲ニ左記ノ通内訓ノコトトナレルニ付村井總領事及陸海軍側トモ連絡ノ上可然御措置アリ度尤モ左記会ニ就テハ極メテ機微ノ考量ヲ要スト存セラル為念  
(一)両軍ノ離隔ニ闕シテハ事変ノ非支那側ニ在ルヲ以テ支那軍ヲ引下クルヲ原則トシ我軍ハ少クモ現警備区域（大体

ニ於テ鉄道線路以東) ヲ確保シ居ルヲ要ス

(二) 永久ニ亘リ上海ノ平静ヲ期スル為必要ニ応シ上海市ノ周囲ニ一定ノ地域ヲ限り支那軍ノ駐屯乃至侵入セサル地域ヲ設定スルハ列国ノ齊シク希望スル所ナルヘキニ依リ適當ノ機会ヲ捉ヘ叙上ノ趣旨ヲ以テ可然列国ヲ誘導スルコトニ努ムルヲ要ス

土ヲ除ク在欧各大使在米大使寿府連盟北平奉天広東ニ転電セリ

訓令トシテ上海ニ転報アリタシ

96 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛 (電報)  
在上海事変調査委員会報告書入手方について

第四八号 (暗)

規約第十五条ニ依ル上海事件調査委員会報告書出来次第何トカ入手ノ上要領電報全文郵送アリ度

97 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在上海村井総領事宛 (電報)  
仏国政府の上海向け軍隊増派について

第四七号 (暗)

在本邦仏国大使ヨリ五日付公文ヲ以テ「仏租界防備ノ為約二個大隊ノ増派部隊ヲ天津及海防ヨリ上海ニ向ケ派遣スルニ付右部隊ノ吳淞通過方支障無キ様陸海軍當局ニ対シ可然通報アリタキ」旨申越セルニ付テハ右陸海軍側ニ移牒シ置キタルカ必要ニ応シ貴地ニ於テモ然ルヘク御措置相成度北平、天津ニ転電セリ

公使ヘ転報アレ

98 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ 沢田連盟事務局長、在英國澤田臨時代理大使他宛 (電報)  
十九路軍の撤退説得は困難との情報について

合第三九八号 (暗)

海軍側ニ達セル情報左ノ通何等御参考迄

当地現局面解決ノ鍵ハ我力陣地前第十九路軍ノ後退ニ在ルヲ思ヒ昨夜本日午後ノ二回青帮、杜張ト秘密ニ會見即<sup>(今マ)</sup>後方説得ニ努メシ處該軍ハ南京政府ニ依リ早晚解決サルル運命ニ在リ、ドノ道渢レルモノナラハ日本軍ト一戦シテ面目ヲ保チ度シトノ決意アリテ外部ヨリノ説得目下絶対不可能ナリ

支那側各界有力者躍起トナリ後退方斡旋シ居ルモ如何トモ為シ難シ

今後共努力スヘキモ望薄シトノ事ナリ

本件公使館トモ談合ノ上最後手段トシテ南京ニテ宋子文等ノ力ニテ同軍ノ後退運動ヲ勧ムル筈

寿府連盟ニ転電セリ

「バタビヤ」ヨリ新嘉坡ニ転電アリタシ

支那情報通り転電アリタシ  
(編注) 本電報は、米国、ソ連、バタビヤ、マニラにも発電された。

99 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在英國澤田臨時代理大使、在米国出淵大使他宛 (電報)  
上海、南京における日中両軍の戦闘状況について

合第四一三号  
其ノ後ノ上海及南京地方ノ状況左ノ如シ  
一、(1) 一日午後ヨリ二日朝ニ亘リ数回ニ及ブ支那軍ノ攻撃、便衣隊ノ襲来アリ(2)我方ニテハ予メ吳市長及英、

107

米、仏總領事ニ通報ノ上二日午前飛行機偵察ヲ行ヒタル処支那軍ノ攻撃ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ爆撃セリ右ハ新聞報ニヨリ大袈裟ニ伝ヘラレタルモ事実ハ前述ノ通りナリ(2)三日午後九時ヨリ支那側ハ野砲及迫撃砲ヲ以テ北四川路一帯ヲ攻撃シ日本高等女学校付近ニハ數発ノ砲弾落下セリ(2)四日午後零時三十分吳淞砲台ハ再我艦船ヲ砲撃セルヲ以テ我巡洋艦、駆逐艦及飛行機ヨリ反撃ヲ加ヘテ之ヲ沈黙セシメタリ(3)四日早朝ヨリ閩北一帯ノ支那軍ハ攻撃ヲ開始セルヲ以テ我陸戦隊ハ飛行機二台ト共ニ之ニ応戰シ相当激戦中ナリ

二、(1) 二日外国銀行「コンプラードール」ハ会合協議ノ結果營業困難ナルヲ以テ閉鎖方申合セタル趣ニテ外国銀行ハ三日ヨリ当分休業ノ筈(2)二日午後上海西部ノ野村木材店ハ付近ノ支那正規兵等ニ掠奪セラレ翌日放火焼失セリ  
三、南京ニ於テハ二日支那側ヨリ今後日清「ハルク」付近ハ特ニ警戒ヲ厳重ニスヘキ旨申入アリタルカ支那側ニテハ我方屢次ノ警告ニ拘ラス一日夜ノ事件ヲ発生シタルモ我方カ单ニ前面ノ山ニ向テ発砲スルニ止メ市街ニ対シ損害ヲ与ヘサリシニ付内心恐縮シ我方ノ態度ヲ徳トシ居ル

モノノ如ク二日領事館員カ警察庁長ト会見シ又憲兵司令  
谷正倫ト電話ノ際ニモ今後トモ我方領事ト密接ナル連絡  
方法ヲ講シ治安維持ニ努メタキ旨申述ヘ居レリ  
支那情報同様転電アリタシ

「バタビヤ」ヨリ新嘉坡ニ転電アリタシ

(編注) 本電報は、ソ連、バタビヤ、マニラにも発電された。

101 昭和7年2月(6日) 在上海重光公使より  
上海周辺全域に対する中立地帯設置構想について  
芳沢外務大臣宛(電報)

いて

第九?号(極秘)

貴電合第三九一號(文書)項ノ中立地帯ハ閘北方面トナリ居ルモ  
右ハ貴電合第三九七號(文書)ノ三国大使ニ対スル御説明ニ依リ当  
地ニ於ケル列國間ノ交渉ニテ伸縮ノ余地アルモノノ趣ナル  
処列國ヲ誘フニハ上海全部ノ周囲ニ中立地帯ヲ作ルノ案ニ  
テ進ム方可ナルヘシ今後ノ順序トシテハ

一、現地ノ衝突ヲ防止スルニハ支那兵ノ撤退ヲ強要スルノ

外ナク此ノ場合ハ事前ニ英、米等領事団、工部局等ニ充  
分通告シ租界境界線ヨリ二十哩以外ニ撤退ヲ求メ(他国  
ニシテ同意セサル場合ハ日本ノ受持区域ノ境界線ヨリト  
ス)其目的ヲ達シタル後ハ

二、右支那軍撤退区域ヲ中立地帯トシ(閘北付近ノミトス  
ルハ事態ニ適セサルノミナラス此ノ点ニ付テハ各國共同  
ノ目的ノ為租界全体ノ利益ヲモ考量スルヲ要ス)此ノ地  
帶ニハ成ルヘク工部局ノ警察ノ勢力ヲ入レシム(或ハ支

100 昭和7年2月5日 芳沢外務大臣より  
在イタリア国吉田大使宛(電報)

イタリア国の三国提案参加について

第一九号(暗)

(八文書)  
往電合第三五七號ニ関シ

本五日伊国大使永井次官ヲ來訪シ本国政府ヨリ右往電三国  
申入レニ伊国モ参加スヘキ旨口頭ヲ以テ申入レ方訓令ニ接  
シタル旨述ヘタルニ付次官ハ之ヲ了承スルト共ニ往電合第  
(九〇文書)  
三九一號回答ノ趣旨ヲ告ケ置キタル趣ナリ

土ヲ除ク在欧各大使及連盟ニ可然転報アリ度シ  
米、支、北平ニ転電セリ

那公安局ト共同セシム)右ノ考案ハ「フィサム」報告書

ノ趣旨ニ合シ且ツ當地列国人ノ等シク希望スル所ナリ支

那政局ノ混亂統ク間ハ右ハ支那人及外国人ノ利益ニ最モ

合スルモノト思ハル

三、将来当地在留民等ヨリ專管居留地ノ設置等ヲ要請スヘ

キモ初メヨリ之ヲ受付ケサルコトトシ上海付近ノ前記中

立地帶ニ於テ各國人カ安住ヲ得ル程度ヲ目的ノ限度トシ

我派遣陸兵モ右等目的ヲ達スルニ從ヒ撤退又ハ減兵ヲ為

シ且ツ当初ヨリ何等永久占領等ノ目的ナキヲ明カニスル

ヲ示スヘシ

四、事態ノ進ムニ連レ右我方ノ意向明瞭トナレハ今日支那

側ノ宣伝及我方現地ノ混雜ヨリ来ル不評判ハ自然ニ回復

シ得ヘク要ハ我方確固タル方針態度ヲ明ニスルニアリト

信ス

米、連盟、北平、奉天、廣東ニ転電シ上海ニ転報セリ

(在上海村井總領事より)

102 昭和7年2月(6日) 芳沢外務大臣宛(電報)

我軍の閘北方面警備配置状況等上海事変調査  
委員に説明について

トナレル由

公使ニ転報シ連盟、北平、奉天ニ転電セリ

第二四五号（暗）

貴電第四〇号ニ関シ

103 昭和7年2月6日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛（電報）

共同租界日本軍受持区域外より撤退について

第一二三九号（暗）

往電第二〇二号ニ関シ

我軍ノ受持区域外ニ於ケル我陸戦隊約四百名ハ四日午前中

ニ撤退ヲ完了セリ尚上海西部郊外滬杭鉄道（Shanghai Hangchow railway）線路外ニ在ル豊田紡績工場ニハ目下

陸戦隊約六十名ヲ配備シ居レルモ右ハ列国共同防備区域外

ナルニ付日本兵駐屯ハ何等問題無キ証ナリ為念

連盟米国ヨリ然ルヘク転電アリ度シ

米連盟支北平ヘ転電シ上海へ転報セリ

104 昭和7年2月6日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛（電報）

日本人居留民の引揚状況および動向について

上海 2月6日後発  
本省 2月6日後着

105 昭和7年2月6日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛（電報）

日本側警備区域内居住中国人の避難引揚状況

について

上海  
本省 2月6日後着

第二四八号（暗）

我警備区域内ニ住スル支那人ノ避難ヲ我方ニ於テ故意ニ阻止シ居ルヤノ誤解アル処当地支那要人等カ關係シ居ル慈善団体カ主トナリテ組織セル上海戦区難民臨時救済会カ赤十字社其他ト連絡シ四日人ヲ當館ニ派シ我方ノ救助ヲ求メ来リタルニ付海軍側トモ打合ノ上救護ニ赴ク自動車及事務員ニ対シ當館ヨリ証明書ヲ下付シ又我警察官ヲ同行セシム爾等出来得ルタケノ便宜ヲ供与シ居リ四日午後ヨリ貨物自動車數台ヲ以テ右避難民救出ヲ開始シタリ四日ハ百五十名、五日ハ二百六十名ヲ運ヒタルカ右事業ハ今後統々進行スル筈ナリ尚支那官憲ハ閘北一帯ノ支那人ニ引揚ヲ命令セルヤニテ共同租界内ヘノ引揚者ノミニテモ五日迄ニ約八万六千人ニ達シ又鉄道ニテ杭州ニ向ヒタルモノ七千五百人アリ汽船ニテ他地ヘ避難スルモノ相当多數ニ上リツツアリ

公使ヘ転報シ、北平ヘ転電セリ

往電第一三一号ニ関シ

便衣隊嫌疑者約六十五名ハ六日午後八時租界當局ニ引渡ヲ了セリ尚「インター・ナショナルコノミッショ」ハ諾威「アール」、英國「グラント・ジョンズ」、伊國「ロス」及工部局弁護士「ブライアン」ヲ以テ組織スルコトトナリ

連盟、米、英、北平、奉天ヘ転電シ公使ヘ転報セリ

107 昭和7年2月6日 在天津桑島（主計）總領事より

芳沢外務大臣宛（電報）

在天津フランス軍の上海移動について

天津 2月6日前発  
本省 2月6日後着

第五八号（暗）

大臣發上海宛電報第四七号ニ關シ

當地仏國軍ヨリハ八日一ヶ中隊十一日二ヶ中隊出發スル筈ニシテ右ノ結果當地ノ防備手薄トナルニ付共同動作ヲ必要

トルカ如キ事態發生ノ際ハ宜シク援助ヲ請フ旨仏司令官ヨリ軍部ニ挨拶アリタル由

上海ヨリ支へ転報アリタシ 北平、上海ヘ転電セリ

106 昭和7年2月6日 在上海村井總領事より

芳沢外務大臣宛（電報）

便衣隊容疑者の工部局引渡について

第一四九号（暗）

108 昭和 7 年 2 月 6 日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛 (電報)

中國軍撤退問題に関する米大使館ネビルの申

五七〇件

第五七号 暗、大至急

五日米国大使館「ネヴィル」永井次官ヲ來訪シ全ク自分一個ノ所存ニテ訪問シタル次第ナルカト前置キシタル後昨日芳沢大臣ハ「フォーブス」大使ニ対シ関係國ヨリ更ニ何等意思表示アレハ喜ンテ聴クヘキ旨ヲ述ベラレタリトノコトナルカ(往電合第三九七号末尾)目下ノ上海ノ事態ハ如何ニシテ解決スレハ宜シキ御考ナリヤト尋ネタルニ付次官ハ結局列國共同シテ支那軍ヲ撤退セシムル外ナシト思考スル旨ヲ告ケ置キタルニ「ネ」ハ六日更ニ次官ヲ來訪シ英米ノ上海ニ於ケル兵力モ増大スルニ付此際日本軍ハ鐵道線路以東ニ止リ支那軍ノミ若干後退セシメ其ノ間ニ第三國ノ軍隊ヲ入ルルコトニベル考案ハ如何ナルヘキヤト述ヘ居タル

趣ナルカ次テ同大使館筋ヨリ陸軍方面ニモ同様ノ趣旨ヲ以テ右考案ニ付國務省ニ請訓シ居リテハ時機ヲ失スルニ付上

奉天、北平、廣東、米、連盟及在歐(土ヲ除ク)各大使ニ  
訓令トシテ上海ニ転報アリ度  
転電セリ

109 昭和 7 年 2 月 6 日 谷(正之) 亞細亞局長より  
小磯(國昭) 陸軍省軍務局長、  
豊田(貞次郎) 海軍省軍務局長宛

上海仏国租界防衛のため軍隊増派に關し仏國

大使より申入れにについて

五七一機密合第三七五号

仏國增派隊ニ関シ仏國大使ヨリ申入ノ件

在本邦仏國大使ヨリ芳沢外務大臣宛一月五日付公文ヲ以テ別紙写ノ通申越シタルニ付可然御取計相成度尚ホ同日外務大臣ヨリ在上海村井總領事ニ対シ電報ヲ以テ在仏國大使申請越ノ趣旨ヲ通報スルト共ニ同總領事ニ於テヨ在上海陸海軍官憲ト連絡ノ上必要ニ応シ可然措置ス<sup>く</sup>キ並訓令ノ次第アリタルニ付右御含迄相成度此段申進ス

本信送付先 陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長

(別紙 仏國大使公文寫作成添付ノコト)

Ambassade  
de la  
République Française  
au  
Japon  
n° 7 Monsieur le Ministre,  
Tôkyô, le 5 février

Son Excellence  
Monsieur Yoshizawa  
Ministre des Affaires Etrangères  
etc., etc., etc.

110 昭和 7 年 2 月 7 日 在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛 (電報)

J'ai l'honneur de faire savoir à Votre Excellence que des renforts de troupes françaises, soit environ 2



事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

両国ニ提案セル次第ナリ右全部ハ日本政府ノ容ルル所トナラサリシモ日本政府ニ於テハ之ニ依リ全然我等ノ努力ヲ拒絶サレタルモノトハ思考セス今後モ引続キ協議スルコト肝要ト存スルニ付日本側ニ於テモ我等ノ努力ヲ一概ニ拒絶セラレサル様希望ス今回自分カ寿府ニ來リタルハ單ニ軍縮会議ニ参列スル為ノミナラス理事会ニ参列シ同会ヲシテ余リ事ヲ急カシメサランコトモ其目的ノ一ナリ現ニ今日ノ理事會ニ於テモ自分ハ公開會議ニ於テハ上海事件ニ触レシメサルコトニ努メ又今後モ成ルヘク之ヲ避ケシムル積リニテ次回ノ公開會議ノ期日モ定メサル様致シ置ケリ此ノ間ニ日本政府ト交渉ヲ統ケテ何トカ解決シ度キ意向ナルニ付此ノ点申述フレハ今回陸兵ヲ派遣セラルルコトニ付テハ吾人ハ大ニ憂慮シ居ルモノニテ其結果ハ如何ニ處理セラルル積リナリヤラ心配シ居レリト述ヘタルニ付本使ハ外相ノ理事会抑制等ニ関スル行為ハ從来共大ニ之ヲ多トシ居ル次第ナリ只巴里ニ於ケル御努力ニ依リ一先ツ段落ヲ見タルニ拘ラス今回理事会ノ態度一変シテ十五条ノ適用ニ決シタルコトハ日本国民ノ不満ニ考ヘ居ル処ニシテ又陸兵派遣ノ目的ハ現在ハ日本政府ニ於テモ諒トセラレンコトヲ希望ス只腹蔵ナク申述フレハ今回陸兵ヲ派遣セラルルコトニ付テハ吾人ハ大ニ憂慮シ居ルモノニテ其結果ハ如何ニ處理セラルル積リナリヤラ心配シ居レリト述ヘタルニ付本使ハ外相ノ理事会抑制等ニ関スル行為ハ從来共大ニ之ヲ多トシ居ル次第ナリ只巴里ニ於ケル御努力ニ依リ一先ツ段落ヲ見タルニ拘ラス今回理事会ノ態度一変シテ十五条ノ適用ニ決シタルコトハ日本国民ノ不満ニ考ヘ居ル処ニシテ又陸兵派遣ノ目的ハ現在ハ日本政府ニ於テモ諒トセラレンコトヲ希望ス只腹蔵ナク申述フレハ今回陸兵ヲ派遣セラルルコトニ付テハ吾人ハ大ニ憂慮シ居ルモノニテ其結果ハ如何ニ處理セラルル積リナリヤラ心配シ居レリト述ヘタルニ付本使ハ外相ノ理事会抑制等ニ関スル行為ハ從来共大ニ之ヲ多トシ居ル次第ナリ只巴里ニ於ケル御努力ニ依リ一先ツ段落ヲ見タルニ拘ラス今回理事会ノ態度一変シテ十五条ノ適用ニ決シタルコトハ日本国民ノ不満ニ考ヘ居ル処ニシテ又陸兵派遣ノ目的ハ現在

遣ノ目的ハ單ニ日本居民ノ生命財産ノ保護ヲ目的トシ之カ為ニハ租界ニ接スル地方ニアル支那軍ヲ撤退セシムヘク之カ実現ノ為ニハ他国官憲ト充分協調協力ヲ為ス積リナル旨声明セラルルニ於テハ大ニ効果アルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ右ハ政府ニ取次クコトヲ辭セサル旨述ヘタルカ「サ」ハ更ニ日本側ニ於テ吳淞砲台ヲ占領セラルルカ如キコトトモナラハ上海地方ニ大ナル利害關係及多数ノ居留民ヲ有スル英國其他ノ諸国ニテハ日本一國カ河口ノ要地ヲ扼シ居ル狀態ニ對シテ無関心ナル能ハサルヘシト述ヘタルニ付本使ハ若シ日本軍ニテ吳淞砲台ヲ占有スルコトアリトルモ右ハ同砲台ヨリ出入ノ我軍艦商船等ニ対シ危害ヲ加フルノ虞ヲ除去センカ為ニシテ長キ亘リ占領セントスルノ意思アル咎ナシ<sup>(6)</sup>滿州ニ於ケル事變ト上海衝突トハ全然其ノ性質ヲ異ニシ居リ上海事件ハ全ク予期セサル事變ニシテ斯ノ如キ状態ヲ一日モ速ニ片付クルコトカ滿州問題ノ解決ニモ有利ナルコトハ申ス迄モナキコトニ付此ノ点ハ充分御諒解アリ度キ旨ヲ述ヘ「サ」ハ重ネテ自分等ノ斡旋ハ全然好意ニ出ツルモノニシテ今後ト雖モ之ヲ繼續スルコトト致シ度シ万一日本側ニ於テ之ヲ打切りトセラルルカ如キコトア

114 昭和7年2月(8)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
連盟規約第十五条の満州不適用を条件に三国  
提案第五項承諾方について

第五五号(極秘)  
佐藤理事ヨリ

一、往電第五二号末段ニ関シ松平大使英外相会見ノ模様ハ  
往電第五四号ニ依リ詳細御承知ノ通ナルカ仏國側ニ就キ尋  
ねタル處ニ依レハ閣下並ニ英米仏三大使トノ御(会見)ニ  
関シテハ可成リ不安ニ満チタル感想ヲ得タルヤニ見受ケラ  
ル加之六日当地夕刊ニハ華盛頓「ハバス」通信トシテ米國  
政府ハ閣下ヨリ得タル日本政府ノ回答ニ対シ頗ル失望シ米  
國陸海軍方面ニテハ政府ノ協調的態度ニ非難ヲ加ヘツツア

リ只日本政府カ三國政府ニヨリ更ニ提出スル事アルヘキ勧告ニハ充分考慮ヲ加フヘシトノ一点ニ対シ多少ノ望ミヲ繫キ居ル由ノ電報掲載セラレアリ

二、現下ノ事情ニテハ累次拙電ノ通可成事件ノ拡大ヲ防止シ上海事件タケハ出来得ルタケ之ヲ解決シ且同方面ニ対シテハ能フ限り列国トノ協調ヲ円満ナラシムルヲ要スヘシト思考セラル

三、然ルニ今回上海方面ニ約一個師団ノ陸兵派遣ヲ御決定相成リタル趣ノ処右出兵カ往電(五四文書)第四三号ノ如ク上海外国人側ノ要請ニ基ク様仕向ケラレタリトスレハ問題ナキモ然ラサル場合ニハ少クトモ出兵前上海各領事及司令官等ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ我方自主的出兵ノ動機目的行為ノ範囲方法等ニ関シ詳細ノ説明ヲ為シ先方ノ了解ヲ取付ケ置ク事肝要ナルヘク然ラサレハ意外ノ誤解意見ノ衝突ヲ招クノ虞アルヤニ存セラル而シテ出兵ノ当初ヨリ不幸誤解ヲ生スルニ於テハ始終我方ニトリ邪魔ヲ為スニ至ルヘシ

四、日支紛争ニ関シテハ規約第十一条第十五条ノ適用ノ外往電第三九号英國理事カ理事會ニ於テ為シタル三項目ノ提案及英米仏大使閣下ニ提議セル五項目ノ提案アリ此等ハ

115 昭和7年2月(8日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

以上ハ往電第五一号「ドラモンド」考案ノ一部ヲ採入レタル意見ナル處該「ド」考案ハ「ド」自身之ヲ翻ヘスニ至レルコト往電第五二号ニテ申進メタル通りナルモ之ニ拘ハラス帝国政府ニ於テ進テ本項四ノ方策ヲ以テ臨マルハ一向差支ヘナク又現下ノ状況ニ於テ有効ナル打開策タルヘシト信ス何分ノ御取極ヲ乞フ

英、伊、仏、独、米、支へ転電セリ

### 英國対日輿論の悪化状況について

#### 第五六号(極秘)

松平大使ヨリ

上海事件以来英國ニ於ケル輿論カ我ニ対シ悪化セル事ハ在英代理大使發累次ノ電報ニ依リ御承知ノ通ナルカ從來頻々大使館ニ接到スル諸方面ヨリノ書翰等ハ概シテ友好的ノモノ多カリシ処昨今ハ之ニ反シ甚タシク我方ニ対シ憤慨ノ意ヲ漏ラシ来ルモノ多ク永年日本ニ滯在シ目下陸軍省ニアル「プリカジア、ピゴット」ノ如キ予テヨリ日英親交ノ為努力シ来リ我カ陸軍及大使館トモ密接ナル關係ヲ保チ居ルモノナルカ數日前沢田代理大使ヲ來訪シ自分ハ或ル「ハイ、オフィサー」ト話合ノ上來訪セル次第ナルカ客年十一月頃ヨリ日本ニ対シ良好ニ向ヒシ英國ノ輿論モ益々順調ニ進ミ自分等モ喜ヒ居リタル処先月二十九日以降日本飛行機カ無防禦地帶タル閘北ヲ爆撃シ无辜ノ人民ヲ殺害セル事ハ英米人ニ対シ大ナル反感ヲ与ヘ爾來輿論急転悪化シ敢テ英國上下トハ云ハサルモ少クトモ有識階級ノ同情ハ全ク日本ヲ去リ

(2)自分等ニ対シ如何ニ日本ヲ隕眞スルモノアリ同盟終止以来両

支那ト選ハサルニ非スヤト迄云フモノアリ同盟終止以来両

紛争ノ解決ニ關スル手続方法ニ付互ニ錯綜矛盾ヲ來シ居ル處帝国政府トシテハ此際上海問題ニ限り地方事件トシテ且國際關係ノ錯綜セル關係上難キヲ忍ヒテ三國政府提案第五項ヲ承諾シ第三國ノ「オブザーバー」ヲ加ヘテ之ヲ解決スヘク要スルニ上海ニ對シテハ第五項ヲ承諾スルノ襟度ヲ示シ之ヲ切掛トシテ滿州問題ニ對シテハ事實上第十五条ノ適用ヲ見サル様仕向ケ同問題ニ關スル十二月十日ノ理事会ノ決議ニテ進ミ徐ロニ解決ニ向ハシムルコト得策ナリト思考ス

三國政府ニ於テ進テ本項四ノ方策ヲ以テ臨マルハ一向差支ヘナク又現下ノ状況ニ於テ有効ナル打開策タルヘシト信ス何分ノ御取極ヲ乞フ

#### 理事の申入れについて

116 昭和7年2月8日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

#### 連盟上海調査委員会第一次報告に関する中国

本省 2月9日前着 ジュネーヴ 2月8日後発

第六二一號

支那理事ハ七日事務總長宛通告ヲ以テ上海調査委員第一回報告到着セル由ニ付直ニ理事会ヲ開キ右報告ヲ通告スルト共ニ之ニ付討議アリタキ旨要請シ且上海ニ於テハ今尚日本軍ノ爆撃及砲撃ニ依リ數千ノ無辜ノ臣民殺傷セラレ戰争ノ災禍ニ苦シミツツアルヲ以テ連盟ニ於テ急速措置ヲ講セスンハ益々人命財産ノ損失ヲ齊ラスヘク他ニ適當ノ手段ナクハ少ナクトモ本件報告ヲ速カニ世界ニ公表スルノ要アリト申入レタリ

117 昭和7年2月(8日) 在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変による仏國対日輿論の悪化について

第八六号(至急 極秘)

満州事件ハ匪賊討伐秩序維持若ハ條約尊重ノ名目ノ下ニ當方面ニ於ケル輿論ハ連盟憧憬者ヲ除キ大体ニ於テ我方行動ヲ是認シ居タル事閣下御承知ノ通ナル處上海事件勃発スルヤ同地ニ於ケル我權益擁護ノ行動ハ累ヲ他国人ノ生命財産ノ安固ニ及ホスニ至リタリトシ延テ支那側ノ宣伝ト相俟チテ我方意図ノ何処ニ在ルカラ疑惑フニ至リ新聞論調ハ固ヨリ

次ニ規約十五条適用ノ問題ナルカ同条ノ適用ノ如キモ左程憂慮セラルニ及ハス如何ニモ我方カ十五条適用ヲ恐ルル形跡アル為殊更「アグレッサ」ノ感ヲ呈シ輿論ノ心証ヲ惡シクスルモノト思考ス所謂重大ナル決意ハ満州事件ニ付連盟カ最終ノ決意ヲ為サントスル時ニテ充分ニシテ其間事態改善ノ余地モアルコト存セラル右當方面ヨリ見タル卑見申進ス

118 昭和7年2月8日 芳沢外務大臣より  
芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

中国軍撤退に関する共同動作を國務省承認について

第六一号 暗 大至急  
往電(○八文書) 第五七号ニ関シ

七日「ネヴィル」ヨリ永井次官ニ對シ本件考案ニ關シ國務省ニ電報シ置タル處同省ヨリ該案ハ至極結構ナルニ付在上海總領事ニ對シ之ニ依リ話合取纏方日本側ト協力スヘキ旨電訓シタル旨回電アリタリトノ内報アリタリ

奉天、北平、廣東、米、連盟及在欧各大使(土ヲ除ク)ニ  
転電セリ

119 昭和7年2月8日 芳沢外務大臣より  
在英國沢田臨時代理大使宛(電報)

上海への陸兵派遣に関する英外相の誤解訂正について

第二五号(暗)  
貴電(○八文書) 第五一号ニ関シ

英國外相ハ本大臣ニ於テ「リンドレー」大使ニ對シ帝國政府ハ陸兵ヲ動かササルヘキ旨ノ保障ヲ與ヘタルヤニ思考シ居ルモノノ如キ処右カ全然事實ニ反スルハ往電合(四五文書) 第三〇〇号ニ依ルモ明カナル次第ナルニ付適當ノ機会ニ可然英國側ノ誤解ヲ釈カルルト共ニ往電合第四二四号声明及在支公使發本大臣宛電報第一〇二号等ニ依リ我方陸兵派遣ノ事情ヲ説明シ置カレ度シ念ノ為

米及在欧各大使(土ヲ除ク)及壽府ニ転電アリタシ  
支、北平、奉天、廣東ニ転電シ、支ヲシテ南京、上海ニ転報セシメタリ

議会方面ノ情報ニ依ルモ我方ニ對スル輿論ハ殆ント悪化シタル模様ニテ(此ノ点ニ付過般知人タル政府要人ハ本官ニ内話セリ)我方ニ同情ヲ有シタルモノモ今次事件ニ付テハ満州事件ノ如ク一般ニ了解シ得ヘキ名目ヲ見出シ得サル次第ナリ

今日迄満州問題ヲ是認シ來リタル當國輿論ノ支持スラモ失フ事トナリテハ連盟ニ對スル我方立場ニモ至大ノ影響ヲ及ホスヘク満州問題ノ将来ニ付洵ニ寒心ニ堪ヘサル次第ナリ上海及支那側ノ實情ニ精通シ居ルヘキ我方トシテハ余リニ少數ノ陸戦隊ヲ以テ不幸ニシテ支那兵ノ挑発ニ応戦シ遂ニヨリ見ル時ハ陸軍派遣ノ如キ主要關係國及連盟首腦部ランテ充分我方ノ真意ヲ了解セシムルニ於テハ此際之ヲ敢行セラルモ亦已ムヲ得サルヘク目下ノ急務ハ二十八日ヨリ連日ニ亘ル閘北方面ニ於ケル彼我ノ交戦狀態延テハ租界ノ不安ヲ一掃スルニ在ルヘク其レカ為ニハ一日モ速ニ支那兵ヲ擊退シ次テ列國ト協調ノ上中立地帶ノ設定並ニ撤兵ノ断行ニ在リト思考ス要ハ上海地方ヲ速ニ鎮静セシメラルニ在リト存ス

120 昭和7年2月9日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使(電報)

## 上海事変調査委員会報告書の入手困難について

て

第一三三二号（暗）

貴電第四八号ニ関シ

（五六文書）

本件第一号報告書ハ七日夜寿府事務総長宛打電セラレタル  
趣ノ處之カ内密入手方予テ「ハース」ニ連絡シ置キタルカ  
同人ヨリノ内報ニ依レハ事務総長ハ目下ノ處右報告ヲ理事  
会ニ提出セサル意向ナルカ如シトノ事ニテ當方ニ送付出来  
サル旨頻リニ弁明シ居レリ尚七日同委員會議長タル伊国代  
理公使本使來訪ノ際ニモ之カ内密入手方話シタルモ発表ニ  
至ラサル間ハ求ニ応スル権限ナシトテ縷々陳弁シソノ内容  
ハ意見ニ亘ルモノハ一切記載シアラス唯事実ヲ「クロノロ  
ジカリ一」ニ記述セルモノナル旨説明シ居タリ  
連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

連盟事務局長、米ヘ転電シ上海へ転報セリ

121 昭和7年2月9日

在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

中国軍の撤退措置について

第一三九号（大至急）

右ノ順序ニテ大体從来御電報ノ趣旨ニ合スルト思考スルモ  
為念至急御回訓ヲ乞フ

英、米、連盟、北平、奉天、南京へ転電セリ

連盟ヨリ英及土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリタシ

（在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変調査委員会の第一次報告要領送付について

第一四九号（至急）

朝鮮事件ノ結果トシテ七月以来存在セル反日「ボイコット」ハ滿州ノ占領ニ依リ激化セラレ且嚴重ニ實行セラレリ

連盟発村井宛電報第二号ニ關シ本件報告「ハース」ヨリ入手セルニ付要領別電第一五〇号（省略）通リ電報ス写ハ九日発上  
海丸ニテ送付済  
(付記)

国際連盟上海委員会第一次報告（仮訳文）

一九三二年二月六日上海ニ於テ

上海及其付近ニ於ケル事件ヲ報告スヘク国際連盟事務総長ニ依ツテ任命セラレタル委員会ハ其独自ノ情報ヲ基礎トシテ下ノ如キ第一報告ヲ作成セリ本報告ハ個々ノ事實或ハ事実ノ敷衍ニ関シ将来補正ヲ要スルコトアルヘク又将来發生スヘキ事件ニ関スル報告ニ依リ続行セラルヘン委員会ハ亞

貴電第六六一號ニ關シ

（一八文書）

トハ其ノ内容ハ如何ナルモノナリヤ先ツ支那軍撤退要求ヲ成ルヘク列國共同ニテ為ス案ト心得テ可然哉「ネビル」ノ了解モ右ト異ラサルヤ（現地外ノ話合ニハ時々符合セサル事アリ）右撤退距離ハ累次往電ノ通り危険区域即チ着弾距離（最初ノ提案トシテハ約十五哩乃至二十哩）トシテ可ナルヤ而シテ右撤兵ノ後ノ措置ニ就テハ貴電ノ通り素ヨリ局面展開ヲ見テ處理ノ要アルモ大体ノ心得トシテハ支那軍撤

退後ハ我方モ共同防衛区域内又ハ旧地位ニ兵ヲ収ムル事ヲ承認シテ可ナルヘク右撤兵区域内ニハ支那ヲ含ム各國軍隊ヲ容レサル事トスヘク必要アラハ将来ハ右区域内ノ警備ハ工部局ハ支那側ト共同スルコトヲ提議シテ可ナルヘク且右撤兵完了ノ上ハ上海事件ノミハ地方的（南京政府代表者ヲ入レス地方代表者ノ意味）ニ各國代表者ト共ニ円卓會議ヲ開キテ討議スル事ノ差支ナキヤ

右ノ順序ニテ大体從来御電報ノ趣旨ニ合スルト思考スルモ為念至急御回訓ヲ乞フ

一月十八日日本人五名内若干名ハ仏教僧侶ナルカ開北ニア

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

(欄外注記2)

ル三友「タオル」工場前ヲ通行中支那人ニ襲撃セラレタリ  
襲撃者ノ若干ハ恐ラク最近組織セラレタル反日義勇団ノ団員ナルヘシ  
支那警官ノ来ルコト余リニ遙カリシヲ以テ犯人捕縛スルヲ  
得サリキ日本人二名ハ重傷ヲ負ヒ内一名ハ僧侶ニシテ其後傷ノ為ニ死亡セリ  
一月二十日日本青年自警團員約五十名ハ日本刀及棍棒ヲ携  
ヘ三友「タオル」工場ニ至リ建物ニ放火シ其帰路租界工部局警官ト衝突セリ支那人巡捕三名ハ負傷シ内一名ハ其後死亡セリ日本人三名ハ警官ノ為ニ射撃セラレ一名ハ其後死亡セリ

同日僧侶襲撃及日本皇帝ニ対スル新聞紙ノ不敬記事ニ対シ抗議ヲナス為日本居留民ノ大会ハ日本人俱樂部ニ開催セラレタリ会合ハ反日運動ノ完全ナル鎮圧ノ為軍艦及陸兵派遣方日本政府ニ求ムル決議ヲ採択セリ会衆ノ大半ハ右決議ヲ手交スル為先ツ日本總領事館ニ後海軍陸戰隊本部ニ赴クヘク出発セリ彼等ハ總領事ニ面会ノ後(總領事ハ彼等ニ対シ事件ヲ彼ノ手ニ残サレンコトヲ求メタリ)  
海軍本部ニ行ク途中共同租界警察ト衝突セリ、英人部長補

一名負傷セリ、日本官憲ハ遺憾ノ意ヲ表セリ、日本人七名ハ其ノ後日本官憲ニ自首シ日本國法律ニ従ヒ長崎ニ於テ裁判セラルヘク逮捕セラレタリ

同日午後日本總領事ハ一月十九日(一月十八日ノ誤ナルヘシ)發生セル事件ニ関シ左記要求ヲ大上海市長秘書長ニ提出セリ

(一)市長ノ正式謝罪

(二)犯人ノ即時捕縛

(三)慰藉料及治療代ノ支払

(四)排日運動ノ至急取締

(五)敵対感情反日暴動及擾乱ノ育成ニ当ル總テノ排日機関ノ即刻解散

同日後刻日本海軍司令官ハ新聞ニ大上海市長カ日本側ニ対シ満足ナル回答ヲ与ヘ遅滞ナク其ノ要求ヲ実行セサル場合ヲ考慮スルノ用意アルモ最後ノ二項ヲ應諾スルハ困難ナルヘキ旨ヲ通知セリ

(欄外注記1)

同日午後早々大上海市長ハ日本總領事ニ対シ日本側要求ヲ全然受諾セル回答ヲ手交セリ午後四時日本總領事ハ此回答受領ノ次第ヲ領事団ニ報告シ右回答ハ全ク満足ナルモノナリト云ヘリ彼ハ市長カ受諾セラレタル条件ヲ実行セシメ得ルヤ否ヤヲ見守ルコトカ残サレ居レリト付言シ併シ要求ハ既ニ大部分履行セラレ居リ現在ノ処何等行動ハ採ラレサルヘキ旨ヲ付言セリ外交上ノ事態ニ於ケル此変化ニモ拘ハラス日本海軍當局ハ何時ニテモ行動ヲ起スヘク決セリト一般ニ信セラレタリ支那側ハ其約束ヲ履行スル意向ナクシテ日本側ヲ襲撃スヘク準備シツツアリタリノ煽動的声明カ日本側ルヘキ旨ヲ市長ニ通知セリ

界當局及大上海市公安局ニ送付セラレタリ  
一月二十四日日本海軍増援隊ハ上海沖ニ到着セリ閘北ニ於ケル支那軍隊増援セラレツツアリトノ風評亦行ハレタリ同日日本總領事ハ大上海市長ニ対シ回答カ適當ナル時間内ニ到着セサルカ或ハ不満足ナルニ於テハ日本政府ハ事態ノ要求スルカ如キ行動ヲ採ルノ権利ヲ留保スル旨ヲ伝ヘタリ此ノ間ニ市長ハ衝突ヲ避クル為能フル限リノ讓歩フナス意向ヲ第三国人ニ表明セルカ反日会ヲ閉鎖シ又反日ナル語ハ日本人ニヨリ国民的侮辱ヲ意味スルモノナルヲ以テ他ノ団体ノ名称ヨリ除去スルコトニ同意セラレル様支那地方団体ノ指導者ノ説得ニ努力シツツアリタリ其ノ結果一月二十七日ヨリ二十八日ニ至ル夜間支那官憲ニ依リ抗日会ハ閉鎖セラレ各所ノ事務所ハ封鎖セラレタリ

一月二十五日日本總領事ハ特定期限ヲ付セサルモ一月二十八日迄ニ全般的回答ヲ期待スル旨大上海市長ニ通知セリ翌日午後六時迄ニ得サルヘカラス然ラサルトキハ日本側ハ右要求ヲ實行スルニ必要ナリト考フル如何ナル手段ヲモ採

「プレス・ユニオン」通信ニ現レツツアリタリ又日本側要員ナルヘシ

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

(欄外注記5)

求ヲ市長カ受諾セルコトニ対シ支那民衆中ニ暴動起ルヘシト予想セラレタリ之等考慮ハ防備委員会ノ目ニハ戒厳状態ハ強行セラルヘキコト望マシキコトナリトセラレタリ依テ戒厳状態ハ午後四時ヨリ実行セラレタリ共同租界防備委員会ハ駐屯軍指揮官、上海市参事会議長、上海市警視総監及上海義勇軍指揮官ニ依リ組織セラレ先任駐屯軍指揮官ニ依シテ主宰セラルモノナルトコロ各指揮官ニ対シ其防備区域ニ於テ彼等カ採ルコトヲ予期セラル個々ノ手段ニ対シテ命令ヲ与フル權限ヲ有ストハ認メラレ居ラサルコトニ注意スルヲ要ス租界防備委員会ハ單ニ区域ヲ分轄シ各国指揮官ニ依ソテ採ラル行動ヲ同等ニ補佐シ防備ノ大綱ヲ定ムモノナリ

(欄外注記3)

英國及米国軍隊ハ戒嚴状態布告ノ後直チニ各自区域ヲ占拠スヘク出発シタリ伊太利軍隊ハ二十九日其区域ヲ占拠セリ日本区域ハ租界東北一帯ノ地域ヨリ成リ西ハ北河南路ニ依リ境セラレ又上海防備委員会ノ見解ニ依レハ租界外区域モ含ミ西ハ北江西路及吳淞鐵道線路ニ依リ北ハ虹口公園北境界線ニ依リ東ハ虹口公園東北端ト哈爾賓路警察署ヲ大体ニ於テ連ヌル線ニ於テ境セラル

セル予想セラルル義務ノ正当ナル遂行ノ為必要ト思考セラルルアラユル行動カ採ラルヘキ旨ヲ述ヘタリ  
日本海軍及武装セル市民ハ海軍陸戦隊本部ニ於テ動員シ北四川路ヲ前進シ西方老撲子路ニ至リ北河南路迄進出シ、其間彼等ノ通過セル小路ノ入口毎ニ部隊ヲ残シ置キタリ而シテ夜半特定信号ノ下ニ此等部隊ハ全部鐵道ニ向テ北方及西方ニ前進セリ装甲車ヲ伴ヘル海兵約百名ヨリナル最終部隊ハ河南路終点ニ於テ支那地域ト租界トヲ区画スル門ヲ通過セントセルモ門ノ位置スル地域ニ在ル上海義勇團ノタメニ阻止セラレタリ該門ハ鉄道停車場ニ通ス

支那軍事当局ハ其軍隊ヲ撤退スヘキ日本司令官ノ要求ニ応セサリキ然シ乍ラ支那当局カ此要求ニ応セント決心セリト

スルモ恐ラク該地方ニ於ケル支那軍隊ノ現実撤退ヲ手配スルコトハ短時間ニ於テ彼等ノ自由ニナシ得ルコトハ不可能ナリシナラント思ハル又日本海軍当局ニ依テ採ラレタル手

段カ大ナル軍事行動ノ一部ヲナスマノナリト支那当局ヲシテ解スルニ至ラシムヘキ緊張モ亦數日來ノ事態ニ依テ釀成セラレタルコトヲ考慮スルヲ要ス日本海兵ハ続イテ支那正規兵ノ抵抗ニ遭遇セリ彼等ハ宝興路南部ノ鐵道線路迄ハ到

(欄外注記4) 午後十一時ニ於テ日本司令官ハ二個ノ宣言ヲ發布シ其写ハ市長ニ通達セラレタルモ市長ハ右宣言書ヲ午後十一時二十分ニ受領セリト宣言書ノ一ハ戒嚴状態ニ言及シ

帝国海軍ハ日本人民ノ多数居住セル閘北ニ於ケル事態ニ関シ極度ノ不安ヲ感セラル以テ其地方ニ於ケル法律及秩序ノ維持ノタメニ此ノ区域ニ軍隊ヲ派遣スルニ決定セリト云ヘリ之等ノ事態ニ於テ彼ハ支那当局カ閘北ニ在ル支那軍隊ヲ鐵道ノ西ニ速カニ引揚ケ此地方ニ於ケル凡テノ敵対防備ヲ撤去スルコトヲ希望セリ此ノ宣言ハ租界ニ於ケル秩序維持ノタメ日本側ニ与ヘラレタル地方ニ於テハ戒嚴状態ニ関連

(欄外注記6)(欄外注記7)

達スルニ成功シタルカ該地点ノ南部ノ線路ニハ達スルニ至ラサリシモノノ如ク而シテ彼等ノ戰線ハ鐵道線路東ヲ走リ結局北河南路及北四川路間ノ租界境界線ニ至レリ日本側ハ停車場ヨリ出テ吳淞線ヲ巡警セル支那装甲列車ニ依テ惱マサレタリ其ノ後装甲列車ハ支那軍隊ニ依テ堅固ニ防備セラル停車場ニ逃避セリ此処ニ於テ一月二十九日日本側ハ飛行機ヲ以テ停車場ヲ爆撃シ装甲列車ヲ破壊セリ寶興路ニ沿ヘル他ノ建物モ燒夷爆弾ニ依リ放火セラレタリ然シテ右ハ日本側戰線ヲ瞰下スル有利地點ヲ破壊スヘク慎重ニナサレタリト一般ニ信セラル死傷者ハ判明セサルモ多数ノ死者ヲ出セリト信セラル

大上海市長ハ日本側行動ニ対スル抗議ヲ領事團ニ提起セリ日本当局ハ其行動ハ彼等ノナシ而シテ受諾セラレタル要求ニ関連セルモノニ非ラスシテ彼等カ占拠セルコトニ決セル地域ノ一部ニ住居スル日本人民ノ保護ノ必要ニ基クモノナリト主張セリ彼等ハ又彼等ノ行動（右ハ武力抵抗ニ遭遇シ而シテ其行動ニ際シテハ彼等ハ充分ナル責任ヲ取レリ）ハ共同租界防備計画ニ依リ必要ノ生セル場合ニ許容セラレタル限度内ニ在ルコトヲ主張セリ戰闘ハ二十九日ノ大部分中

虹口公園地方ニハ多数ノ日本人住居ス公園自体及北四川路及「ディクスウェル・ロード」ハ租界外ト雖モ上海市参事会ノ所有ニシテ通常市参事会ニ依ソテ警備セラル支那側当局ハ午後十一時事件発生ニ先立チ此租界外日本区域ニ関シ何等通報ヲ受ケサリシモノノ如シ、日本側ハ戒嚴状態カ実行セラレタル時ニ於テハ租界外区域ヲ占拠スヘキ何等ノ企図モナサリキ然レトモ日本海兵ハ常に其人民保護ノ為此区域ニ於ケル上記市道路ニ沿ヒテ駐紮所ヲ有シ其陸戰隊本部ハ此空端ノ終点ニ位スルコトヲ理解スルヲ要ス

及「ディクスウェル・ロード」ハ租界外ト雖モ上海市参事会ノ所有ニシテ通常市参事会ニ依ソテ警備セラル支那側当局ハ午後十一時事件発生ニ先立チ此租界外日本区域ニ関シ何等通報ヲ受ケサリシモノノ如シ、日本側ハ戒嚴状態カ実行セラレタル時ニ於テハ租界外区域ヲ占拠スヘキ何等ノ企図モナサリキ然レトモ日本海兵ハ常に其人民保護ノ為此区域ニ於ケル上記市道路ニ沿ヒテ駐紮所ヲ有シ其陸戰隊本部ハ此空端ノ終点ニ位スルコトヲ理解スルヲ要ス

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

（欄外注記8） 繼続セラレタリ一十九日午後大上海市長ノ要求ニ因リ英國及米国總領事ハ停戦ヲ取極ムルニ成功セリ右停戦ハ二十九日午後八時ヨリ開始セリ本休戦ハ此ノ上発砲スルコトヲ差控フル協定ナリ

（欄外注記5） 一月三十一日日本總領事日本海軍司令官大上海市長及支那地方軍隊指揮官ニ依テ開催セラレタル会合ニ於テ米及英國總領事立合ノ上日本總領事ハ日本軍隊カ其突端ヨリ撤退セラルヘキ提案ヲ政府ニ報告スヘキコトカ協定セラレタリ其回答カ好マシカラサルモノナリトスルモ支那側ハ政府ニ通報スヘク而シテ最終回答カ到達スル迄彼等ハ最初ニ発砲セラルニアラサレハ発砲セサルヘキコトヲ協定セリ

（欄外注記1） 「チアノ」議長（署名）

（欄外注記2） 海軍 「必要ナル手段」トハ我方ニテ抗日会ニアラス  
ヲ閉鎖スル等ノ手段ヲ採ルコトヲ意味シ支那<sup>(支那)</sup>攻撃スルノ意

（欄外注記3） 日本側ノ後レシハ北四川路付近ノ閘北避難民ノ雜沓鎮マラサリン為日本ノ警備区域カ支那軍ノ防備陣地ニ近キ為支那側ニ（脱文）等ノ為遅ル

（欄外注記4） 海軍 午後八時三十分ヲ正トス村井總領事ハ

（欄外注記7） 海軍 停車場ヲ攻撃セルニアラス停車場ニ占ラルヘキ提案ヲ政府ニ報告スヘキコトカ協定セラレタリ其回答カ好マシカラサルモノナリトスルモ支那側ハ政府ニ通報スヘク而シテ最終回答カ到達スル迄彼等ハ最初ニ発砲セラルニアラサレハ発砲セサルヘキコトヲ協定セリ

（欄外注記8） 海軍 吳市長カ我要求ヲ承認セル結果僧侶事件トハ全然別ナリ

（欄外注記5） 二十九日午前零時陸戦隊本部ヲ出テタル部隊ハ門前ニ於テ直ニ向側ノ家ヨリ便衣隊ニ狙撃セラル待伏ノ証拠ナリ

（欄外注記6） 海軍 凡テ支那軍ノ陣地構築等ノ為ナリ責ハ宝興路ノ建物ニハ部兵三千アリ

（欄外注記7） 支那側ニ帰ス

（欄外注記8） 支那側ニ帰ス

（欄外注記5） 軍隊ノ撤退ヲ吳市長ニ申入レタリ  
（欄外注記6） 軍隊ノ撤退ヲ吳市長ニ申入レタリ  
（欄外注記7） 海軍 停車場ヲ攻撃セルニアラス停車場ニ占  
（欄外注記8） 海軍 吳市長カ我要求ヲ承認セル結果僧侶事件トハ全然別ナリ

（欄外注記5） 二十九日午前零時陸戦隊本部ヲ出テタル部隊ハ門前ニ於テ直ニ向側ノ家ヨリ便衣隊ニ狙撃セラル待伏ノ証拠ナリ

（欄外注記6） 海軍 凡テ支那軍ノ陣地構築等ノ為ナリ責ハ宝興路ノ建物ニハ部兵三千アリ

（欄外注記7） 支那側ニ帰ス

（欄外注記8） 支那側ニ帰ス

124 昭和7年2月(9日) 在仏國栗山臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海停戦問題に関する仮外務省の意向について

第八九号（暗）

（〇八文書） 第五七号ノ件ニ言及シタル処「キャッスル」ハ本件ノ経過ハ「フォーブス」ヨリノ電報ニ依リ承知セリ米国政府トシテハ本件ハ全然地方的ノ問題ト了解シ居リ苟モ何等カノ方法ニ依リ上海方面ノ事態改善ニ貢献シ得ル場合ニハ之ニ協力スヘシトノ趣旨ヲ以テ上海總領事ニ訓令ヲ發シタリト答ヘタリ右会談後國務長官ニ面会上海方面ノ状況ニ就キ語リタル際先方ヨリ進ンテ日本側ニ於テ列国側提議ノ一部ヲ拒絶セラレタル事ハ米国政府ノ遺憾トスル処ニテ差向キ此ノ上重ネテ提議ヲ為ス考ナシ最近東京ニ於テ「ネビル」ヨリ外務当局ニ申出テタル事ハ米国ヨリノ再提議タル性質ノモノニ非シテ全ク東京大使館限リノ「サゼスシヨン」ニ過キサルニ付此ノ点誤解ナキ様願ヒ度ント特ニ念ヲ押シタリ寿府、連盟及在支公使ヘ転電シ連盟ヨリ英、仏、伊ヘ転電セシム

（〇八文書） 貴電合第四二七号ニ関シ

（〇八文書） 七日ノ帝国政府声明ハ同日不取敢当国外務省ニ通報シ置キタルカ八日更ニ本官亞細亞局長ヲ往訪シ我方ノ上海陸兵派遣ノ行為ニ付誤解ナキ様雑ト説明ヲ加ヘタルカ其ノ際本官ヨリ二月四日英米仏各大使ニ与ヘタル帝国政府ノ回答ニ付仏國側ニテハ失望シ居ラルヤニ聞キ及ヘリ（佐藤理事発貴大臣宛電報第五五号参照）ト云ヘル處同局長ハソレハ仏國政府ノミナラス他国政府モ亦同様ニシテ上海陸兵派遣ノ真意カ果シテ七日ノ日本政府声明ノ通リトスレハ日本政府トシテハ三国提議ノ第二点ハ受諾セラレ得ヘカリシモノニシテ唯第二点受諾ト同時ニ上海ノ陸戦隊数ヲ交替スル必要アリ等ノ留保ヲナシ置カルレハ足リシモノナリト思ハルト述ヘ（本官ハ之ニ対シ結局「フォミニラ」ノ問題ニ帰ス可ク日本政府カ正直過キルヲ證明スル訳ナリト弁明シ置キタリ）自分ハ友人トシテ忠言シタキハ此際關係國ニ安心ヲ与フルカ為ニハ日本ノ新司令官カ速ニ関係國領事各國司令官ヲ会合シテ所謂中立地帶ニ関シ地図ニ就キテ商議ヲ始ムル事ナリ中立地帶ニ付テハ支那ノ反対アルヘキモ单ニ理論上ノモノニ過キストモ結構ニテ兎ニ角関係國官憲ト速ニ協議

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ニ入ル事カ必要ナリト述ヘタリ依テ本官ハ野村司令官ハ相当広キ権限ヲ有シ居リ又既ニ関係国ノ官憲ト接触ヲ開始セシモノト思考スル旨ヲ述ヘ日本政府ハ上海ニ増兵スルモ三国提議ヲ全部拒否シタル次第ニアラス関係国ト密接ナル協定ヲナスヘキ事勿論ナリ就テハ関係国ノ間ニハ其ノ後日本ノ回答ニ対シ意見ノ交換アリシヤト尋ネタルニ同局長ハ未タ其運ヒニ至ラスト答ヘタリ

米、英、伊、支、連盟事務局長へ転電セリ

ニ入ル事カ必要ナリト述ヘタリ依テ本官ハ野村司令官ハ相当広キ権限ヲ有シ居リ又既ニ関係国ノ官憲ト接触ヲ開始セシモノト思考スル旨ヲ述ヘ日本政府ハ上海ニ増兵スルモ三国提議ヲ全部拒否シタル次第ニアラス関係国ト密接ナル協定ヲナスヘキ事勿論ナリ就テハ関係国ノ間ニハ其ノ後日本ノ回答ニ対シ意見ノ交換アリシヤト尋ネタルニ同局長ハ未タ其運ヒニ至ラスト答ヘタリ

米、英、伊、支、連盟事務局長へ転電セリ

125 昭和7年2月9日

芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）

松岡洋右の上海派遣について

第六二号（暗）

政府ハ今回松岡前代議士ヲ貴地ニ派遣シ外国側トノ接触殊ニ外国通信員ヲシテ成ル可ク誤報ヲ伝ヘシメサル等其他一般的ニ貴官及村井總領事ヲ援助セシムルコトシタルニ付其ノ御含ニテ可然御利用アリ度同氏ノ資格ハ本大臣ノ個人的代表ナリ尚ホ同氏ハ西三日中ニ当地出発郷里山口県ニ立寄リ貴地ニ赴ク筈訓令トシテ上海ニ転報アリ度

126 昭和7年2月9日

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

英外相にさらに日本の立場了解方要請について

第三二号 暗、極秘

貴電第五四号ニ閑シ

松平大使

六日英外相ニ対スル貴官ノ応酬振ハ極メテ機宜ニ適スルモノト思考スル処引続キ同外相トノ間ニ密接ナル連絡ヲ取り同外相カ実際のノ見識ト日本ニ対スル好意トヲ以テ各般ノ問題ニ處スル態度ハ本大臣ノ深ク多トスル所ナル旨ヲ伝言セラルルト共ニ往電合第四二四号声明書等其後ノ累次ノ電報御利用相成リ此上共我方ノ立場ヲ諒解セシムルニ努メラレ度尚ホ陸軍派遣ニ閑スル我方立場ノ極メテ公正ニシテ何国ト雖同様ノ立場ニ於テハ之ヲ派遣セサルヲ得サルヘキコト、右陸軍到着後ト雖支那兵撤退方ニ閑スル英米其他ノ協力ハ我方ノ歓迎スル所ナルコト及我方ニ於テ吳淞砲台長期占領ノ意図ナキコト等何レモ貴官御説明ノ通リニシテ右ハ

前記声明書等ニ依リ一層明確トナリタル次第ナリ將又貴電第六一号共同租界原状回復ニ付利害関係国ノ合意ヲ要スルコトハ申ス迄モナキ儀ト思考ン居レリ

在米大使、在支公使、上海ニ転電セリ

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

127 昭和7年2月9日

芳沢外務大臣より  
在米國出淵大使宛（電報）

上海への陸軍出兵に関する経緯説明について

第三四号（暗）

貴電第九九号ニ閑シ

二日閣議開催前増援部隊ノ出発命令発セラレ居リタル事實無ク從テ右閣議ニ於テ該命令取消ノ問題起ル筈無シ將又英

米仏三国大使ヨリ閣議後本大臣ニ対シ動員中止方ニ閑スル提議ヲ為シタリトノ点ハ三国共同申入中ノ一項ヲ指スモノト思考セラルル処右申入ニ対スル本大臣ノ應酬振ハ往電合（八一文書）

第三五七号ノ通ニテ受諾ノ余地アリト答ヘタルモノニシテ支那側ノ態度ヲ見ルヲ要シ必シモ全部受諾シ得ヘキヲ予期シタルモノニアラス何レニスルモ本大臣カ陸海軍大臣ニ圧倒セラレ陸兵派遣ニ決シタルカ如キコト無キニ付右御含

ノ上必要ニ応シ関係各方面ニ対シ可然説明アリ度

128 昭和7年2月9日

芳沢外務大臣より  
在仏國栗山臨時代理大使宛（電報）

日本軍の上海共同租界警備について

第四七号（暗）

貴電第七一號末尾ニ閑シ

今次上海ニ於ケル我軍ノ行動ハ租界（エキステンション）ヲ含ム）警備ノ為メノ共同行為ナルト共ニ該行動ニシテ居留邦人保護上ノ必要ニ依リ共同警備ノ範囲外ニ出ツルモノアリトセハ其ノ程度ニ於テ我方ノ単独行動ナルカ上海ノ國際都市タル關係上殊ニ我方カ共同租界ノ管理ニ参与シ居ル点等ニ顧ミ右共同行為ト单独行為トハ事實上殆ト區別スルコト困難ナリ叙上ノ趣旨ハ其後累次ノ往電等ニ依リ既ニ御氣付ノコト存スルモ念ノ為メ

尚ホ二十八日ヲ以テ共同動作ハ終了セリトノ仏國亞細亞局長ノ所述ハ我方ノ了解ニ苦シム所ニシテ列國軍ハ引続キ共同シテ各々受持区域ヲ防備シ居ル次第ナルカ（唯タ我受持区域ニ対シ支那軍ノ攻撃アルニ付我方ハ止ムナク之ニ防戦シツツアル一方他国軍ハ各々ノ受持区域ノ治安維持ニ当リ

居ルノミナラス英國義勇軍カ支那側ト交戦セルハ上海來電

第一六七号(三〇文書)ノ通リナリ又各受持区域ノ警備ニ付各國軍ハ行

動ノ自由ヲ有スル次第ナリ)

尚列國トシテハ密接ナル協調ノ下ニ上海地方ノ安寧秩序ヲ

計ルヲ以テ共通ノ利益トスルコト申ス迄モナク殊ニ當面ノ

問題トシテハ蔣介石側ト廣東派トノ争ノ為同派過激分子ノ

煽動ヲ受ケ南京政府ノ命令ヲ奉セスシテ今ヤ殆ト自暴自棄

トナリツツアル一方多數ノ共產分子ヲ包含スト伝ヘラル

第十九路軍カ引続キ上海付近ニ止リ居ルコトハ何レノ關係

國ト雖忍ヒ得サル所ナルヘク從テ列國協調シテ同軍ノ撤退

実現ニ努ムルコト刻下ノ喫緊事ニシテ我方ニ於テ右方針ノ

下ニ努力シ居ルハ累次ノ往電ノ通リナルニ付テハ右ノ次第

御含ノ上此上共貴任國當局誘導方御尽力アリ度

支及北平ニ轉電シ支ヲシテ上海ニ轉報セシメタリ

米及在欧各大使(土ヲ除ク)並連盟ニ可然轉報アレ

129 昭和7年2月(10日) 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

中國主要開港場に中立地域設置案に関する新

聞紙の記事について

ついて

第六五号

九日午後六時支那側ノ要求ニ基キ公開理事会開会(開会ニ先チ十二国理事会合セリ)「ボンクール」議長、英外相出席議事概要左ノ通り

一、支那理事ハ二日ノ理事会ニ於テ英國理事ハ上海方面ニ

於ケル現在ノ状況ヲ持続セシムルコトハ到底不可能ナリ

ト云ヒ且時局收拾ニ関スル英、米、仏、伊四ヶ国ノ共同

措置ヲ披露シタル後既ニ一週間ヲ経過シタルニ拘ハラス

上海ニ於テハ日本ハ飛行機、機関銃ノ活動ヲ統ヶテ破壊

行為ヲ敢テシ且其ノ軍隊ヲ増大シ今ヤ日本軍ハ滿州ニ於

テ七万五千、上海方面ニ於テ二万五千ヲ算スルニ至レル

カ本日ノ電報ニ依レハ日本ハ更ニ二ヶ師團ヲ動員シ一師

團ハ上海へ向ヒ他ハ方向不明ノ地点ニ向ヒタリトテ上海

事件ノ経過ヲ述ヘタル後日本海軍司令官カ如何ナル場合

ニモ強力ヲ用フル意向アリタルハ明カナリト断シ且日本

軍飛行機爆撃ノ惨禍ヲ受ケタル支那大学連名、上海要人

(商業會議所会頭等連署)等ノ電報ヲ読上ケ理事会ハ即

時日本軍ノ戰闘行為中止ヲ確保スル方法ヲ取ルノ必要ア  
ルコトヲ力説ス

第一五一号(暗)

九日当地英字紙及邦字紙ハ一樣ニ日本カ支那問題根本解決案トンテ上海、天津、漢口、廣東、青島等ノ周囲二、三十

哩ニ中立地帯ヲ設定スルコトノ考案ヲ立テ且右ハ華府會議ニ依リ失敗セル不干涉主義ニ代ヘテ干涉主義ニ依リ支那ニ

鞏固ナル文治政府ノ樹立ヲ援助セントスルモノニシテ之ニ

依リ支那及列國共ニ利益ヲ受クヘク同時ニ内地ノ法權撤廃ヲ認ムルニ於テハ支那ハ必スシモノ之ニ反対セサルヘントノ理由ニ依リ列國ニ同意ヲ期待シ得ヘク右考案ニ就キ列國ノ

意向ヲ探ル様在外使臣ニ訓令セル旨外務省ヨリ非公式ニ發表セラレタリトノ詳細ナル東京電報ヲ掲載セルカ一般ニ衝動ヲ与ヘ居レリ

連盟、米國、英國、北平、奉天、廣東、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

連盟ヨリ在欧各大使(英及土ヲ除ク)へ轉電アリタシ

130 昭和7年2月(10日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に関する理事会第五次会议の経過に

二、佐藤理事ハ支那理事ノ声明ノ内ニハ事実ト異ナレル点少カラス殊ニ日本ノ兵數ニ付テハ途方モ無キ誇張ヲ敢テシ居ルモ日本側ハ事件ノ都度詳細ニ各理事宛通告シ居ルヲ以テ事実ハ之等ノ書類ニ付テ承知セラレ度ク且ツ上海事件ニ付テハ現地調査委員会ノ第一回報告到達セリ該報告ハ極メテ客観的ニ事実ヲ叙述シ其ノ内容ハ殆ント大部分我方ノ通告ト合致シ居ル事ヲ喜フモノナリ尚日本カ陸軍ヲ増派シタル事情ニ付テハ七日ノ日本政府声明ニ詳述シアルヲ以テ之ヲ参照セラレ度シト述ヘタル後二日ノ英米仏伊四ヶ国ノ共同措置ノ経過ニ言及シ該交渉ハ未タ結了セルニ非ス目下現地ニ於テ戰闘行為休止ニ関スル交渉行ハレツツアリ日本ハ上海ニ於テ自発的ニ戰闘行為ヲ行フノ意思無ク日本軍ハ囊ニ定メラレタル受持区域ニ止マリ支那側ノ撤退ヲ求メ両軍間ニ中立地帯ヲ設定セントスシテ右撤退地域ノ治安維持ハ之ヲ中立官憲ニ委ネントスルモノナルカ斯ル詳細ノ取極ハ之ヲ現地ニテ行フノ外無ク上海ノ事情ノ判明セサル寿府ニ於テ行フ事不可能ナリ上海ニ於ケル日本ノ出先官憲ハ既ニ此ノ点ニ付他国官憲ト協議スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケ居リ該協議ニシテ成功セハ

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

戦闘行為ハ自然ニ休止セラルヘク昨八日上海ニ到着シタル野村司令長官モ亦同様訓令ヲ受ケ居リ之等出先官憲ト支那及第三國官憲トノ交渉結了シ戦闘行為ノ休止セラレント事ハ自身モ衷心之ヲ希ヒ居ル次第ナリト述フ<sup>(3)</sup>

三、次テ議長ハ英國理事ニ対シ四国共同措置ノ経過ノ報告ヲ求ム依テ英國理事ハ該措置不幸ニシテ未タ充分其ノ効果ヲ生セサルモ何等ノ成果無シトハ云ヒ難シ現ニ佐藤理事ノ云ハレシ如ク現地ニテ戦闘休止ノ中立地帯設定ノ交渉行ハレ居リ且ツ右ニ閑シ野村司令長官等訓令ヲ受ケ居リトノ事ニ付テハ英國側ニモ報道達シ居レリ而シテ此ノ交渉ニ米国官憲ノ協力シ居ル事ハ特ニ注意スヘク自分ハ現地ニ於ケル各関係國ノ目的トスル所ハ理事会ノ目的トスル所ト全ク同一ニシテ而モ有効ナル事ヲ信スルモノナリ依テ予ハ各理事ト共ニ日本カ成ルヘク速ニ戦闘行為ヲ休止スルノ意思ヲ有スル事ヲ知リタルヲ満足トシ本件ヲ速ニ局地的ニ解決セン事ヲ希望スト述フ

四、議長ハ規約第十五条ノ下ニ於ケル第一ノ手続ハ事務総長ノ審査ナルカ之ニ就テハ直ニ事務総長ノ提議ニ依り現地ニ調査委員会設置セラレ既ニ其ノ第一回報告ノ提出ア

事件ノ原因ト為シ居レル点ニ付注意ヲ喚起シタシト前提シ排貨運動ハ決シテ本事件ノ原因ニ非ス排貨運動ハ日本軍カ滿州ヲ占領シタルニ対スル復仇トシテ起レル民衆運動ニシテ支那政府トシテハ其国民カ自由ニ物資ヲ購買スル権利ニ干渉シ得ル次第ニ非ス支那国民カ日本ノ軍隊ノ支那領土ニ在ル間日本ノ物資ヲ購買セサルハ当然ナリト云ヒ且日本理事ノ所謂現地ノ交渉ハ地方官憲ノ仕事ニシテ自分ノ関スル所ニ非サルモ支那ハ既ニ四国共同勧告ニ全幅ノ贊意ヲ表シタルニ拘ハラス日本ハ該提議ノ一二ニ賛成シタルモ他ハ全部之ヲ拒絶シ骨抜ト為セリト述フ<sup>(5)</sup>

六、茲ニ於テ佐藤理事ハ先ツ哈爾賓方面ノ状況ニ付テハ既ニ詳細通告済ナリト述ヘタル上支那理事ノ排貨運動ニ関スル言説ハ到底聞捨テニシ得スト前提シ支那理事ハ該運動ヲ以テ滿州事変ニ対スル復仇ナリトシ且之ヲ經濟的方面ニノミ局限セントスルモ実ハ決シテ然ラス尚排貨運動ナルモ実ハ支那ニ在ル日本人全部ヲ放逐セントスル深刻ナル政治的運動ナリ而シテ支那側ハ既ニ久シク此方法ヲ

排外運動ニ用ヒ教科書中ニ排日排外ノ思想ヲ連ネテ幼キ児童ニ之ヲ吹込み居レルハ周知ノ事実ナリ今回ノ事件ニ

リ該報告ハ漸次追補セラルヘク之ニ依リ事態ハ明瞭トナルヘシ尚又一方二日ノ理事会ニ於テ英國理事ヨリ通報アリタル四国共同措置ハ今尚継続シ各関係者ハ上海方面ノ戦闘行為ノ中止ヲ実現スルニ努力シツアリ自分ハ佐藤理事カ目下現地ニ於テ戦闘行為ノ休止中立地帯ノ設置ニ付交渉行ハレ其ノ原則ニ付テハ何人モ異議無ク実現方法ニ付交渉行ハレントスル旨言明セラレタルヲ喜フモノニシテ該交渉ハ精神上理事会ト関連シテ行ハルヘク吾人トシテハ之ヲ静観スルコトヲ最モ策ノ得タルモノト信スト述フ<sup>(4)</sup>

五、支那理事ハ支那代表部ハ今夜第十五条第三項ノ陳述書ヲ提出スル筈ナルカ該陳述書ハ第一次的ノモノニシテ詳細ハ後日之ヲ補足スル筈ナル處該陳述書ノ末項ニハ日本カ戦闘行為ヲ休止セサルトキハ規約ノ一切ノ規定ノ発動ヲ求ムヘク又日本兵ノ撤退、紛争ノ平和的解決ヲ要請スル旨ヲ掲クヘク而シテ目下哈爾賓ニ於テモ日本軍ハ戦闘行為ヲ為シツツアルヲ以テ該陳述ハ上海事件ニ限ラス満州ニモ及ホシ居レリト述ヘ転シテ上海調査委員会第一回報告ニ言及シ該報告ノ冒頭ニ排日排貨運動ヲ以テ今回ノ

七、最後ニ議長ハ事件ノ特殊事情ニ鑑ミ理事会ノ措置ノ緩漫ナラサルヲ得サル事情ヲ説明シタル後日支双方ノ主張

ニ関シテ充分考慮ヲ加フヘキモ差当リ戰闘行為ノ休止、  
中立地帯ノ設置ノ一日モ速カナランコトヲ切望シ直ニ閉  
会ヲ宣ス

在欧米各大使、支那、奉天ニ転電セリ

会ヲ宣ス

131 昭和7年2月(10)日 在英國澤田臨時代理大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 陸軍上海派遣に関する英外相の誤解訂正について

いて

第七三号(暗)  
(一九文書)  
貴電第二五号ニ関シ

九日外務省極東局長ヲ往訪シ

(一)過日「サイモン」外務大臣ハ曩ニ芳沢大臣ニ於テ陸兵ヲ動カササルヘキ旨ノ保証ヲ与ヘラレタルヤニ述ヘラレタルカ右ハ「リンドレイ」大使ニ於テ誤ツテ報告セルモノノ如ク外務大臣ニ於テ該報告ニ付誤レル印象ヲ得タルモノト思考セラルトテ貴電合第三〇〇号ノ事実ヲ説明セル処同局長ハ「リンドレイ」大使ヨリハ只今御説明ノ通報告シ來リ居レリ恐ラク外務大臣ハ當時何レカノ新聞ニ東京電報トシテ日本外務省ニ於テハ列國ノ要求アルニアラサレハ陸軍ハ出

動セサルヘシト云ヒ居ル處列國ヨリスル要求ヲ為スコトハ無カルヘシトノ報道アリタルヲ見テ日本政府ニ於テ陸軍ヲ用ヒサル保証ヲ与ヘタリト思ヒ違ヘラレタルニアラスマヤト想像セラレ何レニスルモ右ハ外務大臣ノ誤解ニシテ外務大臣当地ニ居ラレナハ其誤解ナリシ旨ヲ述フルニ躊躇セラレサルベク英國政府トシテハ右ノ点ニ付誤解無キコト了承アリタキ旨述ヘタリ

(二)陸兵派遣ニ付テモ誤解ナカラシコトヲ望ムトテ予テ通報シ置キタル帝国政府声明ニ言及シテ派遣ノ事情及目的ヲ説明シタル処同局長ハ右声明後段ニ陸兵派遣ハ國際義務ノ履行ヲ目的トストアル処右ハ如何ナル趣旨ナリヤ不審ニ思ヒ居リタリト述ヘタルニ付本官ハ増兵ハ結局之ニ依リテ我居留民ノ保護ヲ全フスルト共ニ各国人ノ不安ヲ除キ共同租界ノ防備ヲ鞏固ニシ以テ共同ノ義務ヲ果ス所以ナリト答ヘ置キタリ

(三)尚本官ハ上海ニ於テ我官憲ト各國官憲及租界當局トノ間ノ連絡益々密接ニ行ハレシシアル例証トシテ上海發大臣宛電報第一三九号(受持區域外ノ我軍全部引揚ノ件)及第二四九号(便衣隊嫌疑者租界當局ヘ引渡ノ件)等ヲ詰シタル

132 昭和7年2月10日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 上海事変調査委員会第一次報告書中事件勃発

#### 発個所送付について

別電 同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第一六〇号

右報告書中の事変勃発個所に関する部分

第一五九号(暗)  
(一三文書)  
貴電第七三号ニ関シ

「チキスト」別電第一六〇号ノ通り

(別電)

No. 160 (Betsuden)

貴電第一五〇号ニ關シ  
二十八日我陸戰隊カ受持区域ノ警備ニ就カントシタル際支那側ヨリ砲撃挑戦セルニ依リ我軍ハ之ニ反撃ヲ加ヘタル次第ナリ然ルニ冒頭貴電ニ依レハ「ベース」報告書ヘ此点ヲ明確ニ記載シ居ラサルモノノ如キ處枢密院ニ対スル答弁ノ都合モアルニ付同報告書ノ当該部分「チキスト」至急電報アリ度

Japanese marines and armed civilians having mobilised at Naval Landing Force Headquarters advanced along North Szechuen Road and westwards along Range Road as far as North Honan Road dropping parties at entrance of alleyways as they went along and at midnight at given signal all these parties advanced westwards and northwards in direction of railway.

Final party about one hundred marines accompanied by armoured car attempted to pass through gate dividing Settlement from Chinese territory at end of Honan Road but were prevented by Shanghai Volunteer Corps in whose sector gate is situated. This gate leads to railway station. Chinese military authorities had not complied with demand of Japanese admiral to withdraw troops. It seems moreover that even had they decided to comply with demand it would have been impossible in short time at their disposal to arrange for actual withdrawal of Chinese troops in that area. Account must also be taken of tension created by situation of previous days which would induce Chinese authorities to interpret measures taken by Japanese naval authorities as representing part of larger military operation. Japanese marines consequently met with resistance on part of Chinese regular troops. They succeeded in reaching railway line as far south as Paoshing Road but do not appear to have succeeded in reaching line

支那軍ノ急速撤退ヲ実現シ延イテ永久的撤兵区域設定案ノ成立ニ至ル様誘導スルノトロ主眼トスル訳ニテ右目的達成ノ為メニハ埋数等ハ相当ニヤヘ（此点貴地陸海軍側ト打合アリ度）ナル限り別段固執セサル意向ナリ  
II、右支那軍撤退実現後ノ措置ニ付テハ大体貴見ノ通リテ差支ナキモ唯タ円卓會議ノ件ハ該會議ニ於テ討議セラルベキ事項ヲ承知シタル上何分ノ儀回訓シ度キニ付右討議事項ニ関スル大体ノ御意見回電アリ度  
右陸海軍ト打合済  
奉天、北平、廣東、米、連盟及在欧各大使（土ヲ除ク）ハ  
転電セリ上海ニ転報アリタシ

135 昭和7年2月12日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）  
第一次報告中上海事件勃発個所の記述

て

第七七号（暗）  
貴電第一（文書）  
一十八日我軍カ警備ニ就カシム際支那側ヨリ挑戦砲

south of that point and the line ran east of railway until it reached Settlement boundary between North Honan and North Szechuen Roads.

134 昭和7年2月11日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）  
中国軍の撤退および撤退後の措置について

第七五号（文書）  
貴電第一九号（関）

一、永井次官ニ「ネヴィル」ヘハ詰合ハ往電第57号所報ノ通ニシテ別段具体的ノ考案ヲ立テタル次第ニ非サルモノハ趣旨ハ貴電ノ通り支那軍撤退要求ヲ成ル可ク列国共同リテ為スニ存スル次第ニシテ「ネヴィル」ハ了解モ其ノ通リト存ベ

II、撤退距離ニ付テハ陸軍側ニテハ万全ヲ期スル為メニハ八十粧ヲ適當ニスルノ意見ナルモ本件実現ノ為メニハ連盟発本大臣宛電報第六四号英国外相ノ談話ニモ顧ミ我方最初ノ提案ハ單ニ危険区域外撤退レシ其ノ埋数ハ寧ロ列國側ヨリ提議セシムル様仕向ケ其上ニテ可然決定スルヲ適當ナルクシ要スルニ我方トシテハ列国共同シテ先ツ

136 昭和7年2月12日 中山（佐之助）福岡県知事より  
大臣他宛  
上海よつて避難可揚者の上陸状況について  
特外鮮秘第一二六号

昭和七年二月十一日

福岡県知事 中山佐之助

内務大臣 中橋徳五郎 殿

外務大臣 芳沢 謙吉 殿

警視庁、神奈川、愛知、大阪、兵庫、  
京都、山口、長崎、各府県長官殿

上海ヨリノ避難民上陸ニ関スル件



三、「日本側ハ在郷軍人ヲ動員シ武装セシメ」トアル処右  
ハ動員ト云フカ如キ大袈裟ノモノニ非ス事変勃発當時少  
数ノ有志ノモノヲ使用シ之ニ護身用ノ拳銃、小銃等（便  
衣隊ノ危険ニ備フル為）ヲ持タシメタルニ過キスシテ之  
等ハ事變後數日ニシテ全部之ヲ廃止シ（武器ヲ返サシメ）  
今日ニ於テハ通訳、案内等ノ為少數ノ在郷軍人等ヲ使用  
シ居ルノミ

四、日本軍ハ便衣隊ヲ追ヒテ其ノ潜伏家屋ヲ捜索スル事ハ  
アルモ報告書ニ云フカ如ク大規模ニ一軒々々ニ家宅捜索  
ヲ為シタル次第ニ非ス又便衣隊ヲ退シムルカ為家屋ニ放  
火セルカ如キ事無シ尚「工部局ノ作用ヲ停止セシメタリ」  
トアル處事件發生當時混亂ト工部局巡捕ノ逃亡等ニ依リ  
一時其ノ作用カ實際上停止状態ニアリタル事ハ事實ナル  
モ日本側ハ其ノ復活ヲ最希望シ常ニ之カ為協力シ來リ之  
亦事變後數日ニシテ殆ト常態ニ復セリ（今日ハ唯便衣隊  
ニ対スル手當ノ為少數ノ哨兵及「パトロール」ヲ置クノ  
ミ）特ニ消防隊ニ閥シテハ租界及拡張道路内ハ勿論租界  
隣接地域ノ火災ニ対シテ日本側ハ工部局消防隊ニ對シ  
緊急ノ措置トシテ出動ヲ求メ（平時ハ工部局消防隊ハ租  
界及拡張道路外ニ出動セス）消火ニ協力セリ其ノ他ニモ  
工部局ノ活動ノ復活ニ対シテハ出來得ル限り尽力シ居レ  
ル結果ナルヘク又工部局病院等ノ撤退モ同様ノ理由ニ基  
クヘク日本側ニテ之等ニ何等妨害ヲ加ヘタルカ如キコト  
素ヨリ無シ（我方ニテ事件当初ノ混亂状態ノ際誤解ニ基  
キ少數支那人巡捕ノ武装ヲ解除シタルコトアルモ右ハ全  
クノ過失ナリ）

又「日本海軍、在郷軍人及 roughs カ越軌ノ行動ヲ為シ  
タルコト多々アリ」トアルモ海軍側及在郷軍人ニハスル  
行為ヲ為シタルモノナシ所謂浪人連ニハ相当乱暴ナル行  
為アリタル事ハ之ヲ認ムルモ之等ハ既ニ總領事館ニ於テ  
拘禁中ナリ（過激ナル者六名ハ在留ヲ禁止シ日本ニ送還  
ス又支那人ニ故無ク暴行シタルモノ等モ夫々法ニ依リ処  
分ノ筈）

五、便衣隊引渡シニ對シ「行衛不明者尚一七〇アリ」ト言  
フモ右ハ支那人ノコトナレハ逸早ク逃レ其ノ所在判明セ

（欄外注記<sup>2)</sup>）  
サル次第ナルヘシ仮ニ真ニ行衛不明ナリトスルモ之等ヲ  
日本側ニ於テ殺傷シ又ハ密ニ拘禁シ居ルカ如ク推測セラ  
ルヘキニアラス  
土ヲ除キ在欧各大使ニ転電アリ度シ  
大臣、米ヘ転電セリ

#### （付 記）

##### 国際連盟上海調査委員会第二次報告

（昭和七年二月十二日）

『（編注  
以下五行筆者不明）  
（上海五参考）午前六時二十分頃ヨリ我軍ニ対シ攻撃開始

我軍ハ一時（脱文）セリ而シテ英米両總領事ハ既ニ支那  
側ノ砲撃警告方總領事ノ申入ヲ吳市長ニ伝ヘタルニ吳市  
長ハ尽力スヘキ旨答ヘタル由（五一號参照）加之三十日  
午前三時砲弾三箇邦人住宅地ニ落下ス（五六ノ五）』

一月二十九日午後八時ニ至リ即チ協定停戦時刻到来以後發  
砲ハ次第ニ終熄セルモ日本海軍司令官ハ翌日英米両國總領  
事ニ対シ北停車場ニ在ル支那軍装甲列車カ再ヒ砲火ヲ開ケ  
リト抗議シ（吳市長ニモ通告セリ）支那側ハ之ヲ否定シ發

砲セルハ日本軍ナリト申立テタリ  
（欄外注記<sup>1)</sup>）  
一月三十一日午前日本飛行機十七台ハ上海及支那軍陣地上

#### 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

（欄外注記<sup>1)</sup>）

界及拡張道路外ニ出動セス）消火ニ協力セリ其ノ他ニモ  
工部局ノ活動ノ復活ニ対シテハ出來得ル限り尽力シ居レ  
リ

事件当初工部局巡捕カ姿ヲ潛メタルハ支那側ノ砲撃、便  
衣隊ノ活動及之ニ対スル我方ノ応射ニ依リ危険ヲ感シタ  
ル結果ナルヘク又工部局病院等ノ撤退モ同様ノ理由ニ基  
クヘク日本側ニテ之等ニ何等妨害ヲ加ヘタルカ如キコト  
素ヨリ無シ（我方ニテ事件当初ノ混亂状態ノ際誤解ニ基  
キ少數支那人巡捕ノ武装ヲ解除シタルコトアルモ右ハ全  
クノ過失ナリ）

又「日本海軍、在郷軍人及 roughs カ越軌ノ行動ヲ為シ  
タルコト多々アリ」トアルモ海軍側及在郷軍人ニハスル  
行為ヲ為シタルモノナシ所謂浪人連ニハ相当乱暴ナル行  
為アリタル事ハ之ヲ認ムルモ之等ハ既ニ總領事館ニ於テ  
拘禁中ナリ（過激ナル者六名ハ在留ヲ禁止シ日本ニ送還  
ス又支那人ニ故無ク暴行シタルモノ等モ夫々法ニ依リ処  
分ノ筈）

五、便衣隊引渡シニ對シ「行衛不明者尚一七〇アリ」ト言  
フモ右ハ支那人ノコトナレハ逸早ク逃レ其ノ所在判明セ

（欄外注記<sup>2)</sup>）  
ヲ飛翔セルモ爆撃ヲ行ハス日本海軍当局ハ右示威行動ヲ以  
テ支那軍ニ於テ再ヒ停戦協定ニ違反セルニ依リ行ハレタル  
モノナリト主張ン支那側ハ熱心ニ右破約ヲ否定セリ同日同  
委員会第一次報告末項ニ言及セル会合催サレ中立地帶案提  
出セラレタルカ日支双方ヨリノ最終的回答アル迄停戦ヲ繼  
続スヘキコトニ意見一致セリ

二月一日散漫ナル発砲多少再ヒ行ハレンモ停戦ハ相當遵守  
セラレタリ（上海一八〇号前半参照）英米總領事共同租界  
ニモ支那側停戦方申入ル

二月二日日本海軍司令官ハ支那側カ前日停戦ノ約ニ背ケル  
旨再ヒ主張シ尚ホ支那側カ日本軍ヲ包囲スル目的ヲ以テ其  
兵力ヲ増加シツツアルコト明白ナルカ如キヲ以テ飛行機ヲ  
シテ偵察セシメントシ居ル旨付言セリ（二日午前五時声明  
文）ヲ通報ス）同日正午頃日本軍飛行機ハ上海及支那軍陣  
地上空ヲ飛翔シタルカ支那側ヨリ射撃セラレタルヲ以テ開  
北ニ爆弾ヲ投下シ間モナクシテ日支双方ヨリノ全般的撃チ  
合ヒ再開セラレタリ三時頃（即チ交戦再開後）日本總領事  
ハ列國領事ニ対シ日本政府ハ前記中立地帶案ヲ拒絶セル旨

通告セリ

(欄外注記3) 同日上海市長ハ一月三十一日ノ会合ニテ成立セル停戦ニ関スル協定ニ言及シ日本側カ支那軍ヲ攻撃シ殊ニ前項ニ述ヘタル如ク爆撃ヲ行ヒ繰返シ右協定ニ違背セル旨述ヘタル書翰ヲ列國領事ニ送付セリ(右書翰ハ二月三日接受セラル)

二月三日日本海軍当局ハ支那側当局カ協定実行ニ関シ終始

一貫誠意ヲ示スコト能ハサリシヲ以テ支那軍隊ハ開北ヨリ充分ナル距離ニ撤退セシメラレサルヘカラス右目的貫徹ノ為ニハ日本軍飛行機ハ支那軍陣地ヲ爆撃スルノ已ムヲ得サルニ至ルコトアルヘキ旨声明セリ其ノ後日本總領事ハ列國

領事ニ対シ日本駆逐艦三隻ハ吳淞砲台ヨリ砲撃セラレタル旨並日本側ハ從テ右砲台占領ノ意向アル旨通告セルカ支那側ハ再ヒ右砲撃ノ事実ヲ否認セリ

(欄外注記4) 二月三日以降最早停戦ナル体裁ヲ捏フコトハ拋棄セラレ公然タル交戦状態ニアリ砲戦ハ閘北及吳淞両地方ニ於テ野砲ヲ使用シ断続的ニ引続キ行ハレ日本側ハ空中爆撃ヲ行ヒ居レリ攻勢ハ全然吳淞砲台ノ占領及上海ヨリ余程ノ距離ニ支那軍ヲ排除スルコトヲ以テ公然其目的トナス日本側ノ手ニ存ス

停戦協定違反問題ニ関連シ未タ嘗テ完全ナル停戦ナルモノ

ハ實際ニ存在シタルコトナキ旨及戦線ニ外人観察者カ居ラサリシ為メ何レノ側カ停戦違反ノ責ヲ負フヘキヤヲ確定スルコト不可能ナル旨掲記セサルヘカラス日支何レカノ側ニ於ケル私人団体又ハ「煽動者」カ右責任ヲ負フヘキモノナルヤモ知レス

前線両国正規軍間ニ於ケル戦闘行為再開ノ問題ハ別トンテ

上記期間内ニ共同租界内日本区域ニ於テ発生シタル事実ヲ簡単ニ想起スルノ要アリ右事実ハ共同租界ノ地位ヨリ見レハ國際的ニ重要ナリ

(欄外注記5) 一月二十八日夜ノ日本側行動ノ開始当初ヨリ共同租界内日本区域ニハ支那便衣隊侵入シ屋内又ハ屋根ノ上ニ身ヲ隠シ自動拳銃ヲ以テ日本側ノ市街巡邏兵ヲ狙撃セリ日本側ハ其駐屯区域防備ニ充分ナル正規兵力ヲ有セサリシカ如ク所謂在郷軍人全員ヲ動員シ武装セシメタルコトヲ指摘セサルヘカラス右在郷軍人ハ平服ヲ着シ腕章ニ依リテ他ト識別セラレタリ

陸戦隊及在郷軍人ハ支那便衣隊ノ狙撃ニ機関銃ヲ以テ応戦シ又便衣隊員ノ所在ヲ突キトムル為メ戸別の屋内捜査ヲ行

数ナリ租界工部局巡警ハ既ニ約三百ノ事例ニ付詳細ナル事実ヲ蒐集セリ便衣隊ノ狙撃ハ今ヤ著シク減少シタルモ日本側ノ監視ハ依然厳重ニシテ警察及其他ノ工部局側ノ機能ノ恢復ハ頗ル遲々タリ日本側当局ハ日本ノ行ヘル暴行ニ関シ痛心シ望マシカラサル者數名日本ニ送還セラレタリ

委員会ハ從来ノ陳述ノ訂正ヲ必要トスルカ如キ新シキ情報ヲ入手スル迄又ハ第一次及第二次報告記述中ノ特定事項ヲ敷衍シ又ハ之ニ付加スルヲ必要トスル迄更ニ報告ヲ送付スルコトヲ差当リ發議セス

(欄外注記1) 海軍 支那側ノ詭弁

前夜來別働隊便衣隊約二十日本軍警備区域ヲ擾乱セシメ翌

早朝支那軍隊砲砲ゼルハニ証人無シトスルモ支那軍隊ガ

從来不法射撃ヲ行ヘルニ鑑ミ疑フ抱ク余地ナシ

(欄外注記2) 海軍 飛行ハ示威ノミニアラス支那側カ軍隊ガ

ヲ集中シツツアル情報ニ基キ自衛的見地ヨリ必要ナル偵察ヲ行ヘリ故ニ爆弾ヲ携行セシメサリキ

三十一日夜ヨリ便衣隊ノ活動甚シ軍隊之ニ応シ銃砲射撃ヲ

ナス

(欄外注記3) 海軍 詭弁ナリ

支那ヲ相手ニ交渉シタル外交官ノ経験ヲキケバ直ニ分ルコトナリ

者凡テ共同租界工部局ニ引渡スヘキ旨同意セリ右引渡ハ其ノ後実行セラレタルカ今猶ホ行方不明ナル支那人ハ甚タ多代ノ現出ヲ見同地方ノ日本人以外ノ殆ト全部ノ外人ハ他ニ避難セリ

日本側ニ逮捕セラレ又ハ殺害セラレタリト信セラレ其ノ行

方不明ナル支那人ノ数多キニ鑑ミ二月五日工部局ハ領事団

ニ対シ調査ノ為メ日本当局ト交渉センコトヲ求メタルカ日

本總領事ハ人心昂奮シ混乱状態汎ク存スル時期ニ際シ日本

人力暴行ニ出テタルモ事態ハ著シク改善セルコトヲ是認シ

日本海軍當局カ被嫌疑者トシテ共同租界内ニ於テ逮捕セル

者凡テ共同租界工部局ニ引渡スヘキ旨同意セリ右引渡ハ其

ノ後実行セラレタルカ今猶ホ行方不明ナル支那人ハ甚タ多

本側ハ元ヨリ砲撃ノ意志ナク既ニ支那海軍トヘ友好關係ニ

アリ既ニ我ヲ砲撃セル以上其除マムハ必要ナリ

(欄外注記6) 海軍 我方ハ敵掃蕩ノ要ヲ認メシモ常ニ攻勢

ヲトリシニハアラズ

(欄外注記6) 海軍 規律アル帝国陸戦隊ト十九路軍トヲ同

ニ取扱フハ我海軍ニ対スル侮辱ナリ

支那軍ト接触地点ニ私人ノ進出シアル者ナク煽動者ノ違反

行動モ從テアリ得ス

(欄外注記7) 步哨ノミナラス日本人ト見レバ行人ヲモ狙撃

セリ

在郷軍人約百ハ地理案内及通訳又ハ土嚢運搬負傷者運搬ニ

使用戰闘行為又ハ警備行為ヲ行フ拳銃ハ便衣隊ニ対スル自

衛ノ為ノミ

便衣隊ハ敵ニシテ現行犯ハ之ヲ攻撃セリ

逃亡又ハ潜伏ノ際ニ必要限度ニ行ヘリ

必要ナル防禦施設ヲスルハ當然ナリ一九二七年ノ時ハ更ニ

甚シ

右ハ事實ノ全部ニアラス大部ノ理由ハ支那便衣隊ノ(脱

文)及支那側ノ砲撃並ニ支那新聞紙其他ノ流布ヤル諸語ニ

因ル  
支那人巡捕ヨリ成ル警察ガ支那便衣隊ノ取締徹底セサルニ

依リ自衛上嚴重リスルハ当然ナリ

139

昭和7年2月(13)日 在ジョネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

四中紛争の連盟総会委託に關する中國側通知  
レハコレ

第七三〇号(大至急)

十二月支那理事ハ日支問題総会付託方ニ関シ事務総長宛

左ノ通告ヲ提出セラ

With regard to Sino-Japanese dispute of which Council

has been seized under Articles ten eleven and fifteen

of Covenant of League Nations I have honour to observe

that according to Article fifteen Paragraph Nine of said

Covenant it is within competence of Council to refer

case to Assembly. At same time it is also provided

that dispute shall be so referred provided that such

request be made within fourteen days after submission

of dispute to Council.

In view of time limit imposed Chinese Government is constrained hereby to request that said dispute be referred to Assembly. If however it should be pleasure and intention of Council to refer said dispute at its own initiative to Assembly or in virtue of general

powers vested in it to summon Assembly for consideration of dispute Chinese Government will then be prepared to withdraw request on its part.

在欧米各大使、上海、奉天、転電

合第四八四号(暗)

第十九路軍ノ国民政府ニ對スル關係ニ付テハ往電合第四二一

四号声明書ニモ一言シ其後モ關係情報隨時電報シ置キタル

カ右補足ノ為メ左記電報ス

第十九路軍ハ陳銘極部下蔡廷楷、蔣光鼐ノ統帥スル三ヶ師

(現在ノ配置ハ閩北予備隊約一万一千、閩北前線約一万

一千、吳淞方面約七千計約三万一千)ノ部隊ニシテ將士ハ

全部広東出身ナリ昭和五年夏南北戦争ノ際広東ヨリ移サレ

テ湖南及山東方面ニ転戦シ更ニ江西奥地ニ移動シテ贛州

(Kanchow)方面ノ共匪討伐ニ從事シツアリシカ客年十

月南京、広東両政府妥協問題発展ニ伴ヒ広東側ハ妥協商議

140 昭和7年2月13日 芳沢外務大臣より

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛(電報)

第十九路軍の国民政府に対する關係について

ノ前提条件トシテ第十九路軍ノ京滬移駐ヲ要求シ蔣介石モ曰ムナク之ヲ応諾スルニ至リ十一月上旬移駐ヲ完了セリ(客年往電合第一〇一〇一號)斯くて客年末孫科、陳友仁等広東側ハ南京政府乗取リニ成功セルカ(右經緯ハ累次ノ政況電報ニテ御承知ノ通り)十九路軍ハ其間終始孫、陳等ノ武力的「バッタ」ヲナシタル次第ナリ

然ルニ孫、陳等ハ南京政府ヲ持チ切レス再ヒ同政府ヲ蔣介

石側ニ明ケ渡シタル事情ハ往電合第一三五号ノ通りナルカ

其後孫、陳等ハ上海ニ於テ蔣介石虐メノ目的ヲ以テ盛ニ対

日絶交ヲ唱ヘツツアリシ次第ニテ今次上海ニ於ケル日支衝突ハ廣東派カ十九路軍ヲ使嗾シ惹起セシメタルモノノ如シ

然ルニ十九路軍ノ後方及側面ニアル蔣介石等ノ軍隊ハ同軍ヲ監視スルカ如キ姿勢ヲ執リ居ル有様ニテ今トナリテハ十九路軍ハ殆ト自暴自棄的ノ態度ヲ以テ荒レ狂ヒ居ルモノナルカ如シ

ル府ヨリ在欧各大使へ転報アリ度

141 昭和7年2月13日 芳沢外務大臣より

在英国外務大臣代理大使、在米国出淵大使他宛(電報)

## 上海および南京方面の状況について

合第四八五号（暗）

一、我陸軍先発部隊約三千名ハ二月七日吳淞ニ於テ敵前上

陸ヲ敢行セリ尚二月一日新ニ第三艦隊司令長官ニ任命セラレタル野村中将ハ八日上海ニ着セルカ同中將及重光公使ハ支那軍撤退方ニ付現地列国官憲ト協議スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケ目下上海ニテ詰合進行中ナリ

二、五日領事団會議開催セラレ今次事変ニ際シ我方ノ逮捕セル便衣隊ハ（）租界内ニテ捕ヘタルモノハ租界当局ニ引渡シ（）租界外ニテ捕ヘタルモノハ事態平穏ヲ待ツテ支那側ニ引渡スコトニ決定シ六日前記（）便衣隊六十五名ヲ租界當局ニ引渡セリ

三、（）吳淞砲台ハ四日、五日及七日ノ砲撃ニヨリ大破セラレタルモ支那軍ハ河岸ニ塹壕ヲ掘リ機関銃及小銃ヲ以テ頑強ニ抵抗ヲ続ケ居ル處我軍ハ監視ノ態度ヲ執リツツアリ（我軍砲撃ニヨリ諸船舶ノ吳淞通過ヲ不能ナラシメタルカ如ク伝ヘラレタルモ右ハ虚報ナリ）

（）閘北方面ニ於テモ依然間断ナク戦闘行ハレ居ルモ其にも発電された。

昭和7年2月13日  
芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英國沢田臨時代理大使他宛（電報）

142

## 第十九路軍の攻勢による日中衝突の場合の連盟への説明方にについて

合第四九〇号 暗、至急

一、第十九路軍ニ付往電合第四八四号ヲ以テ申進メ置キタ

ル次第アル處同軍ハ窮鼠猫ヲ噛ムノ勢ニテ我方ノ撤退要求ヲ拒ケ頑強ナル攻勢ニ出テ居ル一方盛ニ大勝利ノ宣伝ヲ為シ其ノ結果南支各地方支那側ノ態度モ悪化シ我居留民ヲ不安ニ陥レ居ル状況ナリ

二、而シテ第十九路軍ハ閘北ヨリ吳淞迄連続シテ陣地ニ就

キ居ル次第ナル処（吳淞要塞ニハ同軍ニ属スル第七八師

ノ一團約千百ノ守備隊存ス）同軍ニシテ英米等ノ尽力モ

アルニ拘ラス此上撤退ヲ肯セス攻勢ヲ続クルニ於テハ我方ハ第九師團ノ上海到着（十三日夜ヨリ十五六日ニ掛ケ到着ノ筈ナルカ右ハ追テ公表迄貴官限リ含置カレタシ尚未往電合第四八五号先発隊ハ吳淞方面既ニ前記十九路軍

後戦況ニ大ナル変化ナシ

四、（）我警備区域内ニ居住スル支那人ノ避難ニ関シテハ上

海戦避難民臨時救済会（我赤十字社協力ス）活動シ居レルカ我方ハ救護ニ赴ク自動車及事務員ニ対シテ

証明書ヲ下付シ警官ヲ同行セシムル等極力便宜ヲ計リ居レリ

（）「ローマン・キャソリック」教会側ヨリノ申出ニ基キ

「チャーチ」ニ於ケル日支両軍戦線中間地域ノ非交戦者救出ノ為メ十二日午前八時ヨリ十二時迄停戦セルカ支那側ニテハ右停戦期間中発砲セルモ我軍ハ停戦ヲ厳守セリ

五、南京ニ於テハ支那當局ノ懇願ニ基キ領事一行ノ避難シ居ル雲陽丸ヲ昼間ハ「ハルク」ニ横付シ夜間ハ「ランチ」ニテ陸上ト交通シ居レルカ支那側ハ我方トノ連絡ノ為外交部員及憲兵大隊長ヲ下関ニ常駐セシメ居レリ支那情報同様転電アリタシ

（新嘉坡ヘノ分ニハ「バタビヤ」ニ転電セリト付記ノコト）

（編注）本電報は、ソ連、シンガポール、マニラ、バタビヤ

ノ一部ト交戦セリ）ト共ニ右十九路軍ノ撤退ヲ強制セサルヲ得サル次第ナル處其結果吳淞又ハ閘北付近ニ於テ日支兩軍間ニ從来ヨリモ比較的大規模ノ衝突ヲ生スルヤモ知レサルモ右ハ今日迄ノ衝突ノ繼續ニ過キシシテ何等新タナル事態ノ発生ニ非ルノミナラススクシテ十九路軍ヲ撤退セシメテ上海租界ノ当面ノ危険ヲ除去スルト共ニ列國協調シテ今後ニ於ケル同地方ノ平和維持ヲ計リ得ル次第ナリ

三、就テハ叙上ノ趣旨御含ノ上前記衝突発生ノ場合連盟及歐米各國ニ対シ必要ニ応シ適宜説明方取計ハレタシ在支公使、北平、奉天、上海、廣東ニ転電セリ連盟ヨリ本大臣訓令トシテ英ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

（編注）本電報は、米国にも発電された。

昭和7年2月13日  
芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使他宛（電報）

上海出兵の目的に関する陸軍大臣より第九師團長への指示について

荒木陸軍大臣より植田第九師團長宛指示

合第四九二号 暗、極秘

累次ノ電報ニ依リ御承知相成ルヘキ通り今次上海出兵ノ目的カ全ク居留民ノ保護及租界ノ安全保持ニ存シ且列国側トノ協調ヲ保ツ必要アルコトハ陸海軍側ニモ良ク徹底シ居リ軍部ニ於テハ極メテ慎重ナル態度ヲ以テ之ニ臨ミ居ル次第ナル處今次第九師團上海派遣ニ際シ陸軍大臣ヨリ同師團長ニ対シ要旨別電合第四九三号ノ如キ指示ヲ与ヘタルニ付右御参考迄尚海軍ニ於テモ在上海第三艦隊司令長官ニ対シ略同趣旨ノ指示ヲ与フルコトナリ尚本件指示ハ軍機ニ関スルモノニ付取扱方特ニ注意アリタン別電ト共ニ在支公使ヨリ上海ニ転報アリタン

別電ト共ニ寿府ヨリ在欧各大使ニ転電アリタン  
(編注) 本電報および別電は、中国、北平、奉天、廣東にも

発電された。

(別電)

合第四九三号 暗、極秘

一、帝国政府ノ對時局根本方針ハ成ル可ク事態ノ紛糾拡大

ヲ避ケ迅速且有利ニ時局ヲ收拾スルニ在リ特ニ上海方面ニ於テ然リトス  
二、今次ノ軍事行動ハ總テ自衛上ノ必要ニ基ク發動ニシテ戰爭ヲ目的トスルモノニ非ス凡百ノ事皆此根本觀念ヲ基調トセサルヘカラス右ハ滿州ニ於ケルト支那本土ニ於ケルト同様ナルモ特ニ帝国ノ對支那本土策ハ對滿蒙策ト全然其ノ趣ヲ異ニシ進ンテ支那本土ニ於テハ列國ト協力シ以テ平和的市場ヲ顯現セシムルノ主義ニ則応セサルヘカラスル次ニテ從テ上海方面ニ於ケル我軍事行動ヲシテ列國ト協調ヲ保ツ如ク律セシコトハ最モ希望スル所タリ又支那政權乃至行政官憲カ國際條約ノ尊重其義務ノ履行ニ忠ナル限り其ノ内政ノ変転如何ノ如キハ帝国ノ問フ所ニアラサルヲ以テ深ク茲ニ留意スルコト肝要ナリ

三、上海地方ニ於ケル帝国臣民ノ保護ハ勿論列国人ノ福祉保護ヲモ之ヲ念トシ皇軍ノ威信ヲ向上スルニ努ムルコト肝要ナリ

四、我國家並國軍ニ不利ナル宣伝ノロ実ヲ与ヘサルコトニ

關シテハ深甚ノ注意ヲ望ム是カ為歴史的美術的ノ建設物第三國人ノ生命財産等ニ關シテハ特ニ慎密ナル考慮ヲ須

ルコト肝要ナリ

144 昭和7年2月13日 大野(緑一郎) 警視総監より

中橋内務大臣、芳沢外務大臣他宛

上海よりの避難引揚者の入京なりびに言動について

外秘第三六三号

昭和七年二月十三日

警視総監 大野緑一郎

内務大臣 中橋徳五郎 殿

外務大臣 芳沢 謙吉 殿

関東府警務局長 殿

上海在留邦人ノ入京並ニ言動ニ関スル件

宿所 東京駅ホテル

上海居住三菱商事社員

大井伝次郎

右者本月十日入京、直ニ肩書ホテルニ投宿、爾來上海事件

ノ善後措置ニ關シ三菱本社ト協議中ノ模様ナルカ、上海ノ

戰時狀態ニ鑑ミ男子タル自分カ居留民全般ノ不安ヲ他所ニ見テ私用ノ為メ帰国スル事ハ甚タ心苦シク且他ノ邦人ノ憤

之等ノ狀態ノ一例トシテ日本人俱樂部ノコトヲ申上ケヤウ。同俱樂部ハ平常ノ様子ハ全クナク、卓上ニ沢山ノ握り飯ヲ盛揚ケ、各人ハ之レヲ手ニ手ニ取り、裏庭ニ積上ケラレタ数百ノ支那便衣隊員ノ死体ヲ眺メツツ血ニ塗ラレタ手摺ニ倚ソテ食フト云ツタ状態テアル。此所ニ在ツタ死体ハ全部海ニ流シテ了ツタ。

上海ニ於ケル在留邦人ハ事變前約二万八千人ト称セラレ

タカ其ノ中約一万ハ既ニ帰国シタ。之等在留邦人ノ日貨排斥ニ依ル損害ハ別トシテモ、便衣隊ノ掠奪ト軍部ノ作戦上焼払ハレタ家屋等ノ損害大ケテモ可成ノ額ニ上ル事ト思フ。

支那人ニシテ事変後共同租界内ニ流込ンタ者ハ約五、六十万ト言ハレ、之等ノ者ノ中ニ便衣隊カ紛レ込ンテ居ナイカト居留民一同ハ不安ニ駆ラレテ居ル。實際在留邦人ノ脅威トナルモノハ便衣隊テ、之カ一番恐ロシク、支那ノ正規兵ナド恐ルルニ足ラナイト一般ニ思ツテ居ル。例ノ抗日救国会ハ從来共同租界ニ本部ヲ置イテ居タカ、追払ハレタノテ、現在テハ仏租界ニ移転シテ相変ラス猛運動ヲ統ケテ居ル。

## 一、右翼帝国主義者等ノ策動

上海ハ從来各種ノ思想団体ノ巣窟ト言ハレ、共産主義者達モ沢山在留シテ居タトノ事ナルカ事変ニ依ツテ之等ノ者ハ殆ト消滅シタヤウニ思フ。カ、右翼ノ帝国主義者等ハ対満、対上海事件ヲ契機ニ帝国ノ立場ノミヲ考ヘテ國際關係ヲ全然考慮ノ外ニ置キ種々策動シテ居ル。此ノ事ハ國際關係上種々ノ危険ヲ誘致スルノテ自分ハ心配シテ

居ル。元來日本人ハ左翼ニハ好意ヲ持チ得ナイカ、右翼ニハ或種ノ好意ヲ持ツテ居ル故、極端ニ右翼ノ連中カ策動シテ者カ大分アルヤウタカ、之等ノ連中ニハ固キ信念ト強イ愛國精神カアルカラ帰国後モ國際關係ヲ考慮セス右翼的活動ヲ統ケルコトト思フ云々。  
夫レカアラヌカ今次ノ事変ニ際シテ右翼ノ連中カ策動シ遂ニ治安ヲ紊ル虞アルノ故ヲ以テ在留禁止処分ヲ命セラレタ者カ大分アルヤウタカ、之等ノ連中ニハ固キ信念ト強イ愛國精神カアルカラ帰国後モ國際關係ヲ考慮セス右翼的活動ヲ統ケルコトト思フ云々。  
右及申（通）報候

145 昭和7年2月(14)日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

## 上海調査委員会第二次報告に対する見解送付について

第一八八号（至急、極秘）  
本使発連盟宛電報

第九号（三八文書）（二）閔シ  
往電第八号ノ（二）閔シ

尚我方カ租界道路ヲ barricade セルカ如ク記シアル処右ハ便衣隊ノ活躍盛ニシテ最危險ナリシ時期ニ主トシテ夜間一

時的ニ為セルニ過キス（既ニ全部取払ハレ居レリ）之カ為交通ノ阻害ヲ來セル訳ニ非ス又工部局巡捕ハ便衣隊ニ対シテハ全然無力ナリシ而已ナラス我方カ之ニ対抗スル際却テ足手纏ヒトナリタル為一時的ニ危険区域（實際ニ争鬪アリタル數個所ニ於テ）ヨリ身ヲ避ケン事ヲ求メタル事實ハアルモ右ハ寧ロ我方ニ於テ巡捕ノ生命ノ安全ヲ顧慮シタル結果ナル事申迄モ無シ

前電補足旁々

前電ノ通転電セリ前電ノ各地ニ転報アリ度シ

146 昭和7年2月14日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

## 上海の事態に関する調査委員会アースのドラ

### モンド宛返電について

上海 2月14日後発  
本省 2月14日後着

第一九三号

往電第一八七号ニ関シ

十三日発電済ノ「ハース」ノ「ドラモンド」宛返電内容左ノ通り（出處ハ前電同様極秘トセラレ度シ）

右ノ次第ニテ戒厳令ノ公布ハ單ナル予防措置ニ過キスシテ何等特定ノ方面ニ向ケラレタルモノニアラス  
(1)河南路ノ門ハ租界ヨリ防備区域外ノ支那街ニ通スルモノナルカ同地点防備ノ上海義勇隊指揮官ハ如何ナル場合ニモ同門ヲ出入ノ為開クヘカラストノ嚴重ナル訓令ヲ「防備ノ義務ハ防禦ニアリテ攻撃ニアラス」トノ原則ニ基キ同隊員ニ与ヘ居タリ

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

147 昭和7年2月(14) 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍租界内上陸への各国領事の抗議および

回答について

第三一一号(暗)

往電第三〇八号ニ関シ

十四日付ヲ以テ日本軍租界内上陸ニ関シ、英、米及伊国総領事(米国側ハ特ニ米国政府ノ名ニ於テスル旨記載シアリ)ヨリ夫々租界ヲ軍事行動(英伊ノ分ニハ租界ノ防備ニ関係ナキ軍事行動トアリ)ノ根拠地又ハ「チャンネル」トシテ使用スルコトニ嚴重抗議スル旨申出アリ右ニ対シテハ冒頭往電ノ趣旨ニ依リ(一)英米軍ハ夫々租界内ニ上陸セルコト(二)本防備区域内ニ於ケル各國軍數ニ制限ナク從テ當該司令官ニテ各区域ノ防備ニ必要ナリト認ムル兵數ヲ租界ニ上陸駐屯セシムル權限ヲ有スヘキコト(三)租界付近ニ支那兵多數駐屯シ租界ノ安全ヲ脅カシツツアル現状ニ於テ租界ノ防備全シト言フヲ得サルヘク(日本人ノミナラス外支人ニテモ避難スルモノ多シ)今回上陸ノ日本軍ハ租界ノ安全ヲ圖ル為支那軍ヲ租界付近ヨリ撤退セシメントスル目的ヲ有シ

即チ租界防禦ノ為上陸スルモノナルコト等ヲ指摘シ唯實際問題トシテ日本軍ハ租界ニ迷惑ヲ及ホサナル様出来ル丈租界外ニ上陸セルノミナラス租界内駐屯兵モ成ルヘク早ク租界外ニ移ル意アル旨回答スルコト然ルヘキヤニ思考スル処

右ニテ差支ナキヤ何分ノ儀御回電アリタシ  
連盟、英、米、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、福州、廣東へ転電シ公使ヘ転報セリ

廣東ヨリ香港へ転報アリタシ  
連盟、英、米、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、福州、廣東へ転電アリタシ

148 昭和7年2月(14) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)

上海調査委員会第二次報告の公表について

第七九号

上海調査委員会第二回報告十四日公表セラル尚支那理事ハ十三日夜十二日付支那政府「ステートメント」ヲ各理事ニ通告シ之亦公表セラル  
在支公使ヘ転電セリ

149 昭和7年2月14日 芳沢外務大臣より 在上海重光公使宛(電報)

第一次報告書中上海事変勃発時の記載修正について

第八一号

本省 2月14日後7時15分発

「ハース」委員会報告ニ関シ問合ノ件(上海事件)  
(三五文書)  
往電第七七号ニ関シ

本日着京セル林田書記官ノ談話ニ依ルモ二十八日我軍力警備ニ就カントセル際支那側ヨリ発砲挑戦セルコト一点ノ疑

ヲ容レサル次第ナル処「ハース」報告書ノ書キ振りニテハ此ノ点明瞭ニ表シ居ラサルコト冒頭往電ノ通ナリ

就テハ此ノ点即チ支那側カ先キニ発砲挑戦セル事實ヲ明確ニ前記報告ニ追補スル様可然御交渉相成結果回電アリタシ連盟ニ転電セリ

第七四号(暗)  
(四七文書)  
貴電第三一二号ニ関シ  
末段ノ「唯實際問題トシテ」ノ次ハ「右今回上陸ノ」ヲ挿入「上陸セルノミナラス」以下ヲ「其ノ中租界内ニ駐屯セルモノト雖モ必要以上之ヲ留ムル意向ナシ」トノ趣旨ニ改メ貴案ニ依リ回答差支ナシ  
連盟及米ニ転電シ冒頭貴電同様転電セシメタリ  
公使ニ転報アリタシ

151 昭和7年2月15日 芳沢外務大臣より 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在英在澤田臨時代理大使他宛(電報)

日本軍上陸後の行動に關し各國大使に説明について

合第五〇六号(暗)  
(四二文書)  
往電合第四九〇号ニ関シ

二月十五日英米仏伊独五国大使ヲ招キ本日ハ上海ニ於ケル

時局ニ関シ我方ノ立場ニ付キ腹蔵ナキ説明ヲ為ス為御來訪

ヲ煩シタル次第ナリト前置シタル上我第九師團ハ十三日夜ヨリ今日ニカケ上海ニ到着ノ筈ニテ到着ノ上ハ開北ニ於いて  
租界内上陸に關し各國領事に対する回答につ

150 昭和7年2月15日 芳沢外務大臣より 在上海村井總領事宛(電報)

いて

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ケル第十九路軍ト直面スルコトナルヘキ処今後ニ於ケル両軍ノ関係ニ付キ説明シ度ク尚ホ右説明ニ先チ第十九路軍ノ組織性質等ニ付説明スルノ要アリトテ往電合第<sup>(一四〇文書)</sup>四八四号ノ要領並其ノ共産的色彩ヲ有スル次第（同軍中第六十一師ハ程潜ノ旧部下ニシテ一九二七年ノ南京事件ヲ起シタル部隊ナリ）ヲモ述ヘタル後第十九路軍ハ右ノ如キ組織性質ナル上盛ノニ大捷利ノ宣伝ヲ為シ南支各地方ニ於ケル我居留民モ不安ヲ感シ居ル程ナルカ第九師団到着ノ上第十九路軍ニ於テ依然トシテ我方ニ対スル脅威ヲ継続スル以上我軍ヨリ相当距離（会見ノ末段ニ於テ相当距離トハ着弾距離ノ意味ナリト告ケタル處米国大使ハ独逸軍ハ曾テ七十五哩ノ着弾距離ノ大砲ヲ使用シタリト述ヘタルニ付本大臣ハ支那軍ノ大砲ノ着弾距離ハ之ヲ承知セサルモ支那側ノ大砲ノ着弾距離ニテ可ナリト思ハルト答ヘ置キタリ）迄ノ退却ヲ要求シ第十九路軍ニ於テ之ヲ承諾セサル節ハ我軍ヨリ一擊ヲ加フルコトトナルヘク尤モ之ヲ追撃スルモアマリ奥地ニ追撃スルコトナカルヘシ蓋シ我軍ノ目的ハ居留民保護租界防衛ニアレハナリ將又閻北ニ於テ交戦スルコトアルモ既ニ吳淞ニ於テ第十九路軍ト衝突シタル以上新ナル事態トハ認メ難

ニ依ル趣ヲ以テ先般永井次官ニ申入レ置キタル件ナルカトテ左ノ趣旨ヲ申聞ケタリ  
「獨逸政府ヨリ上海事件ニ閑シ帝国政府ニ申出タルハ他ノ三国ト異リ單ニ二点ノミニシテ其ノ一ハ日支間ニ於ケル敵対行為ヲ終止スルコト其ノ二ハ日支間ニ「ケロッグ」條約ノ精神及十二月理事会決議ニ依リ速ニ交渉ヲ開始スルコトニシテ此ノ点ニ付テハ二月一日理事会ニ於テ英國代表「トーマス」ヨリ提議アリタル際獨逸理事ヨリ右態度ヲ明ニシ居レリ、獨逸ハ支那ニ於テ領事裁判権ナク又警察権ヲモ有セサルカ故ニ三国ト同一ノ地位ニ在ラス又中立地帶ノコトニ付テモ何等申出居ラサル次第ナリ」云々  
依テ松田局長ハ右了承ノ旨ヲ答ヘ置ケリ右御参考迄在支公使、北京ニ転電セリ  
土ヲ除ク在欧各大使、在米大使、寿府連盟ニ転電アリ度

153 昭和7年2月(16)日 在米國出淵大使より

芳沢外務大臣宛（電報）

日本陸軍の租界内上陸に關し國務長官遺憾の意表明について

第一二四号（暗、大至急）

ルニアラサレハ茲ニ初メテ中立地帶ニ闊スル交渉ニ入り得ヘシト思考スト述ヘタル処仏國大使ハ南支方面ニ於ケル日本居留民等カ不安ヲ感シ居レリトノコトナルカ日本政府ハ同方面ニモ出兵セラルル意向ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ今回ノ上海出兵モ日本政府トシテモ寧ロ不本意ヲ以テ派遣シタル程ニテ支那ト開戦スルカ如キ場合ノ外日本政府ニ於テ全然斯ノ如キ意向ヲ有セスト答ヘ置キタリ

仏ヨリ英ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ  
支ヨリ上海ニ転報アリタシ

（編注）本電報は、米国、仏国、中国、北平、奉天、廣東にも発電された。

152 昭和7年2月15日 芳沢外務大臣より  
在獨國小幡大使宛（電報）  
往電第九号ニ閑シ  
本月十三日在本邦獨逸大使松田局長ヲ來訪本国政府ノ訓令第一一号（暗）  
三国提案に対するドイツ側の申出について  
第一一號（<sup>一二一文書</sup>）  
國務長官ノ態度ヲ探ル為十五日午后往訪シタル処長官ハ直ニ同問題ニ言及シ自分ハ是迄日本陸軍カ租界内ニ上陸スルカ如キコトナカルヘシトノ上海方面ヨリノ報道ヲ信頼シ居タルニ（往電第一二三号新聞報参照）意外ニモ遂ニ上陸ヲ見ルニ至リタルカ右ハ租界ヲ支那軍攻撃ノ根拠地トナスモノニシテ米國政府トシテハ到底之ヲ是認シ得サルノミナラス支那側ニ於テ之ヲ口実トシ或ハ報復的ニ租界内ヲ攻撃シ米国人ノ生命財産ニ危害ヲ及ホスカ如キコト無シトモ限ラレス万一般ノ如キ事態發生シタル場合ハ日本政府ニ於テ当然責任ヲ負ハサルヘカラサル筋合ト思考ス其ノ意味合ヲ以テ日本政府ニ抗議ヲ提出スル為目下案文作成中ニ付一両日中ニ「フォーブス」ヲシテ芳沢大臣ニ手交セシムルコトトナルヘク右御含置キヲ請フト相當興奮シ居ル態度ヲ以テ語レリ

右ニ対シ不取敢本使ヨリ上海總領事發閣下宛電報<sup>(一四七文書)</sup>第三二一  
号及同總領事宛貴電<sup>(一五〇文書)</sup>第七四四号ノ意味合ヲ骨子トシテ可然説明スルト共ニ我陸軍ハ日本居留民ノ生命財産ノ保護及租界

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

防衛ナルニ任務ヲ有スルモノナルニ顧ミ租界内上陸ノ如キハ毫モ差支ナキ筈ナリ実際問題トシテ大砲「タンク」等ヲ伴フ相当大部隊ノ軍隊ヲ上陸セシムル為ニハ陸揚設備ノアル場所ヲ選ハサルヘカラサルコトハ歐州大戦ニ從事セラレタル貴官ノ充分御承知アルヘキ処ナリ況ヤ我陸軍ニ於テモ各国租界ニ迷惑ヲ及ホサランコトヲ慮リ租界ノ東隅ニ兵ヲ集メ而モ司令部ハ租界外ニ設ケアルニ顧ミ此ノ際余リ喧シク云ハレサル方適當ナルヘシト思考ス支那人ノ報復云々ヲ心配シ居ラル模様ナルカ支那側ニ於テ御話ノ如キ事柄ヲ宣伝シ居ルコトハ本使ニ於テモ承知シ居ルモ實際問題トシテ支那側ヨリ報復的ニ租界ヲ攻撃スルカ如キコトハ万無カルヘシト思考ス先般來我国ニ於テ支那軍攻撃ノ為租界ヲ根拠地トナス云々ニ付頻リニ貴國側其他ヨリ問題ヲ提起シ居ラル専法的ニ議論シ若干ノ云分アリトスルモ米国モ英國モ曾テ支那側ヨリ排斥ヲ蒙リ多大ノ困難ヲ嘗メタルコトアリ甚タ不祥ナルコトヲ云フカ如キモ将来トテモ米国側ニ於テ今回日本側ノ遭遇シ居ルカ如キ厄介ナル事態ニ直面セラレ支那ニ対抗スル為陸兵ヲ租界ヨリ上陸セシムルカ如キコト起ラストモ限ラサルヘキニ付既ニ日本陸兵

モ殆ト上陸ヲ終了シ居ル際ノコトニモアリ今更抗議カマシキ態度ニ出テラルコトハ見合セラル方得策ナルヘント力説シタルニ長官ハ米国政府トシテハ既ニ上陸ヲ了リタル日本軍隊ヲ追退ケル訳ニモ行カサルコトハ万々承知シ居ルモ諸般ノ関係上此際一応抗議ヲ提出スルコト必要ト認メリ貴大使折角ノ御話ナルモ遺憾乍ラ再考ノ余地ナシト語レリ國務長官ハ本日午前英國大使ト會見シ尚午後本使ニ引続キ仏國大使ト會見シタル事實アルニ付本問題ニ付或ハ倫敦及巴里ト相談スル積リナルヘシト思考ス連盟及支ヘ転電シ連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電シ支ヨリ上海ヘ転報セシム

154 昭和7年2月(17)日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

ジャーデン碼頭英國水兵負傷事件に関する英

公使の抗議について

第二二五号(暗)

十七日英國公使來訪支那砲彈「ジャーデン」碼頭ニ飛来シ英國水兵二名等瀕死ノ重傷ヲ負ヒタル件(上海発閣下宛電報第三三一号)ニ關シ右ハ心外千万ノ出来事ニテ畢竟日本

カ租界ヲ使用スル結果ナリトテ「ブレナン」ノ村井宛抗議文写ヲ示シ本件ハ早速本国政府ニ報告シ措置振り請訓中ナ

リト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本ノ租界ニ對スル立場ハ別問題トシ現在ノ如キ状態ニ於テ斯ル出来事ノ起リタルハ如何ニモ遺憾ニシテ且ツ悲ムヘキコトナリ斯ル事ノ起ルコトハ

日本ノ最モ希望セサル点ニテ日本軍現在ノ行動モ斯ルコトノ出来事ヲ防キタキ趣旨ニ外ナラスト述ヘタルニ同公使ハ御趣旨ハ諒トスルニ付早速本国政府ニ報告スヘシト述ヘタリ尚本使ノ問ニ對シ公使ハ支那側ニ對シテモ最モ嚴重ナル抗議ヲ提出セル旨答ヘタリ本使等ハ此上共英國側ノ神經ヲ刺戟セサル様出来得ル限りノ手段ヲ執ル積リナリ

連盟米、英、北平、奉天ニ転電シ上海ニ転報セリ

155 昭和7年2月17日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

租界内への軍隊上陸に關する手續取調について

第八九号 暗、至急

米來電第一二四号ニ閔シ左記事項至急御取調ヘノ上回電ア

リ度  
一、(1)居留民保護又ハ租界防衛ノ必要上共同租界ニ軍隊ヲ上陸セシムル場合ニハ法規上又ハ理論上租界當局ノ許可ヲ要スル次第ナリヤ或ハ租界當局ニ對スル通告ノミニテ足ルヤ  
(2)右軍隊上陸カ戒嚴令施行セラレ關係國カ各々受持区域ノ防備ヲ負担セル後ニ行ハルル場合ハ如何(貴電  
第一九三号ノ一参照)  
二、(1)及(2)ニ閔スル從來ノ慣行及今回英米伊三国カ軍隊ヲ租界ニ上陸セシメタル際執リタル手續如何

上海ヘ転報アリ度

156 昭和7年2月17日 芳沢外務大臣より  
在米國出淵大使、在英國沢田臨時代理大臣他宛(電報)

上海における主要各國投資額貿易額等について

て

上海ニ於ケル主要各國(日本ヲ含ム)投資額及最近二ヶ年貿易額並船舶出入港數大要左ノ通リナルニ付可然御利用ア

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

	リタシ
一、投資額（単位百万両）	一九三〇年五二一八二隻（千五十二万噸）
日	三八〇
英	五四三
米	一六三
仏	一〇三
二、貿易額（単位百万海関両）	一九三〇年五二一八一一一九三〇年一
日（朝鮮台灣ヲ含ム）	一九二九年一八一一一九三〇年一
英（香港、海峡殖民地、印度、加奈陀ヲ含ム）	同二七二二一同二九八
米（布哇ヲ含ム）	同二三一一同二五七
仏（仏領印度支那ヲ含ム）	同七四一同六七
伊	同二五一同一八
独	同五七一同五一
白	同一五一同一八
三、船舶出入港数	同
日 一九二九年四四四六隻（九百一十万噸）	一九二九年四四四六隻（九百一十万噸）
英（香港、海峡殖民地、印度、加奈陀ヲ含ム）	同二七二二一同二九八
米（布哇ヲ含ム）	同二三一一同二五七
仏（仏領印度支那ヲ含ム）	同七四一同六七
伊	同二五一同一八
独	同五七一同五一
白	同一五一同一八
三、船舶出入港数	同
日 一九二九年四四四六隻（九百一十万噸）	一九二九年四四四六隻（九百一十万噸）

上海事変に依る日本側の被害状況について

合第五三一号

上海事件（被害状況）

上海事件ニ依ル我方ノ被害左ノ如シ

(一) 海軍

戦死 八七（將校五、准士官一、下士二三、兵六

八

重軽傷 三二九（重傷將校七、准士官五、下士二四、

兵一十五、輕傷將校七、准士官九、

下士二〇、兵一四二）

飛行機 二（一台ハ墜落一台ハ濃霧ノ為遭難セル

モ乗組員ハ米国汽船ニ救助サル）

（以上十五日現在）

(二) 在留邦人

死者 七（便衣隊ニ依ルモノ四、正規軍ニ依ル

モノ三）

重傷 一八（便衣隊ニ依ルモノ四、正規軍ニ依ル

モノ七、群衆ニ依ルモノ七）

行方不明 四（以上十二日迄ニ判明ノモノ）

(三) 物的損害

西本願寺（租界内文路、正規軍砲弾ニヨリ本堂破壊）

滬上神社（租界外閘北江湾路、正規軍ニヨリ掠奪ノ上放

火）

大和酒造合資会社外工場商店八（内租界内四、租界外

五、正規軍ノ砲撃ニ依リ破壊又ハ正規軍若クハ暴徒ニ依

リ掠奪放火）

四上海ヨリ内地ヘ引揚者数八、五〇〇（十四日迄ノ分）

米ヨリ加奈陀、市俄古、桑港、紐育ヘ転電アリ度シ

連ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

157 昭和7年2月17日

芳沢外務大臣より  
在米國出淵大使、在ジュネーヴ沢田

連盟事務局長宛（電報）

（編注）本電報は、ジュネーヴにも発電された。

支ニ郵送セリ

連盟ヨリ英、土ヲ除キ在欧各大使ニ転電アリタシ

同 二〇隻（六万噸）

白 同

同

一〇隻（三万噸）

獨 同

三七七隻（百五十九万噸）

同 三一五隻（百三十九万噸）

米 一〇五隻（三十九万噸）

英 一九五隻（百一万噸）

同 一二四隻（百六万噸）

仏 一五九八隻（三百六十二万噸）

同 二二四隻（百六万噸）

伊 同

同 一九五隻（百一万噸）

同 二二四隻（百六万噸）

同 一五九八隻（三百六十二万噸）

同 一五〇〇隻（三百四十八万噸）

同 一五五三三隻（千百四十五万噸）

同 一五六〇〇隻（千百七十九万噸）

同 一五六〇〇隻（三百六十二万噸）

158 昭和7年2月(18)日 在上海重光公使より  
(五五文書)  
貴電第八九号ニ閑シ

一、(イ)軍隊ノ上陸ニ付テハ如何ナル場合ニモ法規上理論上  
租界官憲ノ許可ヲ受ケ又ハ之ニ通告ヲ為スノ義務無  
シ此ノ点ニ付テハ「フェッセンデン」及秘書「ジョ  
ンズ」ヨリ言明アリ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

(1) 戒厳ヲ布ク場合ノ順序ハ実際ニ於テ（別ニ規定アルニ非ス）第一ニ工部局ニ於テ戒厳ヲ布告シ第二ニ之ヲ領事団ニ通知シ第三ニ領事団之ヲ討議シ第四ニ各國領事ヨリ自國軍ニ通知シ以テ戒厳ノ執行ニ必要ナル措置ヲ執ラシム而シテ各国軍ニ於テ戒嚴区域ノ防護ニ就キタル後ハ軍隊ノ増派其ノ他ハ一切各司令官ノ責任ヲ以テ決定スル所ニテ工部局モ領事団モ一切之ニ関係セス以上ノ如キ関係ナルヲ以テ軍隊ノ上陸ニ付テハ租界當局ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス又仮ニ許可ヲ申請シ來ル時ハ租界當局ニ於テ却テ其処理ニ窮ス（「フ」ハ右ハ租界トシテ迷惑千万ノ事ナリト云ヘリ）又上陸ニ關スル通知モ法規上何等必要無シ

161 昭和7年2月(18日 在上海重光公使より)

芳沢外務大臣宛（電報）

上海總領事より吳上海市長あて最後通牒について  
いて

(2) 重光公使發閣下宛往電（一五九文書）

第三三八号（暗、大至急）

第三三五号（暗、大至急）

連盟ヨリ可然転電アリタシ

(1) 本職ハ平和友好的手段ニ依リ任務ヲ達セントスル切ナル希望ニ基キ茲ニ貴軍司令ニ対シ左ノ件ヲ通告ス

(2) 以上ノ諸項ニシテ實行セラレサル場合ニハ日本軍ハ貴軍ニ対シ自由行動ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク其結果生スル一切ノ責任ハ貴軍ニ在リ

転電先、往電第二三五号ノ通

連盟ヨリ可然転電アリタシ

(1) 本職ハ平和友好的手段ニ依リ任務ヲ達セントスル切ナル希望ニ基キ茲ニ貴軍司令ニ対シ左ノ件ヲ通告ス

(2) 以上ノ諸項ニシテ實行セラレサル場合ニハ日本軍ハ貴軍ニ対シ自由行動ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク其結果生スル一切ノ責任ハ貴軍ニ在リ

転電先、往電第二三五号ノ通

軍司令官ヨリ十九路軍司令ニ対スル通牒ハ前文及末文トシテ左記(一)及(二)ヲ記載シ本文要求条件ハ上海總領事ノ市長宛公文条件ト同趣旨ナルカ總領事公文末段排日運動ノ禁止ニ關スル一月二十八日付吳市長ノ約束ヲ實行スヘク右ニ関シテハ日本外務官憲ヨリ別ニ交渉スヘキ事ヲ末項トシテ組入レタルモノナリ

(1) 本職ハ平和友好的手段ニ依リ任務ヲ達セントスル切ナル希望ニ基キ茲ニ貴軍司令ニ対シ左ノ件ヲ通告ス

(2) 以上ノ諸項ニシテ實行セラレサル場合ニハ日本軍ハ貴軍ニ対シ自由行動ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク其結果生スル一切ノ責任ハ貴軍ニ在リ

転電先、往電第二三五号ノ通

ル措置ヲ執ラシム而シテ各国軍ニ於テ戒嚴区域ノ防護ニ就キタル後ハ軍隊ノ増派其ノ他ハ一切各司令官ノ責任ヲ以テ決定スル所ニテ工部局モ領事団モ一切之ニ関係セス以上ノ如キ関係ナルヲ以テ軍隊ノ上陸ニ付テハ租界當局ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス又仮ニ許可ヲ申請シ來ル時ハ租界當局ニ於テ却テ其処理ニ窮ス（「フ」ハ右ハ租界トシテ迷惑千万ノ事ナリト云ヘリ）又上陸ニ關スル通知モ法規上何等必要無シ

二、唯實際ニ於テハ戒嚴施行後ノ軍隊ノ上陸ニ付テハ各國軍隊ヨリ租界當局及主席總領事ニ通告スルヲ例トス今回各國共同様ニ取扱ヒタリ但シ工部局ニ於テモ右ハ單ナル儀礼上ノ問題ト考ヘ居レリ

上海へ転報セリ

(2) 戒嚴ヲ布ク場合ノ順序ハ実際ニ於テ（別ニ規定アルニ非ス）第一ニ工部局ニ於テ戒嚴ヲ布告シ第二ニ之ヲ領事団ニ通知シ第三ニ領事団之ヲ討議シ第四ニ各國領事ヨリ自國軍ニ通知シ以テ戒嚴ノ執行ニ必要ナル措置ヲ執ラシム而シテ各国軍ニ於テ戒嚴区域ノ防護ニ就キタル後ハ軍隊ノ増派其ノ他ハ一切各司令官ノ責任ヲ以テ決定スル所ニテ工部局モ領事団モ一切之ニ関係セス以上ノ如キ関係ナルヲ以テ軍隊ノ上陸ニ付テハ租界當局ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス又仮ニ許可ヲ申請シ來ル時ハ租界當局ニ於テ却テ其処理ニ窮ス（「フ」ハ右ハ租界トシテ迷惑千万ノ事ナリト云ヘリ）又上陸ニ關スル通知モ法規上何等必要無シ

159 昭和7年2月(18日 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛（電報）我が方より最後通牒の交付について

第一三五号（暗、大至急）

往電第二二七号ニ閑シ

先方ヨリ十八日夜ニ至ル迄何等ノ返答モ無カリシニ付予定ノ通り十八日午後九時同日付村井總領事ヨリノ吳市長宛公文及軍司令官ヨリ蔡廷楷宛公文（打合ノ結果公安局ヲ通シテ交付ノ事トセリ）ヲ夫々先方ニ提出セリ

総領事公文全文上海發閣下宛電報第三三八号ノ通  
連盟、英、米、奉天、北平、南京、青島、天津、漢口、福州、廣東へ転電セリ

連盟ヨリ在欧各大使へ転電アリ度シ

160 昭和7年2月(18日 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛（電報）

白川軍司令官の十九路軍あて最後通牒の内容

について

第二三六号（暗、大至急）  
往電第二三五号ニ閑シ

第一三五号（一五九文書）

白川軍司令官の十九路軍あて最後通牒の内容

について

第二三六号（暗、大至急）  
往電第二三五号ニ閑シ

念申添候

一、中国軍隊ハ二月二十日午前七時迄ニ第一線ノ撤退ヲ完

了シ二月二十日午後五時迄ニ黃浦江左岸共同租界西北

端、曹家渡鎮、周家橋鎮及浦淞鎮ヲ連ヌル線以北租界ノ

北部境界線以北並黃浦江右岸爛泥渡及張家樓鎮ヲ連ヌル

線以北ニシテ租界ノ境界線ヨリ二十杆ノ地域（獅子林砲

台ヲ含ム）ノ外ニ撤退ヲ完了シ右地域内ニ於テ砲台其ノ

他ノ軍事施設ヲ撤去シ並ニ新ニ之ヲ設ケサルコト

上海付近ニ於テ前記撤退地域ニ属セサル地域ニアル日本

人ノ生命財産ハ中國側ニ於テ完全ニ保護スルコト右保護

完全ナラサル時ハ日本側ニ於テ適當ノ手段ヲ執ルヘシ

便衣隊ハ中國側ニ於テ一切有効ニ禁止スルコト

二、日本軍ハ中國軍ノ撤退ヲ確認シタル後ニ於テハ虹口付

近ニ於ケル工部局道路地域（虹口公園ノ周囲ヲ含ム）ヲ

保持スルニ止ムルコト日本軍ハ中國軍ノ撤退開始以後ハ

射撃爆擊及追擊ノ動作ヲ行ハサルコト但シ飛行機ニ依ル

偵察ハ此ノ限りニアラス

三、中國軍ノ第一線撤退完了後日本軍ハ其ノ実行ヲ確認ス

ル為護衛兵ヲ有スル調査員ヲ撤退地域ニ派遣ス

162 昭和7年2月(18)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電セシム(英、土ヲ除ク)

連盟、米、英、奉天、北平、南京、天津、青島、漢口、福州、廣東ヘ転電セリ

予備陳述書提出をめぐる中國顏理事とドラモ

ンド事務総長との往復書翰について

別電

同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢

外務大臣宛第一〇三号

中国側提出の予備陳述書

第一〇二号

支那理事カ規約第十五条第二項ニ基キ事務総長宛ニ提出シタル陳述書及右ニ関シ支那理事ト事務総長ノ間ニ交換セラレタル書翰本十七日事務局ヨリ各理事ニ配付セラレタリ其ノ大要左ノ通

(一)二月九日顏ヨリ事務総長宛予備陳述書ノ送状

予ハ第十五条第二項ニ基キ支那共和国カ提出スル陳述書ヲ

此処ニ貴下ニ送付スルノ光榮ヲ有ス支那代表部ハ數日中ニ

更ニ詳細ナル事實ヲ記載セル一層完備セル陳述書ヲ提出ス

ヘシ（付属陳述書全文別電第一〇三号）

(二)二月十日付事務総長ヨリ顏宛書翰

予ハ九日付貴翰及第十五条第二項ニ基キ提出セラレタル陳

述書ヲ受領セリ貴官ハ支那代表部ヨリ數日中ニ一層詳細ナ  
ル陳述書ヲ提出セラルヘキ旨通告セラレタリ

四、上海付近（撤兵地域ヲ含ム）ニアル外国人ノ保護ニ付

追ツテ商議ヲ行フコト

追テ第十九路軍カ今回ノ行動ヲ執ルニ至リタルハ二月十五

日付貴市長宛本總領事書翰中ニモ言及シタル通畢竟貴市長

カ一月二十日付本總領事ノ要求ニ對スル一月二十八日付貴

市長ノ御回答中ニ表示セラレタル抗日会ノ即時解散及其他

排日運動ノ禁止ニ関スル約束ヲ切実ニ実行スルノ誠意ト能

力トヲ有セサリシニ依ルモノト認メラレ候依テ本總領事ハ

貴市長ニ対シ前記貴市長ノ約束ヲ迅速且完全ニ実行セラレ

ン事ヲ茲ニ重ネテ要求スルモノニ有之候

本總領事ハ大ナル関心ヲ以テ貴市長ノ本件實行ヲ監視スル

モノニシテ若シ実績挙ラサルニ於テハ我方ニ於テ適當ナル

手段ヲ執ラサルヲ得サルニ至ルヘキモノナル事ヲ茲ニ併セ

テ声明致候

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電セシム(英、土ヲ除ク)

連盟、米、英、奉天、北平、南京、天津、青島、漢口、福州、廣東ヘ転電セリ

(四)二月十二日付事務総長ヨリ顏宛書翰

十一日付書翰拝誦セリ貴官ハ予カ一層鮮明ナル陳述書ヲ受

領スル迄予備陳述書ヲ理事会ニ通告セサルコトヲ希望セラ

ルナリシカムトナク貴信ニ折返シ反対ノ申込ナキ限ニテ  
備陳述書及關係往復文書ヲ照事余リ通知ハル義務トコトニ  
考ベ  
在歐米各大使、支く転電ヤニ

(密 謄)

No. 103

<sup>(1)</sup> Official records of League Nations in the proceedings taken before Council since September eighteenth last disclose following undisputed facts.

1. On evening September eighteenth 1931 Japan without warning launched a violent attack with armed forces upon territory of China.

2. Notwithstanding active efforts of Council in exercise of its conciliatory function under article eleven Covenant this attack has been steadily and consistently developed into a formidable invasion and occupation not only of Manchuria but of other parts of China.

3. Japan has failed to comply with resolutions of Council providing for cessation of her hostile action

and withdrawal of her armed forces. Resolutions of September thirtieth and of December ninth consented to Japan herself have not been carried out either in letter or in spirit.

<sup>(2)</sup> 4. Efforts of Members of League acting in collaboration with United States America have likewise proved unavailing to bring about a cessation of Japan's armed aggression, which still continues not only in Manchuria but also at Shanghai and elsewhere. Nanking Capital of China has been bombarded and is threatened with further bombardment, Government has been obliged to transfer its seat from Nanking to Loyang.

5. Violation by Japan of League Covenant, of Pact Paris and of Nine Power Treaty is fact which has been made so clear as to admit of no dispute.

6. China respectfully submits that elementary facts of situation as above stated plainly call for exercise of full powers of League under its Covenant to bring about an immediate cessation aggressive action by Japan,

prompt evacuation China's territory by Japanese forces and settlement of the entire controversy between China and Japan by peaceful means. February 9th.

163 昭和7年2月(18)日 在ジヨネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍の毒ガス使用不認可

第1〇七号(暗)

貴電合第四八一號(闕)

当地新聞ニ我軍煙幕使用ノ記事現ヘタルヲ機余ニ我軍ヘ  
煙幕ヲ使用スル事アル可キモ毒瓦斯ヲ使用スル事絶対ニナ  
キ旨事務総長宛通知シ置キタリ

支く転電セリ

~~~~~

164 昭和7年2月(18)日 在米国出淵大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍租界駐屯の國務長官の抗議に關する

A・P東原発新通じて

第111回等

第111五号(極秘級)  
十七日諸新聞紙ニ往電第一二四号ノ如キ東京電報掲載セラ  
ノ著シク世上ノ注意ヲ喚起シ同日ノ新聞記者会見ニ於テ國  
務長官ハ種々ナル質問ヲ受ケ頗ル迷惑ヲ為シタル旨ヲ聞込

167 昭和7年2月19日

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

## 最後通牒発出による連盟規約第十六条の制裁

ミタルニ付同日午後大使ハ長官ヲ訪問シ一昨日長官ノ内話セラレタル次第ハ自分ヨリ直ニ東京ニ電報シ置キタル処端ナクモ東京ニ於テ新聞側ニ漏レタルハ本使ノ頗ル遺憾トスル處ナルヲ述へ長官ノ迷惑セラレタルコトニ対シ同情ノ意ヲ表示シタルニ長官ハ深ク失望シ居リタル様子ヲ以テ本件漏洩ノ不都合ナルコトニ対シ相当不満ノ意ヲ表シ自分ハ一昨日貴大使ト会談ノ後尚引続キ案文ヲ練リ出来得ル限り健ナル態度ヲ持ツテ貴国政府ノ注意ヲ喚起スルコトニ苦心シ居リタル次第ナルカ各新聞側ニ漏洩シタル以上ハ自分トシテハ可成リ速ニ抗議ヲ提出スルコトニ取運フノ外致方ナシト述へ内外ニ対スル其困難ナル立場ニ付苦衷ヲ披瀝セリ在外使臣ノ任國當局トノ間ニ行ヒタル懇談カ屢々東京ニ於テ漏レ之カ為出先ニ於テ容易ナラサル迷惑ヲ受ケタルコトハ閣下御承知ノ通りナル処目下日米關係極メテ「デリケート」ナル際斯ル事柄ノ漏洩スルコトハ真ニ心外ノ至リニ堪ヘサル次第ニ付将来ノ為早速適切ナル措置ヲ講セラレンコトヲ希望ス

連盟ニ転電シ在欧各大使ニ転電セシム

間支那側ニ於テ反省シ自發的ニ撤退ヲ行ヒ以テ流血ノ慘事ヲ避クルニ至ランコトヲ希望スルカ為ナリト告ヶ尚支那側撤退地域ヲ監視スル為我方ヨリ士官ヲ派遣スル筈ニ付其ノ際第三國ノ「オブザーバー」立合ニ異存ナキ趣旨ヲモ説明シ我方ニ於テイキナリ兵ヲ進メテ支那軍ヲ擊退セントスル次第ニアラサルコトヲ懇切ニ説明シ置キタリ長官ハ本使ニ内報ヲ謝スルト共ニ米国政府トシテハ一月卅一日芳沢外相ノ御依頼モアリ誠意ヲ以テ日支両國間停戦ノ斡旋ヲ試ミニトシタルモ重要ナル点ニ於テ日本政府ノ容ルル処トナラス遂ニ日本陸兵ノ派遣トナリ其ノ後ニ於テモ何トカ事件ノ平和的解決ヲ見ルニ至ランコトヲ衷心希望シ居リタルニ拘ハラス只今貴大使ノ内話セラレタルカ如キ破目ニ陥リタルハ頗ル遺憾ノ至リナルコトヲ述へ尚此ノ上トモ何トカ平和的結着ヲ見ルニ至ランコトヲ切望スト述ヘタリ

寿府及支ヘ転電シ寿府ヨリ在欧各大使ニ転電セシム

166 昭和7年2月(18)日 在米国出淵大使より 芳沢外務大臣宛（電報）

## 最後通牒交付に至るまでの経緯に關し國務長官へ内報について

## 第一三六号（暗）

帝国政府ハ支那軍ヲ上海租界外廿糸ノ外ニ撤退セシムヘキ最後ノ通牒ヲ発スル様出先官憲ニ指示ヲ与ヘタル旨十七日東京発A・P通信ニ依リ伝ヘラレタルニ付往電(二五六五文書)第一三五号会談ノ後本官ヨリ長官ニ対シ帝国政府ハ上海方面ニ於ケル戰鬪ヲ防止シタキ見地ヨリ今日迄出来得ル限り支那軍ノ自発的撤退ヲ勧誘シ來リタルモ支那側ニ於テハ啻ニ我カ勸告ニ耳ヲ傾ケサルノミナラス益々兵力ヲ集結シテ敵對行為ヲ繼續シ徒ニ租界ノ不安ヲ増スノミナルヲ以テ帝国政府ニ於テハ此ノ危急ナル事態ニ余儀ナクセラレ最後ノ手段トシテ廿四時間ノ期間ヲ付スル最後ノ通牒ヲ以テ支那軍ニ対シ租界廿糸外ノ撤退ヲ要求スルコトニ決定シタル趣ヲ内話シ愈之ヲ実行スル場合ニハ何レ我カ出先官憲ヨリ貴國官憲ニ委細ノ事情ヲ説明スル筈ナルコトヲ告ヶ且斯クノ如ク相当ノ期間ヲ定メテ最後ノ警告ヲ発スルコトニ決定シタルハ此ノ佐藤大使ヨリ

第一一三号（暗、大至急）

最後通牒終ニ発セラレ明二十日午後五時ヲ期シ軍事行動開始セラルヘキ処当方ニ於テハ今十九日緊急理事会招集方支那理事ヨリ請求アリタルハ往電第一一〇号ノ通ニテ何レタ刻迄ニハ理事会開催セラルヘク而シテ英米輿論ノ極端ナル硬化ニ顧ミ理事会モ規約第十六条ノ制裁迄進ミ得ヘキ状勢ニ立至レリト思考セラル政府モ最後通牒ヲ発スル迄ニ御決心相成リタル以上最悪ノ場合世界ヲ敵トシテ戦フ決心迄モ執ラレタルモノト思惟セラルモ日本国民ニ果シテ夫レ程ノ決心アリヤ國民ハ果シテ事件ノ重大性ト列國ノ我方ニ対スル態度ニ付承知シ居レリヤ甚タ疑ナキ能ハス本使トシテハ這般ノ事情ヲ考へ最後ノ瀬戸際ニ至リタル今日ニ於テモ未タ世界ヲ相手トスル決断付キ兼マル次第ナリ本日ノ理事会ニテハ或ハ不取敢最後通牒ノ期間延期ヲ要求スルニ決スルヤモ知レス其際ハ万難ヲ排シテ之ヲ承諾セラレタク然ラサレハ日本ハ直ニ侵略者ト断定セラレ第十六条ノ制裁ヲ甘受セサルヲ得サルニ至ルヘシ國家危急存亡ニ際シ断然タル

御決心相願ヒ上ケタシ

在支公使ヨリ軍司令官へ本電直ニ転報セラレタシ（十九日正午発）

在欧米各大使、支ニ転電セリ

168 昭和7年2月(20)日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛（電報）

### 撤兵要求地域外への我軍事行動の波及防止について

第二四八号（極秘）

上海事件ヲ局限シ我方ノ面目ヲ維持シ其速ニ時局ヲ收拾スルハ当初ヨリノ御方針ト承知シ居リ陸軍出兵ノ目的モ全ク右ノ方針ナル處我軍ノ行動モ開始セラレタル今日特ニ為念左ノ件ニ付中央軍部ノ充分ナル諒解ヲ取付ケ置カレンコトヲ請フ

一、我軍事行動ハ我要求スル撤兵地域（蘇州河ノ北租界境線ヨリ二十基）以外ニ及ホササルコト、右ハ國際關係ヲ顧慮スル外蔵介石直屬顧祝同軍トノ衝突ヲ避クル意味ヨリ云フモ必要ニシテ又軍事行動ニ拡大ハ後方ヲ攬乱セラル虞アリ且不穩思想ノ感染等ニモ充分ノ注意ヲ要スル次第ナ

尚排日ニ對スル吳市長ノ公文ヲハ之ヲ確認実行セシムルコト

英、米、連盟、北平、奉天、南京、廣東へ転電シ、上海ニ転報セリ

連盟ヨリ英、土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

169 昭和7年2月(20)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

### 理事会より最後通牒期限延長方要請について

第一一四号（大至急）  
十九日午後五時半理事会開催時局ニ関シ日支両國理事意見陳述ノ後議長ヨリ佐藤理事ニ対シ此ノ際セメテ最後通牒ノ期限ヲ延長シ両軍ノ衝突ヲ避ケ得ル様取計方日本政府ニ伝

達アリ度キ旨切実ニ要請シ支那ヲ除ク各理事全部之ヲ支持シタルニ依リ佐藤理事ハ右伝達方承諾スルト共ニ支那側ニ對シテモ敵対行為休止方理事会ヨリ同様要請アリ度キ旨希望シ議長之ニ応シ支那理事ニ対シ支那側ニ於テモ敵対行為避止方本国政府ニ伝達アリタキ旨要請セル上上海ニ代表者ヲ有スル理事会諸国政府ハ是等代表者ニ対シ右両当事国ニ對スル要請ヲ電報センコトヲ依頼セリ次テ臨時総会期日ヲ三月三日ト決定セリ委細追報

本電在支公使ヨリ軍司令官ニ転報アリ度シ

在欧各大使、在支公使ヘ転電セリ

170 昭和7年2月20日 芳沢外務大臣より※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

### 最後通牒期限延長不可能の事情について

第四二号 暗、大至急

貴電第一二三号ニ関シ

佐藤理事ヘ

列國側ニ於テ上海ノ事態ニ関シ著シキ誤解アル様思ハルル事件ノ原因及経過並ニ我軍ノ目的ハ累次電報ノ通リニテ

リ而シテ其上深ク踏ミ込ムハ如何ナル意味ニ於テモ成功覚束ナシ

二、我要求条項第四ノ會議ハ或ハ英國公使ヲシテ斡旋セシムルコトトシ支那側ニ於テ商議開始承認ノ上ハ第二項記載ノ通り我軍ハ遲滞ナク租界及要求ノ旧地位ニ復スルコトヲ承認スルコト必要ナルニ於テハ撤兵区域ハ國際義勇軍又ハ國際軍ヲ以テ警備セシム

ノ通り我軍ハ遲滞ナク租界及要求ノ旧地位ニ復スルコトヲ承認スルコト必要ナルニ於テハ撤兵区域ハ國際義勇軍又ハ國際軍ヲ以テ警備セシム

171 昭和7年2月20日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛（電報）

尚排日ニ對スル吳市長ノ公文ヲハ之ヲ確認実行セシムルコト

英、米、連盟、北平、奉天、南京、廣東へ転電シ、上海ニ転報セリ

連盟ヨリ英、土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

172 昭和7年2月(20)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より

芳沢外務大臣宛（電報）

### 理事会より最後通牒期限延長方要請について

第一一四号（大至急）  
十九日午後五時半理事会開催時局ニ関シ日支両國理事意見陳述ノ後議長ヨリ佐藤理事ニ対シ此ノ際セメテ最後通牒ノ期限ヲ延長シ両軍ノ衝突ヲ避ケ得ル様取計方日本政府ニ伝

我方ニ於テハ十九路軍ノ性質並ニ租界及居留邦人ニ対スル緊急重大ナル危険ニ顧ミ同軍ノ危険区域外撤退ヲ要求シ居ルニ過キナルノミナラス右要求モ在支公使等ヨリノ電報ニテ御承知ノ通り飽迄地方のノ緊急措置トシテ軍司令官及總領事ヨリ十九路軍及上海市長ニ提出シ居リ所謂国交断絶ニ至ルノ虞アル國家間ノ最後通牒トハ全然意味ヲ異ニスル次第ニ付此点篤ト御含置アリタシ將又最後通牒ノ期限ハ既ニ終了シ居リ我軍ニ於テハ既ニ行動ヲ開始シ居ルヘク旁々今トナリテハ十九路軍ノ態度ニ一大変化ヲ生セサル限り右期限ヲ延長スルコトハ到底不可能ナリ

從テ右状況ノ下ニ提出セラレタル撤兵要求ヲ貫徹セムトスル緊急止ムヲ得サル我方ノ行動ヲ以テ直チニ侵略ト断定スルコトハ極メテ理由無キコトニシテ當方トシテハ之ニ依リ

第十六条ノ適用ヲ來シ延テ世界ヲ相手トシテ戰フカ如キ問題起レルモノトハ認メ居ラサル次第ナリ

就テハ篤ト叙上ノ事情ヲ説明シ万一一ニモ連盟側ニテ第十六条適用等ノ輕舉ニ出テ取返シ付カサル事態ヲ發生セシメサル様嚴ニ戒メラレ度

米、支、奉天、北平、廣東ニ転電シ支ヲシテ上海ニ転報セ

在欧各大使ニ転電アリ度

## 第二六九号

二十日付上海事件連盟委員会第三回報告書大要左ノ通

171 昭和7年2月21日 芳沢外務大臣より  
在ジヨネレバ澤田連盟事務局長、在  
米国出淵大使他宛(電報)

## 中国軍のダムダム弾使用について

合第五七〇号 暗、至急

二十一日海軍來電ニ依レハ上海ニ於ケル我軍ノ鹵獲品中多  
数ノ「ダムダム」弾アリトノコトナリ右「ダムダム」弾ノ  
實物ヲ関係國領事ニ実見セシムル様村井總領事ニ電訓シ置  
キタリ

連盟ヨリ在欧各大使へ転報アレ

上海ニ転電セリ

(編注) 本電報は、上海にも發電された。

172 昭和7年2月22日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

## 連盟上海調査委員会第三次報告大要について

上海 2月22日(脱)  
本省 2月23日前着

十九日市長ヨリ日本總領事ニ又十九路軍長ヨリ日本軍司  
令官ニ夫々回答發セラル(以下内容ヲ略述ス)

(一)支那政府カ如何ナル回答ヲ發シタルヤ明カナラス十九  
日夜ヨリ二十日ニ掛ケ日本軍増援隊ハ租界内ノ根拠地  
(bases) ヨリ戰線ニ出動、空中偵察ニ依リ支那軍カ日  
本側要求通り退却シ居ラサルヲ確メ二十日午前七時半

文ト略同様)(第二項以下省略)

日本軍ハ江湾及吳淞ニ於テ攻擊ヲ開始シ戰闘ハ終日繼  
続セリ

173 昭和7年2月(22)日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

## 連盟上海調査委員会第三次報告中注意を要す

る点について

上海 2月22日後着  
本省 2月22日後着

第二七〇号(暗)

連盟委員会第三回報告書中注意ヲ要スル点左ノ通

一、要求条項ニ付我方公表訳文ニ拠ラス支那發表ト思ハル  
ル訳文ニ依リタル為撤兵區域ノ如キ我要求ト相違シ居ル  
コト

二、十九日夜ヨリ二十日ニ掛ケ日本增援隊ハ租界内ノ「ペ  
ース」ヨリ戰線ニ出動云々トアル處我軍ノ一部ハ吳淞ヨ  
リ出動セルコト(反租界内ニ上陸宿營セル部隊ノ或ルモ  
ノカ既ニ十九日夜以前ニ租界外ニ宿泊セル事実、此点ノ  
発表ハ或ハ考ヘモノナルヘキモ)ヲ報告シ居ラス即チ事

実ニ反シテ日本增援隊全部カ租界ヲ作戦ノ「ベース」ト  
又陸戰隊本部付近ニハ約百発ノ砲彈落下シ日本女学校ニモ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

数発命中セル等甚々危険ナリシニ付同地一帯ノ残留邦人約百名避難セリ在留民中ヨリハ死傷者ヲ出ササリシモ被害相当大ナルモノアル見込ナリ本二十二日北四川路及租界内乍浦路邦人居居住地域内ニ數十発砲弾落下シ一、二ヶ処ニ火災ヲ起シツツアリ軍側ニ於テハ支那側砲弾ハ不発多ク威力微弱ナレハトテ在留民ヲ安心セシメ居ル關係上日本側通信社等ハ右様被害ノ打電ヲ差控ヘ居レル趣ナリ尚昨二十一日ニハ我飛行機一台射落サレ「タンク」モ一台砲弾ノ為破損セル由  
廣東ヨリ香港へ転電アリ度シ  
北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、廣東へ転電シ支へ転報セリ

175 昭和7年2月22日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

上海円卓會議の運當について

第一〇七号(暗)  
(一六八文書)

貴電第二四八号ニ付テハ関係者ト協議ノ上何分ノ義回訓スヘキモ貴電第二五六号ノ如ク外国人保護問題ヲ往電第七五号円卓會議ノ討議事項トスルコトハ差支ナク又同問題ニ付

ニ閘北方面ノ敵ハ二十一日以来連日連夜邦人居居住地域ニ向テ猛烈ニ攻撃シ来リ数百ノ砲弾到ル処ニ落下シ邦人ノ死傷及火災相次テ起リ範子路以北ノ一帯ハ居住スル能ハス虹口方面モ亦同様ノ状態トナリツツアリ  
二、此状態ハ上海ノ外人全般ニモ極度ノ不安ヲ感セシメ英國其ノ他ノ官憲ハ自國婦女子ノ引揚ヲ勧告スルニ至リ商工業ノ杜絶ハ勿論國際關係益々紛糾シ我国ニ不利トナリツツアリ  
三、然ルニ敵ハ十九路軍ノ外ニ蔣介石軍モ参加統々増兵シ兵器彈薬モ各所ヨリ補給シ國ヲ挙ケテ戰フ形勢ニアリ加フルニ一般支那人ハ自國軍隊ノ勝利ヲ確信シ所有ル後援ヲ為シ日本人全部ノ駆逐ヲ期シツツアリ  
四、之ニ反シ我軍ハ兵力足ラス各方面ノ戰線ニ對シ充分ノ配備ヲ為ス能ハス我兵士ハ連日奮戦休養ノ違無シ且後方トノ連絡ハ便衣隊ノ跳梁ニ依リ非常ナル困難ヲ感シ支那人全般ハ我軍ニ対シ所有妨害ヲ加ヘ物資人夫ノ調達モ殆ト不可能ナリ先月以来後方勤務ニ從事セル在留邦人モ疲労困憊ノ極ニ達シ此ノ上ノ援助ヲ期待スル能ハス  
五、一般ノ情勢ハ右ノ如ク我軍ニ不利ナルノミナラス敵ハ

176 昭和7年2月23日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

第三七四号  
(一三四文書)

當地時局委員会ヨリ閣下並内閣總理大臣、陸海軍大臣、海軍軍令部長及陸軍參謀總長宛同文電報左ノ通リ然ルヘク御取計相成度シ  
一、二十日我軍總攻擊開始以来陸海勇士ノ不眠不休ノ奮闘ニ對シ居留民ハ深ク感謝シ居ルモ戰局意ノ如ク進捗セス殊ナル兵力ヲ急派サレンコト絶対ニ必(要)ナリト信ス若シ躊躇遂巡機ヲ逸スルカ又ハ不充分ナル増兵ニ止ムルニ於テハ居留民ノ一大慘事ハ免レ難ク租界ノ運命危殆ニ瀕シ帝國ノ威信地ニ落チ皇國ノ危機ヲ招來スルニ至ルヘン茲ニ全局留民ノ切望ニ基キ右陳情シ直ニ御配意ヲ請フ

時局委員会代表  
福島喜三次  
米里紋吉

英國公使辺リヲシテ斡旋セシムルコトモ異存ナシ尤モ右貴電第二四八号ニ對スル回訓接到スル迄ハ我軍ノ行動ニ何等影響ヲ及ホスカ如キ話合ハ避ケラレ度  
英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電セシム  
上海ニ転報アレ  
英、米、連盟、北平、奉天、南京、廣東ニ転電シ連盟ヨリ  
英土ヲ除ク在欧各大使ニ転電セシム  
陸海軍ト打合スミ  
上海付近ニ於テ第十九路軍ト交戦中ノ我陸海軍ハ大体予定合第五九二号(暗)  
付記 一月二十五日參謀本部第一部上海事件対策案



## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ノ陸兵増派ニ対シ支那側ニ於テ更ニ之ニ対抗スル為援兵ヲ送ルコトモナラハ事態ハ愈拡大シ世界ノ輿論ニ一大衝動ヲ与フルニ至ルヘク真ニ憂慮ニ堪エス日本政府ニ於テハ租界内上陸ヲ以テ適法ナルモノト主張シ居ラルモ関係国政府ハ何レモ一致シテ反対ノ解釈ヲトリ居ルニ付今回増派セラルヘキ陸兵ニシテ前回通り租界ニ上陸スルカ如キコトトモナラハ必ス関係国一致ノ反対ヲ受クルニ至ルヘシ  
三、自分ハ東亜ニ於ケル日本ノ存在ハ世界平和ノ為ニモ又米國ノ為ニモ誠ニ必要ナルコトト認メ嘗テ大使トシテ東京ニ赴キタル際其ノ所見ヲ公ニシタルコトアリ又滿州ニ於テ日本ノ凡ニル特殊ノ地位ハ米國ニ於テ飽ク迄之ヲ尊重スヘキモノト心得之亦屢々其ノ所見ヲ貴大使ニ打明ケタル次第アル處近來日本ノ支那ニ対スル遣口ハ其ノ都度種々ナル御説明ヲ承リ居ルモ到底納得シ難キ点鮮カラス而シテ世界ノ大勢ヲ見ルニ日本ニ対スル各国ノ態度日日ニ陰惡ニ傾キツツアルヲ目撃スルハ日本ノ友人トシテ誠ニ遺憾ノ至リニ於テ今少シ隱忍ノ態度ヲ執ルコトヲ得サリシヤト如何ニモ堪エス滿州ニ於ケル事態ハ兎モ角トシ日本ハ何故ニ上海ニ

| 計   | 一月                         |       |         |     |    | ○門司上陸者數                             |
|-----|----------------------------|-------|---------|-----|----|-------------------------------------|
|     | 九日                         | 八日    | 五日      | 四日  | 月日 |                                     |
|     | 平阿日笠加生<br>安蘇光置賀駒<br>丸丸丸丸丸丸 | 英ネルデラ | 六甲<br>丸 | 船名  |    | 大香阿オ<br>洋取蘇エ<br>丸丸丸シレ<br>号          |
| 三二七 | 八四〇                        | 三二七   | 一二七〇    | 三八  | 男  | 平加英エ<br>安賀ムエ<br>丸丸アス、<br>号          |
| 四四四 | 八四四                        | 三一九   | 一九六     | 八五  | 女  | 毛四八七八<br>二三咒三五五<br>四吉六言一國<br>三三三三三三 |
| 七六一 | 一六八                        | 一四    | 六八      | 三四六 | 計  | 七七七七七七                              |

以上ハ予テ我国ニ対シ好意ヲ寄セ居ル「キヤツスル」ノ率  
直ナル告白ヲ其ノ儘何等御参考迄ニ電報スル次第ニ付特ニ  
極秘ニセラレ度シ

壽府ニ転電シ在欧各大使ニ転電セシム

179 昭和7年2月25日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

付記 上海および長江沿岸避難者の内地各港における  
上陸者数

| 本省 | 2月25日後着 |
|----|---------|
| 上海 | 2月25日後發 |

居留民の内地引揚げについて

第三八二号(暗)  
往電第三七二号ニ閲シ

二十五日発長崎丸ニテ千百七十名出発セリ内長崎上リ七百  
二十名神戸上リ四百四十七名ナリ

支へ転報セリ

(付記)

上海及長江沿岸避難者ノ内地各港ニ於ケル上陸者数

(二月末日迄ニ判明ノ分)

## 上海事変に関する日本の態度説明について

合第六一八号 暗、至急

一、上海地方日支両軍衝突ノ原因及其ノ経緯並ニ我陸軍出兵ノ事情等ハ帝国政府ノ声明等ニ依リ極メテ明ナルニモ拘ラス我方ノ真意ニ付今尚ホ列国側ニ何等誤解存スルモノノ如キ处我方トシテハ租界及居留民ニ対スル緊急ノ危険ヲ除去シ上海ノ平和ヲ回復スル外何等他意ナク十九路軍ニ対スル撤退要求モ全ク右目的ニ出テ居ル次第ニシテ同軍カ右要求ニ応スレハ我軍ハ受持区域ニ止リ敢テ前進ノ意図ナカリシコト在支公使來電第三三八号要求条件第二項ニ依ルモ明ナルヘシ

二、然ルニ十九路軍ハ遂ニ右要求ニ応セサリシ次第ナル処中央政府ノ統制行ハレス且共産的傾向ヲ有スル同軍（同軍ノ中堅タル六十一師カ南京事件ヲ惹起セル旧程潛軍ナルコトハ前記ノ通リナリ又南京事件當時ノ同師長戴戟ハ現ニ十九路軍ノ參謀長タリ）カ租界殊ニ我方ノ受持区域部分タル本邦人居住地域ノ周囲ニ膠着シ租界及居留民ニ対シ緊急且重大ナル不斷ノ危険ヲ与フルカ如キ状態ノ継続スルコトハ受持区域警備ノ責任ヨリスルモ我方ノ到底

三、而シテ右支那軍撤退ノ目的ヲ達成セル上ハ我方ハ列國ト共同シテ時局ノ收拾ヲ計リ度意向ニシテ（我方ニテハ十九路軍ノ撤退モ列国共同シテ行ヒ度意向ナリシモ列国側ニテ之ヲ渋リタル次第ナリ）殊ニ今後ニ於ケル上海ニアル列国代表者ヲ加ヘタル円卓會議ノ開催ニ異存ナキコト在支公使宛往電第二〇七号ニ依ルモ明ナルヘク我方トシテハ時局ヲ利用シテ上海地方ニ政治的野心ヲ遂ケムトスル意図毛頭ナク從テ同地方ニ於テ專管居留地ヲ設定シ其他日本人ノミノ利益ヲ計ルカ如キ底意ナキハ勿論寧ロ上海開発ノ功勞者タル英米仏等ニ対シテ十分ノ敬意ヲ払ヒ特ニ共同租界工部局ヲ尊重シテ上海ノ國際都市タル面目ヲ益々發揮セシメ度思考シ居ル次第ナリ

四、尙ホ今次陸兵増派カ第一回ノ派兵ト全然目的ヲ同ウシ居リ其ノ趣旨トスル所カ租界及居留民ニ対スル緊急ノ危険ヲ一日モ速カニ除去スルニ存スルコトハ往電合第五九号申進メノ通ナリ

五、將又最近帝国政府ニ於テ九国條約ヲ無視シ支那ノ主要

都市ノ周囲ニ中立地帯ヲ設立スルノ考案ヲ立テタリト云

フカ如キ「アラーミング」ノ新聞報道アル處右ハ全然事

実無根ナリ尤モ過日本省係官カ新聞記者ニ対シ支那ニ於

テ排日運動ノ根絶ヲ期スル為メニハ主要開港場ノ周囲ニ

支那軍ノ出入ヲ禁止スル和平地帯ヲ作ルコト肝要ナリト

ノ趣旨ヲ個人的意見トシテ語リ尚ホ記者団トノ間ニ九国

条約トノ関係其他ニ付種々議論シタルコトアル由ナルモ

右ハ何等帝国政府ノ意図ヲ表示スルモノニ非ルコト申ス迄モナシ

就テハ前記列国側ノ執拗ナル誤解ニモ顧ミ貴任国政府ニ対シ前記ノ趣旨徹底スル様可然御取計相成度

本電宛先 連盟、英、米

連盟ヨリ訓令トシテ露ヲ除ク在欧各大公使ニ転電シ参考トシテ露ニ転電アリタク又露ヨリ訓令トシテ波斯ニ転電アリ

米ヨリ訓令トシテ加奈陀、玖馬、墨国、伯国ニ転電シ伯ヲシテ訓令トシテ在南米各公使ニ転電セシメラレ度  
支、北平、奉天、廣東、南京ニ転電シ支ヲシテ上海ニ転報セシム

181 昭和7年2月(26)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海調査委員会第三次報告の補足要旨について

て

第一四五号

二十五日上海調査委員会第三回報告補足トシテ要旨左ノ如キ同委員会発電報事務總長ヨリ各理事ニ通告セラル

「日本側ノ要求ニ対シ支那政府ヨリ日本公使ニ対シ回答アリタルヤ否ヤ問合セタル処大上海市政府ハ左ノ通り回答セリ

支那外交部長ハ二十日付ヲ以テ日本公使ニ対シ日本軍司令官及總領事カ第十九路軍司令官及大上海市長ニ対シ通牒ヲ送リタルニ対シ嚴重抗議セリ右抗議書ニハ日本軍カ九月十八日何等挑発セラルコトナク奉天ニ攻撃ヲ開始シテ以来

東北ノ重要地域ヲ占領シ又一月二十八日ニハ突如トシテ上海ニ軍事行動ヲ起シ支那守備隊ヲシテ自衛行為ニ出ツルノ已ムナキニ至ラシメタルカ今ヤ之ヲ以テ充分トセス日本軍司令官及總領事ハ到底受諾シ得サル要求ヲ為スニ至レリ若シ日本軍力新タニ支那軍ヲ攻撃スルニ於テハ支那軍ハ飽迄之ニ抵抗スヘク其責ハニ日本ニ在ル云々ト記載シアリ」

上海、英、米、仏、伊、独ニ転電セリ

182

昭和7年2月26日

芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

## 交戦継続中においても円卓会議の開催希望に

ついて

別電 同日芳沢外務大臣より在上海重光公使宛第一二二号

円卓会議の内容および進行順序について

第一二二号 暗、至急極秘

貴電第二四八号ニ関シ

(一七八文書) 円卓会議ノ件ニ付テハ往電第一〇七号ヲ以テ一応回訓シ置キタル次第アル處帝国政府当初ヨリノ方針ニ顧ミ且ハ連盟現下ノ情勢等ニモ鑑ミ此際日支両軍交戦継続中ト雖モ隨時該會議開催ヲ促進スルコト至当ト思考ス而シテ該會議ニハ

支那側ヲ参加セシムルコト望マシキモ右困難ナルニ於テハ關係列国代表者ノミノ會議ニテモ成ル可ク速ニ開クコトト致度

就テハ大体別電第一二二号ノ「ライン」ニテ本件會議開催促進方英國公使辺リノ斡旋ヲ求ムル等適當ノ方法ニ依リ貴シ連盟ヲシテ英ヲ除ク在欧各大公使ニ転電シ米ヲシテ加奈陀、玖馬、墨国、伯国ニ転電シ伯ヲシテ南米各公使ニ転電セシム

陸海軍中央部ト打合スミ

別電ト共ニ英、米、連盟、北平、奉天、南京、廣東ニ転電シ連盟ヲシテ英ヲ除ク在欧各大公使ニ転電シ米ヲシテ加奈

陀、玖馬、墨国、伯国ニ転電シ伯ヲシテ南米各公使ニ転電セシム

上海ニ転報アリ度

(別電)

第一二二三号 暗、至急極秘

円卓会議ハ左記順序ニ依リ上海及其付近ニ於ケル平靜ノ回復及維持ノ問題ヲ議スルモノトス

(イ) 我方戰闘停止条件ハ村井總領事來電第三三三八号吳市長宛通牒ノ精神ニ進拠シ現地ノ実情ニ即シテ決定ス

一、貴電第一二二五号ノ三円卓會議ノ件ニ關スル我方ノ態度ハ在支公使宛往電第一二二一号及第一二二二号ノ通リナルカ

果シテ總會開会迄ニ円卓會議開催問題ヲ具体化スヘキヤ

疑ハシキモ(上海ニ於ケル列國側ハ一日モ速カニ我軍力

支那軍ヲ掃討セムコトヲ内心希望スルト共ニ其ノ上ノ善

後問題ヲ日本ノミノ手ニ委スルコトハ列國側ニ不利ナリ

トノ考ヲ有シ居ルモノノ如ク想像セラル) 往電合第六一

(一八〇文書) 八号ノ趣旨ヲモ參酌ノ上上海ニ於ケル重光公使ノ努力ト

呼応シテ本件ヲ連盟ノ形勢緩和方ニ精々御利用相成様致度

(ロ) 撤兵区域警備ノ為メ國際義勇軍又ハ國際軍ヲ同区域ニ入ルルコトニハ異存ナキモ右警備軍ニハ日本側ヲ包含セン ムルコトヲ要ス(我方トシテハ飽迄列國共同防備主義ヲ貫クコト肝要ナリ)尤モ右撤兵区域ニ於ケル各國ノ受持ハ他國側カ支那軍ト衝突ノ危険アル方面ノ警備ニ当リ日本側ハ其他ノ部分ヲ受持ツコトスル等可然協定シ差支ナシ

二、次テ上海地方平靜維持問題ノ討議ヲ開始ス(該討議ニハ安全地帯設定、同地帯武装解除、排外貨物運動停止等ノ問題ヲ包含セシメ度意向ナルモ円卓會議ノ成立ヲ促進スル為メニハ差當リ右細目ニハ触レサル方可ナルヘシ)

183 昭和7年2月26日 芳沢外務大臣より  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

## 中国軍の一定地域外撤退を条件に停戦承認の

意向について

第五三号 暗、極秘大至急

貴電第一二五号及第一三六号ニ関シ

佐藤理事へ

見追電ス

米、支、北平、奉天、廣東、南京ニ転電シ米ヨリ加奈陀、

玖馬、墨国、伯国ニ転電シ伯ヨリ南米各公使ニ転電セシメ

タリ

在欧各大公使ニ転電アリタシ

芳沢外務大臣宛（電報）

大臣、南京へ転電セリ

184 昭和7年2月27日

在北平矢野（眞）参事官より  
芳沢外務大臣宛（電報）

### 旗艦出雲の投錨地移転をドイツ公使申出につけ

いて

北平 2月27日後発  
本省 2月27日後着

第一〇七号（暗）

本官発公使宛電報

第七二号

二十七日独逸公使ヨリ南京ヨリノ電報ニ依レハ日本海軍ノ

旗艦ハ上海独逸総領事館ニ近接シテ投錨シ居ル為砲弾ハ總

領事館ニ飛來シ危険極マリ無キニ付出来得レハ軍艦ノ位置

ヲ多少移動セシムルコト叶フマシキヤ右貴公使ニ伝達方申

出テタリ依テ本官ハ軍艦ヲ動カシ得ルヤ否ヤハ知ラサルモ

貴意ハ一応公使ニ伝ヘ置クヘシト答ヘ置ケリ回答振御回示

ヲ請フ

「ロバート・ショート」ノ戦死ニ関連シ陸軍省及國務省当局ノ説明トシテ予備將校カ外國軍務ニ服シタル場合ニハ直ニ米國ノ軍籍ヲ除カルル理由トナリ一九〇九年制定ノ法律ハ米國法權ノ及フ地域（支那モ然リ）ニ於テ外國ノ軍務ニ服シタル米國市民ハ三年ノ禁錮ニ處セラルル法律アルモ之等法律ノ規定ヲ別トスルモ日支兩國ノ軍務ニ服シタル市民ハ米國官憲ノ保護ヲ失フコトトナル旨専門家ノ意見一致シ居ル旨ヲ報セラル

加奈陀ヘ転電セリ

186 昭和7年2月27日 在ジュネーヴ芳澤外務大臣宛（電報）

### 日本軍上陸の際の租界不使用等を各国より申出について

合第六三三号（暗）

二十六日英米仏伊各大使來訪夫々本国政府ノ名ニ於テ略同一起旨ノ覚書ヲ提出シタルカ右ハ日本側カ租界ニ禍害ヲ及

ホササル様努力シツツアルハ深謝スルモ（此ノ点米ノ分ニ

ハナン）危険尚去ラサルニ付（英仏伊ハ各自國ニ及ヘル危

険ノ例ヲ稍具体的ニ述フ）支那軍ノ砲撃誘致ヲ避クル為メ

（イ）増援部隊揚陸等（仏伊ハ其ノ他ノ軍事行動ヲモ拳ク）ノ

場合ニ租界ヲ使用セサルコト（英ハ少クトモ租界東端ヨリ

下流ニ米ハ租界ニ危険ヲ生スル如キ支那軍ノ砲撃ヲ誘致セ

サル地点ニ揚陸ヲ要望ス）及（ロ）現ニ租界近傍ニ碇泊中ノ日

本軍艦殊ニ旗艦（米ニハナシ）ヲ出来得ル限り下流（英ハ

租界東端方面トシ米ハ（イ）ニ於ケルト同趣旨ノ地点ヲ要望

ス）ニ移動スルコトヲ要望セルモノナリシヲ以テ本大臣ハ

日本ハ租界ニ兵ヲ揚ケ又軍艦ヲ現位地ニ置ク権利ヲ有スル

ト同時ニ右ニ依リ外國側ニ損害乃至迷惑ヲ生スルコトハ固

ヨリ希望セサルモノナルニ付御申出ノ趣旨ハ早速陸海軍當

局ニ通牒シ出来得ル限り好意的考慮ヲ加フル様申入レ置ク

ヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ

上海ヨリ公使ニ転報アリタシ

185 昭和7年2月（27日）在米國出淵大使より

芳沢外務大臣宛（電報）

### 米國予備飛行將校の從軍問題について

第一六九号

「ロバート・ショート」ノ戦死ニ関連シ陸軍省及國務省當

局ノ説明トシテ予備將校カ外國軍務ニ服シタル場合ニハ直ニ米國ノ軍籍ヲ除カルル理由トナリ一九〇九年制定ノ法律

ハ米國法權ノ及フ地域（支那モ然リ）ニ於テ外國ノ軍務ニ

服シタル米國市民ハ三年ノ禁錮ニ處セラルル法律アルモ之

等法律ノ規定ヲ別トスルモ日支兩國ノ軍務ニ服シタル市民

ハ米國官憲ノ保護ヲ失フコトトナル旨専門家ノ意見一致シ

居ル旨ヲ報セラル

加奈陀ヘ転電セリ

186 昭和7年2月27日 在ジュネーヴ芳澤外務大臣宛（電報）

### 日本軍上陸の際の租界不使用等を各国より申出について

第四〇一号（暗）

一、事変來夜間支那軍ノ發射セル砲弾カ當館上空ヲ通過セ

ルコト頻々アリ右ハ當館前停泊ノ旗艦出雲ヲ狙ヘルモノノ

如ク虹口碼頭ニ於ケル英國水兵ノ死傷伊國軍艦付近クヘ

ノ落下及「ブロードウェイ」方面ノ被害ハ其外レ弾ト思ハ

ルル処當館ヨリ米國總領事館敷地ヲ隔テアル獨逸總領事館

ニ於テハ避難方ニ付往電第三七九号所報吳市長ノ関係領事

宛申入レノ外特ニ口頭ノ注意モアリ先日來重要書類ヲ他ニ

移シ夜間ハ留守居ノミヲ残シ居ルカ如ク又「アスター、ハ

ウス」ニ於テモ止宿外人ノ宿替セルモノ鮮カラサル模様ナ

二、二十七日午前当館並出雲ノ様子ヲ窺ヘルカ如キ拳動不審ノ一寸那人アリ当館及工部局邦人巡查ノ誰何ニヨリ「アスター、ハウス」ニ逃ヶ込マントセルヲ逮捕シ工部局警察ノ手ニ依リ我方憲兵隊ニ引渡セルカ同人ハ携帯品其他ニ依リ八十八師独立旅長王鷹ナルコト判明シ目下陸戦隊側ニ於テ保護取調中

北平、南京ニ転電セリ

公使ヘ転報セリ

188 昭和7年2月(28)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

円卓会議開催に関するサイモン英外相との会談について

第一六二号(至急極秘)  
松平大使ヨリ

貴電合第六二四号(在支公使宛第一二二一號)<sup>(一)(二)(文書)</sup>重光公使ヘノ御訓令ノ御趣旨ハ總会对策殊ニ英國等ニ於テ何トカ空氣ノ緩和ヲ計ランコトヲ考ヘ居ル折柄ニモアリ成ルヘク速ニ之ヲ内報シ置クコト好都合ト認メタルヲ以テ二十七日午前

如キ意図ナキ事何等領土的野心ナキ事等ノ保障ヲ基礎トシテ議ヲ進ムル事ニ異存ナキコトト了解シテ差支無キヤヲ確メ之ニ対シテ確認ノ回答ヲ得ハ之ヲ以テ列国側ニ説キ總会ノ対策トスル事便宜ナリト考フル處右果シテ如何アル可キヤト述ヘタルニ付本使ハ日本ヨリ停戦ノ保障ヲ為スカ如キ形ニナル事ハ恐ラク政府ニ於テモ承諾シ難カル可ク從テ英國公使辺ヨリ其ノ「イニシアチブ」ノ出ツル事ヲ望ミ居ル事ト思ハル右ノ書翰ノ如キ形ニテハ支那側ヲ增長セシメ惡宣伝ヲ為サシムル恐アリト考フル旨答ヘタル処

「サ」ハ尤モナリトナシ之ニテ一旦午前ノ會議ヲ打切り更ニ午後再開海軍大臣列席ノ上「サ」ハ總会对策ニハ何等カ書翰ノ往復ヲ必要ト認ムルニ付今朝御話ノ点モ考ヘ先ツ自分ヨリ書翰ヲ以テ英國政府其他ノ関係國ヨリ自己ノ「イニシアチブ」ニテ此際日支双方へ好意的斡旋ヲ申出テ直ニ停戦ノ上円卓会議開催方ヲ申出ヅルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ付本使ハ実ハ今朝御話シタルコトハ在支公使ニ対スル訓令ヲ當方總会对策ノ一端トシテ成ルヘク速ニ予テ好意的考慮ヲ与ヘラル閣下ニ御内示シタルモノニシテ之カ実現ノ着手ハ現地ニ於テ陸海軍司令官トモ連絡ヲ取り実地

「サイモン」ヲ往訪我方ノ意向ニ於テハ戰闘繼續中ト雖円卓会議ヲ成ルヘク速ニ開クニ異議ナキコト英國公使等ニ於テ「イニシアチブ」ヲ執ラル希望アルコト円卓会議ニ於テハ停戦ニ関スルコト及将来ノ保障ニ関スルコトヲ議スル積リナルコト支那代表モ又參加シ然ルヘキコト等ヲ詳細ニリヤト尋ネタルニ付右ハ昨日ノ説明ニハ支那軍ヲ一定ノ地点迄退ケタル後円卓会議ノ開催トナル様考ヘラル専處今御話シタル専處ハ円卓会議ハ必スシモ之ヲ待タス速ニ開催スル意向ト思ハルト述ヘタル処

「サイモン」ハ昨日ノ保障ト云ヒ只今ノ御話ト云ヒ極メテ自分ノ多トスル専處ナリトテ暫ク沈思默考シタル後總会ヲ開催前速ニ何等カ一般ニ安心ヲ与フル事ハ日本ノ為ニ極メテ必要ナリト思考スルニ付斯ノ如キ事ハ為シ得ラレマシキヤ即チ自分ヨリ貴大使ニ書翰ヲ認メ昨日及今日ノ情報ヲ謝シ日本側ニ於テハ停戦及租界将来ノ安全保障ニ付日支ヲ含ム關係國ノ円卓会議ヲ開キ日本ハ上海付近ニ自己ノ為ニ租界ヲ設クル意図ナキ事重要各都市ノ周囲ニ中立地帶ヲ設クル

テルル当地ニ於テ總会カ無事ニ終了シ得ルモノトハ考ヘル能ハス実ハ自分モ当地ニテ可ナリ各方面ノ意見ヲ瀬踏ミセルカ今回ノ總会ハ日本ニトリ容易ナラサル難局ト見居レリ  
(grave view ナル語ヲ使用セリ) 之ニハ矢張リ不取敢戰闘ヲ止メ暫ク現状ヲ維持シテ而シテ會議ヲ進捗セシムルトキハ仮令總会ニ於テ満蒙問題出ツルトスルモ何トカ之ヲ後廻シト為ン目前ニ危険存スル上海問題ヲ右關係主要國ノ斡旋ト円卓會議トニ譲リ切抜ケ得ル事ト信スト述ヘタリ  
本使ハ他ノコトハ別トシテモ直ニ停戦シテ會議ニ入ルヘキヤ會議ヲ開キテ停戦ヲ議スルヤニ付テハ疑問アルニ付自分一己ノ考トシテ貴見ニ同意スル能ハス加之万一角斡旋ヲ申出サレ然ル後日本ニ於テ之ヲ拒絶スル如キハ却テ狀況ヲ悪化スル虞アルヲ以テ一応此点ニ付政府ノ意向ヲ確カメタル上斡旋ノ勞ヲ執ラルコト致シ度シト述ヘタル処「サ」ハ事急ナルヲ以テ月曜位迄ニ返事ヲ得度キ旨希望シ一旦別レタリ尚「サ」ハ本日午後引続キ「グランジ」「ボンクール」「チービス」等トモ相談ヲナス模様ナリ  
斯ル次第ナルニ付大至急左ノ点御回電ヲ請フ  
（）此ノ際英國及米伊ノ停戦ニ関スル斡旋ヲ受ケラルルヤ

189 昭和7年2月28日 芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛第五九号（電報）  
上海調査委員会第一、第三次報告に対する口  
本側見解申入れについて  
別電 同日芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛第五九号  
第一次報告に対する日本側見解  
第五八号 暗、至急  
貴電第一〇六号ニ関シ  
在支公使來電第二（一七三文書）  
方ノ「オヴザーベーション」トシテ連盟側ニ御申入相成度尚ホ第一回報告（貴電第五七号）ニ付テモ別電第五九号ノ趣旨ヲ我方「オヴザーベーション」トシテ申入レラレ度  
第五九号 暗、至急  
貴電第一六〇号ニ関シ  
（本電ハ絶対極秘トセラレタシ）  
右会談ノ内容報告左ノ通  
（本電ハ絶対極秘トセラレタシ）  
談話ハ主トシテ二〇糠撤退区域ニ付論議ヲ戰ハシタルカ支那側ハ難色ヲ示シタルカ結局（）二〇糠ト云ハシシテ事實上二〇糠位ニ当ル地点ヲ指摘シテ撤退スル事（）撤退ハ相互的且同時ニ之ヲ行ヒ日本軍ハ租界及「エキステンション」（更ニ二個師団到着暫時駐屯セシムル事アルベシ）ニ撤退スル事（）撤退順序、撤退ノ実行ヲ保障スル方法及撤退地域ノ警察等ニ付テハ別ニ専門委員ヲ設ケ審議決定セシムルカ若ハ其或部分ハ次回会合ニ於テ更ニ審議スルカハ漠然ノ儘差措キタリ但シ次回ノ会合トハ若シ幸ニシテ会談ノ結果カ両国政府ノ贊同スル所トナルニ於テハ之ヲ基礎トシ更ニ両国ヨリ責任者ヲ出シテ會議スル事アルヘキヲ予想シタルモノナリ以上ノ諸点ニ付支那側ハ顧維鈞ヨリ支那政府筋ノ意向ヲ問ヒ出来得ル限り速ニ「ケリー」司令長官ヲ通シ我方ニ何分ノ儀回答スヘク又野村長官及松岡氏本夕会談ノ模様ヲ重光公使ニ取次キ同公使ニ於テ其ノ必要又価値アリト認メタル場合ハ當地ニ於ケル我軍憲ニ之ヲ計リタル結果帝国政府ニ稟申然ルヘシト思フ場合ハ直ニ其ノ手続ヲ為シ政府ノ回

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

- 訓ニ接シ次第「ケリー」長官ヲ経テ支那側ニ通知スヘシト  
約シテ別レタリ尚顧維鈞ノ口吻ニテ支那側ハ一両日中ニ回  
答可能ナル模様ナリ尚撤退ニ閑スル取極ハ總テ暫定的ノモ  
ノナリトノ点ニ付顧維鈞ヨリ駄目ヲ押シタリ追テ上海方面  
ニ於ケル排日運動及便衣隊取締ニ付テモ特ニ重キヲ置キ言  
及シ置ケリ
- 英、米、連盟、奉天、北平、南京ニ転電シ連盟ヲシテ在欧  
各大使ニ転電セシム
- 191 昭和7年2月29日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)
- 中国軍への外国軍人参加について
- 第三二三号(暗)  
本官発伝宛電報  
第五号  
貴電第三号ニ関シ  
「ウエッセル」將軍ハ從前ヨリ南京政府最高軍事顧問ニシ  
テ「クリーベル」ハ其下ニアル顧問ナリ今次ノ戰闘ニ之等
- 第三二六号(暗)  
我方ハ支那側ヨリ発砲セルコト一点ノ疑ナキモノトシテ其  
趣旨各方面ニ説明シ居ル処委員会ニ於テ本件審議ノ節日支  
何レヨリ先ツ発砲シタルヤハ双方ノ言分一致セス証人ナキ  
為確カヌ難ク(外国人ニシテ屋内ヨリ先ツ日本側ノ発砲ヲ  
聽キタリト云フモノアリタル趣)結局貴電(一三五文書)第七七号ノ如ク  
決定シタル旨委員会関係者ノ一人ヨリ館員ニ内話ノ次第ア
- 192 昭和7年2月29日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)
- 第一次報告修正困難の事情について
- 第三二九号ニ関シ  
貴電第一二九号ニ関シ  
我方ハ支那側ヨリ発砲セルコト一点ノ疑ナキモノトシテ其  
趣旨各方面ニ説明シ居ル処委員会ニ於テ本件審議ノ節日支  
何レヨリ先ツ発砲シタルヤハ双方ノ言分一致セス証人ナキ  
為確カヌ難ク(外国人ニシテ屋内ヨリ先ツ日本側ノ発砲ヲ  
聽キタリト云フモノアリタル趣)結局貴電(一三五文書)第七七号ノ如ク  
決定シタル旨委員会関係者ノ一人ヨリ館員ニ内話ノ次第ア
- ノ軍人力參加シ居ルヤ否ヤ不明ナルモ支那側ノ作戦及陣地  
ノ構造等ヨリ判断スレハ少クトモ外國軍人(殊ニ独逸軍  
人)ノ參加アルコトハ略確実ト称セラレ居レリ但シ独逸公  
使及總領事ハ本使ニ対シ独逸軍人ノ戰闘參加ヲ一般ニ嚴禁  
シタル外特ニ「ウ」將軍ニハ直接右ノ趣旨ヲ訓令シタル旨  
言明アリタリ
- 貴電ト共ニ独逸ニ転電アリ度シ  
大臣ニ転電セリ
- 193 昭和7年2月29日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)
- 上海調査委員会報告に対する我方見解申入れ  
について
- 第一六九号 暫、至急  
貴電(一八九文書)第五八号ニ関シ  
二十九日連盟ニ申入レ清
- 194 昭和7年2月29日 芳沢外務大臣より  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)
- 円卓會議開催に関し回訓について  
第七四号 大至急  
貴電第一六三号ニ関シ  
貴電(一八八文書)第一六二号ニ対スル回訓ハ明一日中成ル可ク早目ニ發  
兩大使ヘ
- 195 昭和7年3月1日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)
- 日本軍の戰火拡大に対する吳市長よりの抗議  
について
- 米、支、北平、奉天、南京へ転電シ支ヲシテ上海ニ転報セ  
シム  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ
- 上海 3月1日後着  
本省 3月1日後着

往電第四〇二号ニ関シ

196

昭和7年3月(1日)

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

## 上海事変に關する理事会開催の事情について

別電

同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢

外務大臣宛第一七三号

理事会における議長提案

吳市長ヨリ一月廿九日付書面ヲ以テ日本軍カ國際公法及條約並人道ヲ無視シテ一月廿八日夜以来支那領土ニ侵入シ人民ヲ殺戮シツツアルニ対シテハ貴總領事ニ嚴重抗議セル通ナルカ支那軍ノ行動ハ自衛ニ止マリ居ルニ日本側ハ却テ増援軍ヲ派シ事態ヲ拡大スルモノナレハ之ニ依ル責任ハ日本ノ負フヘキモノナリトノ趣旨ノ回答ヲ送付シ來レリ

右回答文ハ當館ニテ接到ニ先立チ一日朝刊漢字紙ニ我方申入ト共ニ掲載セラレタルカ漢字紙報道ニ依レハ市政府ニテハ我方申入ヲ各國領事ニ伝達シ日本ハ一般人民ヲ爆撃スル非ヲ蔽ハシカ為ニ斯ル通告ヲ為セルモノト認メラルニ付各國市民生命財産ノ安全ヲ期スル為伝達スル旨申添エ又鉄道沿線ノ人民ハ至急避難セヨトノ布告ヲ發シタル由ニテ沿線住民ハ相當恐慌ヲ來シ居ル模様ナリ

連盟、英、米、北平、奉天、南京、廣東ニ転電シ支ニ転報セリ

第一七二号（極秘）  
松平大使ヨリ

二十九日朝「サイモン」海軍大臣「エアース・モンセル」ト共ニ來訪昨日御話シタル理事会開催ノ件ハ如何ニ考フルモ一刻モ早キ事好都合ナリ殊ニ米国ハ「ウイルソン」ヨリ「スチムソン」ノ意見ヲ徵シ右「サ」案ニ對シ參加ヲ承諾シ来リタリ御承知ノ通り米国ノ態度ハ一夜ニシテ變化スル虞アルニ付其ノ態度變化セサル内速ニ上海ニ於ケル円卓會議ヲ關係大国ノミニテ滿蒙問題ヲ除外シテ開催スルコトニ確定スルノ必要アリ就テハ出来得ヘクンハ本日午後開会ノコトシ度ト述ヘタルニ付本使ハ佐藤大使ノ列席ヲ求メ既ニ昨日ノ御談ハ本省ニ電報シ其ノ回答ヲ待チツツアル次第ニ付本日開催ノコトハ目下上海ニ於ケル話合ノ機微ナルニ

鑑ミ之ヲ延ハシ度シト固執シタル処「サ」ハ一旦引取タルモ正午過海軍大臣帶同來訪シ重ネテ熱心ニ急速理事会開催ノ必要ヲ説キ英國側ニ於テ既ニ顧維鈞野村會見ノ模様「ケリー」ヨリ詳細通報シ來リタル旨ヲ語リ又新聞紙上ニモ既ニ漏洩シ居リ明朝ニ至ラハ盛シニ書キ立テル事ト思考スルノミナラス各方面ノ情勢ハ益々總会対策トシテ即刻理事会開会ノ必要アルコトヲ確メタルニ付日本ノ為ニモ是非明日ニ延ハス事ナク其ノ開会ヲ希望ス尚議長申出テノ「ブラン」トシテハ別電第一七三号ノ如ク致度シ左スレハ内容ニ於テ何等日本側ニ於テ御不便無キ事ト思考スト述ヘ理事会合アルニ付至急御考慮ノ上回答ヲ得度キ旨申入レ引取リタリ

英米仏伊独支ニ転電セリ

（別電）

ジユネーヴ

本省

3月1日前着

二月二十九日理事会決議

第一七三号（極秘）

右ノ次第ニテ代表部ニ於テ篤ト協議ヲ遂ケタル処之ヲ延期セントスルコトハ上海ニ於ケル内密話合ノ事実漏洩シ害ヲ

及ホサンコトヲ虞タルコト主ナリシモ既ニ英國側ニ於テハ「ケリー」報告ヲ支那代表ヲ含ム各方面ニ話シタル様子モアリ又東京ヨリ倫敦ヲ經テ當地ニ到達シタル「ロイテル」

電報ハ右話合ヒノ模様ヲ報道シ來リ居リ明日ノ當地方ノ新

聞ニハ皆掲載セラルル状態ナルノミナラス總会対策トシテハ極メテ機宜ニ適シタル处置ニモアリ往電第一六七号末段

米国側ノ意向ハ相當考慮ヲ要スヘキ点ニモアリ其ノ他ノ点ハ寧ロ我方ニ都合ヨキ形トナリ居ルニ付理事会開催ニ際シ我方ヨリ出席ヲ拒絶スルコトハ却ツテ事態ヲ悪化スル虞アリト思考シ佐藤大使ヨリ本日ノ理事会出席承知ノ趣回答シ置キタリ

英米仏伊独支ニ転電セリ

（別電）

ジユネーヴ

本省

3月1日前着

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

為ノ目的ヲ以テ商議進行中ニシテ且該提案ハ各國政府ニ  
移送サルルトノコトナルカ之吾人ノ大イニ歓迎スル処ニ  
シテ又連盟理事会ハ最モ有効ナル方法及時期ニ於テ平和  
確立ニ資スルノ準備ヲ有ス

二、議長ハ之カ為各理事ヲ參集セシメ該目的貫徹ノ為提案  
ヲ作為スルニ決セリ

該提案ヲ有効ナランムル為ニハ日支兩國政府ノ受諾ノミ  
ナラス上海租界ニ特殊ノ利害關係ヲ有スル他ノ主要列強  
ノ協調ヲ必要トス此等列強ノ其地ニアル代表者ハ直ニ好  
意的援助ヲ以テ局部的貢献ヲ為シ得ヘキモ、モトヨリ之  
等ハ日支兩國当事者カ提案ニ對シ確固且真摯ナル贊同ヲ  
表スルニ比シ緊要度少キハ争ハレサル処ナリ

三、本提案内容次ノ如シ

(1)上海ニ於テ直ニ着手スヘキ商議ハ決定案作為ノ為日支  
政府ノ代表者ノ外前記ノ列強代表者ヨリ組織ス

(2)商議ハ左ノ如キ条件ニテ行フモノトス

(A)日本ハ何等政治的或ハ領土的野心ナク又上海ニ日本  
租界ヲ作リ或ハ日本人ノ獨占的利益ヲ進ムル等ノ企  
図ナシ

四号  
右交渉方針について

第一三五号 暗、極秘大至急

貴電第三一九号(一九〇文書)及其後ノ貴電ニ関シ

陸海軍側ト協議ノ結果我方トシテハ別電第一三四号ノ方針  
ニ依リ本件話合ヲ取纏メ度希望ナルニ付貴地陸海軍ト打合  
ノ上右目的達成方此上共御努力相成度尙ホ右方針ハ今後ノ  
戰果ニ拘ラス変更ナキモノナリ

本電陸海軍ト打合スミ

別電ト共ニ上海ニ転報アレ

別電ト共ニ北平、奉天、廣東、南京、米、連盟ニ轉電シ連  
盟ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使ニ轉電セシム

(別電)

第一三四号 暗、大至急極秘

一、支那側ニ於テ支那軍ヲ上海付近ヨリ一定距離（現地ニ  
於テ協定ス）撤退スルコトヲ保障スルニ於テハ一定期間

（現地ニ於テ協定ス）兩軍ノ間ニ戰鬪行為ヲ中止シ戰線  
ノ現状ヲ維持ス

戰鬪中止ニ關スル細目ハ日支出先軍憲ニ於テ協定ス

(B)支那ハ共同租界及仮租界ノ安全及保全カ此等ノ地域  
及住民ヲ危険ナランメサルヲ保証スヘキ協定ニヨリ  
シテ又連盟理事会ハ勿論停戦ニ関スル地方的協定ヲ  
維持サルヘシトノ条件ニテ商議ニ参加ス

(3)此商議ニ關スル会合ハ勿論停戦ニ關スル地方的協定ヲ  
経ルヲ要ス、理事会ハ協定カ直ニ提起セラレ且在上海  
兩国外ノ列国代表ノ陸海軍武官及文官カ該協定ヲ鞏固  
ナルモノタラシムル為凡ユル援助ヲ与フヘキコトト信  
ス

四、日支事件ニ關シ連盟或ハ列国カ從前ニ執レル態度（主  
張）ニ對シ偏見又ハ手加減ヲ置クコトナク上海地帶（及  
其附近）ニ再ヒ平和ヲ速ニ樹立スルヲ目的トスル本提案  
ノ為議長ハ自己及理事ヲ代表シ日支兩國並ニ其地方的位  
置カ武装セル紛争ヲ停止セシメ且平和ヲ招来セシムル共  
同目的ノ為特殊ノ貢献ヲ付与シ得ヘキ他ノ列強カ進テ加  
担シ且協調センコトヲ切望スルモノナリ

197 昭和7年3月1日 芳沢外務大臣より在上海重光公使宛（電報）

現地停戦交渉に対する方針について

別電 同日芳沢外務大臣より在上海重光公使宛第三

198 昭和7年3月1日 芳沢外務大臣より在上海重光公使宛（電報）

理事会議長提案に同意について

第七六号 暗、極秘 大至急

貴電第一七二号(一九六文書)ニ關シ

兩大使へ

一、貴電第一七三号(一九六文書)（英文）ニ同意セラレ差支ナシ

二、尚未我方カ即時無条件ノ停戦ヲ承諾シ得サルハ往電第  
九四文書四号ノ通リニシテ我方トシテハ在支公使宛往電第  
一九七一二

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

202 昭和7年3月(3日) 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

四号ノ方針ニ依リ停戦ヲ成立セシメ度希望ナル処貴電第  
一七三号ノ三ノ(三)ノ冒頭ニ依レハ幸ヒ停戦ハ之ヲ現地ニ  
於ケル協定ニ委スル趣旨ナルニ付前記在支公使宛電報第  
一三四号ハ差当リ貴大使等限りノ含トシテ(此ノ際寿府

ニ於テ停戦条件ヲ論議スルコトハ目下進行中ノ日支間ノ  
話合ニ不利ナル影響ヲ及ホス危険極メテ大ナリ)此ノ上  
共事態ノ緩和ニ努メラレ度

三、将又貴電第一七四号ノ次第ハアルモ我軍トシテハ支那  
軍ノ急迫ナル脅威アル以上停戦成立迄ハ作戦行動ヲ中止  
シ難ク(此際我方作戦行動ヲ緩ムルコトハ却テ停戦ノ成  
立ヲ妨ク)現ニ我軍ハ三月一日ヨリ大場鎮攻撃ニ着手シ  
タル次第ナルモ我方ハ右攻撃ノ結果如何ニ拘ラス引キ続  
キ累次電報ノ方針及前記在支公使宛電報第一三四号ノ趣

旨ニ依リ一日モ速カニ上海付近ノ平静ヲ回復シ度意向ナ  
リ

米、支、北平、奉天、廣東、南京ニ転電シ支ヲシテ上海ニ  
転報セシム  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

199 昭和7年3月(2日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

**十九路軍の総退却について**

第三三六号(暗、大至急)

(一)二日前敵ハ総退却ヲ開始シ目下太倉崑山及松江方面ニ  
向ツテ退却中ナリ

(二)十九路軍ハ南京政府カ応援要求ニ応セサル為退却スト称  
シ居レル趣ナリ

例ノ通転電セリ  
シ居レル趣ナリ

200 昭和7年3月(3日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

**野村第三艦隊司令長官ケリー司令長官に停戦**

**条件手交について**

第三四八号(至急極秘)  
往電第三三四四号ニ関シ

二日午後九時野村司令長官松岡ヲ帶同英國旗艦「ケント」  
ニ赴キ「ケリー」司令長官ニ面会貴電報第一三四号ノ英訳文  
ヲ手交シ日本側ニテハ何時ニテモ停戦ニ関シ支那側ト会合

商議スルノ用意アル旨ヲ告ケタルニ「ケリー」ハ今ヨリ直  
ニ右支那訳文ヲ携ヘ郭泰祺ト会合スヘク英國公使モ來会ス

ル筈ナリト述ヘタリ  
尚三日成ルヘク速ニ英國旗艦ニ於テ停戦ニ関スル打合ヲナ  
ス為日支両國委員ノ会合ヲ見ル予定ナリ  
連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

英、米、連盟、奉天、北平、南京、廣東ニ転電シ上海ニ転  
報セリ

**中国側より停戦會議延期方申入について**

第三五〇号(大至急極秘)

**往電第三四九号ニ関シ**

当方ヨリハ右ノ通三日午後一時會議ヲ開催シ度キ旨申入レ  
タル處三日午後零時半「ケリー」提督ヨリ本使ニ對シ支那  
側ハ本件ニ付更ニ南京政府ト協議ヲナス必要アルニ付早ク  
トモ三日夕刻ニアラサレハ会合ヲナン難キ由ナリト申越セ  
リ依テ會議開催ノ確定時刻モ更ニ何分ノ通告アルヲ待チテ  
決定セラルルコトナリタルカ右ノ如ク本件会合ノ遷延ハ  
一一支那側ノ都合ニ依レル次第ナリ不取敢  
例ノ通転電セリ

203 昭和7年3月(3日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

**白川軍司令官の戦闘行動中止声明について**

第三四九号(大至急極秘)  
(二〇〇文書)  
往電第三四八号ニ関シ  
日支両軍間ノ戰闘行為停止ニ関スル会合(日本側ハ本使及  
陸海軍參謀長出席ノ筈)ハ三日午後一時開催ノ予定ナリ  
前電ノ通転電セリ

第三五七号(暗、大至急)

右声明

本官発連盟宛電報第二五号

大臣宛往電第三五五号ニ関シ

陸海司令長官ト協議ノ結果直ニ陸海軍司令長官ヨリ別電第  
二六号ノ趣旨ノ声明ヲ発シ実行スル事トナレリ

別電ト共ニ大臣、英、米ヘ転電セリ

別電ト共ニ英在欧各大使（土ヲ除ク）ヘ転電アリ度シ

（別電）

第三五八号（大至急）

本官発連盟宛電報第一六号

声明

帝国陸軍ハ上海付近ニ派遣セラレタル以来帝国海軍ト共ニ  
平和的手段ニヨリ帝国居留民保護ノ任務ヲ達成セん事ニ努  
力シタルモ此見地ニ依レル我軍ノ要望ハ不幸ニシテ支那第  
十九路軍ノ容ルル処トナラス遂ニ戰闘行為ヲ惹起スルニ至  
レリ今ヤ支那軍ハ帝国陸軍ノ当初要求シタル距離以外ニ退  
却シ帝国臣民ノ安全ト上海租界ノ平和ハ茲ニ回復ノ兆ヲ認  
ムルニ至レルヲ以テ本職ハ支那軍ニシテ敵対行為ヲ執ラサ  
ル限り暫ク軍ヲ現在地ニ止メテ戰闘行動ヲ中止セントス  
右声明ス

昭和七年三月三日

日本軍司令官 白川 義則

大臣、英、米ニ転電セリ

上海ノ支那軍敗退ニ関シ三日漢字紙ハ何レモ十九路軍ノ宣  
言シタル退却原因

（一）日本軍劉河方面ニ上陸シタル為背腹ニ敵ヲ受ケタル事

（二）日本軍ノ我左翼ニ対スル圧迫甚シク歩兵銃ノミニテハ敵  
シ得サリシ事

（三）崑山方面ノ橋梁爆破セラレ運輸不能後方トノ連絡絶タレ  
タル事

（四）敵軍ハ日ニ増加スルモ我方ハ中央ヨリノ援軍来ラス必勝  
ヲ期シ難キ事

（五）掲ヶ戦略上ノ退却ニテ戦敗ニアラサル旨ヲ力説シ今後ハ  
中央ノ増援ニ依リ失地回復ニ努力スルト共ニ民衆ハ飽ク迄  
ト」艦上ニ於ケル日支間ノ話合ノ「ライン」ニテ速ニ協議  
ヲ纏メ彼我ノ主張ニ多少ノ距離アリトモ戰勝ト總会前ノ當  
地情勢トヲ考慮ニ入レラレ末節ニ拘泥スルコトナク一刻モ  
早ク停戰協定及円卓會議ニ到達セシメラレンコト切望ニ堪  
ヘス

英、米、仏、伊、独、支ニ転電セリ

抵抗ヲ持続スヘシト鼓吹シ國民ハ目前ノ現象ニ依リ悲観ス  
ルナカレト警告シ居レリ  
支、南京ヘ転電セリ  
公使ヨリ上海ヘ転報アリ度シ  
北平ヘ暗送セリ

205 昭和7年3月(3日)

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海停戰および円卓會議の迅速なる実現希望

について

ジュネーヴ

本省 3月3日前着

第一九四号（大至急極秘）

三代表ヨリ

我方ニ於テ理事会決議ヲ受諾セラレタル結果當方ノ空氣一  
旦緩和セル如クナルモ大規模ノ戰闘開始ノ報道ト更ニ激烈  
ナル戰闘起ルヘシトノ期待ノ下ニ又復空氣動搖シ甚々機微  
ノ情勢ニ在リ從テ戰闘統行セラルルニ於テハ總会ニテハ日  
支双方ニ無条件停戰勧告ヲナシ或ハ又昨秋以來ノ軍事行動

206 昭和7年3月4日

在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

中国側の日本側提案拒否の意向について

上海 3月4日後着  
本省 3月4日後着

第三七二号（暗、至急）

往電第三六九号ニ関シ

三月三日ノ私的会合ニ於テ郭泰祺ハ今回日本ノ提案ハ二十

大臣、英、米ニ転電セリ

昭和7年3月3日

在天津桑島總領事より  
芳沢外務大臣宛（電報）

十九路軍の退却原因に関する説明について

第九六号

天津 3月3日後発  
本省 3月4日前着

八日「ケント」号ニ於ケル会合ノ結果タル五点トハ全然異ナリタル提案ニシテ右ハ日本ノ不誠意ヲ示スモノナリ依テ停戦ニ関スル第一項以外ハ之ヲ討議スルコトヲ得ストノ趣旨ヲ述ベタルニ対シ本使ハ右ハ極メテ腑ニ落チサル言説ニシテ充分ニ日本側ノ立場ヲ明瞭ニスル必要アリ所謂五点ハ「ケント」号ニ於ケル私的会合ノ後ニ支那側ノ為サレタル提案ナリトシテ英國提督ヨリ野村長官ニ示サレタリ日本側ハ右支那提案ハ同会合ノ結果トシテ日本側ノ瞭解セル所ト異ナル次第（別電第三七三号）ヲ二日正午野村司令長官ヨリ「ケリー」提督ニ通知シ日本側ノ提案ハ政府ニ請訓ノ上後日提出スヘキヲ約シタリ其内二十九日連盟理事会開催セラレ支那側ノ直ニ承諾セラルルコトヲ予想セラレタル決議案ニ対シ新ニ提案ヲ為シタル次第ナリ

提案ニ成立ヲ見タルカ日本政府ハ之ヲモ参酌シテ茲ニ支那側提案ニ對シ新ニ提案ヲ為シタル次第ナリ

茲ニ不可思議ナルハ「ケント」号ノ会合カ極メテ極秘ノ間ニ行ハレタルニ拘ハラス右ハ直ニ連盟ニ通知セラレ支那側ノ提案五点ハ恰モ右会合ニ於テ日支双方ノ承認セル結論ナルカ如ク報告セラレ且公然發表セラレタルコトナリ右ハ日本ノ立場ヲ故意ニ不利益ニ導カントスル計画的ノ所為ト判

連盟ヨリ英、土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリタシ  
連盟、英、米、北平、奉天、南京、廣東ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

208 昭和7年3月(5日) ※在ジ<sup>ヨネ</sup>ガ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛（電報）

臨時総会<sup>ノ</sup>は士<sup>ノ</sup>上海停戦<sup>ノ</sup>署<sup>ハ</sup>の決議採択

ヒュード  
別 電 同日着在ジ<sup>ヨネ</sup>ガ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第111号

上海停戦に關する決議  
第一〇号  
三代表ヨリ

本四日午後ヨリ總会一般委員会開催上海事件討議ノ結果別電第二一一号ノ決議案ヲ採択シタル後直ニ總会ヲ開キ同案ヲ採択セリ

委細通電ヘ  
英、米、仏、伊、獨、支<sup>リ</sup>転電ス  
(原電)  
No. 211

断セサルヲ得スト述ベタル處郭ハ支那側五点ニ對スル右日本ノ保留ヲ承知セス又連盟ニハ支那側ヨリハ何等ノ手段ヲ執ラサリン次第ヲ説明セルカ英國公使ハ右ハ或ハ英國側ニ於テ責任アルヤモ知レスト述<sup>(102文書)</sup>居タリ

支那側ハ往電第三五〇号及第三六九号ノ通り訓令到着ヲ待ツト言ヒソシ連盟ニ對シ種々策動ヲ行ヒ其成行ヲ注視シツソアルモノト察セラル

別電ト共ニ英、米、連盟、北平、奉天、南京、廣東ヘ転電セリ、別電ト共ニ連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

207 昭和7年3月(4日) 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛（電報）

上海における歸国交渉<sup>ハ</sup>シテ

第三七七号（至急）

軍司令官ノ談話ニ依レハ十四師団モ結局上海ニ輸送セラル模様ニシテ最初到着ノ第九師団ト交替ノ事トナルヘキ趣ナリ就テハ右ノ事情ハ師団到着前公然且ツ明確ニ政府ノ名ヲ以テ声明セラレ必要ノ方面ニ於テ其ノ説明ヲナサルルコト肝要ト思考セラル尚休戰若ハ円卓会談等ノ成立スル前ト雖事態ノ許ス限り駐屯兵力ハ小數トセラルコト然ルヘシ

The Assembly,  
Recalling the suggestions made by Council on 29 February and without prejudice to the other measures therein envisaged,

1. Calls upon the Governments of China and Japan to take immediately the necessary measures to ensure that the orders which, as it has been informed, have been issued by the military commanders on both sides for the cessation of hostilities, shall be made effective,
2. Requests the other Powers which have special interests in the Shanghai Settlements to inform the Assembly of the manner in which the invitation set out in the previous paragraph has been executed,
3. Recommends that negotiations be entered into by the Chinese and Japanese representatives with the assistance of the military naval and civilian authorities of the Powers mentioned above for the conclusion of arrangements which shall render definite the cessation of hostilities and regulate the withdrawal of the Japanese

forces. The Assembly will be glad to be kept informed by the Powers mentioned above of the development of these negotiations.

~~~~~

209

昭和7年3月(5)日

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 総会における上海停戦に関する決議採択の経緯

緯にひいて

第一二二号  
三代表ヨリ

総会一般委員会四日午後四時開催ス(我方三全権出席)経過大要左ノ通

(一)「イーマンス」議長席ニ着キ開会ヲ宣シ直ニ委員会議長選挙ニ入ル、仏代表ヨリ「イーマンス」ヲ議長ニ推薦シ右ノ通決定ス

(二)議長ハ總会幹部会ヲシテ直ニ本委員会幹部会ノ任ニ当ラシメンコトヲ提議シ可決

(三)次テ本論ニ入り議長ハ支那代表ノ書翰ニ依レハ支那軍司令官モ亦昨夜半十二時ヨリ停戦ヲ宣言シタル趣ナルニ付日

支双方ヨリ均シク停戦ノ布告ヲ見タルヲ欣幸トスル所ナルモ同書翰後段ニ依レハ日本側ハ停戦布告ニ拘ラズ尚Peutangchongヲ攻撃セリトノコトニシテ斯カル矛盾セル報道ハ著シク總会及一般ノ輿論ノ感情ヲ刺戟スル次第ナルカ日本代表部ヨリ此ノ点ニ付説明ノ通告アリトテ予メ當方ヨリ提出セル三日夜劉河方面ニ於ケル彼我衝突ニ閃スル在支公使來電ノ訳文ヲ讀上ク

四)支那代表ハ發言ヲ求メ總会ニ於ケル談話ニ於テ述ヘタル支那側要求(往電第二〇八号参照)ニ付即時審議方要求スル次ニハ非サルモ本總会会期中ニ右要求ニ付審議セラレシコトヲ切実希望スト前提シ上海地方ニ於テ真ニ戰闘カ停止セラレ居ルヤ否ヤニ付英米仏伊ノ四提督ニ監視ヲ依頼シ度且總会ハ右四提督ニ對シ休戦(撤兵ヲ含ム)ノ条件ヲ提議スルコトヲ希望スルト共ニ右休戦実施ノ上上海円卓會議開催ノ運ニ至ルヘシト述フ

(五)事務總長ハ右ニ對シ昨日總会後上海調查委員会ニ對シ前回報告ノ事件特ニ戰闘中止ノ点ニ付キ報告ヲ提出スル様依頼シタルニ付到着ノ上ハ直ニ總会ニ披露スヘキ戦線ハ上海ヨリ遠隔ノ地ニアリ右回復多少手間取ルヘキカ同地ニ陸海

海軍代表者ヲ有スル關係諸國ヨリ之等代表者ニ對シ本件情報供給方依頼スル様取計ハレ度シト陳フ

(六)英代表「サイモン」ハ右情報ノ供給ニ付充分協力スヘシ

ト述ヘタル後日支兩軍ニ於テ敵対行為中止ノ布告アリタルヲ喜ヒ敵対行為中止ノ原則成立セル以上前線ニ於ケル小競合ハ間モ無ク停止セラルヘシト述ヘ暗ニ支那側ヲ抑ヘ停戦ヲ確保スル為中立國ノ公平ナル情報必要ナリト述フ

(七)仏伊両代表モ情報供給ニ協力スヘシト述フ

(八)議長ヨリ右三国代表ニ謝辞アリタル後佐藤代表發言ヲ求メ最初ニ攻撃ヲ中止セルハ日本軍ニシテ右ニ依ルモ我方ニ

攻撃ノ意思ナキコト明カナリト確言シタル後停戦ハ事實上実施セラレ居ルニ付今後ハ日支間ノ交渉ニ依リ兩軍ヲ相当距離迄引キ離スコト必要ナリ又情報供給ニ関スル事務總長

提案ハ余ノ最歓迎スル処ナルカ數日来英艦内ニ於テ行ハレソソアル日支交渉カ出来得ル限リ速カニ成功スル様希望ニ堪ヘス右交渉ニ直接關係國ヲ交フルコトニ付テモ何等反対ナキノミナラス進シテ兩軍撤退地域ノ秩序維持等ノ問題ニ付テモ審議ヲ希望ス又上海安全確保問題ニ付テハ我方ハ円卓會議開催ヲ要望シ支那側ニ對シ之カ促進方申入レ居ルモ

支双方ヨリ均シク停戦ノ布告ヲ見タルヲ欣幸トスル所ナルモ同書翰後段ニ依レハ日本側ハ停戦布告ニ拘ラズ尚Peutangchongヲ攻撃セリトノコトニシテ斯カル矛盾セル報道ハ著シク總会及一般ノ輿論ノ感情ヲ刺戟スル次第ナルカ日本代表部ヨリ此ノ点ニ付説明ノ通告アリトテ予メ當方ヨリ提出セル三日夜劉河方面ニ於ケル彼我衝突ニ閃スル在支公使來電ノ訳文ヲ讀上ク

四)支那代表ハ發言ヲ求メ總会ニ於ケル談話ニ於テ述ヘタル支那側要求(往電第二〇八号参照)ニ付即時審議方要求スル次ニハ非サルモ本總会会期中ニ右要求ニ付審議セラレシコトヲ切実希望スト前提シ上海地方ニ於テ真ニ戰闘カ停止セラレ居ルヤ否ヤニ付英米仏伊ノ四提督ニ監視ヲ依頼シ度且總会ハ右四提督ニ對シ休戦(撤兵ヲ含ム)ノ条件ヲ提議スルコトヲ希望スルト共ニ右休戦実施ノ上上海円卓會議開催ノ運ニ至ルヘシト述フ

(五)事務總長ハ右ニ對シ昨日總会後上海調查委員会ニ對シ前回報告ノ事件特ニ戰闘中止ノ点ニ付キ報告ヲ提出スル様依頼シタルニ付到着ノ上ハ直ニ總会ニ披露スヘキ戦線ハ上海ヨリ遠隔ノ地ニアリ右回復多少手間取ルヘキカ同地ニ陸海

ノニシテ總会モ同様ノ希望ヲ有スルコトヲ喜フ且我軍ハ秩序回復ニ伴ヒ漸次撤兵スヘキニ付本會議ハ右撤兵ノ方法ニ付テモ審議スルコトヲ希望スト述フ

(九)支那代表之ニ對シ日本代表ノ言ニ欺カルルヘカラス只今受取リタル三通ノ電報ニ依レハ日本軍ハ尚攻撃及進軍ヲ統ケツツアリ即約三万五千ノ日本増援隊ハ劉河ニ上陸シ「タンク」及騎兵ハ上海西部四十哩ノKuansanニ來着セルノミナラスハ隻ノ運送船ハ四日午後揚子江ニ入り日下激戦中ナリ一方吳淞防備ノ支那軍ハ麅殺セラレ外人実見者ノ言ニ依レハ日本兵ハ銃剣ヲ以テ之カ屍体ヲ河中に投入セル由ナリ又日本軍ハ本日浦東ニモ上陸セリ斯ル状態ニシテ繼續スル限り日本軍停戦ノ宣言モ無意味ナリ依テ總会トシテハ休戦確保緊急措置ヲ講セラレタシト述フ

(十)佐藤代表ハ敵対行為ノ拡大ニ伴ヒ増援隊派遣ノ已ム無キニ至レル事ハ既ニ通告セシ通リナルモ右ハ必要ノ消滅ト共ニ日本ニ帰還スヘク之カ方法ハ現地ニ於テ決定スルノ外無シ吾人カ一日モ速ニ現地ノ會議開催ヲ主張スルモ之カ為ニシテ増援隊ノ派遣ト第一線ニ於ケル戰闘行為ノ休止トハ全然無関係ナリト応酬ス議長ハ只今支那代表ノ齋セル情報ハ

吾人ノ不安ヲ一層強カラシムルモノナリ本日ノ討議ヲ要約スルニ吾人ノ最モ関心スル所ハ敵対行動ノ停止ニ在リ依テ本日討議ノ次第ヲ一ノ決議案ノ形式ニ表明シタク幹部会ニ於テ案文ヲ起草ノ上之ニ基キ更ニ討議ヲ続ケタシト提議シ同案起草ノ為一時停会ス

約一時間半後再会、議長ヨリ幹部会ノ可決セル議決案（往  
電第111-1号）ヲ披露シ同案ノ討議ヲ宣シタルニ依リ佐藤  
代表ハ第一項及第二項ハ其ノ儘之ヲ受諾スルモ第三項仏文  
中 régler les modalités にて régler les conditions et  
les modalités du retrait des forces japonaises ainsi que  
la situation future des forces chinoises ム修正追加方要  
求シ昨日総会ニ於テ松平代表ノ演説セル通り上海地方ノ安

全及平靜恢復セラルレハ日本軍ハ撤退セラルヘキモノナルニ付其ノ意味ヲ明白ニシ度キ趣旨ナリト説明シタル処議長ハ幹部会ニ於テハ modalité 即チ技術的条件ノミヲ考慮セル次第ニシテ conditions ルニハ政治的条件ヲモ包含シ得ベク両者間ニ差違アリト答ヘタルニ付佐藤代表ヨリ是等ノ点ハ現地ニ於テ各種ノ事情ヲ參酌ノ上決定セラルヘキ問題ニシテ今ヨリ現地ニ於ケル審議ヲ妨クルハ面白カラス日本

デイツンヨン」ナル語ヲ追加スルニ於テハ右原則ハ覆ヘサルルニ至ルヘキヲ以テ本決議ハ原案ノ儘採択セラレ度シト力説シ「ベネス」熱心ニ之ヲ支持シ兩者トモ委員会ノ大部分及新聞記者席ヨリ期セスシテ一致ノ拍手起リ会場ノ空氣頓ニ険惡トナリ来ル茲ニ於テ佐藤代表再ヒ立チ第十五条第三項ノ場合ハ全会ノ一致ヲ要スヘシト酬ヒタル後吾人ハ一層明白ナル「テキスト」ヲ欲スルモ議長先刻ノ解釈モアリ

単一 régler le retrait レスル事ニ折合ビ一般委員会ヲ閉チ數分後同委員会ヲ直ニ総会ニ転化ス

(二) 総会ニ於テハ支那代表ヨリ本決議案及議長ノ説明ニ依レハ第三項ニ所謂「ネゴチエイシシヨン」トハ休戦ニ関スル商議ニシテ之ニ次テ開カルヘキ所謂円卓會議ニハ非ス又「モノアルヘカラストノ意味ニ於テ決議案ヲ受諾スト述ヘタル後指名表決ヲ行ヒ全会一致之ヲ可決セリ

側トシテハ安全及秩序ノ維持ヲ以テ撤兵ノ条件トスルモノニ於テ商議セラレ得ヘキ所謂 arrangements ノ一部ヲ為スナリト主張シタルニ議長ハ安全ニ関スル一切ノ問題ハ現地ヘキモノニシテ現地ノ秩序ヲ知レル者ノ解決スヘキ問題ナリト答ヘ又「サイモン」ハ仏文ニハ régler les modalités トアルモ英文ニハ單ニ regulate トナリ居リ日本代表ハ英文「テキスト」ノ意味ニテ満足セラレサルヤト述ヘタルニ付佐藤代表ハ両者間大ナル差違アリトモ思ハレス吾人ハ明確ナル約定ヲ欲スルモノニシテ軽々シク総会ノ決議ヲ受諾シ得ヘキニ非ス議長先程ノ御説明ハアリタルモ「テキスト」ノミヲ読ムモノニ取リテハ其ノ意味不明ナルヘキニ付再考ヲ煩ハシ度シト重ネテ力説シタル処

議長ハ自分ハ只今迄議長ノ職権上任意ノ註釈ヲ加ヘタルニ  
過キサルモ事態斯クナリタル上ハ各國代表ニ於テ本委員會  
而已ナラス一般輿論ニ対シ夫々意見ヲ開陳スヘキナリト敦  
勵キ之ニ応シテ「モッタ」ハ幹部會ノ提案ハ謂ハハ第十五  
条ノ予備的適用トモ云フヘキモノニシテ第十五条ハ当事國  
ノ同意ヲ要セサル決議ヲモ予見シ居レリ本決議案ノ趣旨ハ  
日本軍ノ撤退ナル原則ハ之ヲ問題トセサルニ在リ今「コン

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
**決議案賛成の経緯説明について**

長及「サイモン」ノ説明ニ依ルモ同案ノ趣旨タル上海問題ニ関スル屢次御訓令ニモ背馳スルモノニ非スト考ヘタル上當方ノ修正ヲ固執スルトキハ結局決議案ノ成立ヲ妨ケ無用ノ誤解ヲ招ク虞アルヲ以テ寧ロ進ンテ之ヲ受諾シ連盟ノ勸告ヲ幸ヒ支那側ヲシテ我方トノ交渉ヲ統ヶシメ惹テ円卓會議ニモ引入ル事得策ト思考シタルニ付貴電第七八号ノ次第ハアリタルモ棄權ヲ為サス賛成ノ表決ヲ為シタル次第ナ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

211 昭和7年3月6日

芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

上海停戦に対する我方方針について

第一五二号 暗、大至急、極秘

貴電第三八七号ニ関シ

一、此ノ際時局ノ收拾ハ三段ニ分チテ考慮シ得ヘシ即チ(イ)現地ニ於ケル戰闘中止ノ確保(連盟來電第二一一号ノ一)(同)将来ニ亘ル停戦交渉(同電ノ三)(上海地方平靜確立ニ関スル円卓會議ノ開催(連盟來電第一七三号ノ三)ナリ

二、而シテ往電第一三四号ノ方針ハ(イ)ハ日支兩軍間ニ協定スルモ(乙)及(ハ)円卓會議ニ付議スルコトナリ居ル処前記連盟來電第二一一号ノ趣旨ニ顧ミ(甲)(将来ニ亘ル停戦交渉)モ関係國出先官憲ノ援助ノ下ニ日支間ニ交渉スルコトシ差支ナン尤モ停戦交渉ト円卓會議トハ牽連セシムコト得策ナルニ付(現ニ總会決議冒頭ニハ戰闘中止乃至停戦交渉ト円卓會議トハ牽連セシムル趣旨ヲ述ヘ居リ)出来得ヘクンハ併行シテ之ヲ行フ様仕向ケラレ度

ムルコト得策ナルニ付(現ニ總会決議冒頭ニハ戰闘中止乃至停戦交渉ト円卓會議トハ牽連セシムル趣旨ヲ述ヘ居リ)出来得ヘクンハ併行シテ之ヲ行フ様仕向ケラレ度

少ク共円卓會議ノ急速開催ヲ支那側ニ対シ列國側ト共ニ迫ルニ便ナルカ如キ事態ヲ馴致スルヲ要ス(連盟來電第214号「アブノール」談話末尾参照)

三、前記(イ)現地ニ於ケル戰闘中止ノ確保ニ付テハ(甲)支那側攻撃の行動ノ防止(支那軍ノ兵力前進中止、我軍撤去地帶不可侵ノ保障等)(乙)我軍撤收ノ順序(丙)支那軍ノ行動監視及我軍撤去地帶ノ治安維持(連盟來電第二四号「アブノール」案ハ往電第一二二号ノ(同)ノ趣旨ニ合シ至極妙案ト認ムルニ付差支ナキ方面ニ対シテハ本案カ連盟事務副總長ノ発案ナル旨ヲモ内話シ之力採用ヲ見ル様努メラレ度)ノ三問題ヲ處理スルヲ要シ具体的ノ事項ハ軍ト協議決定スルコト勿論ナリ

五、円卓會議ニ於テハ上海地方平靜確立ノ見地ヨリ各種ノ問題ヲ議スルヲ要スヘク差当リ租界及租界周囲ノ平靜維持、排日取締ニ関スル吳市長回答ノ確認並実行及上海付近支那側武装設備ノ再建禁止等ヲ考慮シ居ル次第ナルカ本會議ニ付テハ更ニ追電スヘキモ貴方御心付ノ点至急回

電アリ度

連盟、英、米、北平、奉天、廣東、南京ニ転電シ連盟ヨリ英士ヲ除ク在欧各大使ニ転電セシメタリ

212 昭和7年3月6日

芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

英國大使停戦協定成立前の日本軍の即時撤退

申出について

第一五三号(暗)

(三二文書)

往電第一五二号ニ關シ

本月四日英國大使來訪ノ節同大使ヨリ「ランブソン」來電ヲ讀ミタル結果全ク自分一個ノ思付ナルカト前置シテ「(イ)

日本軍ハ何等協定成立前ニ即時撤退スルコト(同)完全ナル對

敵行動ノ中止及日本軍撤退区域ノPolicingノ為メ支那ト

ノ間ニ一ノ協定ヲ作ルコト(同)右撤退区域ニ関スル協定ノ作成ニハ關係國ノ地方的代表者ヲモ参加セシムルコト(同)ト云

フ「ライン」ニテ時局ノ收拾出来マシキヤト述ヘタルニ付

本大臣ハ日本軍カ何等ノ協定モナク即時無条件ニ撤退スルカ如キハ到底不可能ナリト告ケタル処同大使ハ種々論議ヲ

試ミ自分ノ「インプレッシヨン」ニ依レハ日本政府カ「コ

213 昭和7年3月7日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛(電報)

連盟上海調査委員会第四次報告の要領について

て

上海

本省 3月7日前着

四日付上海連盟委員会第四回報告書要領左ノ通り

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

一、二十日開始ノ敵対行動ハ一日迄間断無ク吳淞ヨリ開北至ル戰線ニ於テ継続シ日本軍ハ第十九路軍ニ対スル撤退要求ヲ強制セント努メタリ

二、戰闘ハ激甚ヲ極メ戰闘区内ノ村落家屋ヲ痛ク破壊シタリ

三、日本飛行機ハ二十三日虹桥飛行場ヲ爆撃破壊シ二十六日杭州飛行場ヲ爆撃セリ

四、二十九日日本總領事ハ上海市長ニ対シ支那軍カ引続キ鐵道ニ依リ上海付近ニ増援軍ヲ集中スルニ於テハ日本軍ハ自衛上三月二日以後嘉興及杭州ト上海トノ間ノ鐵道及軍用列車ヲ破壊スルヤモ知レスト通告シ支那民衆ニ撤退ノ猶予期間ヲ与ヘタリ之ニ対シ上海市長ハ直ニ支那軍ノ行動ハ自衛的ナレハ日本軍カ攻撃ヲ止メサレハ支那軍ハ防禦スヘク一切ノ責任ハ日本軍ニ在リト答ヘタリ

五、日本軍第十一師団ハ二十八日、二十九日支那領水ニ到着シ其幾分ハ吳淞ニ主力ハ劉河付近ニ上陸セリ又一部ノ軍隊ハ二十九日及其以前ニ租界ニ上陸セルカ日本側ハ右ハ交替(replacements)ノ為ナリト主張セリ

六、三月一日黃浦江上ノ日本ノ旗艦及他ノ巡洋艦ノ近傍

ニ二ノ爆発事件アリ日本側ハ支那人カ装置セル機械水雷ナリト称シ居レリ

七、二日朝日本飛行機ハ崑山付近ニ於テ滬寧線路ノ一部ヲ破壊セリ

八、一日午前開北ニ大火起リ損害莫大ナルモ日支何レノ責任ナルヤ確実ナラス

九、第十一師団ハ劉河付近ニ上陸シテ支那軍ノ側面ヲ脅シ同時ニ日本軍ハ江湾方面ヲ猛烈ニ攻撃セリ一日午後四時頃支那軍憲ハ上海付近(南市竜華ヲ含ム)ノ全戰線ヨリ總退却ヲ命シタリ日本軍ハ支那軍ヲ追撃シ三日正午迄ニ嘉定及南翔迄ノ全地域ヲ占領セリ吳淞ハ三日朝占領セラレタリ

一〇、三日午後早ク日本軍司令官ハ支那軍カ撤退要求区域外ニ退却セル為日本人及共同租界ノ安全ニ対スル脅威除去セラレタルヲ以テ支那軍ニシテ更ニ敵対行為ニ出テサル限り日本軍ニ当分ノ間戰闘停止ヲ命スルコトニ決シタル旨ヲ公表セルカ日本海軍司令官モ同趣旨ノコトヲ公表セリ夕刻支那軍司令モ日本カ攻撃セサレハ敵対行動ヲ停止スヘキヲ全軍ニ命シタル旨ヲ公表セリ

一、茲ニ重要ナルコトハ合意ノ休戦ヲ齎ラサントスル一切ノ試カ今日迄失敗ニ帰シタルコトナリトス日本軍ハ當分進撃ヲ停止セルモ夜中前線ニ於テ「ローカル、ファイチング」起リタリ

一二、第二回報告ニ記載セル日本側ノ工部局ノ警察其他ノ職能ニ対スル干渉ハ其後モ引続キ行ハレテ日本側ハ屢々抗議ヲ受ケ居レリ

北平、奉天、廣東、南京へ転電シ、上海へ転報セリ

214 昭和7年3月(7日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
連盟上海調査委員会第四次報告中修正を要する点について

上海 本省 3月7日後着

第三九九号 本使発連盟宛電報第三九号

連盟第四回報告ニ付思ヒ付ノ点左ノ通

一、十八日我方カ撤兵要求ヲ出シタルハ十九路軍ノ攻撃ニ依ル居留民及租界ノ危険ヲ平和的方法ヲ以テ除去セント

シタルモノニシテ支那側ニ於テ此ノ要求ヲ容レサリシガ為我軍ハ此ノ危険除去ノ為已ムヲ得ス行動ヲ開始シタル次第(上海発大臣宛電報第三三八号)ナル處第三回報告書ニハ支那側カ我方要求拒絶ノ理由ヲ明示シ居ルニ拘ラス我方要求ノ理由ヲ掲ケヌ單ニ要求条項ノミヲ掲クルハ公平ナラス

二、一日午後四時頃支那軍憲ハ全線總退却ヲ命シ日本軍之ヲ追撃シ云々トアル処(右ハ支那軍憲カ南京ノ応援無キ為總退却ノ命令ヲ出シタリトノ支那側ノ云分ヲ採リタルモノナルベシ)右ハ事實ニ反シ支那軍ハ二日午前中迄大場鎮及前面ノ陣地ヲ死守シ頑強ニ抵抗シ(大場鎮占領ハ二日零時半)タル為我軍ニ多大ノ死傷者ヲ出シタリ(本使発大臣宛電報第三三六号第三三七号第三四五号参照)

三、日本軍ノ停戦声明ハ「居留民及租界ニ対スル脅威除カルルノ兆アルヲ以テ差当リ停戦ス」ノ趣旨ナルモ報告書ニハ特ニ「兆アル」ノ文字ヲ除キ居レリ

四、工部局トノ關係ニ付テハ往電第八号ノ二ノ通第二回報告ニ甚タシキ誤アルノミナラス其後同様ノ事態継続ス云云トハ全然事実ヲ無視スルモノナリ即チ其後ニ於ケル工

連盟、米、北平、奉天、廣東、南京ニ転電シ  
連盟ヲシテ在欧各大使(土ヲ除ク)ニ転電セシム

云フ方當レリ  
英米公使トノ談話ヨリ得タル印象ニ依レハ寧ロ望ミナシト

ノ空氣醸釀ヲ見ルニ至ルトモ少クトモ英米外交代表者等カ  
之ヲ支持スヘキヤ甚タ疑ハシ  
ニ進マシメン事ヲ企図シ居ル処仮令斯ル運動具体化シ相当  
保スル具体案ヲ建テシメ之ニ依リ漸次我目的ヲ達スル方面  
尚小生等ハ一面上海租界ノ安全問題ハ元々主トシテ上海ニ  
現ニ居住セル内外人直接ニ且最モ関心スヘキモノナリトノ  
趣旨ニヨリ英米初メ主ナル在留外人ノ間ニ将来ノ安全ヲ確  
キ之ニ賛意ヲ表スル見込立タス

五、支那側ニシテ飽ク迄右参加ヲ拒ム場合之ヲ除外シ主要  
關係國ノミニテ円卓會議ヲ催ス事モ一案ナレトモ英米ノ如  
ル事ハ或ハ可能ナランモ円卓會議ソノモノノ効果ニ付テハ  
甚タ疑ヲ存ス

四、我軍撤退後ニ支那側ヲシテ円卓會議開催ニ同意セシム  
ル事ハ或ハ可能ナランモ円卓會議ソノモノノ効果ニ付テハ  
甚タ疑ヲ存ス

#### 連盟総会決議第三項に対する中国側の主張に

##### 関し英國公使の観測について

第四〇〇号(暗)

往電第四〇六号ニ関シ

八日右ノ次第ヲ英國公使ニ通シ置ケリ同公使ハ本国政府ヨリ  
ハ米、仏、伊ノ同僚ト此上トモ密接ノ連絡ヲ執ルコト以外  
未タ別ニ新シキ訓令來リ居ラサルカ今日接受セル南京  
「イングラム」ヨリノ電信其他ヲ綜合スルニ支那側ノ主張  
ハ左ノ通ノ如ク承知スト述ヘタリ  
(三月四日ノ連盟総会ノ決議第三ニ依ル會議ハ之ヲ Military details of truce "limited" no political conditions to be attached to withdrawal of Japanese troops /条  
件ノ下ニ承諾セセルモノナリ

右ハ連盟総会ニ於テ支那側代表ヨリ声明セル処ナリ(南京ニ於テハ支那側ハ英國代表ニ対シ右ノ点ハ支那側ニ於テ特ニ重キヲ置キ之ヲ固執スル次第ナル旨繰返シ述ヘタル由)

部局側ノ苦情ハ我方歩哨カ適々工部局巡查ノ職權行使ニ妨害トナル事アリト云フ程度ニ止リ事変後數日間ニ於ケルカ如キ例外的状態ハ全然ナシ又工部局ト陸戰隊及憲兵トノ関係ハ上海発大臣宛電報第三九五号後段二十六日ヨリ実施ノ取極ニ依リ相当円滑トナリ日本軍哨兵ハ漸次撤退ノ事トシ二日ヨリ撤退開始三日ハ半数ニ減シ六日ハ三分ノ一(約百名)トナリ成ル可ク早く平時状態ニ復スルコトトナリ現状ナリ(特ニ虹口方面租界及之ニ接続スル拡張道路ニハ一人ノ哨兵モナシ)  
英、土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリタシ

215 昭和7年3月(8日) ※在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

#### 日本軍撤退後の治安維持等に関する各国公使

##### の意向について

第四〇九号(暗)

松岡代議士ヨリ

七日八日兩日ニ亘リ英米仏伊各國公使等ノ斡旋ヲ更ニ懲諭スルノ目的ヲ以テ懲諭ヲ遂ケタル處彼等ノ態度乃至感想トシテ得タル印象左ノ如シ何等御参考迄

三、我軍撤退区域ニ支那兵侵入禁止ノ實行ニ関シテモ關係各國カ支那側誓約ノ証人トシテ道義的圧迫ヲ加フル以上ニ結局ハ具体的の考案ヲ建テ得サルモノノ如シ

一、既ニ決定的打撃ヲ加ヘ威力ヲ示スノ主要目的ヲ達シタル今日日本トシテハ寧ロ寛大ナル態度ニ出テ形勢転換ヲ計ルコト賢明ナリ

二、日本軍隊ノ撤退セル地域ニ於ケル排日嚴禁及一般安全確保保障ニ付如何ナル方法ヲ講スヘキカニ付何レモ確タル意見ヲ有セス各國混合軍隊ヲ以テ巡邏ニ当ラシムルカ如キハ米国ハ主トシテ主義上ヨリ英國ハ主トシテ實行上ヨリ容易ニ同意スル見込ナシ仏伊ニ至リテハ一応ハ賛成ナルカ如キモ恐ラク結局ハ賛成ヲ(得)難シトスルニ至ルヘシ  
英國公使ハ支那警察ニ委セ關係國ヨリ成ル「コミッショナー」ノ如キモノニ依リ時々該地域ヲ巡視スルカ如キ方法ハ或ハ實行可能ナランカト云フ租界警察ヲシテ支那警察ト協力ストノ名目ノ下ニ事實指導ニ任セシムルカ如キ案モ一応考慮ノ価値ハアレトモ其實行ニ至リテハ確タル見込立タス撤退区域可成リ広汎ナル事實モ亦此等ノ工夫ニ對スル難関ノ一ナリ

(1)連盟総会決議三ノ戰闘中止ト日本軍隊ノ撤退トハ引離シ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

- 得サルコトニテ支那側ハ日本軍撤退ノ条件ノ下ニ停戦ヲ  
為スコトヲ承諾スルモノナリ（二十糠以内ニ支那軍ノ入  
ラサルコトハ一時的ノコトナレハ承諾シ得ルヤモ知レス  
トノ次第ハ三月四日本使郭泰祺トノ会見ノ際ニ於テ之ヲ  
漏ラシ居タリ）
- （三）所謂円卓會議ニ付テハ三月三日付ノ顏惠慶ノ「ボンク  
ル」ニ宛テタル手紙ニ於テモ支那ノ立場ヲ明カニシ居ル  
通リニテ同會議ニ於ケル議題ハ右手紙ノ最後ニ於テ之ヲ  
保留シ居ル形トナリ居レリ
- 以上ハ支那ノ態度トシテ英國公使ノ了解シ居ル處ナリ右支  
那側ノ態度ハ将来ノ交渉ノ方針ヲ定ムル上ニ於テ重要ナル  
ヘキニ付電報ス
- 連盟ヨリ在欧各大公使ニ転電アリタシ
- 寿府、連盟、米、北平、奉天、南京、廣東へ転電シ、上海  
（二〇九文書）  
大臣宛貴電第二一二号及貴電第二二三号ニ関シ
- 支那代表カ右ノ如キ留保ヲナシタル際我方ハ之ニ対シ如何  
ナル態度ヲ取ラレタリヤ右留保ハ本件決議ニ対シ如何ナル  
効力ヲ有スル次第ナリヤ將又該留保末段（日本軍ノ撤退ニ  
条件ナルモノアルヘカラストノ点）ノ点ニ関シ我佐藤代表  
ノ修正案撤回ノ経験モアル処撤退問題ニ関連シ一時的觀念  
トスルモ撤退区域ノ安全維持ニ関スル提案ヲナスハ已ムヲ  
得サル所ト思ハル（例ヘハ撤退地域ノ警察問題若ハ排日運  
動ノ抑制便衣隊ノ防止等ノ如シ）此種ノ提案ヲナスコトヲ  
得ル次第ナリヤ本使發大臣宛電報第四二一号ノ次第モアル  
ニ付右ニ對スル貴方御了解折返シ御詳報ヲ請フ尚今回ノ支  
那提案ニハ完全ナル撤退（complete withdrawal）トアリ  
又顏惠慶ノ留保ノ字句ハ撤退ハ恰モ租界ヲ含ム支那領土全  
部ヨリノ撤退即チ上海ヨリ日本ヘノ撤退ノ如ク解セラル  
虞アリ當分ハ往電第四一号ノ通解釈シ居ル處貴方ノ御了解  
併セテ御回電ヲ請フ
- 大臣、米、北平、奉天、南京、廣東ニ転電シ
- 第四一六号（暗）  
本使發連盟宛電報  
第四一号  
大臣宛貴電第二二四号前段ニ関シ
- 当方ニ於テ支那側トノ間ニ所謂撤兵トハ現駐地ヨリ租界又  
ハ租界付近ニ日本兵力ヲ撤収スルコトヲ意味スルモノニシ  
テ此兵力ヲ日本内地ニ送還スルコトニ付テハ常ニ日本ノ兵  
由ニ保留シ居リ從テ日本カ租界及租界付近ニ於テ幾何ノ兵  
力ヲ維持スルカハ日本ノ自由判断ニ依ル積ナリ然ルニ前記  
「ドラモンド」ノ杉村ニ話シタル撤兵云々ハ兵力ヲ日本ニ  
送還スルコトヲ意味スル如クニモ考ヘラルル處當方ニ於テ  
交渉シ居ル撤兵ハ右ノ如キ趣旨ニハ非サルニ付此点御含置  
ヲ請フ為念
- 大臣、米、北平、奉天、廣東、南京へ転電セリ  
連盟ヨリ在欧各大使（土ヲ除ク）へ転電アリ度シ
- 217 昭和7年3月9日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）  
連盟総会決議第三項における撤兵の解釈につ  
いて
- 218 昭和7年3月10日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）  
総会の決議に対する中国代表の留保の効力に  
關し照会について
- 第四二七号（暗）  
本官發連盟宛電報第四三号  
（二〇九文書）  
大臣宛貴電第二一二号及貴電第二二三号ニ関シ
- （二一〇文書）  
支那代表カ右ノ如キ留保ヲナシタル際我方ハ之ニ対シ如何  
ナル態度ヲ取ラレタリヤ右留保ハ本件決議ニ対シ如何ナル  
効力ヲ有スル次第ナリヤ將又該留保末段（日本軍ノ撤退ニ  
条件ナルモノアルヘカラストノ点）ノ点ニ関シ我佐藤代表  
ノ修正案撤回ノ経験モアル処撤退問題ニ関連シ一時的觀念  
トスルモ撤退区域ノ安全維持ニ関スル提案ヲナスハ已ムヲ  
得サル所ト思ハル（例ヘハ撤退地域ノ警察問題若ハ排日運  
動ノ抑制便衣隊ノ防止等ノ如シ）此種ノ提案ヲナスコトヲ  
得ル次第ナリヤ本使發大臣宛電報第四二一号ノ次第モアル  
ニ付右ニ對スル貴方御了解折返シ御詳報ヲ請フ尚今回ノ支  
那提案ニハ完全ナル撤退（complete withdrawal）トアリ  
又顏惠慶ノ留保ノ字句ハ撤退ハ恰モ租界ヲ含ム支那領土全  
部ヨリノ撤退即チ上海ヨリ日本ヘノ撤退ノ如ク解セラル  
虞アリ當分ハ往電第四一号ノ通解釈シ居ル處貴方ノ御了解  
併セテ御回電ヲ請フ
- 第四六四号（暗）  
譲報者ノ情報ヲ綜合スルニ左ノ通り
- 一、太倉、崑山方面ニ在ル支那側敗残軍中警衛師ハ常熟、  
福山方面ニ（南京ニ赴ク由）十九路軍ハ大部分蘇州方面  
ニ退却中ニテ其一部ハ既ニ嘉興（浙江省）ニ達シタリ  
二、敗退後仮租界ニ隠レ居タル蔡廷楷及陳銘枢ハ昨九日水  
路南京着十九路軍ノ收拾及其南京入ニ付蔣介石ノ承諾ヲ  
求メタルニ対シ蔣ハ十九路軍カ蔣ノ命ヲ聽カス勝手ニ戰  
争ヲ起シタルモノナレハ之カ收拾ハ自ラ為スカ當然ナリ  
トテ取合ハサル由ニテ十九路軍トシテハ蘇州ヲ掠奪シ浙  
江ヲ經広東帰還ノ方途ニ出ツルノ外ナキカ之亦仲々容易  
ニ非ス結局土匪軍ト化スルカ共産軍ニ投スルノ外無カル  
ヘク旁蘇州ハ目下非常ニ動搖シ居ル趣ナリ

北平、奉天、南京、廣東、福州、漢口へ転電シ、支へ転報セリ

220 昭和7年3月(10)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 上海撤兵方針声明方稟申について

第二四二号(大至急、極秘)

三代表ヨリ

上海支那軍ニ大打撃ヲ加ヘ我軍ノ威力ハ充分ニ表示セラレタル次第ナル處他國領土ニ大兵ヲ留メテ条件ヲ強要セントスルカ如キハ連盟規約及不戦条約ノ精神ニ背馳スルモノナ

リトノ観念ハ列国一般ニ有スル處ナルハ往電第二四一号「サイモン」ノ談ニ依ルモ明カナルニ付大国側ニテ緩和ニ努ムルトスルモ今後総会決議中ニハ上海善後會議ト無関係ニ日本ハ成ルヘク速ニ撤兵スヘシトノ趣旨ヲ包含スヘキ形勢ニアリ勿論我方ニ於テハ戰闘中止ニ閑スル取極メ無クシ

テ即時無条件ニ撤兵スルノ不可能ナルヲ説キ現地協定ノ成立ヲ促進スルニ努メ居ル處支那撤退区域ヲ警備ニ付テハ在

支英國公使ノ「コンミッショソ」案ノ如キモノヲ採択セラ

レ又右警備区域モ現状ニ即シ之ヲ短縮セラル時ハ時局收拾ニ好都合ナルヘシ尚又當地総会ノ形勢前述ノ如キノミナラス上海ノ状態カ松岡代議士報告(在支公使発閣下宛電報第四〇九号)ノ通ニシテ撤兵前ニ支那側ノ円卓會議ヲ期待シ難ク且上海将来ノ安全問題等ニ関スル英米外交代表者ノ支持望無キ以上大兵ヲ同地ニ留ムルハ徒ニ列國ノ反感ト猜疑心ヲ向上スヘキニ付往電第二四〇号ノ趣旨ヲ御参考相成リ此際大局ニ顧ミ上海将来ノ問題ニ關ハルコト無ク戰闘中止ニ閑スル取極及撤退区域警備關係確定スルニ於テハ日本ハ自發的ニ撤兵スヘシトノ方針ヲ確立セラルルコト切望ニ堪ヘス

尚次期一般委員会開会(明日午後)迄ニ右方針ヲ声明シ得ルニ於テハ鮮カラス当地ノ空氣ヲ緩和シ得ヘシト存スルニ依リ右御取連ヲ得ハ幸甚ナリ局面ノ推移痛心ニ堪ヘス右敢テ上申ス

支、米、英、仏、伊ニ転電セリ

221 昭和7年3月(14)日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 英總領事館における非公式停戦會議の議事に

ついて

別電

同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第四

六〇号

停戦草案

第四五九号(大至急 極秘)

往電第四五八号書翰入手後十四日英國公使ヨリ非公式ノ会

合ヲ催シテ本使及支那側ヨリ郭泰祺ヲ招キ四国公使列席ノ

上ニテ意見ノ交換ヲ行ヒ度キ旨ヲ申出テ來リタルニ付之ヲ

承諾シ夕刻英國總領事館ニテ会合セリ

二、右ニ於テ郭ハ撤退交渉ニ於テ絶対ニ条件ヲ付スルコトニ反対ノ態度ヲ以テ終始セリ他國公使モ其ノ間ヲ斡旋セルカ大体ニ於テ此ノ点ハ支那側ノ態度ヲ支持シタリ特ニ排日ニ対スル吳市長ノ一月二十八日ノ書翰ヲ確認セシムルコトハ非常ニ困難ナリシカ

結局別電第四六〇号ノ如キコトニ了解成立セリ右別電ノ了解事項ノ下ニ之ヲ議題トシテ會議ヲ続行スルヤ否ヤニ付テ

ハ十六日午後今日ト同様ノ人員ニ依リ正式ニ會議ヲ開キテ之ヲ決スルコトトナレリ

尚本日ノ討議ニ臨ムニ當リテハ當地陸軍側(田代參謀長)

又撤退地域ノ撤退状況監視、撤退地域ノ維持ノ問題ニ付テハ混合委員会ヲ設ケテ之ニ當ルコトトナリ右委員会ハ事實上該地域ノ平靜維持ニ貢献スル次第ナリ

四、右ニテ大体御訓令ノ趣旨ハ具備シ居ルモノト思考スル

ヲ以テ別電ノ基礎ニ依リ交渉ヲ進ムルコトヲ次ノ正張合議  
ニ於テ公式ニ承認スル様致度ク至急御回訓ヲ仰ク尚県市長  
ノ回答ヲ確認スルコトハ支那側内政上ノ困難ニ鑑ム停戦交  
渉終結スル迄一切發表セサルコトナリ居リ又今日ノ非公  
式會議ハ如何ナル方法ニテモ之ヲ外部ニ洩ラササムム  
ナリ居ルニ付併セテ御含置キヲ請フ

別電ト共ニ米、連盟、北平、奉天、南京、廣東へ転電」  
ハ、  
海へ転報セリ

別電ト共ニ連盟ヨリ在欧各大使（士々除ク）  
<転電アリタ  
シ>

（電  
電）

No. 460 (附、Daisikyuu Gokuh)

Draft Agenda for Meeting.

1. The Chinese troops to remain in their present positions pending a later settlement.
2. The Japanese troops to withdraw to the International Settlement and the Extra-Settlement roads in the Hongkew district as before the incident of 28th, January. It is however understood that in view of the numbers

of Japanese troops to be accommodated, some will have to be temporarily stationed in localities adjacent to the above-mentioned areas.

3. A joint commission with neutral members to certify the mutual withdrawal.

Note.

It is understood that no other questions of principle will be raised.

Separate Note.

(Subject to the approval of the Chinese Government)  
the following understanding is agreed upon.

Provided a definite agreement is reached on the basis of the above points, the Chinese side will voluntarily give an independent undertaking that Mayor Wu's letter of 28th, January stands.

Shigemitsu.

222 昭和7年3月15日 在上海重光公使  
芳沢外務大臣宛 (電報)

停戦案第II項に対する修正案レポート

No. 469 (暗、Very Urgent)

3. A Joint Commission with neutral members to certify the carrying out of the agreement under Paragraphs 1 and 2, and to watch and observe the general conditions in the evacuated area until a later settlement.

(編注) 重光公使発芳沢外務大臣宛第四五九号(1111文書)  
第四六〇号(1111文書)参照。

223 昭和7年3月15日 在上海村井綸領事より  
芳沢外務大臣宛 (電報)

第十一師団等に内地帰還命令発出レポート

合第八〇一號

上海派遣軍ノ一半即チ第十一師団、混成第一十四旅団及若干ノ特科部隊ニ対シ十四日内地帰還命令ヲ発セラレタリ  
仏、米、ブラジル、露、浦潮、新嘉坡、馬尼刺ヨリ普通情報宛先ニ転報アリタシ

寿府連盟ニハ直接転電セリ

(編注) 本電報は「米、伯、露、浦潮、香港、新嘉坡、馬尼  
刺」にも發電された。

224 昭和7年3月16日 芳沢外務大臣より  
仏國栗山臨時代理大使他宛 (電報)

十九路軍の蘇州付近後退などに關する情報レポート

上海 3月15日後発  
本省 3月15日後着

第四八〇号 (暗)

蘇州ニテ蔡廷楷ニ面会帰滬セル謝万堯談

1、十九路軍ハ全部蘇州付近ニ後退、司令部ハ無錫ニアリ  
11' 陳銘枢ノ居中斡旋ニ依リ蔣介石、蔡廷楷間ノ意思疎通  
シ察ハ今後一切中央ノ命ニ従フコトムナリ

三、十九路軍ノ打撃ハ予想外ニ大ニシテ十九路軍ニ関スル

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

## ついて

第二九一号（暗、大至急）

支那代表ハ本十七日事務総長宛ニ上海停戦交渉ニ関シ宋子文、顧維鈞、郭泰祺発十六日付電報トシテ在支公使発貴大臣宛電報(三二文書)第四六〇号及(三二文書)第四六九号ノ条件ヲ通告シ旁十六日会見ハ日本側訓令未着ノ為延期トナリタルコト及支那政府ハ右第四六九号修正案ヲ受諾シ得ス且「セパレート、ノート」ハ日本軍撤退ニ関スル政治的条件ナルヲ以テ停戦交渉ニ於テ持出サルヘキモノニ非ストノ意見ナル旨ヲ通報セリ在歐米各大使、支ヘ転電セリ

226 昭和7年3月(18) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

### 十九人委員会第一回会議における停戦案に關する討議について

第二九四号

十七日午後三時半ヨリ十九人委員会公開会議ヲ開キ我方佐藤代表及支那側顏惠慶出席ス劈頭議長ハ往電第二八一號米国回答ヲ披露シタル後三月十一日総会決議ニ依レハ本委員会ノ第一ノ任務ハ三月四日ノ総会決議ニ基キ敵対行為ヲ終

止及確定的ナラシメ日本軍ノ撤退ヲ処理スヘキ協定ノ締結ニ関シ総会ニ報告スルニ在ルニ付テハ日支両代表ヨリ右ニ関スル其後ノ経緯ニ関シ説明ヲ得タシト述ヘタルニ依リ佐藤代表ハ昨日連盟側ニ通告セル通り三月十四日第十一師団及第二十四混成旅團其ノ他（総數約一万四千）ニ對シ帰還命令発セラレ目下出發準備中ナルヲ以テ近日出帆ノ運トナルヘキ旨ヲ披露シタル上三月四日ノ総会決議ニ依ル交渉ニ入ル為ノ予備の打合会ハ三月十四日英國公使ノ仲介及他国公使ノ立会ノ下ニ第一回会合ヲ開キ今日支那代表ノ通告シタル同会合ノ経過ニ関シテハ自分モ報告ニ接シ居リ他ノ四國代表ニ於テモ同様ナルヘント思考スルモ同会合出席者ノ間ニハ今後ノ進捗ヲ妨ケサル様互ニ内容ヲ洩ラササル了解成立シ居リ今尚右了解ニ変更アリタルヲ聞カサルニ依リ自分トシテハ更ニ詳細ナル報道ヲ供給スルヲ得サリシ次第ナリト説明シ尚同日ノ会合ニ於テ合意成立セル交渉ノ基礎ニ對スル帝国政府ノ意向ハ未タ之ヲ承知セス右基礎ニ関シ今尚両国政府ノ間ニ多少ノ意見ノ相違ハアルヘキモ既ニ解決ノ第一歩ニ向ヒツツアルノ事實ハ之ヲ喜ハサルヲ得ス更ニ明日頃正式会合ノ開催ニ至ランコトヲ希望シ居ルモノニシ

テ自分ハ本委員会カ右会合ノ進捗ヲ好意ヲ以テ静観セラルヘキコトヲ確信スト述ヘタル処

支那代表ハ支那政府ニ於テハ三月四日総会決議ニ依リ自ラ

「イニシヤチブ」ヲ執リ英國公使ノ斡旋ノ下ニ予備交渉ヲ進メ三月十四日一ノ交渉ノ基礎ニ達セリトテ其内容殊ニ「セパレート、ノート」ヲ披露シタル上（支那側ハ右内容ヲ秘密トスヘキ旨ノ記載ナカリシ旨付言ス）昨日ニ至リ重光公使ヨリ第三項ニ対スル修正案ノ提出アリタルコト及其

後日本政府ノ訓令到達セサル為会合延々トナリ居ルコト又唯今外交次長ヨリ接受セル來電ニ依レハ今尚重光公使ハ訓令ニ接セス交渉ハ何等ノ進歩ヲ示シ居ラサル趣ナリト述ヘ次ニ宋子文、顧維鈞、郭泰祺（脱）ニ基キ

（一）「セパレート、ノート」記載ノ事項ハ吳市長ノ回答ノ確認ヲ求ムルニアル処右ハ政治的条件ナルヲ以テ支那政府ニ於テ受諾シ得ス

（二）重光公使ノ修正案ハ一見無害ナルカ如キモ実ハ政治的意義アルモノニシテ例ヘハ「ジエネラル、コンディション」

ト云フカ如キ其一例ニシテ右ハ総会ノ決議ニ反スルモノナルノミナラス「ジョイント、コンミッショ」ト云フ以上

二、三月四日総会決議成立ノ際ノ討議ノ經緯ニモ鑑ミ撤兵交渉ノ題目タルヘキモノハ撤兵ニ直接關係アル事項ニ限ラルヘク政治的条件ヲ包含スヘカラサルコトハ明カニシテ「セパレート、ノート」所載事項ノ如キ若シ日本側ノ單ナル提案ナレハ格別苟モ撤兵ノ条件トナル次第ナラハ総会決

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

議ニ一致セサルモノト思考スト述ヘタルニ対シ「チエッコ」代表「ベネシュ」ハ議長ノ意見ノ一「watch and observe the general conditions」トハ前記給会ノ討議ノ趣旨ニ依リ説明且解釈セラルヘキモノナリト云フニ帰スル次第ナリヤト尋ネ議長ハ自分ハ起案者ニ非サルヲ以テ右様解釈セラルヘキモノナリト断定スルコト能ハサルモ重光修正案ニシテ決議案ト一致セシムルカ為ニハ右様解釈スルノ外ナシト云フニ過キスト答ヘ  
次ニ仏国代表「ボンクール」ハ理事会及總会ノ決議ニ依リ既ニ実現ヲ見タル成果ヲ喜ヒ  
(一)重光修正案ニ対スル支那側懸念ハ議長ノ説明ニ依リ除去セラレタルナルヘク又混合委員会ニ日本側ノ参加スルコトハ当然ナリト為シ  
茲ニ於テ佐藤代表ハ  
(一)「セパレート、ノート」ノ事項ハ円卓会議ノ議題タルヘキ実質問題ナリト述ヘタリ  
(二)支那代表ハ総会決議後十二日モ経過セリトテ其罪日本側ニ在ルヤノ口吻ヲ洩ラシタルモ十四日迄ハ支那側ニ於テ交渉ニ応セサリシモノナリト指摘シ

議長ハ結論トシテ

一、重光修正案ノ解釈ニ付テハ意見ノ一致アリ

二、「セパレート、ノート」ハ政治的条件ニ非スシテ一個ノ提案ナルコト從ツテ支那側カ之ヲ受諾セサレハ今後ノ問題トシテ円卓会議ニ譲ルヘキ意見ノ一致アリ

三、本委員会ノ任務ハ休戦条件ヲ「ディクテート」スルモノニ非サルコト勿論ニシテ唯総会ノ決議ノ尊重セラルヘキコトヲ監視スルニ在ルコトニ付テモ意見ノ一致アリト述ヘ

日支両国代表カ右一致ノ意見ヲ夫々本国政府ニ取次カレンコトヲ希望シ本委員会トシテハ重大ナル事態発生ノ場合再開スルコトトシ其ノ間事務局ハ議長ト密接ノ関係ヲ保ツテ両国政府ヨリノ通報ヲ受クルコトトスヘシト宣言ス

依テ佐藤代表ハ曩ニ言ヘル如ク自分ハ協定ノ基礎ニ付未タサルヲ以テ日本政府ニ於テモ支那政府同様之ニ変更ヲ加ヘキコトヲ留保スト述ヘ且本委員会カ将来トモ上海ノ交渉ヲ奨励シ之ヲ妨クルカ如キコトナカラソコトヲ確信スト述ヘタルニ対シ  
議長ハ本委員会ノ関心スル処ハ右変更ハ総会ノ決議ノ範囲

(2)重光修正案ニ付テハ議長ノ言ニ加フヘキモノナク  
(3)「セパレート、ノート」ニ関シテハ日本政府カ排日運動ノ取締ニ如何ニ重キヲ置キ居ルヤハ周知ノ通ナルカ右「ノート」ハ決シテ政治的条件ト云フヘキモノニ非ス又此ノ条件満タサレサレハ停戦ヲ承諾セスト云フニ非サルハ明カニシテ予備協定成立ノ上支那側カ独立ニ約定ヲ為スノ意ニ外ナラス我方トシテハ素ヨリ直ニ排日問題ノ討議ニ入り度キ希望ナルモ右不可能ナルニ於テハ早晚後日ノ會議ニ於テ論議セラルヘキモノナリト述ヘ  
四本委員会ハ将来上海ニ於ケル交渉ニ対シ指針ヲ与フル意向ナリヤ将又其ノ経過ヲ「フォーロー」スルニ止ムル次第ナリヤト質問セル処  
瑞西代表「モッタ」ハ  
(一)重光修正案ハ議長ノ解釈ヲ付シテ之ヲ歓迎シ得ヘク  
(二)「セパレート、ノート」ハ差当リ交渉ノ題目ヨリ消滅スヘキモノナリト述ヘタル後本委員会ノ構成上上海ニ於ケル交渉ノ細目ニ立入ルヲ得サルコト勿論ナルモ他方総会ノ決定セル原則ニ反スル事実アラハ之ヲ論議セサルヘカラスト述ヘ  
ヲ出テサルコトニ在リト答フ  
次ニ支那代表ハ  
(一)重光修正案ニ対スル一般ノ解釈及之ニ対スル日本側ノ同意ヲ喜ヒ支那政府モ右ニテ安心スト述ヘ  
(二)「セパレート、ノート」ノ拋棄セラレタルコトヲ満足トシ  
(三)排日問題ハ地方的問題ニ非サルヲ以テ円卓会議ノ題目ニ非ス  
ト述ヘタルニ対シ議長ハ右(3)ハ円卓会議其ノモノニテ決定セラルヘキ問題ナリト答ヘ  
佐藤代表ハ此点ニ関シ議長ト全然同感ナルヲ喜ヒ排日問題ハ当然円卓会議ノ際討議セラルヘキモノニシテ之ヲ然ラストスル支那代表ノ解釈ハ到底同意シ難ント結ヘリ  
英、米、支ニ転電シ、在欧各大使ニ郵送セリ

227 昭和7年3月(18日)

在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中国側の停戦交渉内容発表について

在支公使発大臣宛(一二二文書)

在支公使発大臣宛第四五九号停戦交渉ノ内容ニ関シテハ交

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

涉成立上之ヲ外部ニ洩ササルコト當方ニ於テモ絶対必要ト  
感シ居リタル処今十七日十九人委員会開催直前支那代表ヨ  
リ内容全部ヲ通告發表セル次第ニテ同代表ハ委員会ニテ其  
内容ヲ機密ニ付スヘキ申合アリタルコトヲ承知セスト弁明  
セリ「ケント」号交渉ノ場合モ今回同様現地ニ於ケル申合  
セニ拘ラス發表シ自己ニ都合ヨキ空氣ヲ作ラントセル先例  
モアリ今後ニ於テモ停戦交渉ノ内容ヲ絶対秘密ニ付スコト  
不可能ニシテ支那側ハ自己ニ不利益ナル場合之ヲ連盟ニ通  
告シ事態ヲ改善セント試ムヘシト察セラル停戦正式交渉ノ  
目前ニ迫リ居ルコトニ付右御参考迄ニ供ス  
支ニ転電セリ

228 昭和7年3月(19)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長よ  
芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会の停戦案議事状況について

別電 同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢  
外務大臣宛第三〇一號  
十九人委員会秘密会討議内容について

第二九八号(暗)

テ支那政府ニ依ル受諾ヲ前提トスルモノナラハ停戦交渉ニ  
対シ政治条件ヲ付シタルモノトナリ總会決議ニ抵触スルモ  
直ニ排日問題ニ関スル協議ハ当然政治的問題トシテ停戦交  
渉成立後行ハルヘキ會議ニ於テ協議セラルヘキモノト思考  
スト述ヘ「ボンクール」ハ理事會議長ノ立場ヨリ二月二十  
九日ノ理事会提案中「プラン」一ニ予見スル會議ニ於テ當  
然審議セラルヘキモノナリト為シ議長モ重ネテ右一二記載  
スル會議ノ討議事項中 condition de paix ニ排日問題カ包  
含セラルヘキヤ否ヤハ該會議自体ノ決定スヘキ事項ニ関シ  
本委員会ニ於テ之ヲ全然排除スヘキモノニ非スト為シ支那  
代表カ「ボイコット」ヲ上海會議ノ題目中ヨリ除外セント  
スル試モ否認セリ依テ排日問題ヲ停戦成立後引続キ開催セ  
ラルヘキ円卓會議ヨリモ除外スル様委員会ノ承認ヲ得ント  
シタル支那側ノ試ハ明ニ失敗セルモノト認ム本使ハ問題ノ  
「セパレート、ノート」カ停戦其ノモノノ条件ニ非スシテ  
単ニ日本側ヨリ支那側ノ確認ヲ求メタル提案ニ過キスト為  
シ該「セパレート、ノート」カ政治条件トシテ持出サレタ  
ルヤノ感想ヲ除去スルニ努メタルモ本委員会ヲシテ停戦成  
立前ニ該「ノート」ヲ承認セシムルコト到底不可能ナリト

往電第二九四号及第二九五号ニ関シ  
佐藤代表ヨリ

(二二六文書)  
(二二七文書)

一、昨十七日ノ十九人委員会ニテハ往電第二九四号詳報ノ  
通支那委員ノ通告シタル停戦仮協定ノ内容ニ立入り議長ニ  
於テ直ニ之ニ批評ヲ加ヘ「モッタ」「ボンクール」等モ大  
体同意見ヲ述ヘタル次第ノ處我方ハ該協定ノ内容ヲ秘密ニ  
付シアル關係上最初ハ右討議參加ヲ差控ヘ度キ考ナリシモ  
斯クテハ却テ我ニ不利ナルヘント思ハレタルノミナラス重  
光公使來電(大臣宛第四五九号)ニ依ルモ右協定秘密保持  
ハ寧ロ支那側ノ迷惑ヲ慮リテノコトナリシ事情ニ鑑ミ我方  
ニ於テモ形式ニ因ハレス討議ニ參加シ出来得ル丈ヶ上海交  
渉ヲ有利ニ導クヲ可トスヘント考ヘ前記往電所載ノ応酬ヲ  
重ネタル次第ナリ而シテ右委員会ニ於ケル討議ノ結果主要  
点左ノ通

(一)停戦協定第三項ニ對スル重光公使ノ代案(重光公使發大臣宛電報第四六九号)ハ原案第三項ノ趣旨ト大同小異ニシ  
テ別段侵略的意義ヲ包含セスト言フニ一致セリ

(二)「セパレート、ノート」ニ關シテハ議長ハ該「ノート」  
カ單純ナル日本ノ提案ナラハ格別其内容カ政治的条項ニシ  
二、前述ノ如ク昨日ノ委員会ニ於テ停戦交渉ノ内容ニ立入  
リ論議セルハ實ハ本使ニ取リテモ意外ノ感アリ且今後交渉  
進行ノ道程ニ於テ各般ノ困難ニ遭遇シ支那側ニ於テ自己ノ  
不利ト認メタル場合ニハ常ニ之ヲ委員会ニ持出しシ其遷延ニ  
依リテ上海ノ交渉ヲ自己ノ有利ニ導カントスル方策ヲ執ル  
ヤモ知レススケテハ該交渉ノ前途甚ク危ムヘシト思考シタ  
ルニ依リ本使ヨリ委員会ノ執ルヘキ方針ニ付質問ヲ發シ成  
ルヘク委員会ヲシテ上海交渉自体ニ容喙セシメサル様試ミ  
タリ

本使ノ質問ニ答ヘ議長ハ上海交渉ノ内容ニ委員会カ関与ヲ  
確認シ(一語脱)只例ヘハ關係國ヨリ提案アリタル場合之  
カ總会決議ニ違反セサルヤ否ヤヲ注視スルカ本委員会ノ總  
会ヨリ付託セラレタル権限ナリト言ヘリ

右ハ當然ノコトニシテ我方トシテハ是レ以上ノ容喙ヲ為ス  
ヲ得ス只上海交渉ノ進行ヲ妨害セシメサレハ足ルト信シ議

長ノ説明ニテ満足セル次第ナリ

三、昨日ノ公開会議ニテハ滿州問題ニ言及スルニ至ラス但シ同問題ニ関シテハ別電第三〇一号ヲ以テ引続キ行ハレタル秘密会ノ経過ヲ報告スヘシ

四、同日ノ委員会ハ理事会室ニ於テ開催セラレ理事会ト全然同様ノ討議振リナリシカ日支両国代表ハ委員ニ非サル関係上最端席ニ据エラレ本使トシテ常任理事國ノ權威ヲモ失ヒ支那ト全然同格ニテ被告席ニ着キ一部小国ヲ加ヘタル委員会ノ査問ニ列シタルヤノ感アリ遺憾此上無シ

在欧米各大使、支ヘ転電セリ

#### (別電)

第三〇一号(暗)

十七日午後十九人委員会秘密会ノ模様ニ関シ事務局側ヨリノ聞込ミニ依レハ同委員会ハ主トシテ往電第三〇〇号支那側覚書ヲ基礎トシテ討議ノ末

(一)九月及十二月ノ理事会決議ノ実施振リニ関シ日支両国ヨリ「プログレス、レポート」ノ提出ヲ求ムルコト

(二)二月二十九日ノ理事会決議三月四日及十一日ノ総会決議ノ実施ニ関シテハ兎ニ角上海ニ於ケル今後ノ事態推移ヲ

見極ムルコトスルコト

(三)西班牙代表「マダリアガ」ハ滿州獨立問題ニ對シ十九人委員会トシテ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤトノ質問ヲ出シ議論紛糾セルモ結局右ニ付テハ支那調査委員会ノ報告到來ヲ待テ審議スルコトニ決ス(右報告ハ先ツ理事会ニ提出セラレ理事会ハ之ヲ十九人委員会ニ廻付スルコトトナルヘシ)

尚十九人委員会ハ「リットン」委員会ノ中間報告ヲ成ル可ク速ニ(出来得レハ五月一日迄)入手シタキ希望ニテ事務總長ヨリ右希望ヲ同委員会ニ通達スル模様ナル由右聞込ノ儘

在欧米各大使、支ヘ転電セリ

229 昭和7年3月20日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報)

#### 停戦協定成立後直ちに円卓會議開催に関する

##### 了解取付方について

第二〇三号(暗、至急)

寿府来電(二二六文書)第二九四号並貴電第五〇二号及第五一一号等ニ顧ミ支那側ニ於テ停戦協定ノ成立後ハ円卓會議ノ開催ヲ遷延

シ之ヲ有耶無耶ニ葬リ去ル一方我軍ノ租界外(殊ニ吳淞方面)駐屯ニ対シ惡宣伝ヲナサムトスルノ魂胆ヲ有シ居ルコト想像ニ難カラサルニ付テハ(イ)貴電第五〇二号貴公使ノ第二項ニ関スル主張就中「排日等カ無クナリ形勢緩和セハ我軍ハ一日モ速ニ帰還シ度キ希望ナリ云々」ノ点(ロ)十七日ノ

十九人委員会ニ於テ排日問題ハ当然円卓會議ニ於テ議セラルヘキモノナリトナスニ意見一致シタル次第(寿府来電第二九三号)及(二月二十九日理事会「プラン」ニ於テ停戦協定成立ノ上ハ直ニ円卓會議ヲ開催スヘキヲ定メ居ルコト

230 昭和7年3月20日 芳沢外務大臣より  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長、在仏國長岡大使他宛(電報)  
上海方面の一部軍艦引揚げについて

#### 合第八二四号

上海ノ事態一段落ニ顧ミ同方面ニ在ル第三艦隊ヨリ第三戦隊、第一水雷戦隊、第一航空戦隊及軍艦大井ヲ除カルルコトトナリ二十日右諸艦隊ノ内地帰還方発令セラレタルカ(以上二十日公表)右ノ結果同方面殘留艦隊ハ事変勃発前ノ兵力ヨリ稍大ナルニ過キサルモノトナレリ  
右可然御説明相成度

(奉天宛ニハ「在満各総領事ニ転報アリタシ」仏宛ニハ「普通情報同様転報アリタシ」ト各付記

其他各宛先ニハ「普通情報同様転報アリタシ」ト各付記ノコト)(但寿府ヲ除ク)

(右陸海軍側ト打合済)

231 昭和7年3月(21日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛 (電報)

日卓会議開催を停戦交渉の条件とするは困難

の眞景申じて

第五一九号 (暗、大至急)

貴電第二〇三号 (九文書) 関シ

当初ヨリ本使ニ於テ円卓会議ヲ停戦交渉ニ関連セシメント  
努メ来リタルハ御承知ノ通りナリ然ルニ其後国際連盟ノ討  
議決議等ニ影響セラレ二者間連セシメ得サルコトナリタ  
ルニ付停戦交渉ト引離シ円卓会議ヲ出来ルタケ速ニ開カシ  
ムル様種々苦心シ居ル次第ナリ貴電御来示ノ如キ趣旨ハ從  
来何等御訓令中ニ予想セサリシ訳ナル処今回ノ會議トハ離  
レテ停戦交渉カ終了セハ円卓会議ハ当然開カルヘキ順序ナ  
リトノ趣旨ニテ凡ユル機会ニ支那及列国側ニ対シ念ヲ押シ  
且何等カノ方法ニテ停戦協定調印ト大体同時ニ右ノ趣旨ヲ  
記録ニ止ムル様努力致スヘキモ停戦交渉ノ条件トナスカ如  
キ形ニテ是ヲ取付クルコトハ不可能ト認メラルニ付右御  
含ミヲ請フ

232 昭和7年4月8日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛 (電報)

日本軍租界内撤収時期に關レランブソハ第一

察探狀申じて

付 記一 四月七、八日着在上海重光公使より芳沢外

務大臣宛第六四三、六四四、六四五号

日本軍租界内撤収問題に關するランブソン

英公使の第一、二、三案について

四月三日までの停戦協定案

第二三八号 暗、大至急

貴電第六四八号 関シ

政府ハ慎重攻究ノ結果第一案 (我方ニテ貴電第六四二号ヲ  
声明ス) ヲ採用スルコトニ決定シタルニ付右至急「ランブ  
ソン」ニ通報スルト共ニ友好國代表者等ノ協力ヲ求メ本案  
ニテ取繩方極力御努力相成リ度  
尚ホ第二案 (我方ニテ貴電第六二一五号ノ声明ヲナシ之ニ對  
シ支那側ニテ貴電第六四四号ノ了解ヲナス) 及第三案 (我

方ハ声明セスシテ支那側カ第三回国ニ対シ貴電第六四五号ノ  
了解ヲナス) へ到底同意シ難シ委細追電ベ  
本電陸海軍ト打合ベ"  
北平、奉天、南京、廣東、連盟、米ニ転電シ  
連盟ヲシテ必要ノ在欧各大使ニ転電ヤシメタリ

(本 記)

丁

No. 643 (暗、Very Urgent)

The Chinese Government, in taking note of the declaration of the Japanese Government that:

"(quote Japanese declaration)"

Hereby place on record their understanding that the terms of the present Agreement for rendering definite the cessation of hostilities and regulating the withdrawal of the Japanese forces in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations of March 4th will not be finally implemented until the Japanese troops have been withdrawn to the International Settlement and the Extra-Settlement roads in the Hongkew district as before the incident of January 28th, 1932, in accordance with the provisions of Article 3 of this Agreement.

No. 644 (暗、Very Urgent)

The Japanese Government take this opportunity to declare that, as soon as local conditions in and around Shanghai so improve as to afford a sense of security to Japanese nationals as regards the protection of their lives, property and lawful pursuits—and they hope that conditions will have so improved within six months or sooner—the Japanese troops will be further withdrawn to the International Settlement and Extra-Settlement roads in the Hongkew district as before the incident of January 28th, 1932.

Shigemitsu.

No. 645 (暗、Very Urgent)

The Chinese authorities, in concluding this Agreement for rendering definite the cessation of hostilities and

regulating the withdrawal of the Japanese forces in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations of March 4th, thereby place on record their understanding that the spirit of the said Resolution and the terms of the present Agreement will not be finally implemented until the Japanese troops have been withdrawn to the areas in the International Settlement and Hongkew district occupied by them before the incident of January 28th, 1932, in accordance with the provisions of Article 3 of this Agreement.

event of doubts arising in regard to the cessation of hostilities, the situation in this respect will be ascertained by the representative of the participating friendly Powers.

ARTICLE II (Adopted)

The Chinese troops will remain in their present positions pending later arrangements upon the re-establishment of normal conditions in the areas dealt with by this Agreement. The aforesaid positions are indicated in Annex I to this Agreement.

ARTICLE III

In accordance with the programme regulating withdrawal as shown in Annex II to this Agreement, the Japanese troops will withdraw to the International Settlement and the Extra-Settlement roads in the Hongkew district as before the incident of January 28th, 1932. It is, however, understood that, in view of the numbers of Japanese troops to be accommodated, some will have to be temporarily stationed in localities adjacent

to the above-mentioned areas. The aforesaid localities are indicated in Annex III to this Agreement.

(Note: The first fifteen words of the first sentence are still outstanding.)

ARTICLE IV (Adopted)

A Joint Commission, including members representing the participating friendly Powers, will be established to certify the mutual withdrawal. This Commission will also collaborate in arranging for the transfer from the evacuating Japanese forces to the incoming Chinese police, who will take over as soon as the Japanese forces withdraw. The constitution and procedure of this Commission will be as defined in Annex IV to this Agreement.

ARTICLE V (Adopted)

The present Agreement shall come into force on the day of signature thereof.

The present Agreement is made in the Chinese and Japanese and English languages. In the event of there

being any doubts as to the meaning or any differences of meaning between the Chinese and Japanese and English texts, the English text shall be authoritative. Done at Shanghai, this.....day of.....nineteen hundred and thirty two, corresponding to.....  
(Chinese and Japanese signatures)  
In the presence of: —  
(Signatures of foreign Heads of Mission)  
Representatives of the friendly Powers assisting in the negotiations in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations of March 4, 1932.

ANNEX I (Adopted except for definition)

The following are the positions of the Chinese troops as provided in Article II of this Agreement.  
(Here insert definition of the Chinese positions.)

In the event of doubts arising in regard thereto the positions in question will, upon the request of the Joint Commission, be ascertained by the representatives of

the participating friendly Powers, members of the Joint Commission.

ANNEX II

The withdrawal of the Japanese troops to the localities indicated in Annex III will be commenced within one week of the coming into force of the Agreement and will be completed in four weeks from the commencement of the withdrawal.

The further withdrawal of the Japanese troops to the areas mentioned in the first sentence of Article III will be completed as soon as conditions of local security permit of such reductions in the numbers of the said troops as will enable them to be accommodated in the said areas. This will be effected as soon as possible in accordance with the spirit of the Resolution of March 4th and the discussions which preceded its adoption.

The Joint Commission to be established under Article IV will make any necessary arrangement for the care and subsequent evacuation of any invalids or injured

animals that cannot be withdrawn at the time of the evacuation. These may be detained at their positions together with the necessary medical personnel. The Chinese authorities will give protection to the above.

(Note: The second paragraph of this annex is not yet agreed to by either side.)

ANNEX III (Adopted except for definition)

The following are the localities as provided in Article III of this Agreement.

(Here insert definition of the localities in which the Japanese troops are to be temporarily stationed.)

In the event of doubts arising in regard thereto, the localities in question will, upon the request of the Joint Commission, be ascertained by the representatives of the participating friendly Powers, members of the Joint Commission.

ANNEX IV (Adopted)

The Joint Commission will be composed of 12 members, namely one civilian and one military representative

of each of the following; the Chinese and Japanese Governments, and the American, British, French and Italian Heads of Mission in China, being the representatives of the friendly Powers assisting in the negotiations in accordance with the Resolution of the Assembly of the League of Nations of March 4th. The members of the Joint Commission will employ such numbers of assistants as they may from time to time find necessary in accordance with the decisions of the Commission. All matters of procedure will be left to the discretion of the Commission, whose decisions will be taken by majority vote, the Chairman having a casting vote. The Chairman will be elected by the Commission from amongst the members representing the participating friendly Powers.

The Commission will in accordance with its decisions watch in such manner as it deems best the carrying out of Articles I, II and III of this Agreement.

~~~~~

上海事変の勃発と停戦協定の成立

SEPARATE VOLUNTARY DECLARATION  
BY THE CHINESE GOVT.

(To be issued either prior to or simultaneously with the conclusion of the Agreement, but not to be annexed thereto.)

In order to ease the general situation and to secure the prompt re-establishment of stability and normal conditions in the affected areas, the Chinese Government hereby intimate their intention immediately to establish on their own initiative, for the maintenance of peace and order in the evacuated area in the vicinity of the Shanghai Settlement, a force of special constabulary, for which they contemplate the employment of experts as officers and instructors. It is understood that the incoming Chinese police referred to in the penultimate sentence of Article IV of the Agreement.....(here insert reference and date) will be drawn from the above special constabulary.

上海停戦会議における中国側対案をめぐつて

## の論議について

別電

同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第六  
六二号

右中国側提案

第六六一號  
(<sup>(二三)文書</sup>)  
貴電第二三八號ニ関シ

九日ノ會議ニ於テ我方ハ御來示ノ通電第六四三號ノ案文ヲ承諾スル旨披露シタル處支那側ハ南京政府ハ該案文カ撤収ニ対シ直接期限ヲ明示シ居ラサルコト及六ヶ月ナル期間ニ対シ異議アリ(他ノ二案ハ支那側モ問題トナラスト見居ルカ如シ)依テ更ニ対案ヲ提示スヘキ旨訓令越セリトテ別電第六六二號ノ案文ヲ披露セリ依テ本使ハ前回會議ノ約束ハ三案ノ何レヲ採ルヘキヤニ付政府ニ請訓スヘキ筈ニテ日本側ハ種々ノ困難ヲ忍ヒツツモ列國ノ好意ニ酬ヒ會議ノ結果ヲ速ニ齋ラサンカ為第一案ニ同意セリ然ルニ支那側ニ於テハ更ニ別ノ案文ヲ提示セントスルカ如キ處右ハ全ク新ナル問題ヲ提起セラルル訳ニテ到底承認スルヲ得ス右支那

案ハ受付ケ難シトテ之ヲ突返セル処郭ハ支那側ハ前回モ何等「コミット」セルコト無ク単ニ困難ト思フモ政府ニ請訓シ見ルヘシト約シタルノミ支那側ノ立場ハ屢言明セル通りナレハ充分御承知ナルヘシトテ種々陳弁セルカ我方ハ飽迄モ三案中ノ一ヲ選フヘキ約束ニテ請訓セルモノナレハ日本側トシテハ之レ以上考慮ノ余地無シトノ態度ニテ進ミタリニ、英國公使ハ原案ト支那案ヲ対比シ二者ノ差ハ僅少ノ如ク思ハル即チ(1)原案ハ security トアルヲ支那案ハ normal condition トナス(2) hope ヲ expect トス(3)六ヶ月ヲ四ヶ月トセルノミ然ルニ(4)ヘ字句ノ差ナレハ問題ナカルヘク殘ル問題中(4)期間ノ点ハ暫ク置キ(5)ハ例ヘハ原案ノ so improve 以下 lawful pursuits 迄ノ代リニ之ヲ return to normal ヲテモシテハ如何ニヤ右ハ支那側ノ案文中ニアル文案ニテ且原案ヨリモ一般的トナルト反対シ尚連盟ノ委員会モ十一日ニハ回答ノ由ニテ彼等モ本會議ノ結果ヲ待チ居ルナルヘシ吾人ハ出来得レハ何トカシテ現在ノ難関ヲ打破シ解決案ヲ得ル様シ度シト述ヘタルカ我方ハ矢張リ当初ノ訓令通り三案ノ内ノ何レカラ執ルヘキモノニシテ今ニ至リテ修正ヲナスカ如キハ到底

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

賛成シ得ストノ態度ヲ持続シ且第三条ニハ日本軍ノ撤収地方ニ駐屯スルハ當分ノ間トナリ居リ更ニ本声明案中ニハ出来ル丈ヶ平静状態ノ恢復ヲ希望スル旨並ニ租界内ヘノ撤収ハ實際上ハ六ヶ月以内ニモ出来ヘキ趣旨ヲ記載シ居リ日本ノ態度ハ明白過キル位明白ナリト述ヘタリ支那側ハ之ニ対シ其立場ノ困難ナルコトヲ繰返シタル上結局唯一ノ打開策ハ原案ニ英國公使修正案ヲ付シテ請訓スルコトト思フモ尚右ニ就テ期限ノ問題ヲ決定スル要アリト述ヘタルカ我方ハ支那側ニテ何ヲ制限スルモ夫レハ勝手ナリ日本側ハ約束ノ通り三案中ノ一ヲ選ヒ支那側ノ意見回示ヲ待チ居ルナリトノ態度ヲ枉ケサリン為結局英國公使ハ仲裁的ニ日本側ハ(イ)ノ案ヲ修正スルコトニ同意シ支那側ハ(ハ)ノ期限ノ点ヲ原案ノ儘トスルコトニ同意セハ双方同程度ニ歩ミ寄ル訳ナレハ右ニテ妥協シ各々再ヒ政府ニ請訓スルコトヲ得サルヤト述ヘタリ右ニ対シ本使ハ如何ニ請訓スルモ支那側ニテ案文ヲ其儘採用セスシテ常ニ修正ヲ持出スカ如キ状態ニテハ果テシ無シト述ヘタルニ英國公使ハ支那側ニテモ最早字句ライヂラス本案ヲ其儘採用スルヤ否ヤニ付政府ニ問合スモノト了解ス

ト述ヘタリ

最後ニ於テ支那モ遂ニ該案ヲ請訓スルコトニ同意スト答ヘタルニ付本使ハ之レ以上字句ノ修正無キ事六ヶ月ノ期間及其ノ挿入個所ハ原案ノ儘トスルコトヲ確カメタル上日本代表トシテハ今更斯ル修正ヲ政府ニ問合スハ立場上甚タ困難ナルカ折角ノ申出ナレハ他ノ代表トモ充分協議ノ上請訓スヘキヤ否ヤニ付テハ後刻回答ス可シト答ヘタルモ(会談後陸海軍側ト篤ト協議ノ上本使ハ為念英國公使宛書面ヲ以テ「該修正案ハ支那側ニテ何等之以上修正ヲ為サストノ了解ノ許ニ日本代表ハ之ヲ政府ニ請訓スルコトニ同意ス」ト通報セリ)

三、會議ニ於テハ我方ニテ請訓案ニ同意スレハ双方回訓ノ時間ヲ取ル為次回ハ十一日(月曜日)午後三時トスルコトニ打合シタリ尚四国側モ今日迄ノ會議ノ経過及結果ヲ各本国政府ニ同文電報ヲ以テ報告スル模様ナリ

別電ト共ニ例ノ通転電セリ

別電ノ通り連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ヘ転電アリタシ

(別電)  
No. 662 (Very Urgent)

The Japanese Government take this opportunity to declare that the Japanese troops will as soon as possible be further withdrawn to the International Settlement and the Extra-Settlement roads in the Hongkew district as before the incident of January 28th 1932, in accordance with the provisions of Article 3 of the agreement, it being expected that such withdrawal will be completed within a period of four months or sooner during which normal condition in and around Shanghai will have been re-established.

Shigemitsu.

(元 署) No. 664 (暗、Very Urgent)

234 昭和7年4月(10日 在上海重光公使より芳沢外務大臣宛(電報)) 横國公使修正案承認シテ  
明電 同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第六  
六四号  
英國公使修正案  
第六六三号(暗、大至急)  
往電第六六一号(文書) 関シ

January 28th, 1932.

Shigemitsu.

ニモ疑ナキト存スルモ何分支那相手ノハナルニ付念  
ノ為メ友好国代表者ノ了解ヲ得置ク次第ナル旨申入置カレ  
度

本電陸海軍ト打合済

北平、奉天、南京、廣東、米、英、連盟ニ転電シ連盟ラシ  
テ必要ノ在欧各大使ニ転電セシム

235 昭和7年4月10日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛(電報) 英國公使の修正案承認シテ

第一回1号 暗、大至急  
(元文書)  
貴電第六六三号(文書) 関シ  
貴電第六六四号(英國公使修正案) ヲ承認ス尤モ我方ニト  
'return to normal' ヲ当然日本人ノミナラス一般外国人  
ノ生命財産等ノ安全カ確保セラルル状態ノ実現スルコト  
(即チ貴電第六六四号) so improved as.....lawful pursuits  
ノ中 Japanese nationals ヲ一般外国人トシタル趣旨) +  
リト'解スル次第ニテ事情許セバ此ノ意味合ヲ何等カ文書  
ノ形ニテ残スカ切メテ會議ノ席上口頭ヲ以テ念ヲ押シ置ク  
コト致度モ此際我方ニ於テ之ヲ會議ニ持出ストキハ又々  
支那側ヨリ好マシカラサル留保等ヲ為シ事態紛糾ノ虞レア  
ルニ付本件ハ會議ノ席上ニテハ問題トセス予メ貴公使ヨリ  
友好国代表者ニ対シ右ノ次第ヲ窓ト説明シ前記我方了解ハ  
事理ノ当然ナルノミナラス從来ノ討議ノ経緯ニ徵シ何人

九日ノ會議前本使ハ英米公使ヲ各別ニ往訪シ貴電第二二九  
号御來示ノ趣旨ニ依リ我方ノ立場ヲ充分説明シ種々打合セ  
ラ遂ケタル上郭泰祺説得方ヲ依頼シ同公使之ヲ引受ケタル  
次第ナルカ其後ノ會議ニ於ケル詮議ノ模様ハ右往電ニテ御  
ニ更ニ一般的ナル文字ヲ使用シタルモノナル處右ハ貴電第  
一一四号ノ御趣旨ニ依ルモ大体差支ナキ様思考セラルモ  
若シ御異議アルニ於テハ大至急御回電ヲ請フ陸海軍側モ右  
ハ差支ナキ意向ニテ各々中央ニ電報セリ修正案全文別電第  
六六四号ノ通為令修正箇所「トンダーハイ」ス

連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ヘ転電アリタシ

237 昭和7年4月(11日)

在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 日本政府の訓令漏洩について

第六七〇号(暗)

当方請訓ニ対スル政府ノ御決定ハ連合、電通等ニ依リ詳細ニ伝ヘラレ居レリ之カ為會議ニ対スル駆引上非常ニ不利益ニ陥リ九日ノ會議ニ於テハ支那側ヨリ日本政府ノ訓令ノ趣旨ナリトテ其解釈ヲ伝ヘタル連合ノ通信ヲ持出シ當方ハ之カ説明ニ著シク困難ヲ感シタリ然ルニ今日ノ最後案ニ付テモ右ハ原案ト趣旨ニ於テ大差ナキニ付之ヲ承諾スル旨ノ電報連合及電通ニ依リ當方ニ於テハ支那側ノ訓令接到ノ上支那側表セラレ居レリ當方ニ於テハ支那側ノ訓令接到ノ上支那側ノ承諾案ヲ確カメタル上我方ノ意向ヲ述フル積リナリシカ之等ノ駆引ハ全然行ヒ得ス支那側ヨリ足許ヲ見透サル次第ナリ交渉進行中ハ之等ノ点ハ申迄モナク極メテ重要且機微ノ点ナレハ訓令ノ内容等ハ一切當方ニ於ケル交渉済ノ後ニ非サレハ発表セサル様特ニ御考量願度シ

例ノ通転電セリ

238 昭和7年4月(11日)

在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 日本軍撤収地域について

第六七五号(至急)

一、日本軍撤収地方ハ實地踏査及地図ニ依リ吳淞、江湾、閘北及租界東部隣接地(黃浦江ニ沿ヒ約一哩半径ノ地域)ニ付大体往電第六三八号ノ如ク纏リ更ニ十一日午後ノ小委員会ニ於テ之ヲ確認決定シタリ

二、支那軍ノ蘇州河以南ノ地点ニ付テハ曩ニ支那側ニ於テ事實上之ヲ言明セルコトアルヲ以テ(本使発連盟等宛電報合第五六九号)我方ハ暫ク触レサルコトトシ居リ浦東ニ付テハ支那側ハ不侵入地域ヲ協定ニ書入ルルコトニハ反対シ居ルモ事實上或ル程度迄日本側ヲ満足セシメサル可カラサルコトハ諦メ居ル模様ナリ然ルニ十一日ノ小委員会ニ於テ英國武官ハ支那側ニ於テ浦東ニ於ケル支那軍ノ地点ヲ中立国「オブザーバー」ニ言明シ同「オブザーバー」ハ之ヲ日本側ニ通告(之ヲ付屬書ノ形トスル筈)スルコトハ如何トノ仲裁的提案ヲ為セリ而シテ支那側カ

之ニ違反セル場合ノ責任ハ蘇州河以北ノ地区ニ於ケルト同様トシ又其ノ不進出ノ期間ハ協定第二条ニ於ケルト同様トスヘシトノコトナリシニ付當方ハ贊否ヲ一応留保シ置キタルモ右ノ通ニ決定スルナレハ大体異議無キ見込ニテ更ニ十二日小委員会ヲ開クコトトセリ

(委細陸軍電報ニ付御承知ヲ請フ)

例ノ通転電セリ  
連盟ヨリ(松井全權ニ転報例ノ如シ)必要ノ在欧各大使ヘ転電アリタシ

239 昭和7年4月(12日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 上海停戦會議における日本軍撤収時期に関する交渉について

第六七六号(暗、大至急)

大使発連盟宛電報

第六九号

累次電報ニテ御承知ノ通当地ノ會議ニ於テ最後ニ纏マラサリシ主要点ハ日本軍ノ租界及拡張道路(エッキステンション)ニ引揚クル時期ノ問題ナリ右ハ貴電第一七号三月

四日ノ決議採択ノ際ノ佐藤代表ト議長トノ応酬ニモアル通り要スルニ居留民ノ生命財産ニ対スル「セキュリティ」ノ問題ニ關スル次第ニテ右「セキュリティ」アラハ日本軍ハ容易ニ引揚ケ得ル訳ナリ然シ乍ラ若シ之ニ付不安アラハ日本ノ權益保護ノ為メ幾何ノ軍隊ヲ置クヤハ現ニ治外法権設定セラレ居リ且其国内モ混亂状態甚シキ支那ノ如キ国情ニ於テハ結局軍隊ヲ送リ居ル國ノ判定ニ待ツヨリ外無キ訳ニテ右ハ從来共各國ノ取り來レル態度ナリ然ルニ現ニ日本ノ必要トル軍隊ハ狹隘ナル租界及「エキステンション」ニ入り切レサルニ付先ツ其上陸地タル吳淞付近(租界内ニ上陸ヲ避ケタル事情ハ御承知ノ通リナリ)及租界ニ接近セル僅少ノ地域ニ撤収スルコト小委員会ニ於テハ既ニ交渉纏マリタル次第ナリ右「セキュリティ」ノ問題ハ前記ノ通り主義ノ問題トシテ極メテ重大ナルハ勿論最近ニ於テモ支那街ハ勿論租界内ニ於テモ邦人ノ生命ニ対スル危害頻發スル当地ノ実情ニ鑑ミ實際上ノ必要上ニモ基クモノニシテ日本側ニ於テハ結局大臣宛往電第六六四号最後案以上ニハ讓歩來サル証ナルカ支那側ニ於テモ恐ラク内部ニテハ右ノ程度ニテ折合フ用意アルモノト認メラルモ無責任ナル所謂世

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

論ノ手前郭泰祺等ハ調印ノ責任ヲ採ルコトヲ避クル為右ニ付更ニ連盟ノ決定ヲ待タントスルモノノ如シ如斯交渉ノ最後ノ場合ニ於テ支那代表カ調印ノ責任ヲ避クルニ至レルハ全ク支那内部ノ無秩序ヲ表明スルモノト看ラル連盟ヨリ必要ノ在欧大公使ヘ転電アリタシ大臣、英、米、北平、奉天、南京、廣東ヘ転電セリ

**240 昭和7年4月(12日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)**

**停戦問題の十九人委員会再提出に関する中國側の希望表明について**

第三四六号(暗、至急極秘)

十一日「ルーター」上海電報ハ停戦会議決裂ヲ伝ヘ支那代表部側ニ於テハ再ヒ本件ヲ連盟ニ持チ出シ早速十九人委員会ノ開催ヲ求ムル準備ヲ始メタル旨聞込ミアリタルカ右ニ関シ同日午後「ドラモンド」杉村会談ノ結果左ノ通り内報アリタリ

今朝顏惠慶「ド」ヲ訪問停戦会議「デッド、ロック」トナリタレハ再ヒ連盟ニ問題ヲ提起シ度キ希望ヲ述ヘタルニ対シ「ド」ハ撤収問題ハ是非共地方的ニ解決シ度キニ付何ト

ス」トノ趣旨ヲ述ヘタリ  
例ノ通り転電セリ

連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ヘ転電アリ度ン

**242 昭和7年4月(13日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より 芳沢外務大臣宛(電報)**

**停戦問題の十九人委員会再提出に関するドラモンドとの会談について**

第三五〇号(暗)  
佐藤代表ヨリ

十二日前本使「ドラモンド」ト会見ノ際本使ヨリ上海停戦交渉ハ單ナル延期ニシテ決裂ニアラサルヲ以テ同交渉最後ノ妥協案ニ付支那側カ確答ヲ与ヘサル限り十九人委員会ニ於テ本件ヲ議スルハ不当ナルノミナラス不可能ナルヘシト述ヘ顏ヨリ正式ニ十九人委員会開催方要求アリタル次第ナリヤト尋ネタル処「ド」ハ昨日顏ハ右要求ヲ申出タルモ成ルヘク速ニ開催セラレ度シト云フノミニテ別段期日ノ指定ナク其際自分ハ顏ニ対シ若シ上海ノ交渉カ決裂ニ非スシテ単ナル延期ナラハ支那側トシテモ此ノ上トモ妥結ニ尽力

カ局面打開ノ方法ヲ講セラレ度シト云ヘルニ顏ハ日本側ニテハ六ヶ月ト云フカ如キ法外ニ長キ期間ヲ固執スル等到底妥協ノ見込ナシト答ヘタルカ結局「ド」ノ勧説ニ従ヒ今一度日本側ト会見シテ何等カノ協定案ヲ見出ス事ニ尽力スル様政府ニ電報スル旨ヲ述ヘテ引揚ケタル趣並ニ十九人委員会ハ日下ノ處十六日頃開催ノ予定ナルカ上海停戦会議ノ討議ナキ場合ニハ右開催モ必要ナキニ至ルモ計ラレス此点ハ「イーマンス」議長十四日当地着ノ上協議ノ筈ナル旨語レル由土ヲ除ク在欧米各大使、支ヘ転電セリ

**241 昭和7年4月(13日) 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛(電報)**

**中国側より上海停戦会談延期方申出について**

第六八四号(暗、至急)

往電第六七九号ニ関シ

十三日午後五時四十五分張情報司長本使ヲ訪問シ郭次長ヨリ伝言トシテ「支那政府ハ撤収期限ノ問題ノ説明ヲ求ムル様 to ask for elucidation 寿府ニ在ル代表ニ電報シタルニ付右回答アル迄次回ノ停戦会議ノ延期セラレントヲ希望

上海停戦交渉停頓経緯などドラモンドへ説明について

第三五一号(暗)  
長岡理事ヨリ

一、十二日午後本使挨拶ノ為「ドラモンド」ヲ往訪シタル  
處話ハ自然日支問題ニ亘リタルカ「ド」ヨリ往電第三四六  
(一四〇文書)  
号ノ次第ヲ述ヘタルニ付本使ハ往電第三五〇号佐藤大使ノ  
会見談ヲ承知シ居タルヲ以テ詳細本件ノ経緯ヲ伝ヘ置ク  
コト適當ト認メ事務局ニテモ御承知ノ通本件交渉ノ難関ハ  
撤収期間ノ一点ニ帰シ右ニ付テハ七日「ランブソン」公使  
ヨリ三案ヲ提出シ何レカノ採否ニ付各々請訓スルコトニ取  
極メ其次ノ会談ニテハ第二案及第三案トモ双方ノ同意ヲ得  
ル能ハス第一案ニ付テハ日本側ハ多大ノ困難ヲ忍シテ是ニ  
同意ヲ表シタル處支那側ハ時ノ問題ノミナラズ字句ノ問題  
ニ付テモ修正案ヲ出シ七日ノ了解トハ非常ニ異リタルカ更  
ニ我方ハ「ラ」公使ノ調停意見ヲ容レ支那側ノ希望スル字  
句ヲ取入レタリ我方ハ斯ノ如キ處迄歩ミ寄リタルヲ以テ支  
那側モ妥協的態度ヲ示スモノト予測シ居リタル處十一日ニ  
至リ洛陽ヨリノ訓令ナシトテ會議延期ヲ申出テソノ儘トナ  
リ居レリ右ハ我々ノ有スル情報ノ真相ナルカ新聞等ニテハ  
如何ニモ談判決裂シタル様伝ヘラレ居レリ又支那側ヨリ斯  
ノ如ク貴方ニ伝ヘタル模様ナルカ決裂ノ意味ハ前述ノ通ニ  
テ支那側ノ言分ハ当ラス何レニスルモ日本カ最初ヨリ懸念  
シタル通り最後ノ瞬間ニハ如何ナル案ニモ責任ヲ取りテ調  
印スル勇氣アル支那人無キコト立証セラレタリト思ハル  
ニ付テハ現地ニ在リテ交渉ニ立合ヘル友邦ノ代表者ニ於テ  
支那ニ「プレッシヨン」ヲ加フル必要アリト思フト述ヘタ  
ルニ「ド」ハ全ク其通ナリ本件ハ出来得ル限り事情ヲ審ニ  
セサル当地ニテ取扱フヲ避ケタク支那側ニテモ當方ノ意向  
ヲ汲ミ上海ニテ何トカ妥結スルヤモ知レス幸ニ十六日迄ニ  
支那側ヨリ妥結ノ方向ニ進ム意思ヲ通シ來リタル場合ニハ  
目下何モ他ニ取扱フヘキ問題モ無キカ故ニ十九人委員会ヲ  
開カヌコトトモナルヘシト思考スト述ヘタリ本使ハ更ニ六  
箇月ト云フモ四箇月ト云フモ僅カ八週間ノ問題ナリ寿府ニ  
テ之ヲ兎ヤ角論議シ居ル内ニ夫レ位ハ経過スヘシト述ヘタ  
ルニ「ド」モ笑ヒ乍ラ夫レヲ肯定シ居リタリ

二、尚顧維鈎入満拒否ノ件話題ニ上リタルニ付本使ハ実ハ  
此問題ハ日本ニ執リ全ク寢耳ニ水ニテ自分ノ考フル所ニテ  
ハ何分顧ハ張學良ト永ク提携シ居リタル人物ニテ滿州ニ入  
ラハ「アッセッサー」ノ任務以外ニ政治的運動ヲ企ム虞無  
キヤヲ惧レ滿州國ヨリスカル通告ヲ為シタルコトカト思考  
ス依テ若シ「リットン」委員会ノ方ヨリ顧ハ「アッセッサ  
リ」  
リ

「」ノ任務以外ニハ一切行動セシメサルコトヲ保証スレハ  
或ハ解決ノ端緒開カルルニ非スヤト述ヘタル処「ド」ハ勿  
論斯カル大外レタル行動ヲ為サシムヘキ限ニ非ナルハ自分  
ノ確信スル所ナリト云ヘリ

在欧米各大使（土ヲ除ク）支ヘ転電セリ

支ヨリ北平、奉天、長春ヘ転電アリタシ

244 昭和7年4月(14) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中国軍不進入区域に關し日中双方合意不成立  
について

第六八八号(暗)  
(二三八文書)  
往電第六七五号ニ閑シ

小委員会ハ十二日及十三日モ開催セラレ支那側ハ結局浦東  
方面ニ於テ小範囲ノ不侵入地ヲ示シタルモ未タ日本側ヲ満  
足セシムルニ至ラス然ルニ本會議ハ十一日ノ會議カ延期ト  
ナリタル儘今日ニ及ヘルヲ以テ旁々小委員会モ本會議再開  
ノ日迄休会スルコトナレリ(新聞發表ハ「從來ノ経過ヲ  
首席代表ニ報告スルコトセリ」ト申合セタル趣ナリ)

委細陸軍電ニ依リ御承知ヲ請フ

シタル通り最後ノ瞬間ニハ如何ナル案ニモ責任ヲ取りテ調  
印スル勇氣アル支那人無キコト立証セラレタリト思ハル  
ニ付テハ現地ニ在リテ交渉ニ立合ヘル友邦ノ代表者ニ於テ  
支那ニ「プレッシヨン」ヲ加フル必要アリト思フト述ヘタ  
ルニ「ド」ハ全ク其通ナリ本件ハ出来得ル限り事情ヲ審ニ  
セサル当地ニテ取扱フヲ避ケタク支那側ニテモ當方ノ意向  
ヲ汲ミ上海ニテ何トカ妥結スルヤモ知レス幸ニ十六日迄ニ  
支那側ヨリ妥結ノ方向ニ進ム意思ヲ通シ來リタル場合ニハ  
目下何モ他ニ取扱フヘキ問題モ無キカ故ニ十九人委員会ヲ  
開カヌコトトモナルヘシト思考スト述ヘタリ本使ハ更ニ六  
箇月ト云フモ四箇月ト云フモ僅カ八週間ノ問題ナリ寿府ニ  
テ之ヲ兎ヤ角論議シ居ル内ニ夫レ位ハ経過スヘシト述ヘタ  
ルニ「ド」モ笑ヒ乍ラ夫レヲ肯定シ居リタリ

二、尚顧維鈎入満拒否ノ件話題ニ上リタルニ付本使ハ実ハ  
此問題ハ日本ニ執リ全ク寢耳ニ水ニテ自分ノ考フル所ニテ  
ハ何分顧ハ張學良ト永ク提携シ居リタル人物ニテ滿州ニ入  
ラハ「アッセッサー」ノ任務以外ニ政治的運動ヲ企ム虞無  
キヤヲ惧レ滿州國ヨリスカル通告ヲ為シタルコトカト思考  
ス依テ若シ「リットン」委員会ノ方ヨリ顧ハ「アッセッサ  
リ」  
リ

前電ノ通転電セリ

連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ヘ転電アリ度シ

245 昭和7年4月(14) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

中国側の十九人委員会の開催要請について  
別電 同日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢  
外務大臣宛第三五五号

右要請

第三五四号(暗、至急)

顏惠慶ハ一日付ヲ以テ事務總長宛別電第三五五号ノ通十  
九人委員会ノ招集ヲ求メタルカ右要求ハ十三日同委員会及  
我代表部ニ通告アリ尚事務局ニテハ十六日同委員会開催ノ  
コトニ決定シ居ル由

本電別電ト共ニ在支公使及土ヲ除ク在欧米各大使ヘ転電セ  
リ

(別電)  
No. 355

Have honour inform you that I have received telegram  
from my Government to effect that armistice negotia-

tions at Shanghai have again reached critical state where agreement between Chinese and Japanese Governments is very unlikely.

Under circumstances I am instructed by my Government to present latest phase of negotiations to members of Special Committee and to request for a meeting of same.

I shall be deeply obliged if you will kindly transmit request to President of Special Committee so that meeting of Committee may be arranged at early date.

Sawada.

246 昭和7年4月(14)日 芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦問題対策に關し英、仏、イタリア各

国外相と余談について

第三五六六号(至急極秘)

長岡大使ヨリ

一、十三日本使軍縮委員会議場ニテ小閑ヲ見テ「サイモ

」ト金談セル處「サ」ハ上海事件ニ関シ支那ヨリノ申出アリタルニ付十六日ニハ十九人委員会開催セラルベク実ハ其席ニテ又小國側カ騒キ出スヲ抑ヘル良法無キヤト考ヘ居ル訳ナルカ現在日支意見ノ相違点ハ僅カ二カ月ノンデ四ヶ月ヲ承諾スル旨ヲ声明セラルニ於テハ日本ニ取り甚タ良好ナル空氣ヲ作ルコトトナリ又若シ支那カ日本ノ右承諾ニ拘ハラス調印セサル様ノコトアラハ益々日本ノ地歩ハ良好トナルベント思ハル斯ル考案ハ如何ナルモノナリヤト述ヘタリ

本使ハ七日、九日、十一日ノ上海ニ於ケル経過ヲ詳述シ日本カ九日ノ英國公使提案ヲ承諾スルニ決セルハ日本ノ讓歩ニ支那モ「レスプロケイト」スルコトヲ予期シタル次第ニテ「ラ」公使ノ考ヘモ亦同様ナリト信ス日本カ上海ニ於テ拒絶セルモノヲ寿府ニテ同意スルトキハ支那ハ必スヤ日本ハ連盟ニ押付ケラレテ承諾ヲ余儀ナクセラレタリトテ宣伝ヲ試ムヘク其結果今後ノ支那ノ態度ハ益々抗日ヲ加フルト思ハル加之日本トシテモ輿論ニ対シ斯ノ如キコトハ出来兼ヌル処ナリト思ハル上海ニ於テハ「ラ」

初メ参加各国代表者モ九日ノ妥協案ヲ「リーズナブル」ト齊シク認メ居ル次第ナルニ付テハ十九人委員会前ニ關係国政府ヨリ上海ニ訓令シテ支那ヲ圧迫セシムル方実際的ナラスヤト考フ支那ニテハ政争ノ為ニ容易ニ敢テ調印スルモノナキヨトハ法權問題商議ノ際英國ノ体験セラレタル通リナリ殊ニ支那問題ニ利害關係無キ諸国ノ容喙ヲ許ス空氣ヲ一掃シ利害關係國ノミニテ之ヲ処理セル昔ノ事態ニ立戻ル為ニモ右ハ有利ナリト思フト答ヘタリ

「サ」ハ右本使ノ意見ニハ甚タ煮ニ切ラヌ答ヲ為シ上海

「訓電スベシトハ言ハス更ニ語ラ次キ実ハ「スチムソ

」十五日ニハ着寿スベク十六日ノ委員会ニ傍聴ニ来ルくシト思ハルルニ付從來米國ハ日本ニ対シ相当感情ヲ悪クシ居ル關係モアリ連盟最初ノ傍聴ノ機会ニ日本ノ公明ナル態度ヲ「ス」ニ示セハ其ノ第一印象ハ非常ニ良クナ

リ将来日本カ支那問題ニ付思ハヌ得ラセスヤトモ考ヘ随分立入リタル言ヒ分トハ思ヒタルモ敢テ之ヲ申述<sup>(2)</sup>タル次第ナリト付言セリ

「サ」ノ考案ハ我方トシテ到底同意シ難シト思バ<sup>レ</sup>此ノ際一刻モ速ニ上海ニ於テ事件ヲ解決スルノ急務ナルヲ

認メタルニ付「タルジュウ」ヲ捉ヘ先日貴下ニ伝ヘ置キタル本使ノ危惧カ正ニ實現シ支那ハ遂ニ問題ヲ連盟ニ持來リ十九人委員会ニテ一点ノ未解決ノミ残存スル問題ニ就キ又議論ヲ重ヌルハ愚ノ骨頂ト思フト述べ今迄ノ交渉経過ヲ詳述ノ後就テハ上海仏公使ニ対シ支那側ヲ「アレス」スル様訓電セラレタシト申入レタル處「タ」ヘ一応「マシグリ」ニ相談ヲ要ストテ同人ヲ連レ來リ意見交換ノ末両人トモ十九人委員会ニ掛クルカ如キハ全ク執ラサル処ナリ早速上海ニ電報スベシト述ヘタリ

三、次テ「グランヂ」ニ対シ「タ」ニ対スルト同様ノコトヲ話シタル處同人モ亦同意見ナリシモ上海事件ニハ殆ト通シ居ラス又利害ヲ感シ居ラサル様見受ケラレタルモ發電方快諾セリ(尤モ果シテ打電スベキヤ否ヤ見込立タス)

四、「サイモン」ハ十三日出発帰英スルモ、十六日朝再ヒ

当地ニ来ル由「タルデュウ」モ本夕出発帰巴シ当分当地ニ來ラサル模様ナリ尚十一日支那側ハ訓令未着ノ故ヲ以テ會議延期ヲ要求シタル事實ヲ隠シ顔代表ニ於テモ日本カ種々ノ条件ヲ出ス為支那ハ談判継続ヲ拒絶セリト披露

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

(1) 第三五八号（至急極秘）  
長岡理事ヨリ

249 昭和7年4月(15)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

上海停戦問題に関する十九人委員会への対策について

連盟、英、米、北平、奉天、南京、廣東へ転電セリ

ヲ認メ（但シ其ノ数ハ一箇連隊位ナラント云ヘリ）或ハ明  
十六日実地検分ニ赴ク由ナリ然ルニ支那側カ三月二十六日  
ノ會議ニ於テ既ニ蘇州河以南ニ付華莊鎮、虹桥、竟華ノ三  
点ヲ指示シタル事ハ御承知ノ通リナル処（連盟等宛合第五  
六九号）今回支那軍ハ右三点ヲ連ヌル線ヲ越ヘ日本軍ノ側  
面ヲ脅ス地点ニ迄進出シ来レル議ナリ

同地方ニ於ケル支那軍ノ地点ニ付テハ其ノ後會議ニ於テ種  
種論議ハアリタルモ未タ交渉中ノ今日而モ停戦ノ事実ヲモ  
無視セル支那軍ノ此ノ種ノ行動ハ甚タ重大ナル性質ヲ帶フ  
ルモノトシテ軍部モ明日ノ検分ノ結果ヲ重大視シ居レリ  
連盟ヨリ必要ノ在欧大使へ転電アリ度シ

ヲ認メ（但シ其ノ数ハ一箇連隊位ナラント云ヘリ）或ハ明  
十六日実地検分ニ赴ク由ナリ然ルニ支那側カ三月二十六日  
ノ會議ニ於テ既ニ蘇州河以南ニ付華莊鎮、虹桥、竟華ノ三  
点ヲ指示シタル事ハ御承知ノ通リナル処（連盟等宛合第五  
六九号）今回支那軍ハ右三点ヲ連ヌル線ヲ越ヘ日本軍ノ側  
面ヲ脅ス地点ニ迄進出シ来レル議ナリ

往電第三五四号ニ関シ

一、支那側ノ十九人委員会開催要求ニハ上海交渉ノ最後ノ  
経緯ニ付説明センカ為メナリトアリ又上海ニ於ケル支那側  
ノ延期理由ニハ撤収期限ノ問題ノ説明ヲ求ムル為メトアリ  
(支那発閣下宛電報第六八四号) 何レニスルモ委員会ニ於  
テ日本ノ要求ノ過重ナルヲ説キ委員ノ力ニテ日本側ヲ譲歩  
セシメント試ムモノナルコト疑ノ余地ナシ又支那側ハ前  
記ノ試ミ成功セサル場合ニ於テモ連盟ノ勧説ニ依リ余儀ナ  
ク屈辱的停戦ニ満足スルモノナリトシ各自（脱!）希望乃  
至南京政府ニ於テ責任回避ノ口実ヲ設ケントスルモノナル  
可シ果シテ然ラハ委員会ニ於ケル支那側ノ態度ハ推シテ知  
ル可シ

二、我方トシテハ右ノ情勢ニ応シ先ツ上海交渉最近ノ成行

ヲ簡単明瞭ニ認メ前以テ之ヲ事務総長ニ通告シ置キ（右ハ  
十四日通告方取計フヘン尚問題ハ当地ニ移サレントシ支那  
側ヨリモ上海ニ於ケル交渉ノ内容ニ立入りテ論議スルコト  
明カル此ノ際ノ事ニ付支那発閣下宛電報第六七〇号等重光  
公使電報ノ次第アルモ交渉ノ真相ヲ明カニスル為英國公使  
提案ノ趣旨等適宜右通告ニ取入レ置キタリ）次テ委員ニ於  
シ居ル結果世間ニテハ右カ真相ナルヘシト思ヒ居ルカ如  
クスノ如キハ如何ニモ不将千万ニ付此点日本側ヨリ厳重  
支那ニ抗議スルノミナラス關係國立會人ヨリモ支那側ニ  
敵談方取計ハシメ又右諸員ノ名ニテ真相ヲ公表セシムル  
ヲ得ハ甚タ好都合カト思考ス

土ヲ除ク在欧米各大使及在支公使ニ転電セリ

247 昭和7年4月(15)日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

英國公使最終案承諾言明の時期について

第六九三号（暗）

本使発連盟事務局長宛電報第七三号（至急）

大臣宛貴電第三五八号ニ関シ

同電(2)ノ(1)ニ関シ今日迄ノ會議ニ於ケル交渉ノ経過ハ大臣  
宛本使電報第六六一號迄ノ通リニテ本使発大臣宛電報第六  
四号（文書）英國公使最後案ニ対スル諸否ハ未タ何レニモ通報シ  
居ラス且右ハ今後ノ交渉ノ模様ニ依リテハ掛引ニ用フル場  
合モアル次第ナレハ當方交渉前右諸否ヲ委員会等ニテ言明  
セラルルコトハ考ヘモノナルヘシ又(2)ニ関シ當方ニ於テハ  
從来日本軍ノ撤収ハ三月四日總會議長ト佐藤代表トノ応酬

248 昭和7年4月15日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

中國軍の進出状況に関するチャイナ・プレスの報道について

第六九四号（暗）

上海 4月15日後発  
本省 4月15日後着

十五日「チャイナ・プレス」ハ第八十八師（警衛師）ノ兵十三  
日夜半來少數宛虹口飛行場付近ヨリ蘇州河方面ニ現ハレ日  
本軍防備陣地ト直接対峙スル地点迄達セル旨及蘇州河南部  
ハ戰略上重要ノ地点ニテ支那側ハ大部隊ノ集結ヲ待チ有利  
ノ地点ヲ占拠スルモノト信セラルル旨ヲ報道シ且同方面ノ  
支那軍ハ後方ニ於テ盛ニ防備ヲ堅メツツアル次第ヲモ記載  
シ一般ノ注意ヲ惹キタルカ外國武官モ右支那軍進出ノ事實

ニモアル通り「セキュリティ」ノ問題ニ関スル次第ナルカ  
(往電第六九号參照) 右ハ政治的条件ト云フヘキモノニ非  
スト主張シ居ル証ナリ  
連盟ヨリ必要ノ在欧大使ヘ転電アリ度シ  
大臣、米、北平、奉天、南京、廣東ニ転電セリ

(一)日本側ハ租界内撤収時期ニ関スル英國公使最後ノ調停案  
ヲ受諾シ居ルコト及其他ノ諸点ハ既ニ双方ノ間略々協定  
ニ達シ居ルコトヲ明瞭ナラシメ

(二)撤収時期ノ問題ニ就テハ元来居留民保護ナル出兵目的ノ  
見地ヨリ現地方ノ平靜状態ノ恢復ニ伴ヒ過剰兵力ヲ如何  
ニシテ租界内ニ収容スヘキヤト言フ政治的意味ヲ加味セ  
ル「テクニク」ノ問題ナルニ付現地ニ於テ判断スルノ外  
ナキ次第ニテ現地ニ交渉参加ノ友好国代表者間ニ於テモ  
右ノ趣旨ヲ認メテ問題解決ニ協力シ來リタル訳ナルヲ以  
テ斯ル問題ヲ今更遠隔ナル当地ニテ論議スルカ如キハ不  
当モ甚タシ

トノ趣旨ニテ然ルヘク措置方努力ノ積リナリ右御承認置キ  
ヲ請フ

土ヲ除ク在欧各大使及支ヘ転電セリ

250 昭和7年4月(15) 在英國松平大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 上海停戦問題の十九人委員会上程に関する英 外相との会談について

第一八六号(暗)  
 「サイモン」今十四日帰英シタルニ付会見日支交渉其ノ後  
ノ経過及十九人委員会開催ニ言及シタル処「サ」ハ是迄再  
三貴大使ニ申述ヘタル通り満州問題ノ解決ニ対シ輿論ヲ日  
本ノ為有利ニ展開セシムル為ニハ上海事件ヲ一刻モ早ク解  
決セラルコト必要ナリト述ヘタルニ付本使ハ右ハ日本ニ  
於テ充分承知シ居リ之ヲ希望シ居ル為交渉ニ於テモ妥協的  
態度ヲ示シテ相当讓歩ヲ為シ此處迄発展シ来リタル次第ナ  
ルカ支那側ニ於テハ上海事件ヲ速ニ解決シ満州問題ノ解決  
ニ好影響ヲ及ホスコトヲ惧レテ殊更遷延セシメ且連盟ニ持  
出シテ紛糾セシメントシツツアルモノト思ハル旨ヲ述ヘ  
タルニ「サ」ハ之ヲ首肯シ十九人委員会ニハ日支双方共ニ  
委員ヲ出シ居ラサルヲ以テ之ヲ今日開催シテ上海交渉事件  
ヲ議スルハ如何カト思ハルモ既ニ土曜日開催ノコトニ決  
定セル模様ニ付自分ハ明日再ヒ飛行機ニテ寿府ニ向ヒ十六  
日ノ会合ニモ出席スル積リナリ過日顏ニモ面会シタルカ若  
シ本件ヲ十九人委員会ノ手ニ移スニ於テハ最早在支英國公  
使モ上海ニ留マル必要無キニ付帰國セシムヘキ旨ヲ述ヘ置  
キタリ<sup>(2)</sup>実ハ何トカ日本側ニテ撤収期限ヲ四ヶ月トテモセ

ラルニ於テハ日本ノ立場ハ極メテ強クナルヘシト考ヘ何  
人ノ意向ヲ受ケタルニモアラス全ク自分ノ思付トシテ過日  
長岡大使ニモ話シタル次第ナリト述ヘタルニ付右ハ同大使  
ヨリ本省ニ報告セラレ居リ本使モ通報ニ接シタリ自分ノ見  
ル所ニ依レハ六ヶ月以内ニ於テモ局面平靜ニ帰シ先般ノ如  
キ不祥ナル事件繰返ヘサルルコトナキ様保障ヲ得ルニ於テ  
ハ成ルヘク速ニ撤収ヲ希望スルモノト思ハルモ支那側ニ  
於テハ成ルヘク遷延セシメ保障ヲ有耶無耶ノ中ニ葬リ去ラ  
ントスル虞アルヲ以テ我軍部ニ於テモユトリヲ取リ置カン  
トスルモノト認メラル何レニセヨ現地ノ事情ヲ熟知シ居ル  
モノヲ何等現地ノ事情ヲ知ラサル小国委員等ヲ含ム十九人  
委員会ニ於テ論議スル如キハ実効ナキノミナラス却テ事件  
ヲ紛糾セシムヘク加フルニ斯ノ如クセハ今後支那側ハ凡テ  
誠意ヲ以テ事ヲ纏メントセスンテ何事モ遠隔ナル寿府ニ持  
出シ問題ヲ困難ナラシムル虞アルヘシト述ヘタル処「サ」  
ハ批評ヲ避ケタルモ充分了解シ居ル模様ニ見受ケタリ尚外  
務大臣ハ顧維鈞入満拒絶ノ件ニ付真ニ不幸ナル出来事ナリ  
ト云ヘルニ付本使ハ我政府ニ於テハ在長春代表者ヲ經テ満

251 昭和7年4月15日 芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

### 十九人委員会に上海停戦問題上程の際の措置

について

貴電第三五四号ニ閔シ  
(一四五文書)

長岡佐藤兩代表へ

一、今回支那側カ上海停戦問題ヲ十九人委員会ニ提起セルハ其ノ内政關係上當局者ノ責任逃レ計リ居ルモノナルコト明々白タル一方十九人委員会ノ任務ハ貴電(二二六文書)第二九四号末段議長結論三ノ通り停戦条件ヲ「ディクテート」スルモノニ非ルニ付同委員会ハ支那側申出ヲ直チニ上海ニ「レフア」、「バック」スヘキ筋合ニテ右ハ論議ノ余地ナキ当然ノコトナリ（尚ホ右ノ如ク直チニ上海ニ「レフア」、「バック」スルコトカ停戦協定ノ成立ヲ促進スル所以ニシテ此ノ際十九人委員会ニテ彼是討議セハ必スヤ支那側ノ乗スル所トナリ上海地方事態安定ヲ益々遅延スヘキコト明ナリ）

二、就テハ冒頭貴電ノ通り支那側申出ニ基キ十九人委員会ノ開催ヲ見ルトスルモ我方ニテハ貴電(二二八文書)第二九八号末尾ノ次第ニモ顧ミ代表ヲ出席セシメス单ニ事情ヲ「インフォーム」スル建前ニテ累次ノ電報ヲ利用シ停戦交渉ノ経緯（支那側ニテハ「タイムリミット」等ニ関スル我方ノ主張ヲ以テ三月四日總会決議ノ範囲ヲ逸脱セルモノナリトノ

252 昭和7年4月15日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(芳沢外務大臣より)  
(電報)

### 十九人委員会の性格について

第一五五号（暗）  
(二四六文書)

貴電第三五六号ニ閔シ

長岡大使へ

「サイモン」ノ談話ニモ顧ミ十九人委員会ニテ六ヶ月ヲ四

ケ月ニ短縮スヘシトノ主張出ツルヤモ保セサル処同委員会ハ具体的ニ停戦条件ヲ論議スヘキモノニ非ルコトハ貴電第（二二六文書）二九四号（特ニ同電末段議長結論ノ（参照）ニ依リ極メテ明ナルニ付此ノ点予メ委員会關係者ノ注意ヲ喚起シ置カレ度土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

実ハ円卓會議ノ議題又ハ権限問題ニ閔スル日本ノ意向ヲ貫徹スル為ノ政治上ノ掛引又ハ条件ニ使ヒ居ル次第ニ付最後ノ修正案以上ニ的確ニ期限ヲ付セスハ連盟ノ決議ノ趣旨ニ副ハスト云フモノト認メラル

二、然ルニ日本ノ主張ハ御承知ノ通出兵ノ目的ハ居留民ノ生命財産ノ保護ノ為ニシテ右保護出来得ル迄ハ相当ノ兵力ヲ留メ置カサルヘカラス而シテ右兵力ヲ収容スルニハ租界及拡張道路丈ヶニテハ足ラサレハ租界付近ノ地方ニ一時的ニ留ムル必要アリ（大臣宛貴電(二五五文書)第三六四号中ニハ両軍撤退地点未タ纏マラストアルモ日本軍撤収地方ハ既ニ決定セラレタルコト本使発大臣宛電報第六七三号ノ通りナリ為念）右地方ヨリ更ニ租界及拡張道路ニ引揚クルニハ兵力ヲ減少セシムルヲ得ヘキ平靜事態ノ回復カ必要ニテ右事態ヲ発生セハ直ニ撤収スル訳ナリ尚右ノ点ハ本協定ニハ「当分ノ間」ト云フ字句ニテ表サレ更ニ日本政府ハ英國公使最後案ノ如ク声明ヲ発スル用意モアル次第ハ御存知ノ通ナリ

三、円卓會議ノ問題ハ既ニ二月二十九日理事会ニテ大体決まり居リ支那側モ当然之ヲ開ク義務アル訳ナルモ同會議裏ノ保護即チ「セキュリティ」ノ問題ニ引掛ケ居ルモ其

論議ヲナスヘシト思考セラルニ付我方ノ主張カ決議逸脱ニ非ルコトヲ特ニ明ニセラレ度）ヨリ進ンテ長岡大使ノ「ドラモンド」ニ内話セラレタル事情（貴電第三五一號ノ一）等ヲ述ヘタル説明書ヲ作成シ提出スルコト致度（尚ホ十九人委員会側カ同委員会ノ席上ニテ我方ヨリ説明セムコトヲ強テ希望スル場合ニハ沢田局長其ノ他ヲ説明者（予メ代表ノ代理者ニ非ルコトヲ明確ニシ置クヲ要ス）トシテ出席セシメラレ度）

支、北平、奉天、米ニ転電シ支ヨリ南京、上海ニ転報セシメタリ

土ヲ除ク在欧各大使及「チャイコ」ニ転電アリ度

キコト明ナリ）

二、就テハ冒頭貴電ノ通り支那側申出ニ基キ十九人委員会ノ開催ヲ見ルトスルモ我方ニテハ貴電(二二八文書)第二九八号末尾ノ次第ニモ顧ミ代表ヲ出席セシメス单ニ事情ヲ「インフォーム」スル建前ニテ累次ノ電報ヲ利用シ停戦交渉ノ経緯（支那側ニテハ「タイムリミット」等ニ関スル我方ノ主張ヲ以テ三月四日總会決議ノ範囲ヲ逸脱セルモノナリトノ

252 昭和7年4月15日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(芳沢外務大臣より)  
(電報)

### 十九人委員会の性格について

第一五五号（暗）  
(二四六文書)

貴電第三五六号ニ閔シ

長岡大使へ

「サイモン」ノ談話ニモ顧ミ十九人委員会ニテ六ヶ月ヲ四



<sup>(2)</sup> Chinese Government for its part it may be recalled accepted Council plan in letter to President of Council dated March second on understanding that conference should be held when armistice had been accepted and

cluding acceptance of any proposal as regards agenda or competence of round table conference, for to do so would be contrary to resolutions of Assembly as interpreted by President.

carried out, that conference was concerned only with

Sawada.

restoration of peace in Shanghai and all questions arising out of Sino-Japanese conflict in any part of China should

55  
昭和7年4月16日  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

be settled in accordance with procedure invoked by China before League and that participation in conference was of course subject to agreement between participating governments as to its agenda.

卷之三

3. In this connection Chinese Government in pursu-  
ance of its policy of complete frankness and loyalty  
vis-à-vis League wishes to put on record for consider-  
ation of Assembly committee its views on following point :  
complete withdrawal of Japanese troops from territory  
under Chinese jurisdiction at Shanghai should take place  
by date fixed as part of armistice arrangements and  
cannot be subordinated to any political condition in-

第一ナルモ現地ニ於ケル種々ナル事情モアリ且ツ英國公使ノ意見モアリ旁々本問題ハ上海ニ於テ未タ之ヲ持出シタルコトナシト述ヘタル上偶々持合ハセ居リタル上海ニ於ケル停戦協定草案（屢次ノ貴電ニ基キ當方ニ於テ作成セル条文ヲ逐一羅列シタルモノ）ヲ示シ両軍撤退地点及日本軍租界内等ニ撤収期間ニ付纏ラサル点アルモ之ヲ除キテハ既ニ交渉纏マレルモノナルコト等説明シタル処「ドラモンド」ハ斯カレ「テニス、一ノ出来居レヲ辛之ヲ」九人委員会ニ内示

スルニ於テハ會議進行ノ真相ヲ知ラシメ日本ノ為利益ナル  
ヘシト述ヘタルカ形勢今日ノ如クナリタル以上右「ド」ノ

意見ニ添スルコト幾宜ノ処置ト認メタルヲ以テ「ド」ニ對

ノ実ノ道來古ノ關係省以外ニハ之ヲ亟必ニ付スレコトトナ

リ居リタルニ付今日迄當方召リ通告セサリシ次第ナレモ支

那覓書三既ニテ文功断片的ニ記載セラレ。読者ニ誤解ヲ招ク。

シムル眞モアルニ付本使一存ニテ御送付ニ及フロトト致ス

（同「テキスト一、注電第三二二二ノ二）

ノ通告追加トシ持三十九人委員会以外三村ノ職必級トセラ

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

レ度キ旨付言シテ「ド」宛送付シ置キタリ）右ハ御覽ノ通  
純然タル停戦協定ニシテ日支両国軍事代表ニ依リ署名セラ

英國公使最後案ノ承諾方ニ関シテハ大臣發貴官宛電報第二  
三五文書  
四一號ノ次第モアリ其旨既ニ英國公使ニ申入レラレタルモ

259 昭和7年4月(17)日

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

右貴電二ノ趣旨ニハ異存ナキニ付往電第一五四号ノ「ライ  
ン」ニテ可然御取計相成度念ノ為  
長岡大使ヘ

右貴電二ノ趣旨ニハ異存ナキニ付往電第一五四号ノ「ライ  
ン」ニテ可然御取計相成度念ノ為  
長岡大使ヘ

258 昭和7年4月16日 芳沢外務大臣より  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

## 十九人委員会への対応策了承について

第一五七号 暗 大至急

(二四九文書)  
貴電第三五八号ニ関シ

ヘタル処「イ」ハ理事会以外ノ国カ同会ニ呼出サルル場合  
ノ例ヲ引キ種々弁解シタルニ付本使ハ日本ハ常任理事國ナ  
ルニ付同会ノ事ハ日本ニ対シ例トナラス初メテ「アルハベ  
ット」順ニテモセラレテハ如何ト述ヘタル処「イ」ハ是等  
ノ点ハ斯程迄ニ日本ノ感情ヲ害シタリトハ考ヘサリシカ御  
尤ニ付事務局トモ打合ノ上御希望ニ副フ様ナル可ク取計フ  
ヘシト答ヘタリ

土ヲ除ク在欧各大使、米、支ニ転電セリ

ヘタル処「イ」ハ理事会以外ノ国カ同会ニ呼出サルル場合  
ノ例ヲ引キ種々弁解シタルニ付本使ハ日本ハ常任理事國ナ  
ルニ付同会ノ事ハ日本ニ対シ例トナラス初メテ「アルハベ  
ット」順ニテモセラレテハ如何ト述ヘタル処「イ」ハ是等  
ノ点ハ斯程迄ニ日本ノ感情ヲ害シタリトハ考ヘサリシカ御  
尤ニ付事務局トモ打合ノ上御希望ニ副フ様ナル可ク取計フ  
ヘシト答ヘタリ

ノ点ハ斯程迄ニ日本ノ感情ヲ害シタリトハ考ヘサリシカ御  
尤ニ付事務局トモ打合ノ上御希望ニ副フ様ナル可ク取計フ  
ヘシト答ヘタリ

## 在上海四国公使の同文電報に関する英外相との会談について

259 第三六七号 (暗)  
長岡大使ヨリ

十六日朝「サイモン」当地着、直チニ面会シ本使ヨリ往電  
(二四五文書)  
第三五六号(一)ノ御話ハ早速東京ニ取次キタル処日本政府ハ  
遺憾ナカラ九日ノ「ラ」公使最後ノ提案受諾ヲ以テ日本ノ  
最後ノ讓歩トナシ居レリ又日本ニ於テハ十九人委員会ノ権  
限ニ付テハ「イーマンス」議長カ委員会創設ノ際右ハ何分  
交渉ヲ監視スルモノニシテ停戦交渉ノ内容ニ関与スルモノ  
ニ非スト述ヘタルニ基礎ヲ置クモノト了解シ居レリト述ヘ

タル処「サ」ハ良ク了解セリトテ六ヶ月、四ヶ月ノ問題ニ  
付テハ余リ氣ニモ止メサル様子ヲ示シ若シ十九人委員会カ  
必要ト認ムル場合ニハ何卒日本側ヨリモ之ニ出席シ説明ノ  
旁丈ハ執ル様セラルルコト出来マシキヤト哀願的口調ヲ以  
テ述ヘタリ「サ」ハ多分新聞記事ヲ見テ我方ノ態度ヲ気ニ  
セルモノナルヤニ認メラレタルカ本使ハ之ニ対シ諸否ヲ表  
明スルコトヲ避ケ日本ハ過日來種々書類ヲ連盟側ニ通告  
シ置キタルニ付篤ト其研究ヲ願ヒ度シト述ヘタルニ止メタ

ノト思考シ又我方カ右案ヲ受諾シ且之ヲ友邦国代表者ニ伝  
フルコトハ我立場ヲ強メ益々支那ノ不誠意ヲ責メ得ル所以  
ト思考シタルニ付大臣宛電報第三五八号(一)ノ通告中ニモ右  
最後案受諾方貴官ヨリ英國公使ニ申入レタル旨記載シ置キ  
タリ就テハ右当方ノ措置ニ辻棲ノ合フ様ニ貴地ニ於テ然ル  
ヘク御取計ヲ得ハ幸ナリ

大臣、在欧米各大使(土ヲ除ク)へ転電セリ

257 昭和7年4月(16)日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長よ  
り芳沢外務大臣宛(電報)

## 中国側覚書に関するイーマンスとの会談について

第三六六号 (極秘)  
長岡代表ヨリ

十五日午後「イーマンス」ト会見往電第三五八号(一)通告及  
(二四五文書)  
協定案文ヲ示シ支那側覚書ハ種々誤解ヲ生セシムル惧アル  
ニ付協定案文等ニ付篤ト考究アリ度キ旨ヲ述ヘタル後支那  
側ハ最初ヨリ懸念シタル通日本側カ如何ニ「リーズナブル」  
ナル妥協案ヲ受諾スルモ支那側ニハ責任ヲ以テ調印ス

ル者無ク今トナリテハ十九人委員会カ幸ニ協定案ヲ以テ  
「リーズナブル」ナリトノ印象ヲ得ラレタル場合ニハ寿府  
ニ於テ支那側ニ「プレッシャー」ヲ加ヘ之ヲ調印スル様仕  
向ケラレ度ク自分ノ記憶ニシテ誤無クハ十九人委員会ノ任  
務ハ上海ノ停戦交渉カ如何ニ進捗スルカラ監視スルニアリ  
テ協定ノ内容ニ立入り論議スヘキ筋合ニ非スト思考スト述  
ヘタル処「イーマンス」ハ其ノ通ナリト答ヘタルニ付本使  
ハ語ヲ継キ日本側ハ三月四日ノ総会決議ノ字句及精神ニ則  
リ交渉ヲ統ケ来レル次第ニテ此ノ点ニ付テハ何等問題無カ  
ルヘシト信ス從テ日本トシテハ別ニ十九人委員会ノ招集乃  
至同會議ニ参列ヲ必要トスル理由ナク成ルヘクナラハ日支  
両国代表ノ提出シタル書類等ニ依リ判断シ支那側ニ対シ如  
何ニ措置スヘキヤヲ決セラレ度シト述ヘタル処「イーマン  
ス」ハ明朝十一時、十九人委員会ヲ開クヘキモ其結果如何  
ニナルヤ不明ニテ或ハ其ノ中日支両国側ニ説明ヲ求ムル必  
要アルヤモ知レスト答ヘタルニ付本使ハ十九人委員会ノ如  
キ日本ヲ除外セル委員会ハ從来ニ無ク從テ外ニ立チツツ呼  
出サレ而モ末席ニ据ヘラレ被告ノ如キ扱ヲ受ケタル事ナク  
是等ノ点ハ日本ノ輿論ニ極メテ悪キ印象ヲ与ヘ居レリト述



## 十九人委員会におけるランプソン宣言案廃止

の意向について

第三七一号（至急）

長岡代表ヨリ

十六日夕刻先方ノ請求ニ依リ事務総長ト会見其ノ前ニ「イーマンス」議長ト同席シテ顏代表ト会見シタル模様ナリんカ事務総長ハ本使ニ対シ同日午前ノ十九人委員会ノ模様ヲ内告シ同委員会ニテハ上海ノ停戦交渉ノ今日迄ノ協定事項ハ凡テ三月四日ノ総会決議ニ合致スルモノナルコトヲ認メ日本軍ノ租界内撤収期限ノ問題ニ付テハ寧ロ「ランプソン」案タル宣言案ヲ止メ第三条ノミトン「セキユーリティ」其他事態ノ改善等ヲ観測スルコトハ第四条並ニ第四付属書ニ依レハ混合委員会ノ行動権内ト思ハルカ故ニ協定草案ニハ何等新タル追加又ハ註釈等ヲ加ヘス簡単ニ撤収期限ニ闕スル「ランプソン」案ヲ「ドロップ」シテ差支ナシト云フニ意見一致シタルカ出来得レハ混合委員会カ成立スレハ毎月一回位連盟ニ現地ノ状況ヲ報告セシムルコトニ意見纏リタリ就テハ日本政府ニ於テモ右報告ヲ出スコトニ付同意セラレ度シト述ヘタルニ付本使ハ自分限リノ考ヘナ

ルカ政府ニ於テハ之ニ異存アルヘシト思ハレサルモ十九人委員会ハ如何ナル形式ニテ右意向ヲ表示セラルル次第ナリヤト尋ネタル処事務総長ハ大体十九人委員会ハ上海停戦交渉ノ今日迄ノ成果ハ三月四日ノ総会決議ニ合致スルコト認ムルカ故ニ速ニ上海ニ於テ会議ヲ再会シ協定ニ到達スルヲ容易ナラシムル様其出先代表者ニ電報セラレ度キ旨関係四ヶ国ニ請求スルト同時ニ愈々協定調印終リ混合委員会成立スレハ一ヶ月ニ一回状況報告ヲ連盟ニ出スコトヲ希望スル積リニテ顏ニ対シテハ最早之以上執ル手段ナシトノ最後的警告ヲ与ヘタリト説明セリ

二、次テ本使ヨリ上海ノ四国代表ヨリ来レル同文電報ノ写アレハ入手シタント申入レタル処右電報ハ事務局ヘハ孰レヨリモ移牒セラレ居ラス唯今朝十九人委員会ニ於テ「サ」ヨリ之ヲ披露シタルモ極メテ断片的ニ拾読シ全文ハ朗読セラレスト答ヘタルニ付本使ヨリ其電報中ニ支那軍ノ現駐地域ノ事ニ付言及シアリタル模様ナルカ如何ト云ヘルニ事務総長ハ現駐地ニ付テハ「サ」ハ上海ニテ十三日迄小委員会之ヲ考究シツツアリタリト謂フ意味ヲ述ヘタルノミナリト答ヘタリ

右ニ依リテ察スルニ往電第三六七号会見ニテ「サ」カ本使ニ読聞カセタル電文中第一点ハ之ヲ其儘披露セサリシモノト思ハル或ハ其際本使ヨリ其電報ハ何日ノ発電ナリヤ知ラ

サルモ小委員会ハ十三日迄開カレ十三日ニハ其問題ハ余程解決ニ進ミタリト述ヘタル際「サ」ハ同電ノ日付ヲ見乍ラ何等返事ヲ為サリシニモ顧ミ同文電報発送後事態変化シタル為披露ヲ差控ヘタルモノカト思考セラル

三、尚事務総長ハ前記一ノ点ヲ日支両國ニ於テ承諾スレハ前掲決議案ヲ作ル為今一回合シ之ニテ支那ノ要求ニ依リテ開催シタル旨ノ十九人委員会ハ其仕事ヲ終リ当面ノ上海問題ヲ解決スルコトナルヘシト語レリ就テハ一ノ点ニ付至急何分ノ儀御回電ヲ請フ在欧米各大使（土ヲ除ク）、支ヘ転電セリ

264 昭和7年4月(17)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍租界撤収問題に關し十九人委員会に通告について

別電 十八日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第三七三号

第三七二号 右通告

貴電第一五四号ニ闕シ

上海交渉ニ付テハ往電第三五八号（二）ノ通告及往電第三六四号（書）ノ協定草案通告ノ外冒頭貴電御訓令ノ次第モアリ旁當方トシテハ出来得ヘクムハ十九人委員会ニ対シテハ書面ノ説明ノミニテ済マセ度シト存シ多少重複ノ嫌アリタルモ同委員会ノ参考トシテ往電第三六二号（書）支那側通告ニ対スル反駁旁々別電第三七三号ノ趣旨ヲ認メ十六日同委員会開会前事務総長ニ送付シ置キタリ

尚「スチムソン」着寿ノ関係モアリ右三通ノ通告ハ之ヲ米国代表部ヘモ送付シ置ケリ

本電別電ト共ニ土ヲ除ク在欧各大使、米及支ヘ転電セリ

（別電）

第三七三号（暗）

（<sup>(1)</sup>）一、三月四日ノ総会決議ハ日本政府ノ方針ト合致セルニ付此レヲ採用シ先ツ非公式会合ヲ経テ二十四日ヨリ九日迄ノ前後十四回正式會議ヲ催セリ二十八九日頃ニハ既ニ協定ノ大部分ニ付意見一致ヲ見タリ小委員会モ本會議ト併

行開催セラレ日支両軍ノ駐屯地等ニ付討議ヲ統ケタルカ  
本會議ニテ主要ノ問題ハ日本軍ノ租界内撤収時期ノ点ナ  
リキト記ス

## 二、（以下条文ニ付簡単ニ逐条説明ヲ加フ）

付属書一、蘇州河以南ニ関シ三月二十六日支那側<sup>(1)指示カ</sup>支持ノ

線ヲ述ヘ浦東ニ関シ四月十一日英國武官ノ提案ノ趣旨ヲ

述ヘタル上小委員会休会ニ至レル次第ヲ記ス付属書二、

第一項六週間カ四週間ニ短縮セラレタル次第等ヲ述ヘ本

付属書ニ関連シ日本軍租界内撤収時期ノ件論議ノ次第ヲ

記シタル後日本政府ハ出兵ノ目的及支那ノ実状ニ鑑ミ時

期ヲ予メ明示スルコト到底不可能ナル所以ヲ述ヘ更ニ右

ニモ不拘幾多困難ヲ忍ヒテ九日英國公使提案ヲモ受諾ス

ルニ決シタル次第ニ及ヒ次テ支那側ノ事情ニ依リ會議延

期トナレリト述ヘ付属書三、四月十一日小委員会決定ノ

次第ヲ略述シ進シテ支那側自發的宣言及之ニ対スル日本

及關係國公使之ヲ了承セル次第ヲ付記ス

## 三、次テ十二日ノ支那側通告ハ本件交渉ノ主タル難関ハ(a)

日本側カ日本軍ノ撤収ニ付政治的条件ヲ付スル点並ニ(b)

之ト円卓會議ノ「プログラム」又權限ヲ(脱)提議ト閲

五代表者ノ尽力ニ依リ交渉ハ殆ント成立シ居ル現状ニテ  
之等代表者ニ於テハ既ニ一致セル点ハ勿論最後ノ提案ニ  
就テモ其ノ正当ナル事ヲ認メ居ル次第ナリト結フ

四、参考事項トシテ(1)日本軍ノ内地帰還発令(2)残留日本軍  
(馬匹等ヲ含ム)ノ概数(3)日本軍ノ現在前線(4)上海治安  
ノ状況(在支公使発本官宛電報第七二号及支發閣下宛電  
(三四八文書)報第六九四号)ヲ付記ス

265 昭和7年4月(18)日

在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## 日本軍の撤収地域に関する十三日迄の折衝経過について

第七〇〇号(暗)  
本使発連盟宛電報

第七五号(至急)  
大臣発本使宛電報第二五二号ニ関シ

本件経緯ハ往電合第五六九号本使発大臣宛電報第六二四号  
ノ一、往電合第六七五号及往電合第六八八号ノ通ナルモ為  
念右補足旁々申進ス不取敢

一、蘇州河以南ニ付テハ三月二十六日黃參謀長ハ華莊鎮、

虹橋鎮及童華鎮ヲ指示シタルモ右ハ蘇州河以北ノ如ク現

駐地線ヲ示ス意味ニ非ス单ニ實際上駐兵シ居ラサルコト

ヲ述フル訳ナリト逃ヲ張リタリ右ニ付テハ我方ノ追求ニ

連セント主張シ居ル点ニ在リトナシ居ル処(a)ニ付テハ日  
本軍多数ナル為一時租界ニ駐屯スルノ已ムナキコトハ非  
公式会合ニテモ確カメラレタル所ニテ日本軍ノ租界内撤  
收ノ為ニハ軍ノ數ヲ激減スルノ要アリ之カ為ニハ居留民  
ノ安全確保ヲ必要トスル事ハ當然ナリト述ヘタル上三月  
四日總会一般委員會議長ノ言ヲ引用シ日本軍撤収ニ政治  
的条件ヲ付スルモノトナスノ誤謬ヲ反駁ス(三月二十八  
日ノ上海會議席上「ラ」公使ノ支那側説得ノ点(支発閣下  
宛電報第五八七号ノ三ノ末段)ヲ挿入ス)(3)ニ付テハ日  
本側ハ軍ノ撤収ト円卓會議ノ「プログラム」又ハ權限ノ  
問題トヲ関連セシメタル事ナク我方ハ二月二十九日ノ理  
事會議長提議ノ「プラン」ニ依リ同會議ハ停戰交渉ノ成  
立ト同時ニ開カル可キモノト解シ居リ支那側之ヲ回避セ  
ハ日本トシテハ支那ニ之カ開催ヲ迫リ得ル次第ナリト述  
フ之ヲ要スルニ我方ハ總会決議當時ヨリ交渉中ヲ通シ常  
ニ之ヲ尊重シ未タ曾テ之ヲ逸脱セル事ナント述ヘ更ニ四  
五代表者ノ尽力ニ依リ交渉ハ殆ント成立シ居ル現状ニテ  
之等代表者ニ於テハ既ニ一致セル点ハ勿論最後ノ提案ニ  
就テモ其ノ正当ナル事ヲ認メ居ル次第ナリト結フ

依リ結局中立武官等モ「同地以東ニハ現ニ(三月二十六  
日)支那兵駐屯シ居ラス将来モ侵入セシメサレハ可ナラ  
ン」ト述ヘタルニ依リ其ノ儘保留シテ(當時我方ハ今少  
シ広キ不侵入地域ヲ望ミ居タル關係上)日本軍撤収地方  
ノ指示問題等ニ移リ其ノ後四月十一日ノ小委員会ニテ再  
ヒ本問題ニ帰ルヤ支那側ハ全然前言ヲ翻シ(右ハ大臣宛  
往電第六二四号ノ一ノ如ク同地域ハ本協定ノ取扱範囲外  
ナリトノ支那側ノ主義上ノ主張ニ基ケルモノト認メラ  
ル)蘇州河ヲ以テ境界トスヘキコトヲ強硬ニ主張セリ我  
方ハ本電三ノ事実ニモ顧ミ左側面ノ安全保障ヲ得サレハ  
平和的ニ撤収スルコト不可能ナルハ苟モ軍(事)常識ア  
ル者ノ了解セサルヘカラサル処ナリト反駁シ居レルカ十  
三日閉会前ニハ支那側ハ日本側カ何レノ線ヲ希望シ居ル  
ヤヲ頻ニ探索セントスルノ状見エ先方ニモ讓歩ノ余地ア  
ルヤヲ思ハシメタリ

二、浦東問題ニ關シ今次ノ協定ニ依リ日本軍撤収セハ其ノ  
殆ト大部ハ黃浦江岸ニ沿フ数百「メートル」乃至一哩以  
内ノ地域ニ生活セサルヘカラス從テ其ノ対岸ニ付安全保  
障ナクシテ之等ノ地ニ平和的ニ駐屯シ得サルハ是亦常識

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

上ヨリモ問題ナキ所ナリ右ハ外国武官等モ之ヲ認メ其ノ結果或ル程度迄（租界東端ヨリ東ニ引キタル線ノ以北）支那軍ノ不侵入地域取極ニ付支那側ヲ同意セシメタリ（右取極ノ方法ハ支那側トシテハ本件地域ヲ主義上協定ノ範囲外ト主張シ居ル関係モアリ付屬書ニ明示スルコトニハ反対シタルモ其ノ實際上日本軍ニ取り必要ナルコトヲ認メタルモノノ如ク結局本使発大臣宛電報第六七五号（二三八文書）ノ通り日本（側）ニ対シ予告スル形式ヲ避ケ中立国側ニ對シ其ノ地域ヲ通報シ中立国ニ於テ日本側ニ対シ右ヲ保障スル形式ヲ取ラントスルモノナルカ其ノ保障ハ何等カノ形ニテ協定第一条ニ関連スル文書ト為サルモノノ如シ尚日本側トシテハ前記主義上ノ点ヲ支那側ニテ飽迄モ空張ル場合ニハ暫ク之ニ触レス實質上安全保障ヲ明確ニ取付クルコトニ重キヲ置クヲ得策ト認メ居ル次第ナリ）我方トシテハ右地域ヲ租界ノ対岸ニモ拡張セシメサレハ江上ノ軍艦及租界内並ニ租界北方（引翔郷鎮、閩北等）ノ宿營地（明カニ火砲ノ有効射程下ニ在リ）ノ安全ヲ得難シト主張シ居ル次第ナリ

三、以上ハ本問題ノ十三日迄ノ経過ナルカ四国公使同文電

<sup>(3)</sup>

ハ行ハレ居ル訳ナレハ日本側トシテハ之ヲ戰場ノ範囲外ト認ムルハ当ヲ得ス況ヤ協定第二条ノ範囲外ト為スハ理由無キ事ト思考シ居レリ實際上今次ノ戰闘中浦東ヨリ日本軍艦カ射撃セラレタル事アリ（機械水雷ノ為旗艦出雲及大井危ク難ヲ蒙ラントシタル事モアリ）會議中モ紀王廟ヨリ河ヲ渡リテ南方ニ一部ノ支那兵侵入シ來リ中立國武官ヲ介シ警告セル事モ二回ニ及ヘル実情ニテ（其ノ一ハ本使発大臣宛電報第六九六号ノ件）兩地共戰略上ノ重要地点ナル事疑ナシ

必要ノ在欧各大使ヘ転電アリ度シ

大臣、米ヘ転電セリ

266 昭和7年4月(18)日 在上海重光公使より 芳沢外務大臣宛（電報）

撤収時期の混合委員会委託案などに関する意見について

第七〇二号（暗、至急）

本官発連盟局長宛電報

第六六号

大臣宛電報第三七〇号（文書）ニ関シ

報ニ於テハ日本側ノ要求ヲ過大ト認メ居ルカ如ク又支那側ハ本件地域ハ協定第二条ノ範囲外ナリト主張シ居レル處我方トシテハ右主張ハ理論上、實際上決シテ過大ニ非ス且當取極ノ範囲内ナリト認メ居ルモノニシテ御参考迄ニ其理由ヲ挙クレハ

(1)蘇州河ハ河巾約二、三十米ニシテ「クリーク」ノ稍々大ナルモノ（英語ニテハ Soochow Creek ト呼フ）ナルカ此付近ハ程度ノ差コソアレ数百米毎ニ此種ノ「クリーク」存在シ彼我軍隊ハ既ニ斯カル地域ニテ戰闘セル経験モアルコトニテ蘇州河ハ有効ニ両軍ヲ隔絶シ戰場ヲ区分スル程ノ大自然ノ障礙ト成ラス從テ日本側トシテハ軍ノ側面ヲ安全ニスル為或程度迄同河以南ニ付テモ支那軍ノ地点ノ指示ヲ必要トスル次第ナリ

(2)浦東ニ付テモ黃浦江ハ河巾約七百米内外ナルモ大砲ハ素ヨリ小銃、機関銃ノ有効射程以内ニテ火力攻撃ノ妨碍ヲ為シ得ス從テ之亦両軍ヲ隔絶スル大障礙トハ成ラサル証ニテ我方ノ主張ハ外國武官ノミナラス支那側モ或程度迄實際上容認スルニ至リタルハ前記二ノ通ナリ

(3)尚右両地ハ共ニ激戰行ハレサリンモ少クトモ戰闘行為

<sup>(4)</sup>方ニ於テハ予メ期日ニ付約束スルコトハ困難ナリト思考セラルニ付軍側ノ意向モアリ右ハ之レヲ行ハサルコト致シ度シ

二、浦東及蘇州河以南ノ支那軍地點ノ件ノ経過ハ往電第七五号（文書）ノ通ナルカ本件ハ屢次貴電ニ依ルモ未タ支那側ヨリ連盟ニ持チ出シ居ラサルノミナラス（貴電第三七一号ニ依ルモ本件之レ以上貴地ノ問題トナラサルヘキモ）當方トシテハ斯ル事項ハ一々軍部ト協議シテ取極メサルヘカラサル次ニテモアリ且從来ノ交渉ニ於テモ電文ニテハ尽ササル種々機微ナル關係モアルニ付右ニ付連盟等ニテ何等決定ヲ見ルカ如キコトハ反ツテ事態ヲ複雜ナラシメ解決ヲ困難ニスルコトアルヲ虞ル就テハ屢次ノ電報御含ミノ上貴方ニ於テ出來得ル限り我方ニ有利ニ問題ヲ展開

ス然ルニ協定案第四条及第四付属書ニテ混合委員会ノ権限規定セラレ居レリトテ当該字句ヲ引用シ同委員会ニ之ヲ一任スト云フカ如キ形ト為サハ宜シカラント言ヘルニ付本使ハ斯ノ如キ形ニテハ帰一スル処ハ同様ナランモ日本ノ感触ヲ害スルコトナキヤフ惧ル抑々本件ニ関シテハ支那側ノ執拗ナル要求アリタルカ為日本（側）ハ「ランソン」案ノ如キ宣言ヲ為スコトニ同意シタル次第ニ付

(三) 上海ノ状況ヲ同委員会ヨリ月一回報告方請求スルコト  
四) 予期セサル重大事突発シタル時ハ両当事国ハ何時ニテ  
モ連盟ニ之ヲ通知スル自由ヲ有スルコト  
ノ「ライン」ニテ本件ヲ解決スルコトニ相談纏マリタリ  
ト述ヘタリ

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
昭和7年4月(18)日 芳沢外務大臣宛(電報)  
日本軍撤収時期を混合委員会に付託に関する  
イーマンス議長との会談について

四房（至急、極秘）

長岡代表ヨリ  
第三七四号（至急）  
樹種

陸海軍側ト協議済  
(連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ヘ転電アリタシ)  
大臣、米、北平、奉天、南京、廣東ヘ転電セリ

スル様此上共御尽力願度キモ凡テノ具体的問題ハ全部當地ノ會議ニ「リファード、バック」セシムル様適宜列国側ヲ誘導方御取計ヒヲ得ハ好都合ナリ為念

之ヲ「トロシフ」スルコトニハ何等異存ナカルヘキモ第三条末段ノ規定及混合委員会ノ権限ニ付十九人委員会力為スヘキ意思表示ノ大要ハ頗ル機微ノ問題ニテ余リニ立止メラル方好都合ナリト言ヒ種々意見交換ノ末「イ」ハ「第三条第四条及付属書第四ノ文句其ノ儘ヲ引用シ之ヲ確認シタル上此混合委員会アラハ充分ナリ」ト云フ様ニスレハ可ナラント述ヘタリ（尤モ十九人委員会ノ空氣ニ鑑ミ右決議文中ニハ結局当事者カ一方ノ決定ニ任スルコト能ハスト云フ如キ文句ヲ入ルコトトナルニアラスヤト想像セラル）

四、次テ「イ」ハ昨日「ドラモンド」ト共ニ顔ニ会見シタルルカ其ノ際顔モ結局政府ニ請訓ノ約束ヲ為シタルカ自分ハ之ニテ支那側モ停戦協定ニ調印シ易クナリタリト考ヘ居レリ今朝ノ「ジュルナル・ド・ジュネーブ」ノ記事ノ如ク昨日ノ十九人委員会ヲ秘密会ト為シタルコトハ一般ニ不満トシ居ル如キモ両当事国ヨリ提出シタル秘密書類關係ヨリ云フモ亦物ヲ取纏ムル為ニモ公開ト云フ訳ニ行

(一)撤収期限ノ問題ハ寿府ニテ決スヘキモノニ非ス協定案  
第三条ニ於テ右撤収カ成ルヘク速ニ行ハルル規定アル  
ヲ以テ（彼ハ此ノ文句ニ力ヲ入レ多分決議案ニモ同様  
ノ文句ヲ使用スヘシト思ハルル処一時的ト云フモ成ル  
ヘク速ニト云フモ考ヘ様ニ依リテハ大差ナキニ付此ノ  
点故意ニ聞キ残セリ）充分ナルコト

(二)第四条及付属書第四ニテ撤収ノコトニ付テハ混合委員  
会カ之ヲ「サーティファイースルコトナリ居ルカ故

ノ意見ヲ述へ之ニ付テモ意見一致セリ唯如何ニシテ日本軍力撤収シ得ル状態トナレルコトヲ決定スヘキヤト云フ点ニ付テハ相當意見ノ相違アリタルカ之ト同時ニ当事國ノ一方ノミノ判定ニ之ヲ委スコトハ不合理ナリト云フコトハ何人モ之ヲ認メタリ依テ此ノ点ニ付テハ協定案第四条及第四付属書ニ於テ混合委員会ノ設定及権限ヲ規定シリ当事国モ之ニ同意シタルヲ以テ同委員会ヲ其予定ノ権限通り行動セシムヘシトノ議論多数ヲ占ムルニ至リ此ノ場合委員中ヨリ日支両国委員ヲ余クヘントノ意見出テ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

カサリシ次第ナルカ両国ヨリ回答アリタル際開カルヘキ  
 十九人（委員会）ハ右ノ空氣ニ鑑ミ公開ト為ス外ナシト  
 思考ス尚顏ハ是非公開ノ席上ニテ意見ヲ開陳シ度キ意向  
 ナリト言ヘルニ付本使ハ顏カ意見ヲ開陳スレハ之ニ刺戟  
 セラレテ種々議論ヲ交ユルモノ出ツヘク之ハ議長カ昨日  
 来本使並顔ト内談ヲ纏メラレントスル努力ノ精神ト非常  
 ナル矛盾ナルノミナラス若シ仮ニ日本カ議長ノ提議ヲ快  
 諾シタル場合最早委員会ニ於テ言フヘキコトナク其ノ席  
 ニ参列ノ要ナカルヘシト述ヘタルニ「イ」ハ斯テハ人氣  
 ニモ触ルコト故参列セラレタント言ヘルヲ以テ仮令誰カ  
 其ノ席ニ参列セシムトスルモ全然發言セサルヤモ知レス  
 トテ繰返シ公開会合ノ不都合ヲ指摘シタル処「イ」モ之  
 ヲ諒トシテ本件自分ニ一任セラレ度キ旨述ヘ居タリ  
（二六三文書）  
 往電第三七一号通転電セリ

268 昭和7年4月18日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
 芳沢外務大臣宛（電報）  
 日本軍撤収時期の混合委員会委託案受諾方に  
 ついて

ニモアリ本件提案ニ支那側カ如何ナル態度ニ出ツルヤハ知  
 ラサルモ日本カ早キニ及ンテ快諾ノ意ヲ表スルコトハ日本  
 側将来ノ為極メテ有益ナリト思考ス右前電補足旁々私見申  
 進ス 冒頭往電通り転電セリ

269 昭和7年4月18日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
 芳沢外務大臣より  
 上海四国公使の同文電報に関する応酬振りについて

第一六一号 暗 大至急  
 貴電第三七〇号ニ関シ  
 長岡大使ヘ

一、冒頭電報ノ一二付テハ支那連盟宛電報第七五号及第七  
（二六五文書）六号ヲモ参照ノ上必要ニ応シ貴電第三六七号末尾ノ通り  
 応酬シ置カレ度

二、同電ノ二ニ付テハ往電第一六二号ニ依リ御承知アリ度  
（二七〇文書）  
 支、北平、奉天、南京、廣東及米ニ転電セリ

第三七五号（暗、大至急）  
 往電第三七一号ノ一及第三七四号ニ関シ  
 長岡、佐藤両代表ヨリ  
 租界内撤収ニ關スル「ランプソン」案ヲ削除シ平常状態恢  
 復ノ問題ニ付混合委員会カ連盟ニ対シ報告ヲ提出セシム  
 コトトナスハ協定案第四条ノ解釈ニ依リ混合委員会カ平常  
 状態恢復ニ付或種ノ意思表示ヲナサンムルカ如キコトヲ認  
 ムル結果トナリ（脱）ニ云ヘ日本軍撤収ヲ可能ナラシム  
 ヘキ状況ノ判断ヲ日本側ニ帰属セシメタル感アル「ランブ  
 ソン」案ノ立前ヲ変更シタルモノトモ見ラレサルニ非サル  
 モ元來同宣言ハ支那側ノ希望ニ基キナスコトトナレルモノ  
 ニテ又他方實際上ノ見地ヨリスルニ停戦交渉参加列国中ノ  
 主ナルモノカ上海地方ノ状況既ニ日本軍ノ撤収ニ値ストノ  
 確信ヲ持チタル場合飽ク迄之ニ桶突クコトハ大局上頗ル不  
 得策ノコトナルカ故ニ結局警備上ノ問題ヲ離レテ考察スレ  
 ハ帰一スルトコロハ同様ト思ハル就テハ目下寿府ノ空氣ハ  
 累次ノ電報ニテ御承知ノ通リ支那ノ顔ヲ立ツルニ極力腐心  
 シ居ル次第ニテ又十六日ノ十九人委員会ニテハ小国ヨリ相  
 当強硬ナル反対意見出テタルモ大国側カ之ヲ抑ヘタル模様

270 昭和7年4月18日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
 芳沢外務大臣より  
 日本軍撤収時期の混合委員会委託案について

第一六二号 暗 大至急  
 貴電第三七一号第三七四号ニ関シ  
 長岡代表ヘ

一、十六日十九人委員会ノ結果ハ「レフアーバック」ヲ主  
 旨トシ居ル次第ニテ我方ニ取りリ比較的有利ト認メラレ出  
 来得ル限り之ヲ採用シ度考ナリ然レ共元来十九人委員会  
 ハ停戦条件カ三月四日ノ総会決議ニ抵触セサルヤ否ヤヲ  
 監視スルニ止マリ一々ノ具体的条件ヲ審議決定スヘキモ  
 ノニ非ルコト貴電第二九四号ノ通ナリ而シテ既ニ同委員  
 会ニ於テ停戦會議ノ今日迄ノ成果カ三月四日ノ総会決議  
 ニ合致スルコトヲ認メ居ル以上（貴電第三七一号「ドラ  
 モンド」ノ言）更ニ進シテ一々ノ停戦条件ニ付訂正又ハ  
 注釈ヲナスヘキ筋合ニ非スト存スル次第ナリ右ハ実ニ主  
 義上ノ根本原則ニシテ冒頭貴電ニ提起セラレタル各般ノ  
 問題モ常ニ此ノ根本原則ヲ念頭ニ置キ處理スルヲ要スヘ  
 ク此点ハ此ノ上共篤ト「イーマンス」「ドラモンド」等

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

好四個國ヨリ之ヲ供給スル建前トスルニ於テハ異存ナ  
ク十九人委員会決議中ニ掲記スルトセハ「混合委員会  
ニ代表者ヲ有スル友好四個國ニ對シ混合委員会カ其ノ  
職掌上當然有スル一般狀況ニ関スル情報ヲ其ノ代表者  
ヲ通シテ入手シタル上之ヲ連盟ニ提供セムコトヲ要請  
ス」ト云フカ如キ趣旨トセハ差支ナシ

(五)貴電第三七四号ノ二ノ四(予期セサル重大事突發ノ際  
ノ措置振)ニ付テハ異存ナシ

三、貴電第三七四号ノ四(貴電第三六九号ノ件)<sup>(二六一文書)</sup>ハ「イー  
マンス」トノ応酬ノ通り措置セラレ度何レノ場合ニモ我  
方ヨリハ單純ナル説明者ヲ出スコトトシ代表又ハ代表代  
理ヲ出ササルコト致度

本電陸海軍ト協議スミ

支、北平、奉天、南京、廣東及米ニ転電セリ

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

昭和7年4月(19)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

我が軍の撤収時期に關し混合委員会に一任方について

## 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

(一)十九人委員会ニ於テ上海停戦會議ノ成果カ三月四日總會決議ニ合致スルモノナルヲ認メ且右會議ノ再開及成功ノ為メ關係四個國ニ對シ其ノ出先代表宛發電方ヲ請求スルコトハ（（二六三文書）貴電第三七一号ノ一）我方ニ於テ何等異存ナシ

(二)撤収期限ニ関スル「ランプソン」案ヲ削除スルコトハ  
(貴電第三七一號ノ一及第三七四號ノ二ノ(一))我方ト  
シテ實質上ハ寧ロ之ヲ歓迎ス尤モ右「ランプソン」案  
ヲ削除ノ件ハ上海ニテ協議決定スヘキモノニシテ十九  
人委員会ノ決議等ニ掲記セラルヘキモノニ非ス蓋シ十  
九人委員会ノ決議中ニ「ランプソン」案ヲ削除スヘシ  
ト云フカ如キコトヲ掲記スルハ前記根本原則ニ反スル  
ノミナラス将来同委員会カ停戦条件ニ対シ不当ノ干渉  
ヲ試ムル俑ヲ作ルノ虞アリ

「ローワル」力可能ナリヤ否ヤヲ決セシメムトスルカ如キ意向ナリトセハ（貴電第三七四号）（一六七文書）ノ二ノ（一）之亦前記根本原則ニ反スル措置ニシテ我方ノ承認シ得サル所ナリ從テ貴電第三七四号ノ三ノ末尾ノ括弧内ノ如キ文句ヲ插入スルコトハ統帥権ノ問題ニモ抵触スル虞アリ甚タ面白カラサル處右貴電二ノ（一）（乃至同電三末尾「」内）ノ「イーマンス」申出ノ如キコトヲ決議ニ掲記スルハ何等ノ実益ナキ一方我方トシテハ情報供給ニ関シ十九人委員会ヲ満足セシムル為メ後掲四ノ如キ便法ヲ考慮シタル次第ニモ顧ミ本件「イ」ノ申出ハ「ドロップ」スルコトト致度（現ニ貴電第三七一号「ドラモンド」モ本件ヲ決議ニ掲記スヘキコトヲ主張シ居ラス）

(1) 第三七七号（暗大至急）  
在支公使発本官宛電報第七六号（二六六文書）  
共同委員会ヲシテ毎月一回上海付近ノ状況ニ付連盟ニ情報  
ヲ提供セシメントスル案カ全然新ナル問題ナルコトハ勿論  
ナルモ今仮ニ我方カ之カ受諾ヲ拒否シタル場合ニハ左ノ如  
キ不都合ヲ生スヘシ

(2) キ不都合ヲ生ス  
一、仮令共同委員会ヲンテ報告ヲ提出センメサルコトトス  
ルモ往電(二五九文書)第三六七号後段ノ同文電報ノ前例モアリ又三月  
四日決議末段ノ次第モアリ四国公使等ハ上海地方平常状  
態回復ニ付勝手ナル意見ヲ立テ之ヲ本国政府ニ報告スヘ  
ク右ハ自然連盟ニモ移牒セラルヘキヲ以テ其ノ結果ハ我  
方ノ参加シ自由ニ意見ヲ開陳シ得ル共同委員会ヨリ提出  
セラルヘキ報告ニ比シ決シテ我方ニ有利ナリトハ考ヘラ

支、北平、奉天、南京、廣東及米ニ転電セリ  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

271 昭和7年4月(19)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

111' 而シテ十九人委員会ニ於テハ我方ニ好意ヲ有スル代表  
カ右(1)ノ論ヲ抑ヘ結局我方ノ参加スル委員会ヲシテ報告  
セシムル事ニ折合ヒタル次第ナルヲ以テ此際我方カ無下  
ニ及バ拒絶スルハ大局上ニモ極メテ不利ナリ就テハ右ノ

諸点篤ト御考慮ノ上往電第三七五号<sup>(1)六八文書</sup>上申ノ通形式上ノ問  
題ヲ放シ本件提議受諾方御同意ヲ得タシ

往電第三七五号通り転電セリ

272 昭和7年4月(19日 在ジヨネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

#### 十八日の十九人委員会の議事経過について

別電 同日着在ジヨネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢  
外務大臣宛第三八一号  
委員会決議に関する議長提案

第三八一号(暗、大至急)

十九人委員会ハ十八日午後三時半ヨリ秘密会ヲ開催「イ  
マンス」カ長岡大使ニ内話シタル「ワイン」ニ依リ決議案  
ヲ作成スル事トナリタルカ事務局側ヨリ内密得タル情報ニ  
依レバ議事経過左ノ如シ

1、「モッタ」「ヤダリアガ」等小国代表ヨリ日本側ハ十九

人委員会ニ出席ヲ欲セサル由ナルカ右ハ甚々遺憾ナリト  
述く議長事務総長等ノ説明ニヨリ漸ク納得ス  
111' 次テ議長ヨリ別電第三八一号ノ提案ヲ為シタルニ対シ  
「ヤダリアガ」「マダリアガ」「ハルベス」「モッタ」瑞典  
代表等ヨリ対案ヲ提出セルカ何レモ案ノ内容ヲ強ムル趣  
旨ノモノナリシ由

111' 殊ニ議長原案末項ニ就テハ「種ノ修正案アリ第一案ハ  
日支両国代表ヲ除キタル委員会ノ多数決ヲ以テ日本軍撤  
退可能ナル状態トナレルヤ否ヤヲ決定セシムル案第二  
(avis)ヲ包含セシムシトスル案ニシテ「ボンクール」

「第一案ヲ支持シ「サイモン」ヤ之ニ反対ノ意ヲ表セサ  
リシ由尚第七項aussi rapidement que possible dans  
le plus bref délai ル故マル事ニ決定セリトハ  
四、尚「モッタ」其ノ他小国代表ハ十九人委員会ノ公開会  
議ヲ開ク可キ事ヲ頻リニ主張セリト云フ  
五、結局九ヨリ成ル起草委員会ヲ設ケ議長案及各対策ノ折  
衷案ヲ作成スル事トナリ直ニ会合決定案ヲ得ルニ至ラサ  
リシモ議長案末項ニ付テ「日本軍撤収カ可能ナル状態

ユナルヤ否ヤノ点ニ付共同委員会ハ日支ヲ除ク四国代  
表者ノ多数決ニ依リ意見ヲ總会ニ提出スル事ヲ得」トハ  
ハ趣旨ノ案ニ繰ル見込ナリト相ハ明朝更ニ起草委員会カ  
開キ決定案作成ノ上十九人委員会ニ提出セハルル筈  
本電別電ニ共ニ土ヲ除ク在歐米各大使及支ニ転電セリ

(司 電)

No. 382 (暗、Very Urgent).

<sup>(1)</sup> Le comité spécial considérant que la résolution de l'assemblée en date du 4 mars a recommandé que des négociations soient engagées par les représentants chinois et japonais, avec le concours des autorités militaires, navales et civiles des puissances ayant intérêts spéciaux dans les concessions de Shanghai, en vue de la conclusion d'arrangements destinés à rendre définitive la cessation des hostilités et à régler le retrait des forces japonaises;

puissance représentée aux dites négociations a le droit de signaler les dites difficultés au comité spécial "qui exerce ses fonctions au nom et sous le contrôle de l'assemblée";

<sup>(2)</sup> Constate notamment que par l'article 3 du dit projet, le Japon s'engage à opérer le retrait de ses forces dans le settlement international et sur les routes extérieures du settlement dans le district de Hongkou, sur les positions où elles se trouvaient avant l'incident du 28 janvier 1932:

déclare qu'il est conforme à l'esprit de la résolution de l'assemblée du 4 mars ainsi qu'aux déclarations du gouvernement japonais, que ce retrait ait lieu aussi rapidement que possible, après le premier retrait dont les modalités sont stipulées au projet d'annexe au dit article 3:

prend acte, en outre, du fait que le projet d'accord prévoit l'institution d'une commission mixte, comprenant des membres neutres et qui sera chargée de certifier

le retrait réciproque, ainsi que de collaborer à l'organisation du transfert des territoires évacués par les forces japonaises à la police chinoise qui viendra prendre en charge les dits territoires aussitôt que les forces japonaises se retireront;

Considérant qu'il n'appartient pas au comité spécial de se substituer aux négociateurs, les arrangements envisagés dans la résolution de l'assemblée du 4 mars ne pouvant être conclus que sur place;

Considérant qu'il a le devoir de recommander que les négociations soient poursuivies conformément à la résolution du 4 mars, et que leur progrès ne soit entravé par l'insistance d'aucune des parties sur des conditions qui seraient incompatibles avec la dite résolution:

Prend acte des articles du projet d'armistice que lui a été communiqué et constate que ces articles sont conformes à l'esprit de la dite résolution;

Prend acte avec satisfaction que la dite commission aura pour tâche de veiller de la manière qu'elle jugera

la mieux appropriée, conformément à ses décisions, à l'exécution des articles 1, 2 et 3, dont le dernier prévoit le retrait des forces japonaises sur les positions où elles trouvaient avant l'incident du 28 janvier;

Prie les gouvernements ayant des intérêts spéciaux dans les concessions de Shanghai d'insister auprès des Parties en cause pour qu'elles reprennent les négociations actuellement suspendues, en vue d'une rapide conclusion;

Exprime le désir que la commission mixte à constituer selon les termes du projet d'accord lui fasse tenir, de temps à autre, et en tout cas une fois par mois, un rapport sur la situation jusqu'à l'exécution définitive de l'accord.

Sawada.

273 昭和7年4月19日 在ジ<sup>(1)ヤニ文書</sup>ネーベル沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
我が代表の十九人委員会田庭問題に關する  
件、ニシテハナム申議シテ

第三八三号(密語、極秘)  
十八日十九人委員会後杉村「ニシテヤハム」ニ余見「ニ」  
左ノ如ク内話セル趣ナリ

1、日本代表カ十九人委員会ニ出席セサルくシニノ報道新聞ニ現ハシタルニ付本田ノ同委員会ニ於テ議長ヨリ昨日長岡大使カ書類ニテ説明シタル以外説明スヘキ事柄モナキニ付或ハ十九人委員会ニハ出席セサルヤモ知レスト話ヤンタル次第ヲ内密報知シタル処「ヰタタ」「ヤダリアガ」等ノ小国代表者ハ日本ハ連盟ニ協力シ乍ラ出席ヲ拒ムハ吾人ノ努力ヲ無ニスルモノナリトテ忿懣ノ意ヲ表シタルニ付自分('ム')ニ自分ノ諒解セル処ニテハ日本ハ若シ十九人委員会カ支那ノ要求ヲ取上ケ支那側ニ議論

ヲナサシメ又ハ上海ノ交渉ノ内容ニ立入ルカ如キ事アラク出席ヲ拒ムキ単ナル説明ヲ与ヘ又ハ日本ノ同意シ得キ案ニ贊意ヲ表スルニハ勿論出席スヘキモノト信スト説明シ漸ク納得セシメ得タリ就テハ席順モ日本ノ注文通り全部「アルハトツマム」順トナス次第ナルニ付是非共出席セラシタシ

11' 明朝十九人委員会起草委員会ノ作成スル案ハ同委員会

275 昭和7年4月19日 芳沢外務大臣より  
在ジ<sup>(1)ヤニ文書</sup>ネーベル沢田連盟事務局長宛(電報)

第三八四号(暗、大至急)  
往電第三八二号議長案ニ関シ  
議長提案に対する請託シテ

274 昭和7年4月19日 在ジ<sup>(1)ヤニ文書</sup>ネーベル沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)  
御意見大至急御回示アリタシ  
土ヲ除ク在欧米各大使及在支公使ヘ転電セリ

## 上海停戦交渉の十九人委員会での討議について

て

第一六三号 暗、大至急

長岡代表(二七〇文書)  
往電第一六二号ニ閲シ

右往電申進メノ次第ハ十九人委員会ハ具体的ノ停戦条件ヲ審議決定スヘキモノニ非ストノ根本原則ニ出発シ同委員会ヲシテ上海停戦會議ノ今日迄ノ成果タル協定案ノ変更ヲナ

サシメサル趣旨ニ出テタルモノニシテ殊ニ貴電第三七四号二ノ(乃至同電三ノ末尾ノ「」内)ノ「イーマンス」案ヲ採用スルニ於テハ(前記往電二ノ(四参照))混合委員会ニ對シ右協定案ノ規定シ居ラサル新ナル義務ヲ課スルコトトナルヘクスクテハ上海ニ於テ多大ノ日時ト幾多ノ苦心ニ依リ折角出来上リ来レル協定案変更ノ備ヲ作ルモノニテ甚

タ面白カラスト思考セル次第ナリ  
右冒頭往電追補旁々念ノ為メ申進ス

在(上海重光公使より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 十九人委員会の決議案第十一項削除方について

276 昭和7年4月(20日) 在(上海重光公使より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

277 昭和7年4月(20日) 在(ジユネーヴ沢田連盟事務局長より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 連盟側へ提出の協定草案付属書注に対する中

#### 国側の誤解指摘について

第三八七号(暗)

往電第三六四号協定草案連盟側へ通告ノ際第三付属書be reinsert……ノ箇所ニ「日本軍撤収地点ニ付テハ十一日ノ小委員会ニ於テ最終協定ニ達セリ」トノ注ヲ付シ置キタ

右ニ対スル當方ノ意見ハ往電第七八号ノ通ナルカ特ニ第十項ハ大臣宛貴電第三九二号ニ通之ヲ削除セシムル様御尽力相煩度シ不取敢

大臣、米ニ転電セリ

(必要ノ在欧大使ニ転報又ハ転電ヲ請フ)

第七〇八号(暗)

本官発連盟宛電報

第七七号(至急)

大臣宛貴電第三九一號ニ閲シ

右ニ対スル當方ノ意見ハ往電第七八号ノ通ナルカ特ニ第十

一項ハ大臣宛貴電第三九二号ニ通之ヲ削除セシムル様御尽力相煩度シ不取敢

大臣、米ニ転電セリ

(必要ノ在欧大使ニ転報又ハ転電ヲ請フ)

278 昭和7年4月(20日) 在(ジユネーヴ沢田連盟事務局長より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 日本軍撤収問題の解決に関するベネシュとの会談について

ル處支那代表ハ十八日付ヲ以テ右注ニ閲シ「自分ノ有スル情報ニ依レハ此ノ重要ナル点ニ付テハ未タ協定ニ達シ居ラス单ニ地點ヲ示シタル地図カ外國武官ニ依リ作製セラレタルニ過ギス然ルニ小委員会ハ十四日日本側カ新ニ過大ナル要求ヲ為シタル為決裂セリ云々」ト通告セルヲ以テ不取敢往電第三七三号通告及第三五八号(二)ノ通告(在支公使発大臣宛電報第六七五号(一)及同第六八八号(二)ノ趣旨ヲ包含ス)等ヲ引用シ右支那側情報ノ誤レルコトヲ指摘シ事務總長宛通告シ置キタリ  
支ヘ転電セリ

二、次テ「べ」ハ十九人委員会ニ於テハ混合委員会ニ報告ヲ提出シマルコトハ時々ト云フコトニシ月ニ一回ト限ラサルコトシタルカ議論ノ焦点ハ議長ノ原案ニ無カリシ問題即チ日本軍撤収期限ノ問題ナリ極端派ハ寿府ニテ期限ヲ定メ其基礎ニ依リ上海ニテ交渉セシム可シト熱心ニ主張シタルモ「サイモン」ハ之ニ極力反対シ自分モ亦極端意見ニ反対ナリシニ付中間案ヲ作成シタルカ自分ノ案ニ付テモ種々ノ議論アリ結局起草委員会ニ懸クルコトナリタルモ起草委員会ニテモ未タ何等成案ヲ得ラレサル次第ナリ自分ノ考ニテハ期限ノ問題ニ付テハ「十九人委

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

278

昭和7年4月(20日) 在(ジユネーヴ沢田連盟事務局長より)  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 日本軍撤収問題の解決に関するベネシュとの会談について

第三八八号(暗)

長岡代表ヨリ

一、十八日ノ十九人委員会ニ於テ「ベネシュ」カ重要ナル役割ヲ演シタル趣聞込ミタルニ付十九日早朝会見シタル

次第ナリ自分ノ考ニテハ期限ノ問題ニ付テハ「十九人委

員会カ混合委員会ニ対シ同委員会ニ於テ事態考査ノ上多

数決ニ依リ日本軍ノ撤収期間ヲ決定センコトヲ「リコメンド」スルコトトシタリ「リコメンド」丈ケナラハ差支無カルヘシト述ヘタルニ付本使ハ撤収期限ノコトヲ問題トスルナラハ寧ロ「ランプソン」案タル宣言案ニ依ル

コトトスル方可ナルヘシ同案ハ四国公使ニ於テモ「リーナブル」ト認メタル次第ナルヲ以テ之ヲ採用スルコトシテハ如何ト試ミニ言ヒタル処「ベ」ハ同案ニ依レハ

平常状態回復ヲ誰カ判断スルカ不明ナルヲ以テ今ノ十九人委員会ノ空氣ニテハ到底之ヲ受ケ付得サル次第ナリ

ト述ヘタルニ付本使ハ同案ハ日本ノ希望ニテ成立セルモノニ非サルヲ以テ之カ削除ハ日本側ノ歓迎スル所ナルカ

本件ニ付十九人委員会カ余リ内容ニ立入ツテ且具体的文句ヲ採用スルニ於テハ日本ハ到底同意シ得ス又仮令「リ

コメンド」スル案ニテモ一種ノ道徳的義務ヲ負ハサルルコトトナルヲ以テ上海問題ニ付十九人委員会カ「リコメンド」スル先例ヲ開クニ於テハ満州問題ニ付テモ一々「リコマンド」セラルコトナリ日本ノ堪ヘ得ル所ニ非ス此点篤ト御考量願ヒ度シト述ヘタル処「ベ」モ之ヲ首肯

シ居リタリ

三、既ニ軍縮會議開会ノ時間トナリタルニ付説明ノ時間無ク本使ハ單ニ貴電第一六二号ノ二ノ末段括弧内ノ案ノ仏訳ヲ示シ此案ナラハ日本側トシテ受諾シ得ヘシトテ之ヲ残シ置キタリ

在欧米各大使（土ヲ除ク）、在支公使ヘ転電セリ

279 昭和7年4月(20)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛（電報）

### 十九人委員会決議案および日本代表出席問題 に関するイーマンス、ドラモンドとの会談に

ついて

第三八九号（暗、大至急）

長岡代表ヨリ

一、十九日午前「イーマンス」往訪十七日御話ノ次第ヲ日本政府ニ伝ヘタル処回答ニ接セリトテ貴電第一六二号ノ旨ヲ述ヘタル上混合委員会ノ情報供給ニ付テハ日本トシテハ斯ノ如キ案ヲ希望ストテ貴電二ノ四末段括弧内ノ案ニ基キ作成シタル仏文「テキスト」ヲ手交セリ「イ」ハ一読ノ上

今後委員会ヨリ直接連盟ニ報告ヲ出サシムルハ不可ナリヤト聞キタルヲ以テ本使ハ元來混合委員会ニ立会フヘキ四国代表者カ本国ノ訓令ニ基キ行動スルモノニテ又其ノ内ニハ連盟ト関係ナキ米国ノ代表ヲモ包含スルコトモアリスカル報告提出ハ条文作成ノ際全ク予見セサリシ事項ナルカ故ニ種々ノ見地ヨリ直接連盟ニ報告ヲ提出セシメス今迄ノ成行ヲ尊重シ各関係国政府ニ提出セシメ之ヲ連盟ニ通告スルコトトシ同一ノ結果ヲ得ルコトトシ度キ趣旨ナリト述ヘ種々意見ヲ交換シタルカ十九人委員会ニテハ混合委員会ノ決議報告ハ満場一致ヲ要ストノ見地ヨリ往電(二七八文書)第三八八号「ベ」ノ話シタル如キ多数決ヲ以テ決定ス云々ノ問題起リ同時ニ撤収時期決定方法ノ問題モ併発セルモノト認メラレタルヲ以テ本使ハ今迄自分ノ了解シ又當方ニテ信シ居ル処ニテハ付属書第四混合委員会決議ノ方法ニ關シテハ凡テ多数決ニ依ルモノト思考シ居ルヲ以テ只今手交シタル日本側提案ニテ日本一国ノ反対アラハ混合委員会ハ如何ナル情報ヲモ供給シ得ストノ危惧ノ念ハ一掃セラルヘク又混合委員会ハ付属書第四末項ノ権限ヲ有スルニ付日本案中ノ「其ノ職掌上」ナル語ニテ一切ヲ包括セシメ得ヘキニ付之レ以外ニ何

モ付加スル必要ナキ様思ハルト述ヘタル処「イ」ハソハ何ヨリ耳寄ノ話ナリ然ラハ混合委員会ノ決議ハ凡テ多数決ニ依ル可キ事ヲ日本ノ了解トシテ披露シテヨキヤト云ヒタルニ付若シ決議案中ニコノ点付加セラルル場合ニハソノ案文ヲ日本政府ニ取次タル上ニテ確答ヲナス可シト云ヒ置キタリ

二、右ニ引継キ「ドラモンド」ト会見「イ」ニ手交セルモノト同一ノ案ヲ手交シタル処「ド」ハ又混合委員会ヨリ直接報告ヲ連盟ニ提出スル事ハ不可ナリヤト尋ねタルニ付本使ハ日本ハ之迄上海ニテ作成セラレタル案ヲ其儘成立セン度キ處同委員会ヨリ連盟ニ直接報告ヲ提出セシムル事ハ協定案成立ノ際予見セサリシ事ニモアリ之ニ関スル一項ヲ加フル必要ヲ生シ交渉ヲ遷延セシムル虞アリト述ヘタルニ「ド」ハ仮令微細ノ点ニ付修正ヲ加フル事アリトモ其ノ為ニ多大ノ時間ヲ取ルモノトモ思考シ得スト述ヘタリ（右ハ或ハ「サイモン」カ昨日ノ起草委員会ニ於テ四国ノミニテ責任ヲ執ル能ハサル事ヲ力説シタリトノ事ナルニ付飽ク迄共同委員会ヨリ連盟ニ報告ヲ提出セシムル立前ニテ進マントスル意向ナルヤモ知レス）

尚「ム」ヨリロカ切りタル次第ニ非サルモ混合委員会ノ議

決方法ニ付「マーマンス」ノ詰シタルト同様ノ趣旨ヲ述く  
タルニ「ム」ヤ右ベ寔ニ好都合ナリトハヒタリ

三、「ム」ハ本日午後十九人委員会ヲ開キ多分決議案ノ決

定ヲ見ルベク又ハ日支両代表ニ内示シ其回答ヲ求メ一十一  
日又ハ「[十一]四ニ十九人委員会公開會議ヲ開キ度キ考ナリ

之ニ付日本ノ出席問題生スル訳ナルカ何トカシテ御出席ヲ  
得度ク然ラサレハ連盟ノ空氣ヲ極度ニ悪化セシムシト相

ヒタルニ付本使ハ往電第三七四号〔<sup>(大)文書</sup>〕「マーマンス」ノ詰シ  
タルト同様ノ趣旨ヲ述ヘタル後今一応篤ト考慮スヘキモ支

那カ決議案ヲ拒否シタル時ニモ矢張リ公開會議ヲ開キ支那  
側ニ發言セシムル積ナリヤト聽キタルニ然リト答ヘタルニ  
付本使ハ夫ハ態々支那ニ不承諾ヲ獎励スルモノニ非スヤ支

那カ公開席上不承諾ノ理由ヲ述フルハ聽テ上海ノ議論ヲ當  
地ニテ蒸返スハトナラスヤト言ヘルリ「ム」自分ハ支

那カ不承諾ノ返事ヲ為スシニヤ思ハス萬一其場合ニテモ  
停戦条項ノ内容ニ立入り論議スルハ許サレサル筈ニ付斯カ

ル場合無カルハシト語レリ

在欧米各大使（土ヲ除ク）在支公使（転電セリ）

280 昭和7年4月20日 ※在シネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢  
外務大臣宛第三九一號 芳沢外務大臣宛（電報）

### 十九人委員会において上海停戦交渉に關する 決議案決定事由

別電

同日着在シネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢  
外務大臣宛第三九一號 芳沢外務大臣宛（電報）

十九人委員会決定の決議案

第三九〇号（大半總）

長岡代表ヨリ

十九日午後ノ十九人委員会ニ於テ別電第三九一號ノ通決議  
案決定後「ムハヤハヌ」ヨリ本使ニ内示シタルカ明二十一日

午後三時「マーマンス」ヨリ正式ニ手交ノ筈本案ニ對スル  
卑見追電スヘキモ御意見大至急御回電アリタシ

別電ト共ニ在欧米（土ヲ除ク）各大使、支ヘ転電セリ

（元電）

No. 391 (情、Very Urgent)

<sup>(1)</sup> The Special Committee,

1. Considering that the Assembly resolution of March

4th and 11th recommending that negotiations should  
be entered into by the Chinese and Japanese represen-  
tatives, with the assistance of the military, naval and  
civilian authorities of the Powers having special interests  
in the Shanghai Settlements, for the conclusion of  
arrangements which shall render definite the cessation  
of hostilities and regulate the withdrawal of the Japanese  
forces;

2. Considering that while it is not for the Special

Committee to take the place of the negotiators since  
the arrangements contemplated in the Assembly resolu-  
tions of March 4th and 11th can only be concluded on  
the spot, every Power represented in these negotiations  
is entitled, should serious difficulties be encountered in  
the course of the negotiations or in the carrying out  
of the above-mentioned arrangements, to notify the

Special Committee "which exercises its functions on  
behalf of and under supervision of the Assembly" of  
those difficulties;

3. Considering that the negotiations should be pur-  
sued in accordance with the above-mentioned Assembly  
resolutions, no one of the Parties being entitled to  
insist on conditions which would be incompatible with  
the said resolutions;

4. Having noted the Articles of the draft armistice  
which have been communicated to it and have been  
accepted by the two Parties;

5. Considers that these Articles conform to the spirit  
of the said resolutions;

6. Notes in particular that under Article 3 of the  
said draft, the Japanese Government undertakes to carry  
out the withdrawal of its forces in the International  
Settlement and the roads outside the Settlement in the  
Hongkew district as before the incident of January

28th 1932;

7. Declares that it is in accordance with the spirit

of the Assembly resolutions of March 4th and 11th  
that this withdrawal should take place in the near

future;

8. Declares that the resolution of March 4th will only have been fully complied with when the Japanese forces have been entirely withdrawn;

9. Notes that the draft agreement provides for the establishment of a Joint Commission, including neutral members, to certify mutual withdrawal and to collaborate in arranging for the transfer from the evacuating Japanese forces to the incoming Chinese police, who will take over as soon as the Japanese forces withdraw;  
<sup>(4)</sup> 10. Notes with satisfaction that the said Commission will in accordance with its decisions watch in such manner as it deems best the carrying out of Article 1, 2 and 3, of which the last-named provides for the complete withdrawal of the Japanese forces as before the incident of January 28th;

11. Is of opinion that the powers, as defined in Annex IV of the draft agreement, of the Commission which is to watch the carrying out of Articles 1, 2 and

3 of that agreement, include the competence to declare at the request of one of the Parties that the moment has come when the complete withdrawal of the Japanese troops can reasonably be effected;

Hopes that all the decisions of the Commission will be unanimous; but observes that under the terms of Annex IV referred to above, if unanimity is not possible, effective decisions are to be taken by majority vote, the chairman having a casting vote;

<sup>(5)</sup> 12. Earnestly recommends the Parties in question to resume the negotiations at present in suspense, with a view to reaching their rapid conclusion, and requests the Governments having special interests in the Shanghai Settlements to continue to lend their good offices for this purpose;

13. Expressly points out that unless a conclusion is reached as laid down in the resolutions of March 4th and 11th, the question will necessarily come up again before the Assembly;

14. Requests the Governments of the Powers having special interests in the Shanghai Settlements to transmit to the League of Nations the information which will be in the possession of the Mixed Commission in virtue of its functions, and will be furnished to these Governments by their respective representatives on the Committee.

(仮説文)

寿府来電第三十九号仮訳文（十九人委員会決議案）

特別委員会く

1、停戦ヲ確定的ニシ日本軍ノ撤収ヲ律スヘキ取極ノ締結ノ為メ上海両租界ニ特別ノ利害関係ヲ有スル列強ノ陸海及文官当局ノ助力ノ下ニ日本代表者ニ依リ商議開始セラル（キロニカ）1月四日及十一日ノ連盟総会決議カ勧告セラル（キロニカ）考慮シ

11' 11月四日及十一日ノ連盟総会決議ニ於テ考慮セラントテ取極ヘ現地ニ於テノミ締結セラレ得ルニ依リ商議者ニ

代理ヘルハ特別委員会ノナバ（キロニカ）サル一方右商議ニ代表セラルル有ラヨル列強ハ若シ商議ノ進行中

又く上記取極ヘ実行中ニ於テ重大ナル困難生スルトキハ右困難ヲ「連盟総会ノ為メ且其ノ監督ノ下ニ職務ヲ行ハ」特別委員会ニ通知スル資格アルコムカ考慮シ  
11' 当事国ヘ何ソヤ上記連盟総会兩決議ニ合致セサル条件ハ強調スル資格ナキト以テ商議ハ右兩決議ニ従ヒ統行セハル（キロニカ）考慮シ

四、特別委員会ニ通報セラレ且両当事国ノ受諾セル停戦協定案ノ諸条ヲ見タルヲ以テ

五、右諸条カ上記兩決議ノ精神ニ合致スルコムトカ考慮ス  
六、上記停戦協定案第三条ニ依リ日本國政府カ千九百三十一年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルカ如ク共同租界並ニ租界外道路ニ其軍隊ノ撤収ヲ行フコトヲ約シ居ルコムトカ特々注意ニ留ム

七、右撤収カ近キ将来ニ於テ行ハルルコムベ11月四日及十一日ノ連盟総会ノ精神ニ従ヘルモノナルコムトカ宣付スハ、11月四日ノ決議ハ日本軍カ全部撤収セテレタルトキニ於テノミ全ク從ハシタルコトナルコムトカ宣付ス  
九、停戦協定案ハ中立國委員ヲ含ミ相互ノ撤収ヲ認託シ且日本軍撤収後直ニ巧縛ヲ受クキ交代支那警察ノ撤取

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

日本軍ヨリノ引継ノ取連ニ協力スヘキ共同委員会ノ設置ニ関シ規定ヲ設ケアルコトヲ注意ニ留ム

十、右委員会カ其決定ニ従ヒ其ノ最良ト認ムル方法ニ依リ

第一条第二条及千九百三十二年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルカ如キ日本軍ノ完全ナル撤退ニ関シ規定ヲ設クル

第三条ノ実行ヲ見守ルヘキコトヲ満足ヲ以テ注意ニ留ム

十一、停戦協定案第一条第二条及第三条ノ実行ヲ見守ルヘキ委員会ノ協定案第四付属書中ニ定メラレアル権力ハ日

本軍隊ノ完全撤収ヲ合理的ニ実施セラレ得ヘキ時期カ到來セルコトヲ当事国ノ一ノ請求ニ依リ宣言スル権限ヲ含ムトノ意見ヲ有ス

委員会ノ一切ノ決定ハ全員一致ナルヘキコトヲ望ムモ若シ全員一致カ得ラレサルトキハ上述第四付属書ノ規定ニ依リ有効ナル決議ハ多数決ニ依リナサルヘク議長カ決定投票ヲ有スヘキコトヲ認ム

十二、商議ノ速カナル成立ニ達センカ為メ係争当事国ニ対シ目下停頓中ノ商議再開ヲ熱心ニ勧告シ上海両租界ニ特別ノ利害關係ヲ有スル諸政府ニ右目的ノ為メ其ノ斡旋ヲ統クルコトヲ求ム

アリ

(二)第十一項ハ本使カ往電(二七九文書)第三八九号「イーマンス」ト会談ノ際我提案ニテ極端派ノ考案ヲ「ドロップ」セシムル趣旨ニテ話シタルコトヲ悪用シテ(尤モ斯ノ如キ談話ヲ為ササリシニ於テモ他ノ形式ニテ必ス挿入セシコトト思ハ

ルル次第八累次ノ電報ニテ御承知ノ通リナリ)支那側ノ要求ニ基キ同委員会カ撤兵期到来ヲ宣言シ得ルコトト為シ又

(三)第十三項ハ今回ノ如ク支那側カ勝手ニ交渉ヲ停頓セシメタル場合ニモ総会ニ「リファーバック」セラルルコトトナル

等不都合ノ点鮮カラザルヲ以テ到底此儘ニテハ受諾シ難キ

ニ付夫迄ニ御訓令到達セスト思考スルニ就テハ明二十日議

長カ本決議案ヲ正式ニ手交シタル場合ニハ一体此案ハ妥協的精神ニテ作ラレタルモノナリヤ或ハ上海交渉ヲ是迄三月

四日決議ノ精神ニ則リ進捗シ来リタル日本ノ努力ヲ水泡ニ

帰セシムル為作ラレタルモノナリヤヲ詰問シタル上右三項ノ削除ヲ要求シ若シ聽カレサル場合ニハ

(一)第十一項ニ就テハ「混合委員会ノ前掲権限ニ顧ミ十九人

十三、三月四日及十一日ノ決議ニ定メラル如クニ商議成立ニ到達スルコトナキ限り問題ハ再ヒ連盟總会ニ提起セラルヘキコトヲ特ニ指摘ス

十四、上海両租界ニ特別利害關係ヲ有スル列強政府ニ対シ混合委員会カ其職務執行ニ依リ有スヘク且其ノ各委員会ニ於ケル代表者ニ依リ之等政府ニ供給セラルヘキ情報ヲ國際連盟ニ転達スルコトヲ求ム

281 昭和7年4月(20)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会の決議案に対する修正意見について

第三九二号(大至急、極秘)

長岡代表ヨリ

往電第三九一號決議案ハ往電第三八八号「ベネシユ」ニ申入レ置キタルニ拘ラス隨所ニ三月十一日ノ決議ヲ引用セルノミナラス

(一)第八項ハ円卓會議開催ヲ遲延セシメ且支那側カ我軍租界内撤收ニ至ル迄絶エス之ヲ悪用スルノロ実ヲ与フルノ虞

委員会ハ該任務就中日本軍ノ完全ナル撤収ニ関スル任務ヲ該委員会ニ委ヌルニ一致ス」トノ修正ヲ加ヘ又(二)第十三項ニ就キテ「三月四日及十一日ノ決議」ノ次ニ「若シ停戦交渉ニ参加セル各国ノ多數カ同意スルニ於テハ」トノ趣旨位ハ少クトモ加ヘラルニアラサレハ到底日本政府ノ承諾ヲ得難カルヘキ旨ヲ述ヘ置ク積リナルカ元来上海問題ニテ連盟ト正面衝突スルハ環境上甚タ不利益ナルノミナラス滿州問題ノ大局ニ鑑ミ得策ナラスト思考スルニ付此点ハ充分御考量相成様致度シ土ヲ除ク在欧各大使、米及支ヘ転電セリ

282 昭和7年4月(20)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会作成の決議案第十一項に関する

サイモンとの会談について

ジユネーヴ 4月20日後発  
本 省 4月21日後着

第三九七号(暗、大至急、極秘)

松平大使ヨリ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

二十日「サイモン」ト会見、沢田発往電(二八〇文書)第三九一号決議案文ヲ示シ同案中ニハ日本側ヨリ見テ不満足ノ点數多アレトモ殊ニ第十一項ハ到底其儘ニテハ受容ル能ハス是非削除セラレ度シト述ヘタルニ「サ」ハ昨日ノ十九人委員会ニ付其ノ通り決定シタル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ夫ハ何カノ間違ナルヘシ長岡大使カスル案ニ同意ヲ与ヘタル筈無シト答ヘタル処「サ」ハ如何ナル点カ不都合ナリヤト尋ネタルニ付本使ハ第一ニ共同委員会ニハ日本軍撤収ノ期日ヲ定ムルカ如キ権限無ク第二ニハ日本憲法ニハ統帥権ナル特別ノ観念アリ之ニ依レハ軍隊ノ行動ヲ第三者ノ判断ニ委ヌルコトハ到底不可能ニテ如何ナル政府ト雖之ニ違反セル処置ニ対スル反対ニハ堪ヘ得サルヘシト説明シタル処「サ」ハ夫ハ極メテ重要な点ナリ然レトモ自分ノ見ル処ニテハ今回ノ決議案ハ上海ニテ協定セラレタル草案カ三月四日ノ決議ニ合致セルコト確認シ居ルヲ以テ支那側ノ面目ハ潰レタル訳ニテ日本ニハ極メテ好都合ナリト思考ス又十九人委員会ニテハ日本軍撤収ニ期限(例へハ来ル六月一日)ヲ付ス可シトノ極端論強カリシモ自分ハ終始一貫シテ期限ヲ付

張シ結局此案ニ落着キタル訳ニテ之ヲ日本ノ方ヨリ拒絶セラルニ於テハ寿府ノ空気ハ極メテ悪化シ日本ハ撤収ニ「ヴエト」ヲ持チ長ク居据ハル積ナリト云フカ如キ悪宣伝ニ利用セラル虞アリ実ハ本決議案ニ対シ支那側ニテハ大部分苦情ヲ申立テ居ルモ之ヲ抑ヘ得ル者ハ「スチムソン」ナリ斯クノ如キ事情ナルヲ以テ何トカ此儘ニテ受諾セラレ度ク仮令撤収時期到来ヲ混合委員会ノ判断ニ委ストスルモ英米仏伊等ノ大国代表等ハ決シテ上海地方平静カ真ニ恢復セサルニ先立チ撤収ノ時期到来ヲ宣言スルコトアルマシク又混合委員会ニハ日本代表者モアルコト故充分日本ノ利益ヲ擁護シ得ヘシト述ヘタルニ付本使ハ理論トシテハ日本ハ同委員会ノ多数決ニテ自己ノ意ニ反スル決定ヲ受クル事モ在リ得ヘク自国民ノ生命財産ノ安危ヲ他人ノ手ニ委ヌルハ日本側ニ於テ忍ヒ得サル処ナリト説明シタル処折柄來合セタル「サ」、ジョン・プラット(英外務省ノ支那通)ハ決議案中第十一項ニ to declare トアル点ヲ指摘シ混合委員会ハ決シテ日本ノ憲法ヲ無視シテ日本軍ノ移動ヲ「コントロール」スル次第ニ非ス単ニ宣言シ得ルノミナリト言ヒ「サ」

イモン」モ亦日本側ハ本決議案受諾ニ当リ憲法上ノ困難ヲ「リザーブ」セラレテハ如何何人ト雖モ他国ノ憲法ニ反シテ押付クルコト能ハサル次第ナリト述ヘタリ本使ハ本項ノ存置ハ到底政府ニ於テ受諾困難ナリト思考スルモ一応同僚ニモ協議スヘク尚本件ハ長岡大使ヨリ「イーマンス」ニ話シ居ルニ付更ニ十九人委員会ニテ論議セラル際ハ右日本ノ立場ヲ含ミ置カレ出来得ルタケ我方希望ノ貫徹方援助アリ度旨述ヘ別レタリ

土ヲ除ク在欧米各大使、支ヘ転電セリ

283 昭和7年4月20日 芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

我が代表の十九人委員会出席差控え方に付て

第一六五号 暗、至急

貴電(二七三文書)第三八三号ノ一其他累次ノ貴電ニ関シ  
長岡大使ヘ

「アルファベット」順ニ依ルトスルモ我方代表ノ十九人委員会出席ハ差控ヘラレ度尤モ同委員会ノ希望ニ応シ代表又

スル事ニ反対シ又平常状態ノ判断ハ現地ニ委ス可キ事ヲ主張シ結局此案ニ落着キタル訳ニテ之ヲ日本ノ方ヨリ拒絶セラルニ於テハ寿府ノ空気ハ極メテ悪化シ日本ハ撤収ニ「ヴエト」ヲ持チ長ク居据ハル積ナリト云フカ如キ悪宣伝ニ利用セラル虞アリ実ハ本決議案ニ対シ支那側ニテハ大部分苦情ヲ申立テ居ルモ之ヲ抑ヘ得ル者ハ「スチムソン」ナリ斯クノ如キ事情ナルヲ以テ何トカ此儘ニテ受諾セラレ度ク仮令撤収時期到来ヲ混合委員会ノ判断ニ委ストスルモ英米仏伊等ノ大国代表等ハ決シテ上海地方平静カ真ニ恢復セサルニ先立チ撤収ノ時期到来ヲ宣言スルコトアルマシク又混合委員会ニハ日本代表者モアルコト故充分日本ノ利益ヲ擁護シ得ヘシト述ヘタルニ付本使ハ理論トシテハ日本ハ同委員会ノ多数決ニテ自己ノ意ニ反スル決定ヲ受クル事モ在リ得ヘク自国民ノ生命財産ノ安危ヲ他人ノ手ニ委ヌルハ日本側ニ於テ忍ヒ得サル処ナリト説明シタル処折柄來合セタル「サ」、ジョン・プラット(英外務省ノ支那通)ハ決議案中第十一項ニ to declare トアル点ヲ指摘シ混合委員会ハ決シテ日本ノ憲法ヲ無視シテ日本軍ノ移動ヲ「コントロール」スル次第ニ非ス単ニ宣言シ得ルノミナリト言ヒ「サ」

ハ代表ノ代理者ニ非ル説明者ヲ出席セシムルコトハ前電ノ通り差支ナキ次第ナリ右念ノ為メ

284 昭和7年4月20日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

十九人委員会作成の決議案第十一項削除について

第一七〇号 暗、大至急

貴電(二八〇文書)第三九〇号及累次ノ貴電ニ関シ

一、十九人委員会ハ上海停戦會議ノ今日迄ノ成果カ三月四日総会決議ニ合致スルモノナルコトヲ認メツツ一方上海ニ於テ作成セラレタル停戦協定案ノ内容ニ変更ヲ加ヘムトシ居ルニ付スルノナル処右ハ具体的停戦条件ヲ審議決定スル機関ニ非ル十九人委員会ノ権限ヲ逸脱スルモノナルノミナラス同委員会カ連盟ノ権限ヲ高メントスルモノナルノミ余リ遠隔ノ地タル寿府ヨリ停戦協定ノ具体的内容ヲ彼是指図スルカ如キハ却テ時局ノ收拾ヲ困難ナラシムルニ止ラス上海地方ノ和平維持問題ニ至大ノ関係ヲ有スル英米仏伊側ノ斡旋ノ結果ヲ無視スルモノニシテ延テハ此等四

國ノ支那ニ対スル「プレステーデ」ニ面白カラサル影響ヲ招来スヘキヲ恐ル

二、從テ我方ニ於テハ貴電第三九一號決議案中苟モ上海停戰協定案ニ変更ヲ加フルカ如キ部分ハ之ヲ容認スルヲ得

ス就中決議案第十一項ハ右停戰協定案ニ重大ナル変更ヲ加ヘムトスルモノニシテ前記十九人委員会ノ権限逸脱ニ加フルニ我方トシテハ統帥権ノ問題モアリ（即チ右第十

一項ノ後半ニ依レハ混合委員会ハ多数決ヲ以テ日本軍ノ撤収ニ関スル決定ヲナシ得ヘキコトヲ予想シ居ル處我方ノ意思ニ反シ我軍ノ移動ヲ行ハシムルカ如キハ統帥権ニ重大ナル影響アリ）之カ削除ヲ主張セサルヲ得サルト共ニ万一大陸採択ヲ見ルトスルモ我方ハ何等之ニ拘束セラルヘキモノニ非ス

三、尙ホ混合委員会ノ多数決ニ依リ我軍ノ撤収ヲ決定スルトスルモ右撤収後ノ結果ニ付何人カ我国ニ対シ責任ヲ負ヒ得ル次第ナリヤ恐ラク英米仏伊ハ何レモ右ノ如キ責任ヲ執ルコトヲ肯セサルヘク果シテ然ラハ本項ハ其ノ採択ヲ見ルトスルモ実行不可能ノモノト云ハサルヲ得ス

四、然ルニ上海停戰協定案第四付屬書ノ第二「パラグラフ」ハ前記統帥権ノ問題ニシテ削除ヲ見ルニ於テハ其他

ノ点ハ此ノ際暫ク不問ニ付シ置クコトトスヘシ（尤モ決議案第四項ニ「停戰協定案ハ両当事国ニヨリ受諾セラレタリ云々」トアル處右ハ事実ニ反スルニ付（脱）ハ削除スルヲ要スヘシ）

米、支、北平、奉天ニ転電シ支那テ南京上海ニ転報セシ

尚大臣宛貴電第三九二號修正案ハ電文簡単ニシテ意味明確ナラサルモ之レニ依リ共同委員会ニ対シ間接ニテモ日本軍ノ完全撤収期間ノ到来ヲ決定スル権限ヲ与フルモノナルニ於テハ考ヘ物ト思考ス為念必要ノ在欧大使ヘ転電又ハ転報ヲ請フ

ム  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

285 昭和7年4月(21日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

十九人委員会の決議案削除修正に関する意見

稟申について

第七〇九号（暗）

本使発連盟局長宛電報第七八号

大臣宛貴電第三九一號ニ関シ

軍側ト協議ノ上當方ノ修正ヲ希望スル点左ノ通り

右ハ貴方ニテ會議前大国代表トノ間ニ充分ナル了解ヲ得置カレタルニモ不拘會議カ多数小国側ノ意見ニ左右セラレタルカ為ナル可ク十九人委員会ノ性質上此ノ上我方ノ意見通り修正セシムルノ余程困難ナル事情ハ充分了解シ居ル次第ナルモ出来得ル限り御願ス

一、三月十一日ノ決議ヲ引用セサル事（第二項等）

二、日本軍ノ完全撤収ノ事ヲ引用スルト共ニ付近ノ地方ニ於ケル当分ノ間ノ駐屯ヲモ引用スル事（第六及第十項）

三、第八、第十一及第十三項ヲ削除スルコト

### 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

尚大臣宛貴電第三九二號修正案ハ電文簡単ニシテ意味明確ナラサルモ之レニ依リ共同委員会ニ対シ間接ニテモ日本軍ノ完全撤収期間ノ到来ヲ決定スル権限ヲ与フルモノナルニ於テハ考ヘ物ト思考ス為念必要ノ在欧大使ヘ転電又ハ転報ヲ請フ

大臣、米ヘ転電セリ

286 昭和7年4月(21日) 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛（電報）

十九人委員会決議に対し第十一項以外は妥協

方具申について

第七一二号（大至急極秘）

上海

本省 4月21日後着

一、当方ノ會議ハ停頓ノ儘ニテ郭泰祺ハ十九日夜帰來セルモ何等申出モ無シ支那側ハ寿府ノ決定ヲ待チ居ルカ如ク尚十九人委員会ノ決議ニハ賛成ノ模様ナリ未タ會議開カレサルニ付此際直ニ当方ニ於テ連盟発閣下宛電報第三九二號ノ如キ措置ヲ執リ得サル次第ナリ

二、尤モ連盟発閣下宛電報第四〇〇号ノ内容ハ共同委員会

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

ヲシテ撤退ヲ為シ得ル状況ノ当否ヲ判断セシムルコトニ  
在ルヘク即チ同委員会ハ協定第一、二、三条ヲ監視スル  
理ニテ其委員ハ各自国政府ニ報告シ又其決定ハ多数決ナ  
リ從テ結局右ハ日本声明案ヲ「ドロップ」セントセル際  
ノ議長案ノ趣旨（連盟発閣下宛電報第三七四号）ト大差  
無キモノト認メラル即チ同委員会カ第三条ノ条項ヲ監視  
スルコトノ権限アルニ依リ日本ノ撤兵時期ニ付テモ共同  
委員会カ之ヲ判断スルコトナルモノト思考ス

三、果シテ然ラハ上海ノ如キ国際都市ニ於テハ上海付近ノ  
平静及治安ノ維持等ノ事項ニ対シ将来外国人カ發言權ヲ  
有スルコトハ非常ニ必要ノコトナル処日本ノ停戦協定ノ  
一結果トシテ共同委員会ニ対シ撤兵地域ニ支那軍ノ入ラ  
サルコト及両点カ維持セラルルヤ否ヤヲ確カムルコトヲ  
委ネ之ヲ半永久的ノ施設トモナシ得ルトセハ右ハ政治上  
ヨリ見テ極メテ有意義ニテ望マンキコトナルハ論ヲ俟タ  
ス唯一点引掛リ居ルハ所謂統帥権ノ問題ナルカ統帥権ト  
云フモ日本カ進シテ自發的ニ斯カル約束ヲ為スハ別ニ之  
カ違反ト云フ訛ニモ非サルヘク仮ニ此ノ点ニ疑問アリト  
セハ共同委員会ハ平静状態ノ恢復出来タリヤ否ヤヲ判断

連盟ヨリ必要ノ在欧各大使ニ転電アリタシ

287 昭和7年4月(21)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会決議案に関するイーマンス、ド

ラモンドとの会談について

第三九六号(暗、大至急極秘)  
長岡大使ヨリ

二十日午後三時半「ドラモンド」立会ノ上「イーマンス」  
ニ会見ス

一、先ツ本使ヨリ決議案第十一項ハ全部自分カ昨日ノ会見  
ニ於テ議長ニ対シ異存無シト言ヒタル事項トシテ挿入シタ  
ルモノナリト十九人委員会員中了解シタル者多数アリトノ  
聞込アル処果シテ然リトセハ右ハ非常ナル誤解ニ基ク次第  
ニテ自分ハ只、混合委員会ニ於ケル決定ハ全部多数決ニ依  
ルモノナル事ヲ述ヘタルニ止リ第十一項前半迄モ自分ノ話  
ニ基クモノナリト言ハレテハ真ニ迷惑フ感スル次第ナリ自  
分ハ上海協定案解決ニ就キ意見ヲ述ヘ得ヘキ地位ニモ非ス  
依テ適當ノ機会ニ右誤解ノ点ハ是ヲ釈明シ置カレ度シト述

スル丈ケニ止ムルカ又ハ日本側ニ單ニ撤収時期ニ付勧告  
スルニ止メ得ルト云フカ如ク何等カ字句ノ緩和方ヲモ考  
慮シ得サルニ非サルヘシ

四、要スルニ本問題ノ如キハ上海事件ニ付連盟ト正面衝突  
ヲ為スヤ否ヤノ点即チ日本ノ對外關係ノ全局ヨリ判断ス  
ルコト適當ナルヘン今日連盟ニ対シ強硬ノ態度ヲ執ラサ  
レハ将来満州問題ニ対シテモ日本ノ主張ハ通ラサルヘシ  
トノ議論モアリ仮リニ右議論正シトスルモ上海事件ニ付  
強硬ノ態度ヲ執ルカ故満州問題カ連盟ニ於テ日本ノ思フ  
通リトナルト云フ結論ハ出テサル訳ニテ結局五十歩百歩  
ナルヘシ結論ハ満州事件ニ非サル上海事件ノ「メリッ  
ト」ヲ考ヘ之ニ依リテ連盟トノ関係ヲ極端ニ導クコトカ  
日本ノ大局上ノ利益ニ合スルヤ否ヤヲ決定スルヲ要スル  
点ニ在リ斯カル見地ヨリ「タイムリミット」ノ問題ヲ考  
察スレハ要スルニ之モ我大局上ヨリ見テ甚タ小問題ノ如  
ク考ヘラル況ソヤ決議案中ノ第十一項以外ノ問題ノ如キ  
ハ取ルニ足ラサルモノトモ言ヒ得ヘシ

連盟、米、北平、奉天、南京、廣東ニ転電シ上海ニ転報セ  
リ

ヘタル處「ドラモンド」ハ「イーマンス」議長ハ決シテ貴  
大使カ第十一条前半ニ就テモ同意セラレタリト言ハレ居ル  
ニ非ス後半即チ多数決ノ問題ニ就キ貴大使ノ意見ヲ述ヘラ  
レタル事カ「コンフュージョン」ヲ起シタルモノト思考ス  
ト述ヘタリ

二、次テ本使ハ第十項ハ協定草案其ノ儘ヲ掲ケタルモノニ  
テ何等差支無キモ第十一項ハ協定案ノ内容ニ立入り是ニ對  
シ解釈ヲ与フルモノナルカ十九人委員会ニハスル解釈ノ權  
限有ル可キ筈無シト言ヒタル處「ドラモンド」ハ然ラハ第  
十一項ヲ削除スルカ又ハ協定案其ノ儘ヲ引用スル規定トシ  
其ノ代リ日本側ハ混合委員会ノ権限ニ關シ第十一項後半ノ  
如キ趣旨ノ解釈ヲ声明セラル事トシテハ如何ト言ヒタリ  
依テ本使ハ斯ル声明ヲナス事ハ自分ニ於テ請合フヘキ限り  
ニアラスト答ヘタルニ「ド」ハ協定ノ一表示ニシテ之カ解  
釈ヲ声明スル事ハ何等不可ナク又出来得ヌ筈ナシト述ヘタ  
ルヲ以テ本使ハ協定ト云フモ未タ草案ノ儘ニテ之カ解釈ニ  
付確定意見アリヤ否ヤヲ知ラサルカ仮ニ日本政府カ其ノ解  
釈ヲ声明スル事アリトスルモ十九人委員会ト解釈ノ異ナル  
事アルヘキハ予想セサル可カラスト述ヘタルニ「イーマン

- ス」ハ日本政府カ若シ第十一項前段ト異ナル解釈ヲトリ当事國ノ一方ノ意志ニテ軍隊カ何時迄モ残留スル事トナルカ如キ事アリテハ右ハ到底十九人委員会ヲ満足セシメ得スト云ヒタルニ付本使ハ統帥權ノ問題等ヲ説キ軍隊ノ移動ヲ第三者ノ判断ニ委ス事ハ到底不可能ナル所以ヲ指摘シ置キタリ
- 三、尚同会見ニテハ他ノ条項ニ触レス又其後熟考ノ上往電(二八一文書)第三九二号後段ノ修正案ハ此ノ際之ヲ提示セサル方然ル可シト認メ右会談中何等之ニ言及セサリシニ付右御含ミ置キアリ度シ
- 在歐米各大使（土ヲ除ク）支へ転電セリ
- 288 昭和7年4月(21)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）
- 十九人委員会作成の決議案第十一項に関する  
ポンクールとの会談について
- 第三九八号（大至急、極秘）  
佐藤代表ヨリ
- 二十日夕「ポンクール」ト面談、本使ヨリ往電(二八〇文書)第三九一号
- ノ点ハ自分トシテモ理解シ難キ処ナリ十九人委員会ニ於テ自分ハ日本軍撤収ノ日限ヲ定ムルコトニハ強ク反対シタルモ本案ハ之ヲ支持セサルヲ得スト答ヘ十九人委員会討議ノ経過ニ鑑ミルモ本項ノ削除修正ハ甚タ困難ナルヘシト付言セリ
- 在歐米各大使（土ヲ除ク）、在支公使へ転電セリ
- 289 昭和7年4月21日 芳沢外務大臣より  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)
- 十九人委員会作成決議案第十一項削除に対する回訓について
- 第一七一号 暗、大至急  
(二八一文書)
- 貴電第三九二号ニ関シ  
長岡代表ヘ
- 右貴電只今接到セルカ（往電第一七〇号冒頭ニ貴電第三九二号ヲ引用シタルハ貴電(二八〇文書)第三九一号ノ本電ニシテ番号不用ナリシモノヲ右様想像セシモノナリ）之ニ対スル當方意見追電スヘシ尤モ往電第一七〇号申進メノ第十一項削除ノ件ハ変更ナキモノト御承知置アリ度

- 決議案第十一項ハ日本ニ取り到底受諾困難ナルヘク特ニ往電第三八二号議長案ニハ混合委員会ヲンテ時々状勢報告ヲ提出セシムル規定アリタルモ日本軍撤収ニ関スル形勢ノ判断ヲ之ニ委任スルカ如キ条項無カリシニ拘ラス此ノ度ノ決議案ニハ新ニ十一項前段ノ如キ規定ヲ加ヘタルコトハ特ニ日本側ノ受諾ヲ困難ナラシムル点ナリト述ヘタル处「ボ」ハ右ハ真ニ機微ナル点ニシテ十九人委員会ニ於テモ当初此ノ点必スシモ明確ニ決定シ居リタル次第ニ非ス議長案ニ対スル反対意見モ相当強カリシ次第ナルカ兎モ角撤兵ニ関スル状勢判断ヲ日本ノ一方的決定ノミニ委スルハ到底不可能ナリトハ十九人委員会ノ一致セル意見ナリ唯何人ニ之カ判断ノ権限ヲ与フルカカ問題ナルカ之ヲ混合委員会ニ委スルコト寧ロ当然トスヘク而モ決議案ノ文体ニ付テハ日本側ノ立場ヲ考慮シ直接ニ撤兵日限ヲ決定シ以テ撤退ヲ強要スルカ如キ条項ヲ設ケス付属書四ニ規定セル混合委員会ノ権限トシテ日本軍撤収ノ時期到来ニ付同委員会カ意思ヲ表示スルコト為シタルモノニシテ右ハ日本ニ対シ何等難キヲ強フルモノニ非スト考ヘラル本条項ニ付若シ困難アリトセハ右ハ支那側ニアルヘク日本トシテハ之カ受諾ニ困難アリト
- 米、支、北平、奉天ニ転電シ支ヲシテ南京、上海ニ転報セシム  
土ヲ除ク在歐各大使ニ転電アリ度
- 290 昭和7年4月21日 芳沢外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)
- 十九人委員会の決議案への対策回訓について
- 第一七二号 暗、大至急  
(二八一文書)
- 貴電第三九二号ニ関シ
- 一、我方ニテハ十九人委員会ノ決議カ我方ヲ拘束スルモノニ非ストナス建前ヲ堅持シツツ上海ニ於ケル協議決定ニ出来得ル限り故障ナカラシムル為メ本件決議案ニ付連盟側ト実際的詰合ヲナシ居ルニ過ギサルコト往電第一七〇号末尾申進メノ通リニシテ從テ根本論ヨリスレハ右詰合ノ結果カ如何様ニ決スルモ我方トシテハ五十歩百歩ノ問題ナルモ唯タ時局ノ円満ナル收拾ヲ計ルカ為メニハ本件決議案ハ第十項ノミナラス貴見ノ通り第八項及第十三項モ甚タ面白カラスト思考スル次第ニシテ殊ニ第八項ハ「三月四日ノ總会決議ハ日支両軍ヲ離隔スル為メ我軍カ一定地域ニ撤収スヘ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

キコトヲ定メ居ルモノニシテ右一定地域ヨリ租界内ニ撤収シ又ハ内地ニ帰還スルハ総会決議ノ範囲外ニ属シ我方ノ自由ニ決定スヘキモノナリ」トノ我方ノ主張ニ反スルモノナリ（在支公使宛第二三九号ノ<sup>(1)</sup>参照尚ホ右一定地域外ノ駐兵ハ英米等カ其ノ兵力ヲ租界及拡張道路上ニ置キ居ルト全然同性質ノモノ即チ居留民及租界保護ノ為メノ駐兵ニシテ唯タ兵数多キ関係上租界接続地域ニモ之ヲ置キ居ル次第ナリ従テ右一定地域内ノ軍隊ヲ如何ニ移動スルカ（即チ租界内撤収又ハ内地帰還等）ハ租界及拡張道路上ニアル英米等ノ兵力カ各国側ノ自由意思ニ依リ移動セラルト同様我方ノミニテ決定スヘキ問題ナリ）

二、然ルニ冒頭貴電後段ノ修正案（一）及（二）ハ何レモ我方ノ主張ヲ充分ニ満足セシムルモノニ非ルニ付第八項及第十三項ハ第十一項ト同様削除方ヲ主張セラレ度（特ニ往電第一七〇号<sup>(2)</sup>第十一項ノ削除ニハ極力努力セラレ度）而シテ連盟側ニ於テ右削除方ニ同意セサル場合ニハ冒頭貴電前段（一）（二）（三）ノ反対理由及前記第八項ニ関スル我方主張並往電第一七〇号ノ第十一項ニ関スル我方主張ヲ明確ニ留保シ後日上海ニ於ケル交渉ノ際右留保ヲ援用シ得ル様御措置相成度

於テ再ヒ停戦交渉開始セラルヘシトノ事ナルカ右果シテ真実ナリトセハ同會議ニ於テ「ランブソン」案ニ更フルニ別電第四〇〇号ノ如キモノヲ以テスル事ヲ提議セラレ之ヲ當地ニ移牒セラルレハ決議案第十一項ハ勿論「ドロップ」セラルヘシスクシテ此ノ際本件ノ解決ヲ講スル事最モ時宜ニ適シタル方法ト思考セラル之ニ付テハ冒頭貴電ニ依レハ統帥權ノ問題起リ得ル如ク思ハルモ別電宣言案ニテハ日本ハ何等義務ヲ負担スル次第ニアラス混合委員会ノ意志表示ヲ聞クカ聞カヌカハ日本ノ裁量ニ依ルモノナルノミナラス濟南事件ノ際ノ通告文ノ如キ具体的ノ事項ヲ何等包含シ居ル次第ニモアラス慎重御考慮相仰キ度ン

二、右ノ考案カ幸ヒ御承諾ヲ得ハ当方トシテ十九人委員会ニテ発言スル必要アリ（聞ク處ニ依レハ支那ハ決議案ニ承諾ノ意ヲ表シタリト言フ）如何ナル理由ニテ当方カ出席ヲ拒否スルカハ極メテ機微ノ問題ニテ将来不幸ニシテ滿州問題ノ為之ト衝突スルカ如キ場合ニ我地歩ヲ作り置ク為ニモ此ノ際上海問題殊ニ形式問題ノ為右委員会ト絶縁スルニ至ルカ如キ処置ニ出ツル事ハ大ニ考慮ヲ要スト存ス就テハ前掲大局上ノ見地ヨリ一日モ早ク上海事件タケハ解決スルト

米、支、北平、奉天ニ転電シ支ヲシテ南京、上海ニ転報セシム  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度シ

291 昭和7年4月(22)日 <sup>※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より</sup>  
芳沢外務大臣宛(電報)  
十九人委員会より招請された場合は参加を得  
策とする旨稟申について  
別電 四月二十一日着在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)  
上海方面より撤退時期に関する声明案  
第三九九号(大至急極秘)  
貴電第一七〇号<sup>(1)</sup>ニ関シ  
長岡代表ヨリ  
一、上海事件ヲ速ニ解決セントスル御趣旨ハ本使出発前親シク承ハリタル事ニシテ軍ノミナラス本邦輿論モ亦同様ノ見解ヲ執リ居ルモノナルニ付テハ之ノ見地ヨリ出発考慮スルモ往電第三九六号<sup>(2)</sup>「ドラモンド」ノ考案ハ相当考慮ニ值スルカ如ク考ヘラル新聞電報ニ依レハ明日頃ヨリ上海ニ  
292 昭和7年4月(22)日 <sup>在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より</sup>  
芳沢外務大臣宛(電報)  
上海停戦問題に関する回訓に対し意見稟申に  
ついて  
第四〇三号(大至急、極秘)  
一、上海問題ニ関スル対案ニ付テ当方ノ意見ハ往電第三九一  
<sup>文書</sup>九号ニテ縷々開陳シタル通ナルカ唯今接到セル貴電第一九〇  
<sup>文書</sup>二号ヲ通読スルニ右ノ如クハ十九人委員会延イテハ連盟自

体ト正面衝突ヲ惹起スルコト明白ナリト存セラルル處帝国

政府ハ貴電第一二三号御決定ノ旨ヲ此ノ際ヲ機会トシテ上

海問題ニ実行セラレントスル御趣旨ナリヤ承知致度シ

二、若シ然ラスシテ往電第三九九号冒頭申進ノ通上海問題

ヲ速ニ解決スルコトハ帝国ノ利益ナリトスル見解ヲ執ラル

ニ於テハ此ノ際十九人委員会ト出来得ル限り歩調ヲ合ハ

スコト得策ナリト思考セラル、然ルニ貴電第一七二号<sup>(二九〇文書)</sup>ノ如

ク我方カ十九人委員会決議ノ圈外ニ立チ居ル限り支那側ハ

上海ニ於テ交渉ニ応スヘシトモ思ハレス如何ニシテ事件ノ

解決ヲ付ケラル御見込ナリヤ之亦御来示アリタシ

三、尚第一一項ニ付テハ極力之カ緩和方ニ努ムヘキモ右ニ

付我方ノ受諾シ得ヘキ案ヲ得ラル場合ニハ貴電第一七〇<sup>(二八四文書)</sup>

号ノ五ノ建前ヲ執リ第八項及第一三項ハ暫ク之ヲ不問ニ付

シ置クコトト致度ク前記各項ニ就キ大至急御回訓ヲ請フ

土ヲ除ク在欧米各大使及支ヘ転電セリ

293 昭和7年4月(22)日 芳沢外務大臣宛(電報)

### 十九人委員会決議案第十一項に関するウイル

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

293 昭和7年4月(22)日 芳沢外務大臣宛(電報)

### 十九人委員会決議案第十一項に関するウイル

ソンとの会談について  
第四〇五号(至急)

松平大使ヨリ

二十一日「スチムソン」ニ面会ノ筈ナリシモ「タルジュ

ー」カ僅二十四時間滯在ノ予定ヲ以テ来寿シ之ト会談ノ約

アリシ為会見ヲ延期シタルカ米国側ニモ成ルヘク速ニ十九

人委員会トノ経緯ニ付我方ノ立場ヲ承知セシメ置クコト得

策ト認メタルニ付<sup>(スイス國駐米公使)</sup>「ウイルソン」ト会見ス

一、先ツ往電第三九七号「サイモン」ニ話シタルト同様ノ趣

旨ヲ述ヘタル処「ウ」ハ本件ニ付テハ米国側ニ於テモ充分

承知シ居リ且小国側ハ當方ニ近ツキ易キ為種々彼等ノ意向

モ聽キ及ヒ居ルカ忌憚ナク言ヘハ十九人委員会決議案第十

一項ノ削除ハ彼等ノ態度ヨリ觀測シ可ナリ困難ナリト思考

ス日本側ノ御趣旨即チ上海ニ於ケル交渉中混合委員会ニ對

シ問題ノ如キ権限ヲ与フル意思ナカリシトノ理由ハ強キ

理由ト思ハル又日本ノ憲法上ノ困難ニ付テハ之亦御尤モニ

テ何人ト雖動カス能ハサルヘン但シ上海地方平静ニ帰シ日

本軍撤収スルトモ安全ナリトノ判断ヲ日本ノミニ任スコト

一般ニ可成リ危惧ノ念ヲ抱カシム可ク何人力先ツ「イニシ

294 昭和7年4月22日 芳沢外務大臣より  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

### 十九人委員会における日本の態度に関するイタ

#### リア大使と会談について

第一七五号(暗)

二十二日伊国大使來訪「グランデ」外相ノ訓令ニ依ル趣ヲ

以テ十九人委員会ニ於ケル困難ニ関シ日本側ハ其ノ態度ヲ

変更出来マシキヤト述ヘタルニ付本大臣ヨリ十九人委員会

決議案中我方ニ於テ最モ異議アルハ第十一項ナリ即チ第一

ニ同項ハ統帥權ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞アリ又第二ニ日

本ノ上海出兵ハ居留民保護ノ目的ニ出テタルモノナルヲ以

テ居留民ノ安全を確保セラルコトナクシテ撤兵ニ同意ス

ルニ於テハ政府ノ重大ナル責任トナルヘキ處第十一項ニ依

レハ混合委員会ノ多数決ヲ以テ右撤収ノ時期ヲ定ムルコト

トナリ居リ從テ日本ハ居留民ノ安全ニ付充分ナル確信ナク

シテ撤兵ヲ余儀ナクセシメラルコトナキヲ保セススノ如

キハ我方トシテ到底承諾シ得サル所ナリト告ケタリ

右ニ対シ伊国大使ハ御話ノ次第ハ至極尤モト存ス十九人委

ノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ右貴大使ノ御意見ヲ「グラ  
ンヂ」ニ電報セラレムコトヲ望ムト云ヒタルニ同大使ハ之  
ヲ領承セリ  
シム  
米、支、北平、奉天ニ転電シ支ヲシテ南京、上海ニ転報セ  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

295

昭和7年4月(23日)

(在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報))上海停戦交渉打開のためランプソン公使との  
意見交換について

**別電** 同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第七  
一六号、第七一七号  
ランプソン公使との意見交換ならびにランプソ  
ン公使の新提案

第七一五号(極秘)

交渉停頓以来屢々英、米等ノ公使ニ会見シ意見ノ交換ヲ為  
シ且日本側ノ意向ヲ徹底セシムルニ努メタリ其後米国公使  
ハ十九日飛行機ニテ南京ニ赴キ(湖北省ニテ捕ヘラレシ米  
人宣教師「ベイカー」救出ニ付支那側首腦部トノ交渉ヲ主

(別電)  
第七一六号(極秘)  
<sup>(1)</sup>往電第七一五号ニ関シ

ヲ請フ(別電ト共ニ脱?)米、連盟、南京へ転電セリ

(別電)  
第七一六号(極秘)

<sup>(1)</sup>往電第七一五号ニ関シ

本二十二日「ランプソン」公使トノ会談ニ於テ  
一、同公使ハ十九人委員会ノ決議ニ対スル日本側ノ意向ヲ  
質問セルカ本使ハ支那側ハ決議受諾ノ旨新聞ニ伝ヘラル  
ル處何等斯ル事ヲ聞キ及ヘリヤト反問セルニ二十一日夜  
郭泰祺ハ支那カ全部受諾セル趣ヲ告ケタリト答ヘタリ依  
テ本使ハ右決議ニハ種々ノ点ニ不満有リ殊ニ第十一条ノ  
如キハ不服ニシテ到底斯ル辭句ヲ受諾シ得ス等種々説明  
ヲ為シタル上元来日本側トシテハ共同委員会カ協定第  
一、二、三条ノ実行ヲ監視スル事ヲ承諾シ且其委員会カ  
各自ノ政府ニ対シ右ニ付報告ヲ為ス事ニモ異存無シトノ  
点迄譲歩ノ用意有ル次第ナルカ夫レ以上ハ日本ノ憲法上  
ヨリ云フモ不可能ノ事ナリ從テ若シ連盟等カ右日本側ノ  
誠意ト立場トヲ了解セスハ已ムヲ得サルニ付行ク處迄行  
カシムルヨリ外無シ日本ハ其立場カ了解セラル迄待ツ  
考ナリト答ヘタリ

二、次テ英國公使ハ本件カ連盟ニ持出サルレハ必ス問題起  
ルヘシト思考セリ何トナレハ大国側ハ日本ノ主張ヲ了解  
シ居ルモ小国側ハ日支ノ問題ニ依リ自己ニ不利ナル先例  
ヲ作ラルルヲ惧レ居タレハナリ自分ハ貴下ト累次意見交  
考ナリト答ヘタリ

換モ有リ支那ハ要スルニ僅ニ面子ヲ保チ得テ連盟ヨリ多  
少ノ辞句ノ変更ヲ為シ当地ニ「リファー、バック」セラ  
ルレハ納得スヘキ形勢ナルヲ察知シ其旨本国政府ニ詳細  
電報ヲ以テ説明シ置ケリ右ノ結果十九人委員会議長ノ提  
案モ現ハレタル訳ナルカ其中共同委員会カ直接連盟ニ報  
告ヲ為ストノ点ニ付テハ過日貴下ヨリノ説明ニ依リ若シ  
日本側ニ異議アラハ委員ヨリ各國政府ニ報告シ之ヲ連盟  
ニ通報スル事ト変更スルハ困難ニ非スト思考シ居タル処  
不幸ニモ小国側ノ意見出テ遂ニ今回ノ如キ決議ヲ見ルニ  
至リタル訳ナリ而シテ該決議ハ相当支那側ニ有利ナレハ  
ントスルハ余程困難ト思考スト述ヘタリ

三、依テ更ニ種々意見ヲ交換シタルカ「ラ」公使ハ此ノ儘  
決裂セシムルコトハ地方ノ治安維持及通商ノ回復ニモ非  
常ナル悪影響ヲ及ホスヘキニ付何トカ成立セシメ度ク支  
那側ノ一部ニハ已ムヲ得サレハ日本ヲシテ何時迄モ駐兵  
セシムヘシ然ラハ日本ハ財政其ノ他ノ困難ヨリ結局撤兵  
ヲ余儀無クセラルヘシト真面目ニ考ヘ居ル者アリ彼等ノ  
中ニハ相当過激ノ者モアリテ郭ノ身辺モ危険ナル状況ナ

タル目的トセリ)タルカ南京ニテハ停戦交渉ニ就キテモ幹  
旋スルコトナリ居リ同公使ハ二十二日帰来英國公使ハ本  
二十二日本使ヲ來訪シ別電第七一六号ノ通意見ノ交換ヲ為  
セリ同公使ハ二十二日夜船ニテ(郭泰祺モ同行)南京ニ赴  
ク由ナリ尚同公使ハ右別電本使トノ意見交換ノ結果ニ基キ  
又ハ火曜日ニ帰来スル予定ナリ郭ハ十九日上海ニ帰来後何  
等当方ニ申出ヲ為サス往電第七一二号ノ通寿府ノ結果ヲ待  
チ居ルモノト思ハル尚別電第七一七号案文ハ英國公使カ南  
京ニテ相談ノ結果如何ナル変化ヲ見ルヤモ知レス右ハ本使  
及英國公使限リノ案文ナルニ付暫ク部外ニハ案文其物ヲ示  
サレサル様願度シ但シ「ランプソン」ハ右案文ヲ直ニ電報  
スルノ意向ヲ洩ラン居タリ(本電ハ別電ト共ニ外部ニ洩レ  
サル様願フ)連盟ヨリ土ヲ除ク在欧大使ニ転電又ハ転報  
別電第七一七号ニ付郭ヲ始メ南京要路ノ説得ヲ試ミ、月曜  
又ハ火曜日ニ帰来スル(二八六文書)予定ナリ郭ハ十九日上海ニ帰来後何  
等当方ニ申出ヲ為サス往電第七一二号ノ通寿府ノ結果ヲ待  
チ居ルモノト思ハル尚別電第七一七号案文ハ英國公使カ南  
京ニテ相談ノ結果如何ナル変化ヲ見ルヤモ知レス右ハ本使  
及英國公使限リノ案文ナルニ付暫ク部外ニハ案文其物ヲ示  
サレサル様願度シ但シ「ランプソン」ハ右案文ヲ直ニ電報  
スルノ意向ヲ洩ラン居タリ(本電ハ別電ト共ニ外部ニ洩レ  
サル様願フ)連盟ヨリ土ヲ除ク在欧大使ニ転電又ハ転報  
ヲ請フ(別電ト共ニ脱?)米、連盟、南京へ転電セリ

リ右ニ対シ自分ハ其ノ無謀ナル議論ナルコトヲ反駁シ置ケリト述ヘ居タルカ（本使ハ若シ日本軍カ蘇州、杭州、南京迄モ進ミ居タランニハ或ハスル困難モ生スヘキモ日本軍ハ現ニ大体二十「キロ」ノ点ニ止マリ上海秩序ノ防護ノニ（ニ）軍ノ行動ヲ限り居ル次第第ナレハ此ノ種困難ハ少シト答ヘ置ケリ）更ニ本件ノ打開策ニ付意見ヲ交換シ或ハ此ノ際今迄纏マリ居ル点ノミヲ纏メ撤時期ノ問題カ纏マラサレハ之ハ其ノ儘トシ置クコトモ一案ナラントノ考モ浮ヒタルカ右ニ依ル協定調印ハ支那側ノ承諾ヲ得難カルヘシトノ意見トナリタリ依テ更ニ協議ノ結果日本側ノ意見ヲ基礎トシタル別電第七一七号即チ混合委員会ニ於テ当事国カ協定第一、第二及第三条ノ履行ヲ為サル点アラハ之ニ対シ注意ヲ喚起シ得ヘシトノ字句ヲ第四付属書第一項ノ混合委員会ノ職務ノ終ニ付加スルノ案ニ付兔ニ角支那側ヲ説得シ見ルヘントノロトナリタリ（右案文ハ御訓令ノ趣旨ニ違反セスト思考スルモ支那側ヨリハ何レ異議ヲ提起スベク從テ案文ニ変更ヲ見ルヘク結局英國公使帰来迄ハ確タルコトハ知リ難キ訳ニテ旁全部未定稿トシテ御取扱ヲ請フ）

## 第四〇六号（暗、大至急）

長岡ヨリ

十九人委員会決議案第十一項ノ紛糾ニ關シ該項ト連繫ナキ案ヲ考究スルコト妥協到達ヲ容易ナラシムくハトノ見地ヨリ杉村公使ハ第十一項削除ノ代案トシテ協定第三条ノ終ニ追加トシテ別電第四〇七号案ヲ立テ全クノ私案トシテ二十一日之ヲ「ム」<sup>(1)</sup>ニ提示シタル処「ム」<sup>(2)</sup>ハ目下ノ形勢ニ徵シ果シテ十九人委員会ヲ満足センマルヤ疑ハントテ躊躇ンタルモ熟慮ノ末杉村ニ対シ本案ヲ日本政府ニ於テ上海會議ニ提出セラルルコトニシ之ヲ長岡大使ヨリ「マークハベ」<sup>(1)</sup>ハ語サルルニ於テハ妥協ノ途ヲ發見シ得ルヤモ知レヌト語リタル趣ナリ勿論右ハ個人ノ意見ナルヘキニ付議長ニ於テ果シテ又<sup>(1)</sup>受入ルルヤ否ヤ全然未知ナルモ往電第三九九号及第四〇〇号考究ノ際ノ御参考迄ニ進達ス

土ヲ除ク在歐米大使及支ヘ転電セリ

（別 聞）

No. 407 (暗、Very Urgent)

<sup>(1)</sup> Le représentant du Japon à l'Assemblée informera le Président que le Japon est prêt à proposer à la con-

四、尚小委員会ノ問題即チ蘇州河以南及浦東ノ件ハ過日英國公使ト会談ノ際切メテ小委員会等ノ仕事丈ケニテモ先ニ進メテハ如何ト提議シ同公使モ出来ル限り右様取計フシトノコトリテ支那側説得ニ努メタル由ナルカ支那側ハ問題ニ付難色ヲ示シ結局本會議ノ結果ヲ俟タサレハ小委員会等ノ仕事ヲ続クルヲ得ストテ拒絶シ居ル状況ナリ

①

No. 717 (Gokuhi)

.....and shall be authorized to call attention to any neglect in the carrying out of the provisions of any of the three articles mentioned above. (addition to annex 4)

296 昭和7年4月(23)日 ※在ジ<sup>(1)</sup>ネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会の決議案第十一項削除の代案とし

別電 同日着在ジ<sup>(2)</sup>ネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第四〇七号

杉村公使起草案文

férence militaire de Shanghai d'insérer le texte ci-dessous à la fin de l'article 3 du projet d'accord;

Si les représentants des puissances amies constatent que le moment est venu où le retrait complet des forces japonaises peut raisonnablement s'effectuer, ils pourront attirer, à titre amical, l'attention du représentant japonais à cet effet.

<sup>(2)</sup> Si le Commandant des troupes japonaises ne peut pas effectuer immédiatement le retrait des troupes, le représentant japonais en communiquera les raisons aux représentants des puissances amies. Il procédera à des enquêtes en commun sur place si le désir en est exprimé par les représentants des puissances amies.

Si après l'enquête sus-mentionnée les représentants des puissances amies maintiennent leur point de vue, ils pourront respectivement en informer l'Assemblée de la Société des Nations par l'intermédiaire de leurs Gouvernements.

(記 ャ)

「アッサムブレー」ニ於ケル日本代表ハ日本ガ上海ニ於ケ

ル軍事會議ニ於テ第三条ノ終リニ次ノ文句ヲ插入スヘキコトヲ提議スルノ準備ニ在リト云フコトヲ議長ニ通報ス

若シ友好国代表ガ日本軍隊ノ完全ナル撤退ガ合理的ニ実行シ得ル時機ガ到達セリト認メタル場合ハ之等代表ハ日本代

表ニ対シテ友誼的ニ注意ヲ喚起スルコトヲ得ルモノトス

若シ日本軍司令官カ日本軍ノ撤退ヲ直ニ実行シ得サル場合ハ日本代表ハ友好国代表ニ其理由ヲ通報シ

要スレハ現地ニ於テ調査ヲナシタル後友好国代表ニ説明スルモノトス

前記調査ノ後若シ友好国代表カ意見ヲ有スルナラバ各、其政府ヲ通シテ國際連盟「アッサムブレー」ニ通報スルコトヲ得

ヲ得

~~~~~

297 昭和7年4月23日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

杉村公使作成の代案中疑義の点について

第一八一号(暗、大至急)

貴電第四〇六号及累次ノ貴電ニ関シ

土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アレ

~~~~~

298 昭和7年4月24日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛(電報)

ランプソンの新提案に関し連盟側へ内示につ

支及米ニ転電セリ

~~~~~

長岡代表ヘ

目下當方ニ於テ関係ノ向ト折角協議中ナルモ種々ノ難關ア

ル一方重光公使ニ於テ上海交渉再開方努力シ居ルハ同公使

來電第<sup>(二九五文書)</sup>七一五号ノ通リナル處停戰交渉ノ性質上具体的条件ニ関スル話ハ現場ニテ行フヘキモノナルコト申ス迄モナク

且右現場ノ話合カ進捗スレハ自然寿府ニ於ケル難關モ解決シ行ク義ナルヲ以テ此ノ邊ノ事情モ考量ニ加フルノ要アル

ト共ニ貴電<sup>(二九六文書)</sup>第四〇七号杉村案ハ種々考慮ヲ要スル点アリ殊ニ同電ノ二ノ二個ノ「バラグラフ」ニ依レハ我方カ言訳ヲナシ又友好國側ト共同調査ヲナシ更ニ友好國側ト見解一致セサル場合ニハ問題ヲ連盟總会ニ持チ出スコトナル次第ニテ我方從来ノ立場上面白カラスト存スルニ付此ノ際右杉村案ニ関スル話合ニハ余リ深入セラレサル様致度念ノ為メ

支及米ニ転電セリ

~~~~~

テハ既ニ決議案第十一項ヲ知リ居ルカ故ニ同項以上ノ讓歩ヲ為ササルヘク結局「ラ」カ南京ヨリ持帰ル案ハ同項類似ノモノタルヘキ様予測セラル然ルニ他方十九人委員会ハ前記我方ノ情報ニ依リ多少ノ遲延ハ之ヲ認ムルモ回答遲延ス

レハスル程必スヤ空氣ノ悪化ヲ見ルヘシ就テハ「ラ」カ上海ニ持來ル案ヲ待チ不満足ノ場合當方ノ代案ヲ御考慮相成ルニ於テハ相當ノ遲延ヲ來シ前掲ノ空氣ニ鑑ミ大局上面白カラサル結果ヲ生スヘシト思考セラルニ付「ラ」ノ上海ニ持帰リタル案ヲ予メ不満足ナルモノト仮定シ此場合直ニ當方ニ於テ「イーマンス」及「ドラモンド」ニ約束シタル回答ヲ与ヘ得ル様予メ御詮議シ置カレ出来得レハ事前ニ當方ヘ御内訓置キアリタシ

在歐米各大使(土ヲ除ク)支ヘ転電セリ

~~~~~

299 昭和7年4月26日 在上海重光公使より芳沢外務大臣宛(電報)

十九人委員会第十一項新案について

別電 同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第七二五号

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

「アッサムブレー」ニ於ケル日本代表ハ日本ガ上海ニ於ケル軍事會議ニ於テ第三条ノ終リニ次ノ文句ヲ插入スヘキコトヲ提議スルノ準備ニ在リト云フコトヲ議長ニ通報ス

若シ友好国代表ガ日本軍隊ノ完全ナル撤退ガ合理的ニ実行シ得ル時機ガ到達セリト認メタル場合ハ之等代表ハ日本代表ニ対シテ友誼的ニ注意ヲ喚起スルコトヲ得ルモノトス

若シ日本軍司令官カ日本軍ノ撤退ヲ直ニ実行シ得サル場合ハ日本代表ハ友好国代表ニ其理由ヲ通報シ

要スレハ現地ニ於テ調査ヲナシタル後友好国代表ニ説明スルモノトス

前記調査ノ後若シ友好国代表カ意見ヲ有スルナラバ各、其政府ヲ通シテ國際連盟「アッサムブレー」ニ通報スルコトヲ得

~~~~~

二、當方ノ觀測ニ依レハ「ラ」カ南京ニ携ヘタル案ハ支那側ノ承諾ヲ得ル事頗ル困難ノ様ニモ思ハル想フニ支那側ニ

テ極端派ノ活動無カラシムル事必要ト認メ右情報ヲ杉村ヨリ「ド」ニ伝ヘシメタリ本使等ヨリモ必要ト認ムル向ヘ申入置ク積リナリ

二、當方ノ觀測ニ依レハ「ラ」カ南京ニ携ヘタル案ハ支那側ノ承諾ヲ得ル事頗ル困難ノ様ニモ思ハル想フニ支那側ニ

別電 同日着在上海重光公使より芳沢外務大臣宛第七二五号

右第十一項新案について

第七一四号（暗、大至急）

往電第<sup>(一九五文書)</sup>七一五号ニ閲シ

二十六日午後三時「ランプソン」南京ヨリ帰来シ本使ヲ來

訪シ二十二日本使ト会談後直ニ郭泰祺ヲ訪ヒ米國公使等ト

共ニ説得ニ努メタリ然ルニ郭ハ寿府ニ於テ既ニ決議アリ右

決議ヲ受諾セサル訳ニ行カストテ応スル模様無カリシモ右

決議第十一項ヲ其儘日本側ニ承諾セシムル事ハ本使トノ

会談ニ依リ自分ノ得タル印象ニ依ルモ全然不可能ノ事ナリ

従テ其儘之ヲ通サントスレハ收拾ノ途無シト思ハルルニ付

往電第<sup>(一九五文書)</sup>七一七号ノ案ニ付考慮スル方有利ナリト勧説シタル

結果郭ハ右案ヲ南京ニ電報スルト共ニ郭ノ意見トシテ自分

ハ此案ニ絶対不賛成ニ非ストノ趣旨ヲモ付セシムル事トナ

レリ南京ニテハ羅文幹及汪兆銘ヲ説キ其結果汪ハ執行委員

会ノ意見ヲ聞キテ二十五日之ニ賛成ノ意ヲ表シタルヲ以テ

早速右ノ旨ヲ寿府ニ電報シタリ尚十九人委員会決議第十一

項ニ代フルニ別電第七二五号ノ如キ案文ヲ以テスルコト然

ルヘキ旨ヲモ寿府ニ電報シタル旨ヲ述ヘタリ

右「ラ」公使ノ尽力ニ對シテハ一応謝意ヲ表シ置ケリ

連盟、米、南京、廣東、北平、奉天ニ転電シ、上海ニ転報

セリ

連盟ヨリ必要ノ在欧大使ニ転電アリ度シ

（別電）

No. 725  
(Betsuden) is of opinion that the powers, as defined in Annex 4 to the draft agreement, of the Commission which is to watch the carrying out of Articles, 1, 2 and 3 of that agreement include authority to call attention, in accordance with its decisions taken in such manner as is provided in the said Annex, to any neglect in the carrying out of any of the provisions of the Articles mentioned above.

300 昭和7年4月(26)日 在上海重光公使より

芳沢外務大臣宛（電報）

「ランプソン提案受諾の通達予定」ヘ

第七二六号（暗、至急）

往電第<sup>(一九九文書)</sup>七二四号ニ閲シ

明二十七日本使ヨリ正式ニ日本側ニ於テハ本案ニ異存無キ

コトヲ英國公使ニ伝フル積リナリ

右ハ当地陸海軍側トモ協議済  
前電ノ通転電セリ  
(連盟ヨリ前電ノ通転電アリタシ)

~~~~~

301 昭和7年4月(26)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

十九人委員会秘密会開催方にについて

第四一〇号（暗、至急）

其ノ後当方ニ於テハ往電第<sup>(一九八文書)</sup>四〇九号（）末段ノ方針ニ依リ各

方面ニ行動シツツアリタル処二十四日夕刻「イーマンス」

ハ新聞社ニ対シ支那側ヨリ決議案内示後最早一週間ヲ経過

シタルニ付公開會議ヲ開カレタキ旨要求アリタル趣話シタ

ル由ナルカ二十五日朝「ドラモンド」ハ杉村ニ対シ十九人

委員会委員中ニハ日本側ノ回答遲キヲ非難スルモノアリ已

ムヲ得スマ二十六日午後秘密会開催ノ筈ナル旨内話シ他方

キ旨語リタル趣ナリ右御参考迄  
在歐米各大使（土ヲ除ク）在支公使ヘ転電セリ

~~~~~

302 昭和7年4月(26)日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

「ランプソン公使の新提案を中國側受諾」開テ

る「ランプソンの談話」ヘ

第四一一号（暗、大至急）

二十五日午後六時半「ドラモンド」杉村ヲ招キ「只今確力  
ナル筋ヨリ聞込ミタル処ニ依レハ支那側ハ遂ニ「ランプソン」案ヲ承認シタル由ナリ依テ十九人委員会決議案第一  
項前半、prend acte que les deux parties se sont mis  
d'accord (en) 「ランプソン」案ノ文句ヲ挿入）ト麥<sup>更致</sup>  
度ノ（後半多數決ノ規定ハ其ノ儘トス）又ニ対シ日本側ノ  
御同意ヲ得ルコト叶フ間敷キヤ十九人委員会ハ二十六日午  
後三時秘密会ヲ催ス予定トナリ居レハ若シ之ニ間ニ合フ様  
何分ノ御回示ヲ得ハ極メテ好都合ナルニ付右ノ次第日本代  
表部ニ御伝達アリタシ」ト依頼シタル趣ナリ  
在歐米各大使（土ヲ除ク）在支公使ヘ転電セリ

~~~~~

「ハナソン提案にたいする我方の態度について

303 昭和7年4月26日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

て

第四一五号（暗、大至急）  
往電第四一四号ニ関シ

ジュネーヴ 4月26日後発  
本省 4月27日前着

中国代表より十九人委員会開催促進方申入れ  
について

長岡代表ヨリ

支那側ノ受諾セル案カ支発閣下宛電報第七一七号ノ案ナルニ於テハ「マクドナルド」申出ノ通之ニテ一刻モ速ニ十九人委員会ヲ終了セシムルコト得策ナルヘク該案ニ付テハ今日迄反対ノ御意向表明セラレ居ラサルニ付御同意ノ儀ト存スルモ万一英國側斡旋ニ依リ支那側カ受諾シタル本案ニシテ日本ニ容レラレサルカ如キ事アラハ英國側ノ面目丸潰トナリ今後各方面ニ大ナル影響ヲ及ホスコトト懸念セラル松平大使モ同意見ナリ

尚本件事態判明ノ上ハ前記ノ事情ニ鑑ミ大至急電報ヲ得度  
ク纏リタル場合ハ當方ヨリ其後現地ニ於テ日支間ニ纏レル結果トシテ往電第三六四号中段ノ協定案文通告ノ統キノ建前ニ於テ直ニ事務總長ニ通告ヲ為ス積ナリ右御含置ヲ請フ在歐米各大使（土ヲ除ク）在支公使ヘ転電セリ

304 昭和7年4月26日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

第四一六号

支那代表ハ二十五日付事務總長宛通告ヲ以テ十九人委員会開催要求ニ關スル十一日付同代表通告（往電第三五五号）ニ關シ軍縮會議ハ近ク休会トナル模様ナルニ付各國代表ノ出發前上海商議ニ必要ナル指導ヲ与ヘ以テ總会決議ノ条文及精神（議長ノ解釈スル如キ）ニ從ヒ右商議ヲ速ニ決定セシムル様然ルヘク取計ハレ度旨申入レタリ

在歐米各大使（土ヲ除ク）及支ニ転電セリ

305 昭和7年4月26日 芳沢外務大臣より  
在上海重光公使宛（電報）

第二六一號（暗、大至急）  
ランプソン提案に対する中國側の同意説に關し照会について  
寿府発本大臣宛電報第四一一号ニ関シ

支那側ニテハ貴電第七一七号「ランプソン」案ニ同意セリトノコトナルカ右事情折返シ回電アリ度

訓令トシテ南京ニ参考トシテ寿府ニ転電セリ

306 昭和7年4月26日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

ランプソン公使の動静について

第一八五号（暗）

支宛往電第二六一号ニ関シ

二十五日発南京來電ニ依レハ「ランプソン」ハ二十六日朝南京発同日午前中ニ上海ニ着ク予定ノ由ナルカ上村領事ハ二十五日中ニハ「ラ」ニ面会ノ機会ヲ得サリシ模様ナリ御参考迄

307 昭和7年4月26日 芳沢外務大臣より  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

上海停戦交渉再開のため四国公使の斡旋につ

いて

第一八六号 暗、大至急

304

305

午後三時ノ秘密會議ニ間ニ合フ様何分ノ回訓ヲナスコト困難ナルヘシト存スルニ付右御含置相成ルト共ニ連盟首脳部ニ対シテハ前記ノ通り四國公使カ現地ニ於テ種々斡旋ニ努メ居ル際（尙ホ在支公使來電第七一六号ノ二ノ前段ヲモ可然御利用相成度）十九人委員会側ニテ早マリタル措置ニ出テ却テ事態ノ紛糾ヲ來スカ如キコトナキ様注意ヲ喚起シ置カレ度

米、支、奉天、北平、南京ニ転電セリ  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

308 昭和7年4月26日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）  
芳沢外務大臣より  
（三〇文書）

#### 上海停戦交渉に関する回訓について

第一八八号 暗、大至急  
（三〇文書）

往電第一八六号ニ閑シ

今二十六日晚中ニ回訓發電シ得ル見込不取敢（二十六日午後九時）

米、支、北平、奉天、南京ニ転電セリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

309 昭和7年4月(27日) 芳沢外務大臣宛（電報）  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

#### 中国のランプソン案受諾説に関するマクドナルドとの会談について

第四一四号（大至急、極秘）

松平大使ヨリ

二十六日朝「マクドナルド」ノ求ニ依リ会見シタル処昨日「ランプソン」ヨリ電報入り過日重光公使ト協議ノ案ヲ齎シテ南京ニ赴キタル處南京政府当局ハ遂ニ右案ヲ受諾セル趣ノ處右ニ閑シ日本政府ヨリ何等訓令ニ接セラレタリヤト尋ネタルニ付本使ハ日本代表部ニテハ未タ何等訓令ニ接シ居ラス重光公使ヨリ本省ニ報告シ更ニ當方へ訓令シ来ルヘキニ付「ラ」ノ電報ヨリ當然遅ルルコトト思ハルト述ヘタル処「マ」ハ當方十九人委員会ノ開催ヲ延ハシ居ル關係モアリ成ルヘク速ニ右案ニ依リ妥協成立セル趣ヲ以テ同委員会ニ臨マハ第十一項ニ対スル困難ハ直ニ除去スルコトヲ得ヘク若シ其内容事前ニ洩ルルニ於テハ「ジユールナル・ド・ジユネーブ」等ハ又復惡宣伝ヲ試ムヘキニ付速ニ処置

ヲ執リ一氣呵成ニ片付クル事得策ト思考ス右案ハ「ランプソン」、重光両公使等ノ協議ノ結果ナルニ付日本政府ニ於テモ承認シ居ラルコト思ハル万「ラ」ノ努力ノ結果南京側ヲ説得セシメタル後ニ於テ日本政府カ之ヲ承認セサルカ如キ事アラハ容易ナラサル結果ヲ起スヘシトテ此点心配シ居ル様見受ケラレタリ依テ本使ハ右ノ次第ハ至急東京ニ電報スヘキ旨述ヘ引取リタリ

米、支、在欧各大使（土ヲ除ク）ヘ転電セリ

310 昭和7年4月(27日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

#### 十九人委員会公開會議開催に関するイーマン

スとの会談について

第四一七号（大至急）

長岡代表ヨリ

一、二十六日「イーマンス」ノ求メニ依リ往訪「イ」ヨリ本日午後十九人委員会ヲ開催ノコトトナリ居レル次第ヲ述ヘタルニ付本使ヨリ支那側ハ先日御耳ニ入レ置キタル協定案ニ承諾ヲ与ヘタル由ナルカ右ニ閑スル日本側ノ情

報ハ未タ入り居ラサルモ多分二十七日ニハ之ヲ承諾セリトノ正式ノ通告ヲナスコトヲ得ヘシト期待シ居レリト述べテ「イ」ノ参考迄トシテ付属書第四ニ新案ヲ加ヘタルモノヲ手交シ置キタリ右ハ往電第四（三〇文書）「マクドナルド」モ心配シ居ルカ當方ヨリ早キニ及テ処置シ置カサルニ於テハ十九人委員会乃至支那側ニ種々策動ノ余地ヲ与フルヲ慮リシカ為ナリ右ニ対シ「イ」ハ支那側ヨリ新案ヲ承諾セリトノ通知ハ未タ得居ラスト述ヘタルカ本使ヨリ事態斯ノ如クナルニ付今日ノ十九人委員会ハ之ヲ延期スル方機宜ニ適スヘシト述ヘタルモ之ヲ極端派ニ承諾セシムル見込ナキ模様ニ見ヘタリ

二、「イ」ハ自分トシテハ十九人委員会ノ公開會議ハ開クヲ欲セサル次第ナルモ一般ノ空気ハ之ニ反対ニシテ実ハ毎日ノ様ニ委員会ノ一部ノミナラス種々ノ方面ヨリ何日ニ開催スルヤヲ追求セラレ困リ居レリト述ヘタリ本使ハ委員会ヨリ總会ニ出スヘキ報告期日タル五月一日迄ニ最早幾何ノ余日モ無キニ付委員会トシテハ唯支那ノ要求ニ依リ委員会ヲ開キ上海ニテ協定纏リタル旨ヲ確認シ同時ニ右協定カ三月四日ノ決議ノ精神ニ一致スルトノ趣旨ノ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

報告ヲ総会ニ提出シ此報告披露ノ為五月中ニ総会ヲ開催シテハ如何ト試問セルニ（十九人委員会出席方ニ付テハ累次訓令ノ次第アリ総会ナラハ日本側トシテ好都合カト思ヒ右ノ通言及シタリ）「イ」ハ総会ニ於テ言論ノ「コントロール」ヲ為スコトハ自分ニハ到底不可能ナリ何分多人数ノコトナレハ如何ナルコトヲ言ヒ出スモノアルヤモ計リ難ク右ハ甚タ好マンカラス十九人委員会ナラハ何トカ好都合ニ物ヲ運フ余地モアルヘシト考フルニ依リ此ノ處自分ニ委セ貰ヒタク自分ノ考案ニテハ十九人委員会ノ「リポート」ヲ総会ニ提出スルニ止メ総会ハ開カサル積リナリト述ヘ居リタリ

土ヲ除ク在欧米各大使及在支公使ヘ転電セリ

311 昭和7年4月(27日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
往電(三一〇文書) 第四一七号ニ閑シ

二十六日午後「ドラモンド」ハ杉村ニ対シ十九人委員会ノ話について

第四二〇号（暗、大至急）

312 昭和7年4月(27日) ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

停戦協定案一部修正方について

第四二一号（大至急、極秘）

往電(三一〇文書) 第四二〇号ニ閑シ

長岡、佐藤両代表ヨリ

十九人委員会ニ於テハ最初ヨリ協定案第四付属書第一項ノ辞句ニ付疑問ヲ抱キ決議案第十一項後半モ多数決ノ点ヲ明カニスル為挿入セラレタルモノナルカ今回ハ協定案第四付属書末段ニ在支公使発閣下宛電報(三九五文書) 第七一七号ヲ追加スルニ當リ in accordance with 云々ノ辞句ヲ挿入シ此ノ場合ニモ多數決ニ依ルモノナルコトヲ明カニセントスル趣旨ナル處既ニ閲議等ニ於テ右在支公使発電報第七一七号ノ辞句ニテ受諾ヲ決セラレタルコトト察スルニ付テハ今更本辞句ノ挿入ニハ御困難ノ事情モ之アルヘシト思考スルモ本辞

決定ニ付左ノ如ク内話シ之ヲ東京ニ電達方依頼セル由一、十九人委員会ニテハ上海問題ニ付微細ノ点ニ亘リ審議ヲ遂ケタルカ（満州問題ハ審議セス）日支両國ノ基礎タルヘキ案ハ「ランプソン」公使カ決議案第十一項ニ代ルモノトシテ当地ニ電報シタル案（支発閣下宛電報(二九九文書) 第七二五号）ト了解ス即チ in accordance with……ヨリ the said Annex ノ句ヲ包含スルモノトス（該字句ハ多數決ニ閑スル規定ヲ此ノ場合ニモ及ホサントル支那側ノ要求ニ出ツルモノナル由ニシテ之ヲ協定中ニ掲ケントスルモノナリ）

二、十九人委員会ノ意見ニテハ在支発閣下宛電報(二九九文書) 第七二五号ノ「ランプソン」案ハ協定ニ対シ解釈ヲ与フルカ如キ形トナリ居ル處斯ル形式ハ面白カラサルニ付上海ニテ明日中ニ報告セラレンコトヲ望ム右報告ニ接シタル時ハ十九人委員会ハ之ヲ「テーク、ノート」スル形ニテ決議案ヲ作成ス可ク第十一項後半ハ自然消滅スヘシ

三、十九人委員会ハ木曜日（二十八日）ニ秘密会ヲ開キ（当事者ハ出席セス）右上海ヨリノ報告ニ基キ決議案ヲ作リ直シ金曜日（二十九日）ニ十九人委員会公開會議力士ヲ除ク在欧米各大使及支ヘ転電セリ

313 昭和7年4月(27日) 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

停戦協定案字句挿入方について

第四二三号（暗、大至急）

往電(三一二文書) 第四二二号ニ閑シ

貴電(三一四文書) 第一八九号接到右ハ冒頭往電ト行違ヒトナリタル次ナル處貴電御訓令執行ニ当リ何等「コンフュージョン」ヲ避クル為右往電ニ対スル御意見承知シ置キ度ク既ニ御手配中ノ事ト察スルモ何分ノ儀大至急御回訓ヲ請フ在支公使ヘ転電セリ

314 昭和7年4月27日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

十九人委員会決議案第八、第十一、第十三項  
に対する我方態度について

第一八九号 暗、大至急

貴電第三九号、第四〇三号、第四一一号及在支公使來電  
(二九九文書)

第七二四号ニ関シ

長岡大使へ

我方ハ十九人委員会ニ於テ上海停戦協定案カ総会決議ノ範  
囲内ナルコトヲ認メタル以上同委員会ハ該協定案ヲ其ノ儘  
上海ニ「レフアーバック」スヘキモノニシテ其ノ具体的内  
容ノ変更ニ付指図スヘキ筋合ニ非ストノ主張ヲ堅持スルモ  
同時ニ出来得ル限り円満解決ヲ計ル趣旨ヲ以テ本件十九人  
委員会決議案ニ対シテ左記ノ態度ヲ執ルコト致度右可然  
御取計相成度

一、決議案第十一項ハ貴電第四一一号ニ依レハ take note  
that the two parties have agreed that the commission  
shall be authorised to call attention to any neglect  
in the carrying out of any provisions of the three  
articles above mentioned ムノ趣旨トナル次第ナル処右  
ハ單ニ事実ヲ述フルモノナルニ付差支ナン（在支公使來  
電第七二四号ニ依レハ「ランプソン」ハ同公使來電第七  
九九文書）  
二五号ノ如キ案文ヲ貴地ニ電報セル趣ナル処右ハ十九人  
委員会決議案受諾方稟申について

単ニ「我方ニ於テ本件決議ノ成立ヲ「テーク、ノート」  
スルト共ニ上海停戦交渉ノ成功ハ本案我方ノ希望スル所  
ナルニ付之カ急速成立ニ努ムヘキ」旨述ヘラレ度  
米、支、北平、奉天及広東ニ転電シ支ヲシテ南京、上海ニ  
転報セシム  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

315 昭和7年4月(28日) ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

#### 十九人委員会決議案受諾方稟申について

第四二六号(大至急極秘)

長岡代表ヨリ

貴電第一八九号ノ(二)ニ依リ出席問題ニ關シ十九人委員会ト  
ノ正面衝突ヲ避ケ得ラル事トナリタルハ真ニ欣幸ト存ス  
ル處我方ハ十九人委員会決議ニ拘束セラレタル建前ヲトル  
以上同委員会決議案ニ対シ諾否ヲ述フル事ハ不可能ナリト  
スル御趣旨ハ當方ニ於テモ能ク了解シ得ラル處ナルモ決  
議案ノ内示ヲ受ケ第一項ノ削除等ニ關シ種々注文ヲナシ  
英國側カ我方ノ意ヲ汲ミテ斡旋ノ労ヲトリ兎ニ角我方ニ於

委員会カ上海ニテ成立セル停戦協定案ニ注釈ヲ加フル形  
式トナリ面白カラサルノミナラス同案ハ我方カ未タ在支  
公使來電(二九五文書)第七一七号ノ「ランプソン」案ヲ受諾セサル建  
前ニテ立案シアリテ在支公使宛往電第二六四号ノ通り我  
方カ之ヲ受諾セル現在ノ事態ニ合致セサルニ付決議案ノ  
辞句ハ矢張リ右貴電第四一一号ノ形トスルコトトセラレ  
度)

二、尚ホ決議案ハ第八項及第十三項ハ勿論其他種々我方ノ  
意ニ添ハサルモノアルモ後掲三ノ如ク我方ハ本来十九人  
委員会決議ニ拘束サレサル立場ヲ執ルモノナルニ付右等  
ノ点ハ此ノ際特ニ問題トセサルコトト致スヘシ

三、將又我方ノ十九人委員会出席問題ニ付テハ成ル可ク沢  
田局長其他ヲ説明者トシテ出席セシムルコトト致度モ連  
盟側ヨリ強テノ希望アルニ於テハ貴大使ニ於テ十九人委  
員会ニ出席セラレ差支ナン尤モ我方ニテハ規約第十五条  
ニ関シ留保シ居リ又三月十一日總会決議當時ノ経緯モア  
ルニ付右何レノ場合ニモ出席ニ当リテハ予メ右我立場ヲ  
適當ノ形ニテ留保シ置クコト致度又該決議成立ノ際何  
等發言ノ要アルニ於テハ之ニ対シ諸否ヲ述フルコトナク

テ上海停戦交渉ヲ締結スルニ支障ヲ來ササル如キ決議案ヲ  
得タル今日単ニ之ヲ「テーク、ノート」スルニ止ムル時ハ  
斡旋ノ労ヲトリタル英國側ニ対シ頗ル不快ノ感ヲ与ヘ今後  
ノ対英關係ニ付眞ニ面白カラサル影響ヲ与フル事トナル次  
第ナルヲ以テ(松平大使ト共ニ「サイモン」ト会談ノ際両  
人均シク以上ノ如キ印象ヲ得タリ)三月四日ノ總会決議ハ  
上海交渉ヲ指導スル基幹ナレハ十九人委員会決議案カ右決  
議ノ精神ニ一致スル場合ニ於テノミ有効トナルヘキモノト  
スルノ一般的留保ノ下ニ決議ヲ受諾スル事ト致シ度シ右ハ  
十九人委員会公開會議ノ場合ヲ予想シタルモノナルモ往電  
第四二五号ノ通り總会ヲ開キ本件決議案ヲ總会決議トシテ  
採択スル場合ニ於テモ前記ノ方針ニ依リ之ニ対シ棄権ヲナ  
ス事ナク受諾スル事ト致度ク支那問題ニ關シ閔税會議以來  
英國ト手ヲ切りタル我が國カ今回事變ノ当初甚々苦シキ立場  
ニ置カレタルハ御承知ノ通リナル処近年接近ノ氣運醸成シ  
來リタルヲ幸ヒ握手ノ行程ヲ辿ラル事我對支政策ノ遂行  
上極メテ緊要事ト存スルニ就テハ右ノ点ヲモ御考慮ノ上措  
置振至急御回示アリ度シ  
在歐米各大使(土ヲ除ク)支ヘ転電セリ

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## 十九人委員会決議案第十一項の処理について

第四二七号(大至急)

(三二文書)往電第四二一號ニ閔シ

長岡佐藤兩代表ヨリ

一、「ランブソン」ト支那側トノ話合ニ付其後「ドラモンド」カ杉村ニ語ル處ニ依レハ支那側ハ在支公使発閣下宛電報第七二五号 in accordance with.....in this and annex ノ字句ヲ上海協定第四付属書中ニ挿入セストモ右

ヲ十九人委員会決議第十一項中ニ挿入シ得ルナラハ之ヲ承認スル意向アル模様ナルニ付テハ冒頭往電稟申ノ件ハ

右ノ趣旨ニテ御詮議相成ルモ差支無シ

二、尚右事情ニ鑑ミ二十七日午後「サイモン」ハ「ドラモンド」ノ希望ニ依リ「ランブソン」宛ニ第四付属書末段ニ在支公使発閣下宛電報七一七号ノ文句付加方ニ付日支兩國ノ承認ヲ取付ケタル時ハ其趣ヲ直ニ寿府ニ回電方電訓スルコトトナリタル趣ナルカ十九人委員会ハ明二十八

317 昭和7年4月28日

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## マクドナルド、サイモンとの会談について

マクドナルド、サイモンとの会談について  
ジユネーヴ 4月28日前發  
本 省 4月28日後着  
松平大使ヨリ

第四二八号(暗、大至急、極秘)

二十七日午前「マクドナルド」(「サイモン」今朝帰来同席)ヲ往訪シ帝国政府ハ重光公使ニ対シ「ランブソン」公使取極ノ案ヲ承認スル旨同公使ニ通告方訓令シ重光公使ハ右訓令ヲ執行シタル旨通報シ且帝国政府ハ十九人委員会決議第十一項ノ文句ニ付テハ「ラ」公使ノ案(支発閣下宛電報第七二五号)ヲ不可トシ単ニ「テークノート」ノ形ヲ以テ上海協定ノ文句其ノ儘ヲ書入ルルコトヲ希望シ居ル旨ヲ述ヘ一旦別レタル後長岡大使ト共ニ「サイモン」及「プラット」ニ会見我方ノ主張ヲ詳細説明シタル處「サイモン」ハ最初第十一項ニ閑スル「ラ」案ヲ固ク主張シ居リタルモ結局我方ノ希望スル形ニ於テ纏ムルニ尽力スルコトヲ約シ別レタリ然ルニ同夜ニ至リ「サイモン」ハ重要ナル事件ニ付俄カニ会見シタキ旨申來リタルニ付本使往訪シタル處「サイモン」ハ今夕「ドラモンド」ヨリ仄聞スル所ニ依レハ日本側ニ於テハ決議案第十一項ノ文句ヲ日本側希望通り決定セラレタリトスルモ最後ニ於テ同意ヲ与フルコトナク單ニ「テークノート」スルニ止メントスル意見ナル由(右ハ杉村公使ヨリ「ドラモンド」ニ内話セル由)ナルカ若シ

右果シテ事實ナルニ於テハ自分並ニ英國政府ノ立場ハ頗ル

困難ニ陥ル可ク実ハ過去数ヶ月両國ノ問題ニ付テハ自分並ニ英國政府ハ隨分困難ナル立場ヲ忍ヒ日本側ノ為斡旋ノ旁ヲ執リタルハ御承知ノ通ニテ其ノ為當地方ノ新聞ノ如キハ自分ニ対シ甚タシキ批難ヲ加ヘ居ル事モ御承知ト存スルカ自分ハ正ト信スル所ニ従ヒ行動シ「ラ」ハ態々南京ニ赴キ日本側ノ都合好キ様支那側ヲ説得シ自分ハ又今朝來御希望ニ副フ様「イーマンス」「ドラ」等ヲ説キ出来得ル限りノ努力ヲ為シ結局日本側ニ都合好キ案ノ出来タリトスルモ日本ハ之ニ同意ヲ与ヘス唯聽キ流シ置カントスル事トモナラハ從来忠実ナル連盟ノ一員トシテ行動シタル英國ノ立場モナクスル次第ニテ自分並ニ英國政府ハ如何ニ批評セラルルヤ今日迄之ヲ知ラスシテ自分等カ事態ヲ斯ノ如キ處迄持チ來リタル事ハ全ク欺カレタル事トナリタル次第ナリトテ努メテ冷静ヲ装ヒ乍ラモ心中甚シク立腹シ居ルカ如ク見受ケラレタルニ付本使ハ既ニ右ノ如キ情報ヲ得ラレタルニ於テハ本使トシテモ極秘ニ御話スル次第ナルカ右ニ類スル訓令ハ事実長岡大使ノ許ニ到着シ居ルカ右ハ上海ニ於ケル協定ヲ誠実ニ履行スヘキコトニハ何等ノ渝リナキモ満州問題ニ関シテ将来十九人委員会又ハ連盟ニ於テ無法ノ干渉ヲ敢テ

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

スル場合ニハ我方ニ於テモ総会引揚ノ決意アルハ先般訓令ニ依リ御伝ヘシ置キタル通ナリ從テ今回ノ事ニ付テモ十九人委員会ノ權限ヲ認ムルカ如キ措置ヲ執ルトキハ将来滿州問題ニ付困難立場ヲ作ル虞アルコトヲ考慮シタル結果ト存セラル處英國側並ニ貴大臣カ今日迄為サレタル好意的斡旋ニ対シテハ我方ニ於テモ衷心感謝シ居ル所ニシテ貴大臣ヲ欺キ或ハ困難ナル地位ニ陥ルルカ如キ意向毛頭ナン右訓令今朝接到シタル處貴大臣御話ノ如キ困難起り得ヘキカト思ヘレタルヲ以テ今日長岡大使ヨリ政府ニ対シ意見ヲ上申シタル次第ニテ從テ此ノ点ヲ當方ヨリ打明クル迄ニ至ラサリン次第ナリト述ヘタル処「サ」モ之ヲ首肯シ滿州問題ニ付テハ自分モ之カ重大性ヲ充分承知シ居リ且同問題ニ關スル日本政府御決意ノ次第ハ承知シ居ルモ上海問題ニ付テハ性質ヲ異ニシ急速ナル解決ヲ希望シ居ラル事ト思考シ居リタル次第ナリ依テ若シ前述ノ如キ態度ヲ執ラル事カ今少シ前ニ知レ居リタルナランニハ自分等ニ於テモ斯ノ如ク深入リスル事ヲ避ケタルヤモ知レス右ハ單ニ自分等英國ノ立場ノミナラス日本ニ執リテモ必スヤ一般ノ空氣ハ極度ニ悪化ス可キ事ト思考スト述ヘ本使ハ長岡大使請訓ニ付

米、支ヘ転電セリ  
土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アレ

319 昭和7年4月28日 芳沢外務大臣より  
(三一五文書)  
※在ジユネイヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

総会において決議案採択の場合の対処方に  
いて

第一九二号  
貴電第四二六号ニ閲シ  
長岡理事ヘ

英國側トノ関係ニ閑スル貴見ハ一応尤モナルモ元来我方ハ「ランプソン」ニ於テ停戦交渉ノ決裂カ上海地方ノ治安及通商ノ回復ニ悪影響ヲ及ホスヘキコトヲ慮リ支那側ノ説得ニ努メタルニ報フル趣旨ヲ以テ多少ノ困難ヲ忍ヒ「ヲ」案ニ賛成シ英國側ノ面目ヲ立テタル次第ニテ右ハ日英協調ノ趣旨ニ合致スルモノト考ヘ居ル次第ナルカ本件決議案ニ付スル我方ノ態度ハ専ラ連盟規約ニ閑スル法理論ニ基クモノニシテ前記日英ノ関係トハ全然別個ニ考慮セラルヘク我方トシテハ右決議案中第八項、第十三項及三月十一日総会決

スル場合ニハ我方ニ於テモ総会引揚ノ決意アルハ先般訓令ニ依リ御伝ヘシ置キタル通ナリ從テ今回ノ事ニ付テモ十九人委員会ノ權限ヲ認ムルカ如キ措置ヲ執ルトキハ将来滿州問題ニ付困難立場ヲ作ル虞アルコトヲ考慮シタル結果ト存セラル處英國側並ニ貴大臣カ今日迄為サレタル好意的斡旋ニ対シテハ我方ニ於テモ衷心感謝シ居ル所ニシテ貴大臣ヲ欺キ或ハ困難ナル地位ニ陥ルルカ如キ意向毛頭ナン右訓令今朝接到シタル處貴大臣御話ノ如キ困難起り得ヘキカト思ヘレタルヲ以テ今日長岡大使ヨリ政府ニ対シ意見ヲ上申シタル次第ニテ從テ此ノ点ヲ當方ヨリ打明クル迄ニ至ラサリン次第ナリト述ヘタル処「サ」モ之ヲ首肯シ滿州問題ニ付テハ自分モ之カ重大性ヲ充分承知シ居リ且同問題ニ關スル日本政府御決意ノ次第ハ承知シ居ルモ上海問題ニ付テハ性質ヲ異ニシ急速ナル解決ヲ希望シ居ラル事ト思考シ居リタル次第ナリ依テ若シ前述ノ如キ態度ヲ執ラル事カ今少シ前ニ知レ居リタルナランニハ自分等ニ於テモ斯ノ如ク深入リスル事ヲ避ケタルヤモ知レス右ハ單ニ自分等英國ノ立場ノミナラス日本ニ執リテモ必スヤ一般ノ空氣ハ極度ニ悪化ス可キ事ト思考スト述ヘ本使ハ長岡大使請訓ニ付

東京ノ回答ヲ待チツツアル旨ヲ繰返シ別レタリ  
右様ノ(次第)ニ付若シ貴電第一八九号ノ三ノ通決議案ヲ単ニ「ティクノート」セラルニ於テハ今後日支事件ニ付英國政府ノ援助ヲ得ルハ到底困難トナルノミナラス「サイモン」就職以来漸次改善ニ向ヒツツアル日英関係ニモ重大ナル影響ヲ來ス虞アリ既ニ第十五条適用ニ付留保シ居ルニ拘ラス事上海問題ニ閑スル限り我方ニ大ナル支障ヲ來サル場合ハ總会決議ニモ賛成シ來リタル次第ニモアリ今回ノ問題カ右様ノ性質及経緯ナルニモ鑑ミ又対英國関係ノ重大性ニ顧ミ往電第四二六号長岡大使上申ノ次第篤ト御考慮ノ上何分ノ儀大至急御回電アリ度シ  
在欧米各大使(土ヲ除ク)支ヘ転電セリ

318 昭和7年4月28日 芳沢外務大臣より  
在ジユネイヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

停戦協定案一部字句挿入方承認について  
第一九〇号 暗、大至急  
貴電第四二一号ニ閲シ in accordance with 云々ノ辞句ヲ挿入スルコトハ差支ナシ

東京ノ回答ヲ待チツツアル旨ヲ繰返シ別レタリ  
右様ノ(次第)ニ付若シ貴電第一八九号ノ三ノ通決議案ヲ単ニ「ティクノート」セラルニ於テハ今後日支事件ニ付英國政府ノ援助ヲ得ルハ到底困難トナルノミナラス「サイモン」就職以来漸次改善ニ向ヒツツアル日英関係ニモ重大ナル影響ヲ來ス虞アリ既ニ第十五条適用ニ付留保シ居ルニ拘ラス事上海問題ニ閑スル限り我方ニ大ナル支障ヲ來サル場合ハ總会決議ニモ賛成シ來リタル次第ニモアリ今回ノ問題カ右様ノ性質及経緯ナルニモ鑑ミ又対英國関係ノ重大性ニ顧ミ往電第四二六号長岡大使上申ノ次第篤ト御考慮ノ上何分ノ儀大至急御回電アリ度シ  
在欧米各大使(土ヲ除ク)支ヘ転電セリ

318 昭和7年4月28日 芳沢外務大臣より  
在ジユネイヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

停戦協定案一部字句挿入方承認について  
第一九〇号 暗、大至急  
貴電第四二一号ニ閲シ in accordance with 云々ノ辞句ヲ挿入スルコトハ差支ナシ

昭和7年4月(29日)

※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

## 十九人委員会、総会における上海停戦決議案の取扱いに関する件

## の会談について

第四三〇号(暗、大至急)  
長岡代表ヨリ

一、求ニ依リ二十八日午後四時「ドラモンム」立会ノ上「イーマンス」ニ会見先方ヨリ五時ニ十九人委員会ヲ開催スルニ付テハ必要ナル情報アラハ承リ度シトノコトナリシニ付本使ハ実ハ只今上海ヨリ情報ヲ受取りタルカ之ニ依レハ上海ニテハ二十七日ヨリ起草委員ノ会合ヲ催シ条文ヲ整理シ右ハ本日午後三時ヨリ開カレタル非公式會議ニテ確認セラレタリトノコトニシテ我方ノ有スル情報ニ依レハ第三付属書ノ末項トシテ第二付属書第一項ヲ付加シ之ヲ第二付属書トシ從来ノ第四付属書ヲ第三付属書トシ其ノ末尾ニハ先日御見セシタル案(在支公使発閣下宛電報(一九五〇文書)第七一七号)ノ中 shall be authorised パ is

authorised パナシタルモノヲ付加スルコトヲ双方ニテ確認シタル由ナリ本来停戦協定案ハ當方ヨリ通告シタル行懸モアリ從テ決議案ニ変更ヲ加フル必要モ生スルナランカト思ハレ之ヲ通告スル次第ナリト述ヘタルニ「ド」ハ第四付属書ニ関スル「ランプソン」案ヲ受諾スルニ当リ支那側ハ何カ条件ヲ付セサリシヤト聞キタルニ付(之)ハ思フニ決議案第十一項中ニ in accordance にばノ字句ヲ存置スルコトヲ指スモノナルベシ)本使ハ当初ヨリ右ニ付テハ重光公使ヨリ何等ノ情報ニ接シ居ラス只今受取リタル電報ニモ何等此ノ点ニ触レ居ラスト答ヘタルニ「ド」ハ之ハ支那ノコト故日本ニハ何モ言ヒ來ラヌ次第ナルヘント言ベリ

(2)、次テ「ム」ハ決議案ニ対シ日本ハ如何ナル態度ヲ執ラルルヤト尋ネタルニ付本使ハ「イ」ニ対シ總会ヲ開クト云フ話ナルカ事實ナリヤト聞キタルニ「イ」ハ十九人委員会ノ公開會議ヲ開クニ付テハ種々ノ難関アリ最大ノ難関ハ同委員会ノミニテ為シタル決議ニ付之ニ加ハラサル一国ヨリ異議乃至反対出テタル場合同委員会ハ非常ナル窮地ニ陥ル虞アルコトニテ寧ロ總会ヲ開キタル方可ナリ

ト「ム」ニ落付キ土曜日(三十一日)ニ開クコトトナリタリ

ト述くタルニ付本使ハ總会カ開カルルト云フ話ハ昨日午

後初メテ耳ニシタル次第ニテ從テ今迄日本政府カ十九人

委員会ノ対策トシテ我々ニ訓令シ来リタル基礎ハ自ラ変

更スルコトトナル訳合ナルカ總会ニ於ケル措置振ニ付テ

ハ何等電報ニ接シ居ラスト答ヘ更ニ一体總会ニ於テハ如

何ナル段取ニテ議事ヲ進行セラルル御意向ナリヤト尋ネ

タル処「イ」ハ先ツ自分ヨリ決議案ヲ披露スルハ勿論ノ

コトナルカ若シ今日ノ十九人委員会ニテ異議無ク決議案

ヲ採択スレハ同委員会ノ「メンバー」ハ總会ニテハ發言

セサルベキモ他ノ代表カ發言ヲ要求スルヤ否ヤ何トモ確

言シ難シ又顏惠慶ハ必スヤ一言スヘク最後ニ日本代表カ

發言セラレ夫ニテ当日ノ會議ヲ打切ルコトスル積ナ

リト言ベリ  
支、米、在欧各大使(土ヲ除ク)ニ転電セリト  
支、米、在欧各大使(土ヲ除ク)ニ転電セリ昭和7年4月(29日) 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)十九人委員会決議案を總会の決議とする趣意  
字句変更箇所について

No. 432 (暗、Very Urgent)

11. Prend acte du fait qu'en vertu de ses pouvoirs, tel qu'ils sont définis à l'annexe 3 du projet d'accord, la commission chargée de veiller à l'exécution des articles 1, 2 et 3 de l'accord est autorisée à appeler l'attention, en prenant ses décisions de la manière stipulée à la dite annexe, sur toute négligence dans l'exécution d'une disposition quelconque des articles visés ci-dessus :

小国側ヨリ意地悪キ質問ヲ為シ其結果予期セサル事態ヲ招  
来セストモ限ラス就テハ此ノ際決議案ヲ承諾スルコト得策  
ト存セラルニ付今一応御考慮ノ上御回電ヲ請フ尚総会ハ三  
十日午前十時半開会ノ筈ナルモ御返電ニ依リ議長本使等ト  
予メ打合ヲ要スルコト少ナカラサルニ付出来得ル限リ速ニ  
御回電ニ接セハ好都合ナリ

la commission chargée de veiller à l'exécution des articles 1, 2 et 3 de l'accord est autorisée à appeler l'attention, en prenant ses décisions de la manière stipulée à la dite annexe, sur toute négligence dans l'exécution d'une disposition quelconque des articles visés ci-dessus :

在歐米各大使、支、(土ヲ除ク) へ転電セリ

322 昭和7年4月(29)日  
※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

昭和7年4月(29)日  
芳沢外務大臣宛(電報)  
在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より

第四三三号（暗、大至急）

往電第  
三四号  
(文書)  
三四三  
二号ニ  
関シ

貴電第一九二号御來示ノ趣ハ當方ニ於テモヨク諒解セラル  
ル処決議案中ニ引用セラレアル三月十一日總会決議ノ部分  
ハ上海事件ニ関スル丈ノコトナルコト明瞭ニ有之滿州ニ付  
テハ自ラ別問題ト存ス又第八項第十三項ハ貴電第一七〇号(一八四文書)  
ノ如ク不問ニ付スルモ實害ハ無之往電(三一七文書)第四二八号ノ次第モ  
アリ殊ニ相次テ「アブステンシヨン」ヲ為スハ其主義ニ付

同様之ヲ承諾スルトシテ南京當局中果シテ上海協定ニ調印  
ヲ為シ得ルモノアリヤ從来ノ歴史乃至現トノ事情ニ微シ相  
當疑アル処若シ支那側不調印ノ場合ニハ我方ノ立場ハ對支  
問題ノ全般ニ付非常ニ有利ニ展開スヘク此点モ併セテ御考  
慮ヲ煩度シ

324  
昭和7年4月(30)日  
※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

往電第四三五号ニ関シ  
松平大使ヨリ

上海爆弾事件に関するサイモン英外相より見舞  
申述べについて

政府並本人ヨリノ謝意有

松平大使ヨリ

11

二十九日「サイモン」來訪上海ニ於ケル爆弾事件ノ報ニ接シ英國政府並ニ外相個人ノ深厚ナル見舞ヲ述ヘ詳細ノ事情

※在ジオネリ・ウ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

述へ置キタリ尚同外相ハ当地滯在ノ「マクドナルド」首相

## 要請について

英、支へ転電セリ

二十九日 「サ

※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

テハ三月十一日決議引用ノ次第モアリ此ノ際総会投票ニ  
「アブステノ」スレコトトナレキ言話シタル処「サ一ハ

## 爆弾事件に対するサイモン英外相の見舞への謝意表明方について

第四三七号（暗）

サルニ於テハ右決議案ノ代リニ一層深刻ナル決議案ヲ提出セントノ議アリ自分等ハ之ニ対シ上海ニ於テ既ニ日支間ニ合意成立シ居ル趣ヲ以テ之ヲ抑フルニ努力シツツアル次第ナルニ付日本側ニ於テ賛意ヲ表セラルコトヲ切望スル処如何ニシテモ日本側ニ於テ「アブステンシヨン」ノ意思ヲ翻シ得サルニ於テハ上海ニ於ケル「ランプソン」案ニ付テハ日支間ニ合意アリタル旨ハ明カニ述ヘラレタシト言ヘルニ付本使ハ無論右ノ点ハ當方ニテ述フルノミナラス同地ニ於ケル協定ノ成立及之カ実行ニ付テハ誠実ニ努力スル旨ヲニ付テハ重ネテ内報スヘキ旨申置キタリ

支、在欧米各大使（土ヲ除ク）ニ転電セリ

327 昭和7年4月(30)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

十九人委員会決議案を総会の決議とする為の字句の変更箇所について

第四四〇号（暗、大至急）

二十九日午後ノ十九人委員会ニ於テ決定セラレタル総会決議案ハ往電第三九一號（<sup>(1)八文書</sup>）ノ決議案ニ左ノ通変更ヲ加ヘタルモ方トシテモ貴電第一九二號御訓示ノ通「アブステイン」ペル外無キモノト思考ス

尚往電第四三八號「サイモン」ノ希望モアルニ付決議案表決ニ際シ第四付屬書末項ノ付加ニ付日支間ニ正式ニ協定アリタル旨別電第四四三號ノ通声明ニ次テ貴電第一九二號末段ノ趣旨ヲ述ヘテ「アブステイン」スくシ御含置ヲ請フ（別電声明末段 en prenant ses décisions にタリ付加シタルハ貴電第一九〇號ノ次第モアリ我方ヨリ進ソテ之ヲ明言シ支那側ノ策動及小国側ノ雷同的言動ヲ抑止スルコト機宜ニ適スト認メタル為ナリ）

（別電）

ノリシテ右ハ三十日總會に提出セラルル筈  
一、冒頭ヲ the Assembly ュベ  
二、第二項ノ初 the Assembly ュ its ュベ  
三、第二項初 the special ラ its ュ終ノ special ラ削ル  
四、第三項中 Assembly ラ削ル  
五、第四項中ノ it ラ the committee of the Assembly ュス

六、第五、六項ハ変化無シ  
七、第七項中ノ Assembly ラ削ル  
八、第八、九、一〇項ハ変化ナシ  
九、第一一項ハ支発閣下宛電報第七一五號「ランプソン」案其ノ儘（即チ Is of opinion that ラ以テ始マス）  
一〇、第一一一項ノ to resume the negotiation at present in suspense ラ continue the negotiation ュス  
一一、第一三第一四項変化無シ  
支、在欧米各大使（土ヲ除ク）ニ転電セリ

328 昭和7年4月(30)日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛（電報）

10、第一一一項ノ to resume the negotiation at present in suspense ラ continue the negotiation ュス

11、第一三第一四項変化無シ  
支、在欧米各大使（土ヲ除ク）ニ転電セリ

ノリシテ右ハ三十日總會に提出セラルル筈  
一、冒頭ヲ the Assembly ュベ  
二、第二項ノ初 the Assembly ュ its ュベ  
三、第二項初 the special ラ its ュ終ノ special ラ削ル  
四、第三項中 Assembly ラ削ル  
五、第四項中ノ it ラ the committee of the Assembly ュス

六、第五、六項ハ変化無シ  
七、第七項中ノ Assembly ラ削ル  
八、第八、九、一〇項ハ変化ナシ  
九、第一一項ハ支発閣下宛電報第七一五號「ランプソン」案其ノ儘（即チ Is of opinion that ラ以テ始マス）  
一〇、第一一一項ノ to resume the negotiation at present in suspense ラ continue the negotiation ュス  
一一、第一三第一四項変化無シ  
支、在欧米各大使（土ヲ除ク）ニ転電セリ

決議案表决の際は棄権の申立てにて

別 電 同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢外務大臣宛第四四三號  
我が代表声明案

第四四一號（暗、大至急、極秘）

三大使ヨリ  
貴電拝承決議案第十一項カ在支公使発閣下宛電報第七一五號「ランプソン」案其ノ儘トナリタル次第ニモアリ最早當方トシテモ貴電第一九二號御訓示ノ通「アブステイン」ペル外無キモノト思考ス

（<sup>(1)六文書</sup>）「サイモン」ノ希望モアルニ付決議案表決ニ際シ第四付屬書末項ノ付加ニ付日支間ニ正式ニ協定アリタル旨別電第四四三號ノ通声明ニ次テ貴電第一九二號末段ノ趣旨ヲ述ヘテ「アブステイン」スくシ御含置ヲ請フ（別電声明末段 en prenant ses décisions にタリ付加シタルハ貴電第一九〇號ノ次第モアリ我方ヨリ進ソテ之ヲ明言シ支那側ノ策動及小国側ノ雷同的言動ヲ抑止スルコト機宜ニ適スト認メタル為ナリ）

（別電）

No. 443 (Daisikyu)

A réunion 28 avril les délégués japonais et chinois ont exprimé leur assentiment formel au dit projet, d'après lequel la Commission Mixte, chargée de veiller à l'exécution des articles 1, 2 et 3 de l'accord, est autorisée à appeler l'attention, en prenant ses décisions de la manière stipulée dans l'annexe, sur toute négligence dans l'exécution d'une disposition quelconque des articles visés.

ラス何等変リナシ」トノ趣旨（在支公使宛往電第二七〇号参照）ヲ貴地ノ状況ニ応シ御裁量ニ依リ付加セラレ度

~~~~~

330 昭和7年4月30日 ※在ジユネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

### 決議案第十一項に関する連盟側対処に不満の意表明について

第一九六号 暗、至急

長岡大使へ

（一）我方ニ於テハ本件決議ハ我方ヲ拘束スルモノニ非ストノ

建前ヲ執ルモノナルニ付決議案ノ辞句カ如何様ニ決定サ

ルルカハ根本論トシテハ閑心ヲ有セサル次第ナルモ在支

公使來電第七一七号ヲ停戦協定案第三付属書末項ニ付加

スルコトニ既ニ現地ニ於テ「アレンジメント」成リタル

ニ拘ラス（在支公使來電第七三二号及第七三八号ノ并並）

ニ貴電第四四二号中段（<sup>(三)九五文書</sup>）参考）連盟側ニテハ依然トシテ在

支公使來電第七二五号ノis of opinion云々ノ文案ヲ採

用セムトスル訳ナル處（而モ最後ノ瞬間ニ於テ右様決定

セリ）連盟側カ停戦協定ハ現地ニ於テ行フ外ナキコトヲ

認メツツ（決議案第一項前半参照）右現地ノ「アレンジメント」ヲ無視シテ事実ニ合致セサル is of opinion 云々ノ文案ニ執着スルハ我方ノ甚タ諒解ニ苦シム所ナリ（二）就テハ第十一項ハ矢張リ往電第一八九号ノ一 take note 云々ノ文案ニ变更スルコト肝要ト存スルモ時間切迫ノ折柄右変更方不可能ナルニ於テハ前記我方ノ根本的建前ニ顧ミ最早連盟側ノ為ス所ニ放任スル外ナカルヘキモ右（一）後半我方ノ主張ハ連盟首脳部ニ篤ト申入レ其ノ注意ヲ喚起シ置カレ度

支、北平、奉天、米ニ転電シ支ヲンテ南京、上海ニ転報セシム

土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ度

331 昭和7年5月1日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より（<sup>(三)一七文書</sup>）芳沢外務大臣宛（電報）

### 四月三十日の総会の経過について

第四四四号（暗、大至急）

本三十日午前十時半臨時総会開会往電第四四〇号決議案（第一項中 annex 4 & annex 3 ム訂正）ヲ採択シ（我

方棄権）同十一時半過散会セリ當日ハ議長ノ上海爆弾事件ニ對スル見舞ノ辭ニ初マリ又一般ニ上海問題ハ既ニ解決セ

ラレタリトノ感想ヲ抱キ居ル為カ会場ノ空氣著シク緩和シ

居リ日支代表ノ外決議案ニ関シ發言セル者一人モ無ク顔ノ

演説モ何ト無ク熱ヲ欠キ居リタルヤニ認メラレ「ボンクー

ル」「グラムヂ」「ブリュニング」等寿府ヲ去リタル後ノコ

トトテ此等諸国何レモ二三流ノ者ニテ代表セラレタリ唯

「サイモン」ノミ居残リテ議事ニ列シ決議案採択ノ後安心

シタル態ニテ長岡代表等ニ挨拶シ居リタルハ英國力如何ニ

本件ニ關心ヲ有シ居ルカヲ知ラシメタリ尚貴電第一九四号（<sup>(三)二九文書</sup>）

ハ長岡代表演説後接到シタル為声明中ニ入ルルヲ得サリキ

議事詳細追報

支、在歐米各大使（土ヲ除ク）ヘ転電セリ  
~~~~~

332 昭和7年5月1日 在ジユネーヴ沢田連盟事務局長より（芳沢外務大臣宛（電報））

### 総会に長岡、佐藤両代表出席について

第四四五号（暗）

三十日総会ニハ吉田大使來寿都合付カサリシニ付長岡佐藤兩代表出席セリ 瑞西ヘ転電セリ

期限等ニ付一時困難発生セルコト等ヲ述ヘタル上十九人委員会ハ四月十六日以来数回会合シ紛争ノ調停機関タル資格ニ於テ同十九日一ノ決議案ヲ作り日支両国代表ト交渉中上海ニ於ケル四国代表特ニ英公使ノ斡旋ニ依リ同地ノ商議好転シ上海協定案付属書第三ノ点ヲ説明シ最後ニ十九人委員会ノ権限及付属書第三ノ点ヲ説明シ最後ニ十九人委員会カ本総会ニ提出セル決議案ヲ読上ク  
 尚議長ハ十九人委員会ハ今後モ一般状況ニ関スル報告ヲ提出スル積リナル旨付言セリ

三、顏代表ハ次テ発言ヲ求メ上海交渉促進方ニ関シ理事会十九人委員会ニ依リ代表セラレタル総会及英、仏、伊ノ尽シタル努力ニ謝意ヲ表シ支那政府ハ常ニ友好国ノ提議ヲ容レ既ニ二月初メニ於テ日支問題解決ノ為ニ両国間ニ商議ヲ開催スルニ同意シタルニ拘ハラス日本ハ之ヲ拒絶セリ又三月「ケリー」提督ノ調停ニ依リ上海休戦協定ノ基礎作成ニ当リ日本ハ再ヒ之ヲ拒絶セルノミナラス却テ兵ヲ進メ悲ムヘキ侵略戦争ヲ惹起セリ其後停戦交渉ニ入り日本ハ之ニ政治的条件タル「セパレート、ノート」ヲ

尚議長ハ十九人委員会ニ於ケル日本軍ノ侵入カ支那ノ領土保全ニ違反スルモノナリトスル支那從来ノ見解ヲ何等更スルモノニアラサルト共ニ支那ハ規約及一般國際法ニ依リ享有スル一切ノ権利ヲ留保セントス而シテ支那ハ本決議案各項何レモ同様ニ重要性ヲ有スルコトヲ認ムモノナルカ特ニ第六、七、八、十、十三項ハ何レモ日本軍ノ撤退ヲ規定スルモノナルヲ以テ之ヲ重要視スルモノナリ尚十九人委員会及総会ハ今後モ引続き本決議及從来ノ決議ノ実施ヲ確保スル為メ充分努力セラレ度シト述フ

四、議長ハ次テ一般代表ノ発言ヲ求メタルモ之ニ応スルモ

ノナシ依テ長岡大使登壇シ別電第四四八号ノ通声明スル外他ノ世界諸国ハ何レモ本案ニ賛成ス依テ議長ハ議事規則第十九条ニ依リ棄権ハ欠席ト認ムルニ付本決議案ハ全会一致ヲ以テ採択セラレタリト宣言シタル後休戦協定案ニ就キ日支両国政府間ニ同意成立セル以上右協定ハ忠実ニ履行セラルベク且速ニ署名セラルヘキモノナリト念考押シ次テ十九人委員会事務総長英仏伊米ノ四国政府ハナシタル努力ニ就キ謝意ヲ表ス

六、右ニ対シ英國代表「サイモン」ハ総会一回ヲ代表シ議長ニ謝意ヲ表シ最後ニ議長ハ本臨時総会ハ今後召集アル迄停戸スト宣言シ本日ノ総会ヲ終了セリ

(附 電)

No. 448

Je n'ai guère besoin de vous dire que le Gouvernement japonais a toujours eu le plus vif désir de voir couronnées de succès les négociations qui se poursuivaient à Shanghai sur la base de la résolution du 4 mars de l'Assemblée. Depuis le début de ces négociations, mon

持出シタルカ右ハ幸ニシテ十九人委員会ニ於テ否定セラレタリ而シテ先週中十九人委員会ハ日本軍ノ撤退期間ヲ定メントスル決議案ヲ一応採択セルモ日本ハ再ヒ之ヲ拒否セリ斯ノ如ク日本ハ常ニ連盟及関係国ノ提議ヲ拒絶セルニ拘ハラス今般停戦商議ノ再開ヲ見ルニ至リタルハ偏ニ支那カ重大ナル讓歩ヲ為シタル為メニ外ナラス現在ノ協定案ハ從来ノ諸案中支那ニ取り最不利ニシテ且不公正ナルモノナルモ支那政府ハ平和ノ再建ヲ熱望スル余リ之ニ同意スルコトセリ而シテ支那カ本決議案ヲ受諾スルコトハ支那領土内ニ於ケル日本軍ノ侵入カ支那ノ領土保全ニ違反スルモノナリトスル支那從来ノ見解ヲ何等更スルモノニアラサルト共ニ支那ハ規約及一般國際法ニ依リ享有スル一切ノ権利ヲ留保セントス而シテ支那ハ本決議案各項何レモ同様ニ重要性ヲ有スルコトヲ認ムモノナルカ特ニ第六、七、八、十、十三項ハ何レモ日本軍ノ撤退ヲ規定スルモノナルヲ以テ之ヲ重要視スルモノナリ尚十九人委員会及総会ハ今後モ引続き本決議及從来ノ決議ノ実施ヲ確保スル為メ充分努力セラレ度シト述フ

四、議長ハ次テ一般代表ノ発言ヲ求メタルモ之ニ応スルモ

reconnaissance à l'égard des représentants civils, militaires et navals de la Grande-Bretagne, des Etats-Unis, de la France et de l'Italie qui, dès le début, ont pris part aux pourparlers dont les bons offices ont apporté à l'élaboration d'un projet d'accord, une contribution dont nous ne saurions exagérer l'importance.

D'après des informations qui me sont parvenues, le ministre des Etats-Unis, d'abord et le ministre de la Grande-Bretagne ensuite, se sont rendus tous récemment de Shanghai à Nankin en vue de résoudre les difficultés qui avaient surgi. Les efforts de ce dernier ont réussi à obtenir l'acceptation par les deux parties du texte connu sous le nom de (projet Lamson). A la réunion du 28 avril dont j'ai fait mention tout à l'heure, les délégués japonais et chinois ont exprimé leur assentiment formel audit projet, d'après lequel la commission mixte, chargée de veiller à l'exécution des articles 1, 2 et 3 de l'accord est autorisée à appeler l'attention, en prenant ses décisions de la manière stipulée dans l'annexe, sur

toute négligence dans l'exécution d'une disposition quelconque des articles visés.

La délégation japonaise ne se croit cependant pas en mesure de donner sa voix au projet de résolution qui est actuellement devant nous et se borne à s'abstenir dans le vote, étant donné que le Gouvernement du Japon maintient la position de réserve qu'il a toujours cru devoir observer relativement à l'application de l'article 15 du Pacte au conflit sino-japonais. Mais je puis assurer l'Assemblée que cette attitude ne changera en rien la ferme volonté de mon Gouvernement de faire tout ce qui dépend de lui pour que la négociation en cours à Shanghai aboutissent dans le plus court délai.

(對 聲)

國民十日體會總會へ送呈シテ於纏

The Assembly,

1. Considering that its resolution of March 4th and 11th recommending that negotiations should be entered into by the Chinese and Japanese representatives, with

the assistance of the military, naval and civilian authorities of the Powers having special interests in the Shanghai Settlements, for the conclusion of arrangements which shall render definite the cessation of hostilities and regulate the withdrawal of the Japanese forces;

2. Considering that while it is not for its Committee to take the place of the negotiators since the arrangements contemplated in the Assembly resolutions of March 4th and 11th can only be concluded on the spot, every Power represented in these negotiations is entitled, should serious difficulties be encountered in the course of the negotiations or in the carrying out of the above-mentioned arrangements, to notify the Committee "which exercises its functions on behalf of and under supervision of the Assembly" of those difficulties;

3. Considering that the negotiations should be pursued in accordance with the above-mentioned resolutions, no one of the Parties being entitled to insist on con-

ditions which would be incompatible with the said resolutions;

4. Having noted the Articles of the draft armistice which have been communicated to the Committee of the Assembly and have been accepted by the two Parties;

5. Considers that these Articles conform to the spirit of the said resolutions;

6. Notes in particular that under Article 3 of the said draft, the Japanese Government undertakes to carry out the withdrawal of its forces in the International Settlement and the roads outside the Settlement in the Hongkew district as before the incident of January 28th 1932;

7. Declares that it is in accordance with the spirit of the resolutions of March 4th and 11th that this withdrawal should take place in the near future;

8. Declares that the resolution of March 4th will only have been fully complied with when the Japanese

forces have been entirely withdrawn;

9. Notes that the draft agreement provides for the establishment of a joint Commission, including neutral members, to certify mutual withdrawal and to collaborate in arranging for the transfer from the evacuating Japanese forces to the incoming Chinese police, who will take over as soon as the Japanese forces withdraw;

10. Notes with satisfaction that the said Commission will in accordance with its decisions watch in such manner as it deems best the carrying out of Article 1, 2 and 3, of which the last-named provides for the complete withdrawal of the Japanese forces as before the incident of January 28th;

11. Is of opinion that the powers, as defined in Annex 4 to the draft agreement, of the Commission which is to watch the carrying out of Articles 1, 2 and 3 of that agreement include authority to call attention, in accordance with its decisions taken in such manner as is provided in the said Annex, to any

neglect in the carrying out of any of the provisions of the Articles mentioned above;

12. Earnestly recommends the Parties in question to continue the negotiations, with a view to reaching their rapid conclusion, and requests the Governments having special interests in the Shanghai Settlements to continue to lend their good offices for this purpose;

13. Expressly points out that unless a conclusion is reached as laid down in the resolutions of March 4th and 11th, the question will necessarily come up again before the Assembly;

14. Requests the Governments of the Powers having special interests in the Shanghai Settlements to transmit to the League of Nations the information which will be in the possession of the Mixed Commission in virtue of its functions, and will be furnished to those Governments by their respective representatives on the Commission.

### 事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

is opinion はく々文案は御不同意ノ次第ハ貴電第一八九号  
ヘ一括弧内は依リ充分ニテ承知セル付電第四一八号  
「キイモハ」ト似見ノ際 take note はくタト決定スル様申入  
レ最初之ヲ余程難色アリシモ遂ニナリ同意シ十九人委員会  
ニ於テモ斯ノ如ク進行セル歎新聞ニテ我方棄権ノ態度屢々  
伝ハラタル為最後ノ十九人委員会ニテ支那側ノ主張採用

334 昭和7年5月(1) 在ジネーヴ沢田連盟事務局長  
芳沢外務大臣宛(電報)  
我が代表の総会出席通知函ハシト  
第四四九号(暗)  
(1)九文書 貴電第一九一一号中段ハ閣シ一十九日付事務総長宛書面ハ規  
約第十五条ハ閣ベル留保ハトシ総会出席ノ旨通知ベ  
~~~~~  
335 昭和7年5月(2) 在ジネーヴ沢田連盟事務局長  
芳沢外務大臣宛(電報)  
我が声明案作成事情にハシト  
第四五一号(暗)  
(1)九文書 貴電第一九六号ハ閣シ  
長岡代表ヨコ  
~~~~~

ヘコムニ決定シタルロト存セラントルヲ以テ右ハ最早連  
盟側ノ為ス所ニ放任シ当方トシテハ往電第四四八号当方ノ  
声明ハ依リ御承知ノ通り全クナリ取合ハサルコトシタル  
次第ハ此上御示ノ趣旨ハ付連盟首脳部ノ注意ヲ喚起ス  
ルハ却テ当方声明ノ威力ヲ損ハ所以ト存スルニ付本件ハ此  
儘ニ放任シ置キ度ク右御諒承ヲ請フ  
本使本日已里ニ引揚ケ来ル九日通常理事会出席ハ為再ヒ當  
地出張ハ積リ  
支 在欧米各大使(土ヲ除ク)ト転電セリ  
~~~~~

336 昭和7年5月(2) 在ジネーヴ沢田連盟事務局長  
芳沢外務大臣宛(電報)  
十九人委員会の総会出席通知函ハシト  
第四五一号  
~~~~~

一十九日ノ委員会ニ於テ決定セラタル総会ニ対スル報告  
ヘ三十二日総会ハ直前各代表ニ配布セラレタルカ該報告ハ大  
要冒頭ニ於テ本報告ハ三月十一日総会決議第三章第五項丁  
ノ報告ナルコトヲ明カリスルト共ニ同決議同項(七)ノ報告ハ  
近クナラ配布スル予定ナル旨ヲ記シ次  
一、上海事件ニ閣シ日本軍ノ大部分ハ既ニ撤退セルコト及

事項1 上海事変の勃発と停戦協定の成立

中立国報告ニ依レハ日支両軍ノ敵対行為停止ノ命令ハ大体ニ於テ引続キ履行セラレ居ルコト日本側ハ支那軍ノ蘇州河以南ヨリ北方ニ向ヒ進出セルコトニ付注意ヲ喚起シタルコト支那側ハ停戦協定ノ成立ヲ見サル限り一般状勢ノ平静ハ確保セラレサル次第ヲ主張シ居ルコト等ヲ述ヘ二、次テ三月四日総会決議以来ノ上海停戦交渉ノ概略及右ニ関シ十九人委員会ノ執リタル措置ヲ略記シ最後ニ上海公使ノ仲介ニ依リ日支間ニ協定成立シタル次第ヲ記述セルモノナリ

該報告全文郵送ス

在欧各大使ニ郵送シ米、支へ転電セリ

337 昭和7年5月2日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

連盟代表に対する表謝について

第一九七号(暗)

三大使ヘ

今次十九人委員会及總会ハ貴大使等、沢田局長以下及杉村

29日ノ十九人委員会ニ於テ總会決議第十一項ニ付在支公使發閣下宛電報第七二五号ヲ其ノ儘採用シタル事情ニ関シ二日杉村ノ問ニ對シ「ドランポン」ハ顏惠慶ト「ランブソン」カ南京ニ赴キタル際支那當局トノ問ニ「支那ハ總会カ前記「ラ」案ヲ採用スル事ヲ条件トシテ第四付屬書末項ニ在支公使發閣下宛電報第七一七号ヲ付加スル事ヲ同意ス」トノ趣旨ノ話合纏マレル次第ナルヲ以テ若シ總会決議第十一項カ右ノ通トナラサルニ於テハ支那ハ決議全体ヲ承諾シ得ストテ「ド」及「イーマンス」ニ迫リタル為「ド」等ハ此ノ点ハ實質上ハ馬鹿ラシキ問題ト思考シ居ル次第ナ

338 昭和7年5月4日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

総会決議にランブソン案採用の事情について

第四五四号(暗)

往電第442号ニ関シ

29日ノ十九人委員会ニ於テ總会決議第十一項ニ付在支公使發閣下宛電報第七二五号ヲ其ノ儘採用シタル事情ニ關シ二日杉村ノ問ニ對シ「ドランポン」ハ顏惠慶ト「ランブソン」カ南京ニ赴キタル際支那當局トノ問ニ「支那ハ總会カ前記「ラ」案ヲ採用スル事ヲ条件トシテ第四付屬書末項ニ在支公使發閣下宛電報第七一七号ヲ付加スル事ヲ同意ス」トノ趣旨ノ話合纏マレル次第ナルヲ以テ若シ總会決議第十一項カ右ノ通トナラサルニ於テハ支那ハ決議全体ヲ承諾シ得ストテ「ド」及「イーマンス」ニ迫リタル為「ド」等ハ此ノ点ハ實質上ハ馬鹿ラシキ問題ト思考シ居ル次第ナ

ルヲ以テ支那側ノ切望ニ顧ミ「ラ」案ヲ採用シテモ大シテ変リ無カル可シト認メ急ニ変更シタル次第ナル旨説明シ居リタル由

支、米、在歐州各大使(土ヲ除ク)へ転電セリ

339 昭和7年5月4日 芳沢外務大臣より  
在英國沢田臨時代理大使宛(電報)

上海停戦交渉成立に関する英國政府への表謝

について

第五五号(暗)

上海停戦協定調印ノ公電ニ接シタル上ハ直ニ左記趣旨ニ依リ帝国政府ノ謝意ヲ公文ヲ以テ英國政府ニ申入アリタン

今次協定ノ成立ハ「ランブソン」公使ニ於テ終始多大ノ尽力ヲ為セルニ負フ所尠カラス同公使カ東亞ノ平静回復ノ為メ為シタル寄与ハ帝国政府ノ衷心敬意ヲ表シ且多トスル所ナリ其他ノ関係英國文武官憲ノ尽力亦帝国政府ノ深ク多トスル所ナリ

支、北平、奉天、南京、寿府、米ニ転電シ寿府ヲシテ仏、伊ニ転電セシメタリ

340 昭和7年5月5日 在上海重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海停戦協定の調印について

第八〇九号(暗、大至急)

停戦協定(付屬書ヲ含ム)英文五日付ニテ同日午後一時二十分調印ヲ了セリ

日支両國文ハ間ニ合ハサリン為一二日後レテ(日付ハ五日付)調印ノ筈

連盟ヨリ必要ノ在欧各大公使へ米ヨリ必要ノ在米各公館へ転電アリ度シ

連盟、英、米、北平、在支各總領事、廈門、汕頭、香港、長春へ転電シ上海へ転報セリ

341 昭和7年5月5日 上海停戦協定

昭和七年(一九三一年)五月五日上海ニ於テ調印

公使ノ御努力ニ依リ案外無事ニ終了セルハ御同慶ニ存スル所ニシテ茲ニ厚ク謝意ヲ表ス右前記関係諸官ニモ可然御伝達ヲ請フ

日本国及中国ノ当局ハ既ニ戰闘中止ヲ命令シタルニ依リ昭

和七年五月五日ヨリ停戦ガ確定セラルコト合意セラル双方ノ軍ハ其ノ統制ノ及ブ限り一切ノ且有テユル形式ノ敵対行為ヲ上海ノ周囲ニ於テ停止スベシ停戦ニ関シ疑ヲ生ズルトキハ右ニ閔スル事態ハ参加友好国ノ代表者ニ依リ確メラルベシ

## 第一 条

中国軍隊ハ本協定ニ依リ取扱ハルル地域ニ於ケル正常状態ノ回復後ニ於テ追テ取極アル迄其ノ現駐地点ニ止マルベシ前記地点ハ本協定第一付属書ニ掲記セラル

## 第三 条

日本國軍隊ハ昭和七年一月二十八日ノ事件前ニ於ケルガ如ク共同租界及虹口方面ニ於ケル租界外拡張道路ニ撤収スベシ尤モ収容セラルベキ日本國軍隊ノ数ニ鑑ミ若干ハ前記地域ニ隣接セル地方ニ当分ノ間駐屯セシメラルベキモノトス前記地方ハ本協定第一付属書ニ掲記セラル

## 第四 条

相互ノ撤収ヲ認証スル為參加友好国ヲ代表スル委員ヲ含ム共同委員会ヲ設置スベシ右委員会ハ又撤収日本國軍ヨリ交代中国警察ヘノ引繼ノ取運ニ協力スベク右中国警察ハ日本

国軍ノ撤収スルトキ直ニ引繼ヲ受クベシ右委員会ノ構成及手続ハ本協定第三付属書ノ定ムル通ナルベシ

## 第五 条

本協定ハ其ノ署名ノ日ヨリ実施セラルベシ

本協定ハ日本語、中國語及英吉利語ヲ以テ作成セラル意義ニ関スル疑又ハ日本語、中國語及英吉利語ノ本文ニ間ニ意義ノ相違アルトキハ英吉利語ノ本文ニ拠ルベシ

昭和七年五月五日上海ニ於テ之ヲ作成ス

陸軍中将 植田 謙吉（署名）

特命全權公使 重光葵（署名）

海軍少將 嶋田繁太郎（署名）

陸軍少將 田代皖一郎（署名）

外交次長 郭泰祺（署名）

陸軍中將 戴載（署名）

陸軍中將 黄強（署名）

同席者トシテ

昭和七年三月四日ノ國際連盟總會決議ニ從ヒ商議ニ助力スル友好国代表者

中国駐箚英國公使「サー、マイルズ、ウーラーダー」

## ARTICLE 2.

中国駐箚米国公使「ネルバ、エルバード、シムバ

」

中国駐箚仏國公使「アントワエト・オギュスト・ウヤルダ

」

中国駐箚伊國代理公使伯靈「ハム・サトヘ、ハヤヒヒルトトミカタ」

ルトトミカタ」

## ARTICLE 3.

### SHANGHAI TRUCE AGREEMENT.

Signed at Shanghai, May 5, 1932.

## ARTICLE 1.

The Japanese and Chinese authorities having already ordered the cease fire, it is agreed that the cessation of hostilities is rendered definite as from May 5th, 1932.

The forces of the two sides will so far as lies in their control cease around Shanghai all and every form of hostile act. In the event of doubts arising in regard to

the cessation of hostilities, the situation in this respect will be ascertained by the representatives of the participating friendly Powers.

The Chinese troops will remain in their present positions pending later arrangements upon the re-establishment of normal conditions in the areas dealt with by this Agreement. The aforesaid positions are indicated in Annex I to this Agreement.

## ARTICLE 2.

The Japanese troops will withdraw to the International Settlement and the extra-Settlement roads in the Hongkew district as before the incident of January 28th, 1932. It is, however, understood that, in view of the numbers of Japanese troops to be accommodated, some will have to be temporarily stationed in localities adjacent to the above mentioned areas. The aforesaid localities are indicated in Annex II to this Agreement.

## ARTICLE 4.

A Joint Commission, including members representing the participating friendly Powers, will be established to certify the mutual withdrawal. This Commission will

also collaborate in arranging for the transfer from the evacuating Japanese forces to the incoming Chinese police, who will take over as soon as the Japanese forces withdraw. The constitution and procedure of this Commission will be as defined in Annex III to this Agreement.

#### ARTICLE 5.

The present Agreement shall come into force on the day of signature thereof.

The present Agreement is made in the Japanese and Chinese and English languages. In the event of there being any doubts as to the meaning or any differences of meaning between the Japanese and Chinese and English texts, the English text shall be authoritative.

Done at Shanghai, this fifth day of May, nineteen hundred and thirty two.

(Signed) K. Uyeda,  
Lieutenant-General.

(Signed) Miles W. Lampson,  
H.B.M. Minister in China.

(Signed) Nelson Trusler Johnson,  
American Minister in

(Signed) M. Shigemitsu,  
Envoy Extraordinary and  
Minister Plenipotentiary.  
(Signed) S. Shimada,  
Rear-Admiral.  
(Signed) K. Tashiro,  
Major-General.  
(Signed) Quo Tai-chi,  
Vice-Minister for Foreign Affairs.  
(Signed) 蔡 敦  
Lieutenant-General.  
(Signed) 袁 強  
Lieutenant-General.

In the presence of:

China.  
(Signed) Wilden,  
Ministre de France en  
Chine.  
(Signed) Galeazzo Ciano,  
Chargé d'Affaires for Italy  
in China.

#### ANNEX I.

依ニ共同委員會へ委員タル參加友好國へ代表者リ依リ確

メハニシ

(封図附籠)

The following are the positions of the Chinese troops as provided in Article 2 of this Agreement.

Reference the attached Postal Map of the Shanghai District scale 1/150,000.

From a point on the Soochow creek due south of Anting village north along the west bank of a creek immediately east of Anting village to Wang-hsien-ch'iao, thence north across a creek to a point four kilometres east of Shatow, and thence north-west up to and including Hu-peik'ou on the Yangtze River.

In the event of doubts arising in regard thereto, the positions in question will, upon the request of the Joint Commission, be ascertained by the representatives of the participating friendly Powers, members of the Joint Commission.

第二付属書

本協定第三条ニ定ムル地方左ノ如シ  
前記地方ハ甲、乙、丙及丁ト標記セル付属地図ニ区画セハ  
ル右ハ第一、第二、第三及第四地域トシテ引用ス  
第一地域ハ「甲」地図ニ示サル工本地域ハ吳淞鎮ヲ除外  
スルコト<sup>1)</sup>日本國側ハ淞滬鐵道又ハ其ノ工場ノ運用ニ干  
渉セザルベキヨリ合意セラル

第一地域ハ「乙」地図ニ示サル國際競馬場ノ北東方約一

哩ニ当ル中国人墓地ハ日本國軍隊ニ依リ使用セラルベキ  
地域ヨリ除外セラルベキヨリ合意セラル

第三地域ハ「丙」地図ニ示サル本地域ハ曹家寨及三友織  
布工場ヲ除外スルコト合意セラル

第四地域ハ「丁」地図ニ示サル使用セラルベキ地域ハ日  
本人墓地及之ニ至ル東方ノ通路ヲ含ムヨリ合意セラル

右ニ関シ疑々生ズルベキハ問題ノ地方ハ共同委員会ノ請求  
ニ依リ共同委員会ノ委員タル参加友好國ノ代表者ニ依リ確  
メラルベシ

右ニ示サル地方ハ日本國軍隊ノ撤収ハ本協定ノ実施ニ  
リ一周間以内ニ開始セラルベク且撤収開始ニリ週間に内ニ

完了セラルベシ

第四条ニ依リ設置セラルベキ共同委員会ハ撤収ノ際引揚ゲ  
得ザル患者又ハ傷病動物ノ看護及其ノ後ノ引揚ニ付必要ナ  
ル措置ヲ講ズベシ右患者又ハ傷病動物ハ必要ナル衛生人員  
ト共ニ之ヲ其ノ現在地点ニ残置スルコトヲ得中国当局ハ右  
ニ対シ保護ヲ与フベシ

(地図省略)

ANNEX II.

The following are the localities as provided in Article 3 of this Agreement.

The aforesaid localities are outlined on the attached maps marked A, B, C and D. They are referred to as areas 1, 2, 3 and 4.

Area 1 is shown on Map "A". It is agreed (i) that this area excludes Woosung Village; (ii) that the Japanese will not interfere with the operation of the Shanghai-Woosung Railway or its workshops.

Area 2 is shown on Map "B". It is agreed that the Chinese cemetery about one mile more or less

to the Northeast of the International race track is excluded from the area to be used by the Japanese troops.

Area 3 is shown on Map "C". It is agreed that this area excludes the Chinese village Ts'ao Chia Chai and the Sanyu Cloth Factory.

Area 4 is shown on Map "D". It is agreed that the area to be used includes the Japanese cemetery and eastward approaches thereto.

In the event of doubts arising in regard thereto, the localities in question will, upon the request of the Joint Commission, be ascertained by the representatives of the participating friendly Powers, members of the Joint Commission.

The withdrawal of the Japanese troops to the localities indicated above will be commenced within one week of the coming into force of the Agreement and will be completed in four weeks from the commencement of the withdrawal.

The Joint Commission to be established under Article 4 will make any necessary arrangements for the care and subsequent evacuation of any invalids or injured animals that cannot be withdrawn at the time of the evacuation. These may be detained at their positions together with the necessary medical personnel. The Chinese authorities will give protection to the above.

第三付属書

共同委員会<sup>2)</sup>十一名ノ委員即チ日本國及中國ノ政府並ニ  
月四日ノ國際連盟總會決議ニ従ヒ商議ニ助力スル友好國ノ  
代表者タル米國、英國、仏國及伊國ノ中國駐劄外交代表者  
ノ各ノ代表者タル文官及武官各一名ヲ以テ構成セラルベシ  
共同委員会ノ委員ハ其ノ隨時必要ト認ムル數ノ補助員ヲ委  
員会ノ決定ニ従ヒ使用スグシ手続ニ関スル一切ノ事項ハ委  
員会ノ裁量ニ委セラルベク、委員会ノ決定ハ多數決ニ依リ  
テ為サルベク、議長ハ決定投票權ヲ有スベシ議長ハ委員会  
ニ依リ參加友好國ノ代表スル委員中ヨリ選出セラルベシ  
委員会ノ其ノ決定ニ従ヒ其ノ最良ト認ムル方法ニ依リ本協  
定第1条、第二条及第三条ノ実行ヲ看守スベク且前記三条

ノ何レカノ規定ノ実行ノ懈怠ニ対シ注意ヲ喚起スルノ權限

ヲ有ス

ANNEX III

The Joint Commission will be composed of 12 members, namely one civilian and one military representative of each of the following: the Japanese and Chineseeese, Governments, and the American, British, French and

Italian Heads of Mission in China, being the representatives of the friendly Powers assisting in the negoti-  
ations.

actions in accordance with the resolutions of the Assembly of the League of Nations of March 4th. The members of the Joint Commission will employ such numbers of assistants as they may from time to time find necessary in accordance with the decisions of the Commission. All matters of procedure will be left to the discretion of the Commission, whose decisions will be taken by majority vote, the Chairman having a casting vote. The Chairman will be elected by the Commission from amongst the members representing the participating

連盟、支、米、仏、伊へ転電セリ

ついて

343 昭和7年5月(10)日 在英國松平大使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

支鵠九六二

回答について

代表シ貴翰ニ述ヘラレタル過分ナル称辞ニ対シ深厚ナル謝意ヲ表スルト共ニ幸ヒ日支両国間ニ妥結ヲ見タル協定ノ締結ニ関シ「ラムブソン」及英國官憲カ微力ヲ尽スラ得タルヲ満足トスルモノナル事ヲ表明スルノ光榮ヲ有ス

friendly Powers

The Commission will in accordance with its decisions watch in such manner as it deems best the carrying out of Articles 1, 2 and 3 of this Agreement, and is

authorised to call attention to any neglect in the carrying out of the provisions of any of the three Articles mentioned above.

342 昭和7年5月(6)日 在英國沢田連盟事務局長より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海集单文选

第二〇二号（暗）  
五日「ウエルズレー」次官補ヲ往訪シ在支公使発閥下宛電  
報第八〇九号等協定調印ニ関スル情報ヲ伝フルト共ニ貴電  
（三四〇文書）  
（三三九文書）  
第五五号御訓令ニ依リ帝国政府ノ謝意ヲ述ヘ右御訓令ノ旨  
ヲ認メタル外務大臣宛書翰ヲ手交シタルニ同次官補ハ右情  
報ヲ謝スルト共ニ今次事件ノ一段落付キタルハ同慶ニ堪ヘ  
サル旨並右書翰ニアル日本政府ノ御好意ハ直ニ外務大臣ニ  
伝フヘキ旨ヲ述ヘタリ

38

33

34

昭和7年5月10日

小磯陸軍次官宛

北、天、濟、奉、漢口スニ

昭和7年5月10日 在上海田代公使館付武官より  
小磯陸軍次官宛

## 上海派遣軍の満州転用、内地帰還について

別電 同日芳沢外務大臣より在仏國長岡大使、在英國

松平大使他宛合第一一七八号

上海派遣軍の引揚げに関する陸軍省発表要旨について

合第一一七八号

「普通情報」

今般上海派遣陸軍部隊中一個師団ハ満州ニ転用セラレ他ハ全部内地ニ帰還セシメラルコトトナリ別電合第一一七八号ノ通り陸軍省ヨリ発表ヲ見タリ（十一日発表中関係友好国代表ノ活動云々ハ今後行ハルヘキ円卓會議ヲ指スモノナリ）尚右陸軍部隊引上後上海ニハ海軍陸戦隊約二千名引続キ駐屯ノ筈ナリ

(仮宛ニハ「英、寿府スミ」ト付記ノコト)

合第一一七八号

「普通情報」

五月十日陸軍省発表要旨 上海派遣軍ニ属スル第十四師団ハ満州ニ転用セラルコトナリ逐次新任地ニ向ヒツツアリ

五月十一日

陸軍省発表要旨

今般成立セル停戦協定ノ運用及上海地方平穏確立ニ関スル関係友好国代表ノ活躍ニ信頼シ上海派遣軍ノ全勢力ヲ内地ニ帰還セシメ上海付近今後ノ形勢推移ヲ静観セシメラルコトトナリタリ

(仮宛ニハ「英、寿府スミ」ト付記ノコト)

## 事項二 満州国の成立と日本の承認

1 昭和7年1月4日 在奉天森島（守人）総領事代理より

犬養外務大臣宛（電報）

## 軍司令部幕僚の東三省新國家建設計画について

結シ国防ハ全部日本ニ委任シ外交ハ形式上新國家ニ外交部ヲ設クルモ其最高級職員ハ全部日本人ヲ採用シ軍部ノ内面的指令ノ下ニ行動セシムヘク右新事態ニ関シ我方ハ新ニ満州總督ヲ設クヘント云フニアリ

2 昭和7年1月4日 在奉天森島総領事代理より

犬養外務大臣宛（電報）

## 滿式毅らの新独立国家建設に関する協議について

（文書）

第一五号（暗、部外極秘）

東三省新國家建設計画ニ関シテハ予テ電報ノ通ナル処林總

領事御帰朝前軍司令官及高級幕僚ニ対シ九国条約トノ関係

上右ハ極メテ慎重考量ヲ要スル次第ヲ御話相成リタル模様

ニテ其結果本庄司令官ヨリ幕僚ニ向ヒ篤ト研究ヲ遂クル様

指図セラレタルニ対シ幕僚ハ本件計画ハ形式上支那側ノ自發ニ依ル次第ナルヲ以テ九国条約ト抵触スル理由ナク從テ

既定方針ヲ変更スル必要ナキ旨進言シタル趣ナリ当地軍司

令部幕僚ノ腹案ハ最近ノ機会ニ東三省新國家ヲ組織セシメ

其主権者ト我方最高代表者トノ間ニ秘密攻守同盟協定ヲ締

事項2 満州国の成立と日本の承認

奉天 1月4日後発  
本省 1月4日後着

第一四号（暗、部外極秘）

東三省新國家建設計画ニ関シテハ予テ電報ノ通ナル処林總

領事御帰朝前軍司令官及高級幕僚ニ対シ九国条約トノ関係

上右ハ極メテ慎重考量ヲ要スル次第ヲ御話相成リタル模様

ニテ其結果本庄司令官ヨリ幕僚ニ向ヒ篤ト研究ヲ遂クル様

指図セラレタルニ対シ幕僚ハ本件計画ハ形式上支那側ノ自發ニ依ル次第ナルヲ以テ九国条約ト抵触スル理由ナク從テ

既定方針ヲ変更スル必要ナキ旨進言シタル趣ナリ当地軍司

令部幕僚ノ腹案ハ最近ノ機会ニ東三省新國家ヲ組織セシメ

其主権者ト我方最高代表者トノ間ニ秘密攻守同盟協定ヲ締